

男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

令和3年8月

飯 塚 市

目次

I 調査の概要

- 1. 調査の目的 1
- 2. 調査項目 1
- 3. 調査の性格 1
- 4. 回答者の属性 2
- 5. 調査結果利用上の注意 6

II 調査結果

第1章 家庭生活や子どもの育て方について

- 1. 家庭での男女の役割分担 7
- 2. 性別役割分担意識 24
- 3. 子どもの育て方についての考え方 28
- 4. 男女が共に家事、子育て、介護に参加するために必要なこと 36

第2章 地域活動について

- 1. この1年間に参加したことがある地域活動 38
- 2. 女性が地域の役職につくことについて 40
 - (1) 女性が地域の役職に推薦された場合の対処 40
 - (2) 地域の役職を断る理由 42
- 3. 政策の企画・方針決定の過程に女性の参画が少ない理由 44
- 4. 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 46

第3章 政治分野における男女共同参画について

- 1. 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知 48
- 2. 地方議会における女性議員の理想的な割合 50

第4章 就労について

- 1. 職業の有無 52
- 2. 職場における男女の扱いについて 54
- 3. 女性が職業を持つことについて 57
 - (1) 女性が職業を持つことについて考え方 57
 - (2) 女性の実際の働き方 60
- 4. 男性の育児休業 62
 - (1) 男性が育児休業を取得することについて 62
 - (2) 男性が育児休業を取得した方がよいと考える理由 64

- 5. 男性が育児休業を取得しない（できない）理由 …………… 66
- 6. 男女が共にワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な条件…………… 68

第5章 人権に関することについて

- 1. ドメスティック・バイオレンスについて …………… 71
 - (1) ドメスティック・バイオレンスだと思うもの …………… 71
 - (2) ドメスティック・バイオレンスの経験 …………… 74
 - (3) ドメスティック・バイオレンス被害の相談先 …………… 78
 - (4) ドメスティック・バイオレンス被害について相談をしなかった理由…………… 80
- 2. セクシュアル・ハラスメントについて …………… 82
 - (1) セクシュアル・ハラスメントの経験 …………… 82
 - (2) セクシュアル・ハラスメント被害の相談先 …………… 84
 - (3) セクシュアル・ハラスメント被害について相談をしなかった理由…………… 86

第6章 リプロダクティブ・ヘルス／ライツについて

- 1. リプロダクティブ・ヘルス／ライツについての考え方 …………… 88

第7章 男女の平等観について

- 1. 分野別にみた男女の地位の平等観 …………… 92

第8章 男女共同参画に関することについて

- 1. 男女共同参画の関心度 …………… 110
- 2. 男女共同参画に関する言葉やことがらの認知 …………… 112
- 3. 男女共同参画社会を実現するために望む施策 …………… 115
- 4. 男女共同参画推進センター「サンクス」について …………… 117
 - (1) 男女共同参画推進センター「サンクス」の認知 …………… 117
 - (2) 男女共同参画推進センター「サンクス」で参加や利用したことがあるもの…………… 119
 - (3) 男女共同参画推進センター「サンクス」で行ってほしい事業…………… 120
- 5. 男女共同参画推進についての意見・要望等（自由記述） …………… 122

III 調査結果のまとめ

- 調査結果からみえる特徴と今後の課題 …………… 137

◎参考資料

- 使用した調査票 …………… 145

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民の男女共同参画に対する意識、家庭生活や地域活動における男女共同参画の状況、就労や人権に関する状況や意識を把握し、今後の「男女共同参画社会」の実現に向けての施策推進の基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査項目

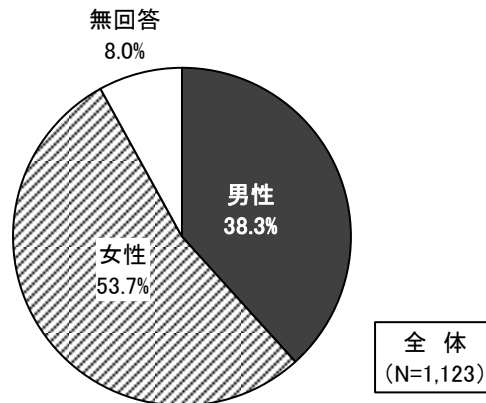
- (1) 家庭生活や子どもの育て方について
- (2) 地域活動について
- (3) 政治分野における男女共同参画について
- (4) 就労について
- (5) 人権に関することについて
- (6) リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて
- (7) 男女の平等観について
- (8) 男女共同参画に関することについて

3. 調査の性格

- | | |
|-----------------------|---|
| (1) 調査地域 | 飯塚市全域 |
| (2) 調査対象者 | 市内在住の18歳以上の男女 3,000人 |
| (3) 回収率 | 有効回収 1,123件 有効回収率37.4% |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳から無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 質問紙法(無記名自記式)
郵送による配布・回収(礼状兼督促状を1回発送) |
| (6) 調査期間 | 令和3年4月1日～4月15日
(ただし、令和3年5月7日回収分までを集計に含めている。) |
| (7) 調査の企画 | 飯塚市市民協働部 男女共同参画推進課 |
| (8) 調査の実施 | 特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所 |
| (9) 調査結果の分析の
監修と総括 | 倉富 史枝(福岡ジェンダー研究所理事) |

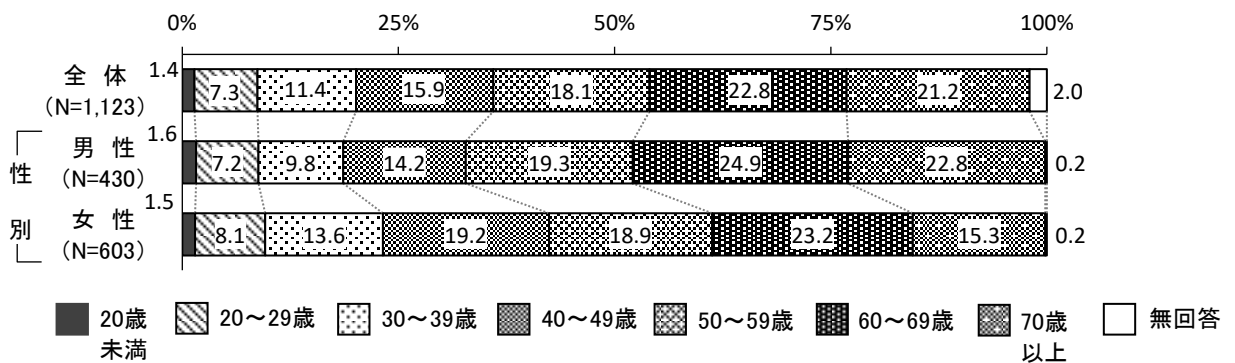
4. 回答者の属性

◎性別



回答者の性別は「男性」が38.3%、「女性」が53.7%と女性の方が15.4ポイント多い。

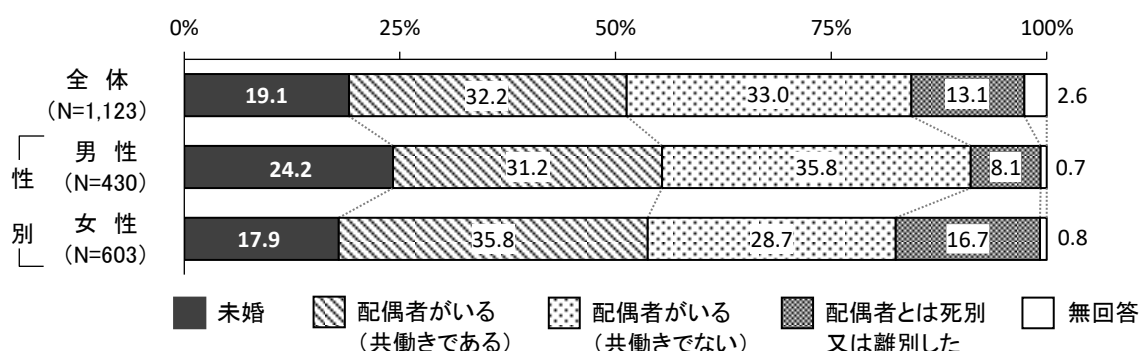
◎年齢



回答者の年齢は、「60~69歳」(22.8%)と「70歳以上」(21.2%)が2割強と多く、以下、「50~59歳」が18.1%、「40~49歳」が15.9%、「30~39歳」が11.4%、「20~29歳」が7.3%、「20歳未満」が1.4%などとなっている。

性別でみると男性は「70歳以上」(男性22.8%、女性15.3%)が7.5ポイント女性よりも多く、女性は「40~49歳」(同14.2%、19.2%)が5ポイント、「30~39歳」(同9.8%、13.6%)が3.8ポイント男性よりも多い。その他の年代は同程度となっている。

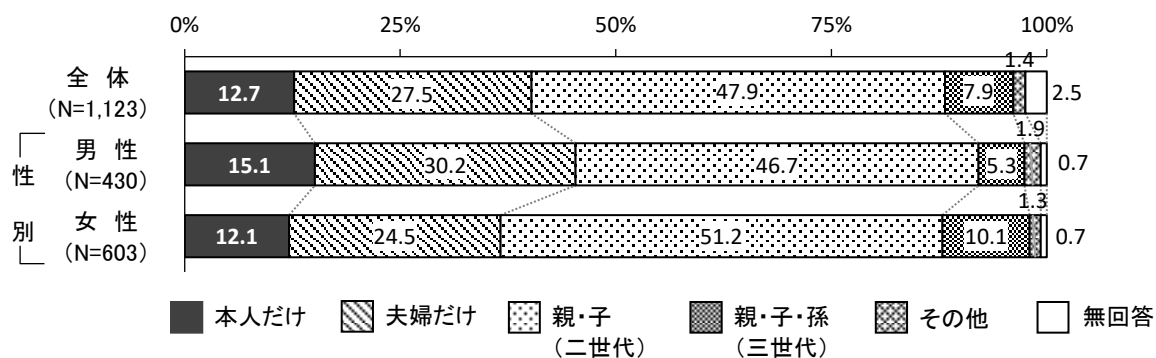
◎配偶関係



回答者の配偶関係は「配偶者がいる (共働きである)」が 32.2%、「配偶者がいる (共働きでない)」が 33.0%と同程度となっている。「未婚」は 19.1%、「配偶者とは死別又は離別した」は 13.1%となっている。

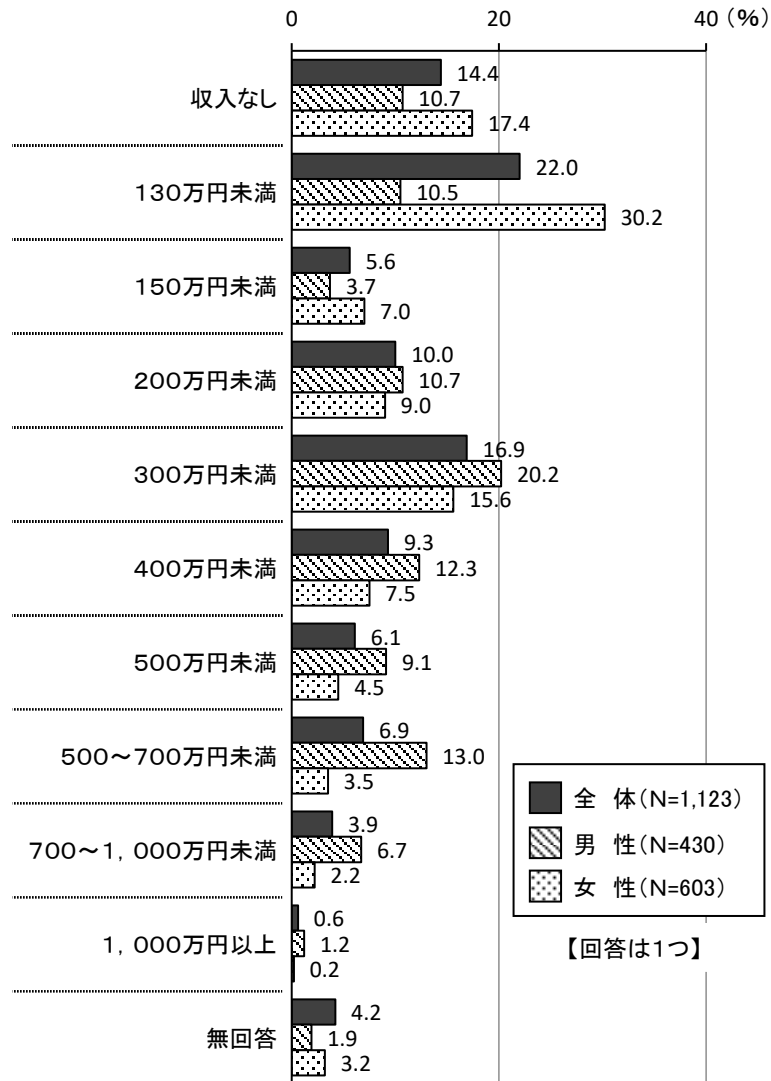
男性は「未婚」(男性 24.2%、女性 17.9%) が 6.3 ポイント、「配偶者がいる (共働きでない)」(同 35.8%、28.7%) が 7.1 ポイント女性よりも多く、女性は「配偶者がいる (共働きである)」(同 31.2%、35.8%) が 4.6 ポイント、「配偶者とは死別又は離別した」(同 8.1%、16.7%) が 8.6 ポイント男性よりも多い。

◎家族構成



回答者の家族構成は「親・子 (二世)」が 47.9%で最も多く、次いで「夫婦だけ」が 27.5%、「本人だけ」が 12.7%、「親・子・孫 (三世)」が 7.9%となっている。

◎あなたの年収



回答者の年収は、男性は「300万円未満」(20.2%)、女性は「130万円未満」(30.2%)が最も多い。「200万円未満」は男女とも1割前後と同程度であるが、男性は「300万円未満」から「1,000万円以上」の割合が女性よりも高いのに対し、女性は「150万円未満」「130万円未満」「収入なし」の割合が男性よりも高い。

年齢別でみると、男女とも29歳以下では「収入なし」が3割弱で最も高いが、男性は30代から50代では「500～700万円未満」が約2～3割と高く、50代では「700～1,000万円未満」も18.1%ある。女性は30代以上のいずれの年代も「130万円未満」が約2～5割で最も高い。

配偶関係別でみると、未婚の女性は「300万円未満」が24.1%で最も高く、既婚の共働き、共働きでない、死別又は離別した女性は「130万円未満」が約3～4割と最も高い。

(%)

		標本数	収入なし	130万円未満	150万円未満	200万円未満	300万円未満	400万円未満	500万円未満	750000円未満	1700000円未満	1,000万円以上	無回答
全体		1,123 100.0	162 14.4	247 22.0	63 5.6	112 10.0	190 16.9	105 9.3	69 6.1	77 6.9	44 3.9	7 0.6	47 4.2
年齢別	男性:18~29歳	38	28.9	10.5	0.0	10.5	26.3	10.5	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性:30~39歳	42	11.9	2.4	0.0	0.0	21.4	19.0	9.5	28.6	4.8	2.4	0.0
	男性:40~49歳	61	13.1	4.9	1.6	0.0	11.5	16.4	18.0	24.6	8.2	0.0	1.6
	男性:50~59歳	83	9.6	3.6	1.2	7.2	14.5	7.2	13.3	20.5	18.1	3.6	1.2
	男性:60~69歳	107	7.5	18.7	4.7	13.1	21.5	15.9	6.5	4.7	5.6	0.0	1.9
	男性:70歳以上	98	6.1	14.3	9.2	22.4	26.5	8.2	1.0	7.1	1.0	1.0	3.1
	女性:18~29歳	58	29.3	25.9	5.2	5.2	19.0	13.8	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性:30~39歳	82	19.5	20.7	6.1	8.5	18.3	9.8	8.5	4.9	1.2	1.2	1.2
	女性:40~49歳	116	14.7	23.3	6.9	12.1	12.9	10.3	8.6	4.3	3.4	0.0	3.4
	女性:50~59歳	114	15.8	28.1	6.1	7.9	13.2	8.8	5.3	7.9	5.3	0.0	1.8
	女性:60~69歳	140	20.0	33.6	10.0	9.3	17.1	2.9	1.4	2.1	0.7	0.0	2.9
	女性:70歳以上	92	9.8	47.8	5.4	8.7	15.2	3.3	1.1	0.0	1.1	0.0	7.6
無回答		92	12.0	21.7	5.4	13.0	9.8	7.6	3.3	0.0	2.2	1.1	23.9
配偶関係別	男性:未婚	104	27.9	15.4	2.9	6.7	20.2	11.5	8.7	6.7	0.0	0.0	0.0
	男性:配偶者がいる (共働きである)	134	0.7	2.2	0.7	5.2	14.2	17.9	16.4	20.9	17.9	2.2	1.5
	男性:配偶者がいる (共働きでない)	154	7.1	11.0	5.8	17.5	27.3	9.1	3.9	13.0	3.2	0.0	1.9
	男性:配偶者とは 死別・離別した	35	14.3	22.9	5.7	14.3	14.3	8.6	5.7	2.9	0.0	2.9	8.6
	女性:未婚	108	18.5	13.0	6.5	12.0	24.1	14.8	4.6	3.7	0.9	0.0	1.9
	女性:配偶者がいる (共働きである)	216	2.8	38.0	7.9	8.3	14.4	9.7	7.4	5.1	3.7	0.5	2.3
	女性:配偶者がいる (共働きでない)	173	37.0	30.1	5.8	4.6	11.6	2.3	1.7	1.7	1.7	0.0	3.5
	女性:配偶者とは 死別・離別した	101	14.9	31.7	7.9	13.9	16.8	4.0	3.0	3.0	1.0	0.0	4.0
無回答		98	11.2	23.5	6.1	13.3	9.2	7.1	3.1	0.0	2.0	2.0	22.4

5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数字は、百分比のポイント以下2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は、必ずしも100%になるとは限らない。
- (2) 2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は、原則として100%を超える。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数(標本数)である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の標本数と合わないことがある。
- (4) 問〇-〇は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (5) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち、2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (6) 今回の調査は、次の資料と比較分析を行っている。
 - 飯塚市 「男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書」平成27年8月実施
 - 内閣府 「男女共同参画に関する世論調査」令和元年9月実施
 - 福岡県 「男女共同参画社会に向けての意識調査」令和元年12月実施

Ⅱ 調査結果

Ⅱ 調査結果

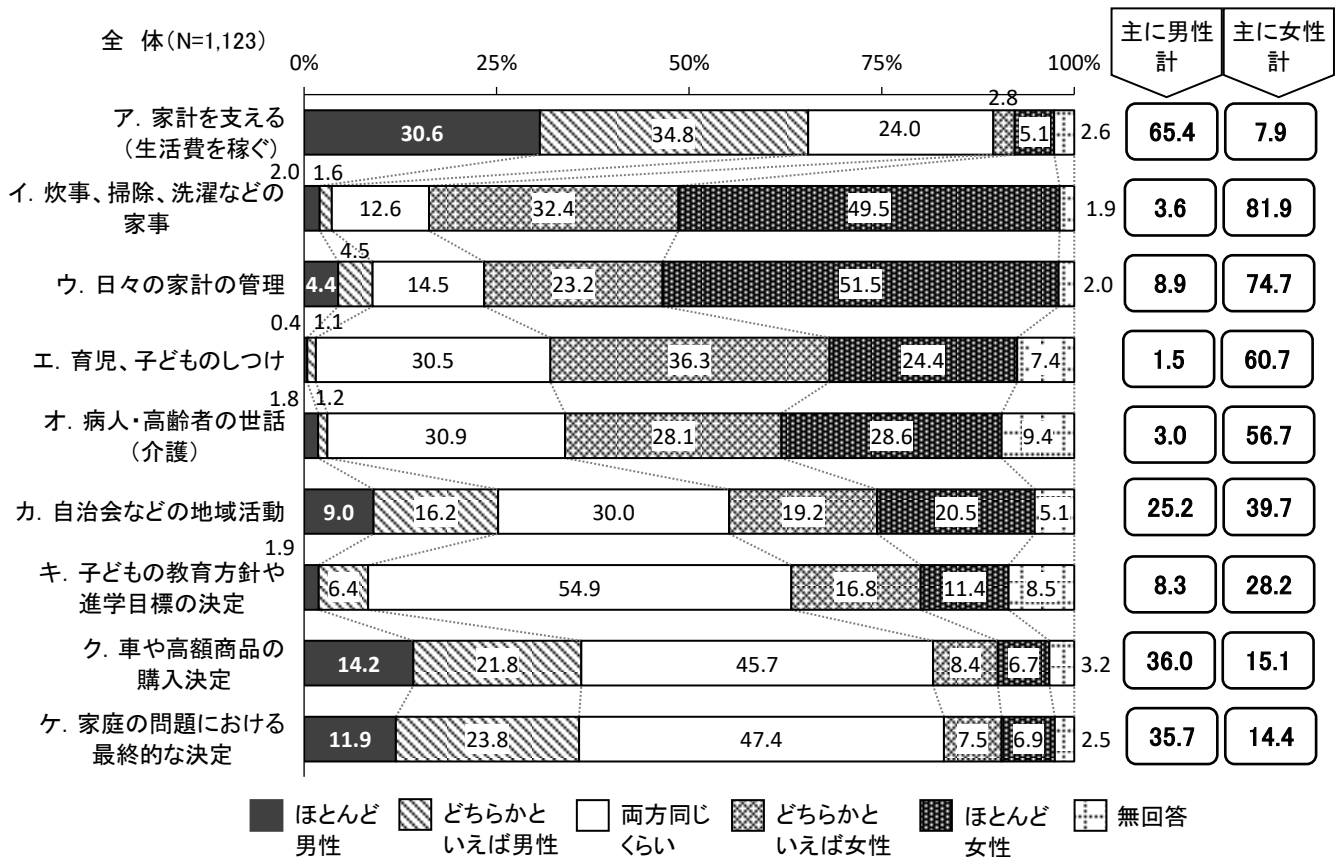
第1章 家庭生活や子どもの育て方について

1. 家庭での男女の役割分担

問1 あなたのご家庭では、男女の役割分担はどのようになっていますか(なっていましたか)。次のア～ケの項目についてそれぞれ1つずつ選んでください。
(〇は各項目に1つ)

- 家庭での役割分担で『主に男性』が高いのは「家計を支える」が6割台半ば。
- 『主に女性』が高いのは「炊事、掃除、洗濯などの家事」が8割強、「日々の家計の管理」が7割台半ば、「育児、子どものしつけ」が約6割、「病人・高齢者の世話（介護）」が5割台半ば。
- 「自治会などの地域活動」は男女とも自分が行っているとの認識が強い。「子どもの教育方針や進学目標の決定」「車や高額商品の購入決定」「家庭の問題における最終的な決定」などは「両方同じくらい」の割合が高いが、進学目標の決定は女性、購入決定や最終的な決定は男性に偏る傾向もみられる。
- いずれの役割も前回調査より「両方同じくらい」の割合が、特に男性で増加。

図表1-1 家庭での男女の役割分担 [全体]

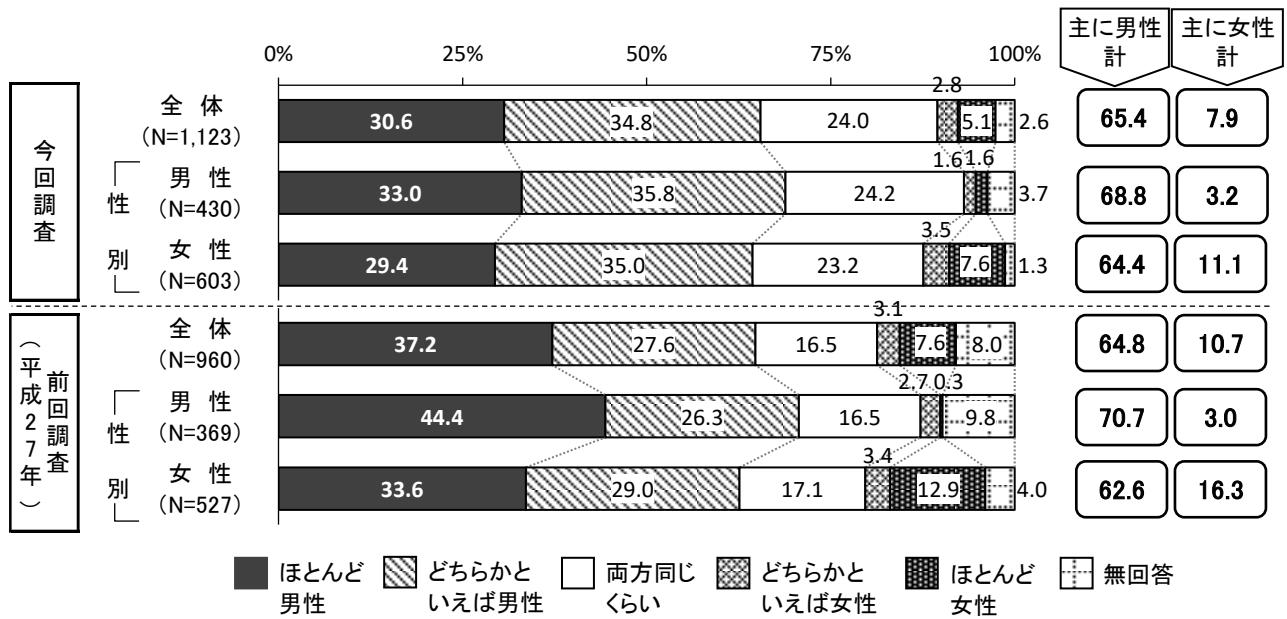


家庭内での役割分担に関する9つの項目についてたずねた。「ほとんど男性」と「どちらかといえば男性」との合計を『主に男性』、「ほとんど女性」と「どちらかといえば女性」との合計を『主に女性』とする。

II 調査結果

ア. 家計を支える（生活費を稼ぐ）

図表 1 - 2 家計を支える（生活費を稼ぐ）[全体、性別]（前回調査比較）



「家計を支える（生活費を稼ぐ）」ことについては、『主に男性』が65.4%、「両方同じくらい」が24.0%、『主に女性』が7.9%となっており、生活費を稼ぐのは主に男性の役割となっていることがわかる。

性別で見ると、男性は『主に男性』（男性68.8%、女性64.4%）が女性よりも4.4ポイント高く、女性は『主に女性』（同3.2%、11.1%）が男性よりも7.9ポイント高い。

平成27年8月に実施された「男女共同参画に関する市民意識調査」（以下、前回調査という）と比べると、男女とも「両方同じくらい」が約6～8ポイント増えている。

図表1-3 家計を支える（生活費を稼ぐ）[全体、年齢別、配偶関係別]

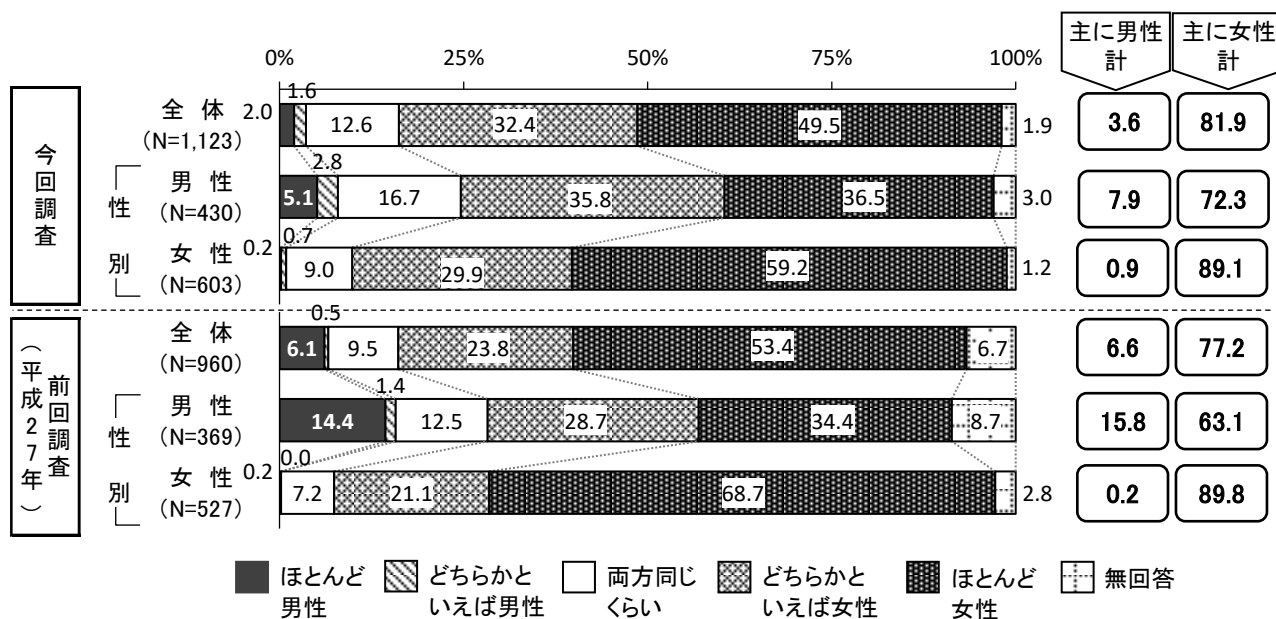
		(%)								
		標本数	ほとんど男性	えどちら男性かとい	い両方同じくらい	えどちら女性かとい	ほとんど女性	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		1,123 100.0	344 30.6	391 34.8	270 24.0	32 2.8	57 5.1	29 2.6	735 65.4	89 7.9
年齢別	男性:18~29歳	38	26.3	28.9	34.2	0.0	10.5	0.0	55.2	10.5
	男性:30~39歳	42	26.2	45.2	23.8	2.4	0.0	2.4	71.4	2.4
	男性:40~49歳	61	26.2	37.7	26.2	1.6	1.6	6.6	63.9	3.2
	男性:50~59歳	83	41.0	28.9	25.3	0.0	2.4	2.4	69.9	2.4
	男性:60~69歳	107	35.5	32.7	25.2	3.7	0.0	2.8	68.2	3.7
	男性:70歳以上	98	32.7	42.9	17.3	1.0	0.0	6.1	75.6	1.0
	女性:18~29歳	58	27.6	34.5	27.6	0.0	8.6	1.7	62.1	8.6
	女性:30~39歳	82	30.5	40.2	19.5	1.2	8.5	0.0	70.7	9.7
	女性:40~49歳	116	25.9	27.6	32.8	6.0	7.8	0.0	53.5	13.8
	女性:50~59歳	114	24.6	38.6	23.7	5.3	7.9	0.0	63.2	13.2
	女性:60~69歳	140	34.3	38.6	17.1	2.1	6.4	1.4	72.9	8.5
	女性:70歳以上	92	32.6	29.3	20.7	4.3	7.6	5.4	61.9	11.9
無回答	92	28.3	29.3	28.3	4.3	4.3	5.4	57.6	8.6	
配偶関係別	男性:未婚	104	33.7	26.9	27.9	0.0	5.8	5.8	60.6	5.8
	男性:配偶者がいる (共働きである)	134	18.7	45.5	32.8	1.5	0.0	1.5	64.2	1.5
	男性:配偶者がいる (共働きでない)	154	44.8	34.4	16.2	3.2	0.6	0.6	79.2	3.8
	男性:配偶者とは 死別・離別した	35	34.3	31.4	14.3	0.0	0.0	20.0	65.7	0.0
	女性:未婚	108	22.2	29.6	29.6	4.6	13.0	0.9	51.8	17.6
	女性:配偶者がいる (共働きである)	216	23.1	45.8	27.8	2.3	0.9	0.0	68.9	3.2
	女性:配偶者がいる (共働きでない)	173	48.6	32.9	13.3	2.9	1.7	0.6	81.5	4.6
	女性:配偶者とは 死別・離別した	101	18.8	19.8	23.8	5.0	26.7	5.9	38.6	31.7
	無回答	98	26.5	30.6	28.6	5.1	4.1	5.1	57.1	9.2

年齢別でみると、男性の18~29歳と女性の40代で「両方同じくらい」が3割台と高い。『主に男性』は男性の70歳以上で75.6%と最も高く、その他30代や50代、60代でも7割前後、女性は30代と60代で7割台と高くなっている。

配偶関係別でみると、男女とも未婚や既婚の共働きでは「両方同じくらい」が3割前後と比較的高い。既婚の共働きでない場合は『主に男性』が約8割と高い。

イ. 炊事、掃除、洗濯などの家事

図表 1 - 4 炊事、掃除、洗濯などの家事 [全体、性別] (前回調査比較)



炊事、掃除、洗濯などの家事をすることについては、『主に女性』が81.9%と高く、「両方同じくらい」は12.6%、『主に男性』は3.6%とわずかである。生活費を稼ぐは男性に偏っていたが、それ以上に家事は女性に偏っている。

性別で見ると、女性の『主に女性』(男性72.3%、女性89.1%)は男性よりも16.8ポイント高く、特に「ほとんど女性」の割合は59.2%と男性(36.5%)を大きく上回っている。「両方同じくらい」は男性が16.7%と女性(9.0%)よりも7.7ポイント高く、女性の多くは女性が中心に家事を担っていると認識しているが、男性は女性よりもその認識は低いようである。

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となっているが、女性の「ほとんど女性」の割合が9.5ポイント減少し、「どちらかといえば女性」の割合が8.8ポイント増加するなど、女性の自身の認識に変化がみられる。

図表1-5 炊事、掃除、洗濯などの家事〔全体、年齢別、配偶関係別〕

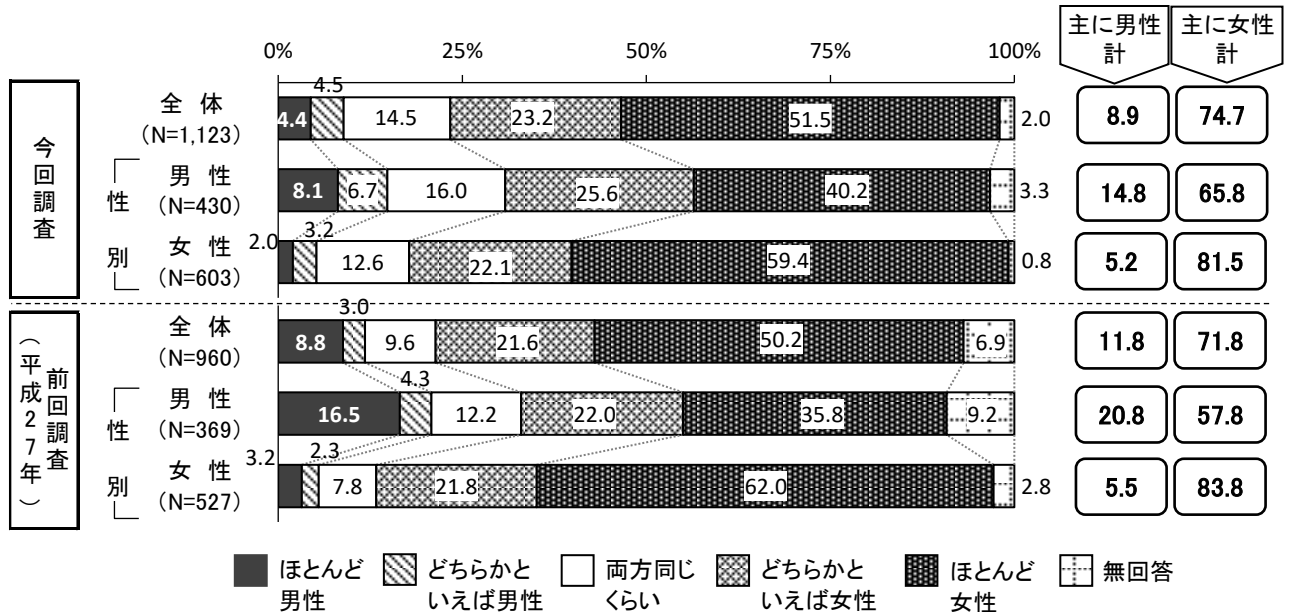
									(%)	
		標本数	ほとんど男性	えどちら男性かとい	い両方同じくらい	えどちら女性かとい	ほとんど女性	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		1,123 100.0	23 2.0	18 1.6	141 12.6	364 32.4	556 49.5	21 1.9	41 3.6	920 81.9
年齢別	男性:18~29歳	38	2.6	2.6	21.1	39.5	34.2	0.0	5.2	73.7
	男性:30~39歳	42	2.4	4.8	19.0	47.6	23.8	2.4	7.2	71.4
	男性:40~49歳	61	4.9	4.9	23.0	34.4	26.2	6.6	9.8	60.6
	男性:50~59歳	83	9.6	1.2	18.1	34.9	33.7	2.4	10.8	68.6
	男性:60~69歳	107	4.7	2.8	14.0	30.8	46.7	0.9	7.5	77.5
	男性:70歳以上	98	4.1	2.0	12.2	36.7	39.8	5.1	6.1	76.5
	女性:18~29歳	58	0.0	1.7	6.9	24.1	65.5	1.7	1.7	89.6
	女性:30~39歳	82	0.0	1.2	13.4	32.9	52.4	0.0	1.2	85.3
	女性:40~49歳	116	0.0	0.0	11.2	31.0	57.8	0.0	0.0	88.8
	女性:50~59歳	114	0.0	0.9	14.0	27.2	57.9	0.0	0.9	85.1
	女性:60~69歳	140	0.0	0.7	2.9	30.0	64.3	2.1	0.7	94.3
	女性:70歳以上	92	1.1	0.0	6.5	31.5	57.6	3.3	1.1	89.1
無回答	92	0.0	2.2	16.3	33.7	46.7	1.1	2.2	80.4	
配偶関係別	男性:未婚	104	13.5	3.8	22.1	28.8	26.0	5.8	17.3	54.8
	男性:配偶者がいる (共働きである)	134	0.0	4.5	17.9	36.6	39.6	1.5	4.5	76.2
	男性:配偶者がいる (共働きでない)	154	2.6	1.3	10.4	40.3	44.8	0.6	3.9	85.1
	男性:配偶者とは 死別・離別した	35	11.4	0.0	22.9	37.1	17.1	11.4	11.4	54.2
	女性:未婚	108	0.0	0.0	6.5	26.9	64.8	1.9	0.0	91.7
	女性:配偶者がいる (共働きである)	216	0.0	1.4	13.9	33.3	51.4	0.0	1.4	84.7
	女性:配偶者がいる (共働きでない)	173	0.6	0.6	6.9	30.1	61.3	0.6	1.2	91.4
	女性:配偶者とは 死別・離別した	101	0.0	0.0	4.0	24.8	67.3	4.0	0.0	92.1
	無回答	98	0.0	2.0	17.3	32.7	46.9	1.0	2.0	79.6

年齢別でみると、男性の50代以下では「両方同じくらい」が2割前後と比較的高い。女性はいずれの年代も「ほとんど女性」が5割を超えており、特に18~29歳では65.5%と最も高くなっている。

配偶関係別でみると、男女とも既婚の共働きの場合『主に女性』の割合が、共働きでない場合よりも約7~9ポイント低い、「両方同じくらい」は共働きでも1割台にとどまっており、仕事の有無にかかわらず炊事、掃除、洗濯などの日常の家事は女性の役割となっている様子が見えてくる。

ウ. 日々の家計の管理

図表 1 - 6 日々の家計の管理 [全体、性別] (前回調査比較)



日々の家計の管理については、『主に女性』が 74.7%と高く、「両方同じくらい」は 14.5%である。日々の家計の管理も女性が中心となって担っている割合が高い。

性別でみると、『主に女性』は女性で 81.5%と男性 (65.8%) を 15.7 ポイント上回り、女性の認識の方が高い。男性は『主に男性』(男性 14.8%、女性 5.2%) の割合が女性よりも 9.6 ポイント高い。

前回調査と比べると、男性は『主に男性』の割合が 6.0 ポイント減少し、『主に女性』が 8.0 ポイント増加するなど、女性が担っているという認識が高くなっている。

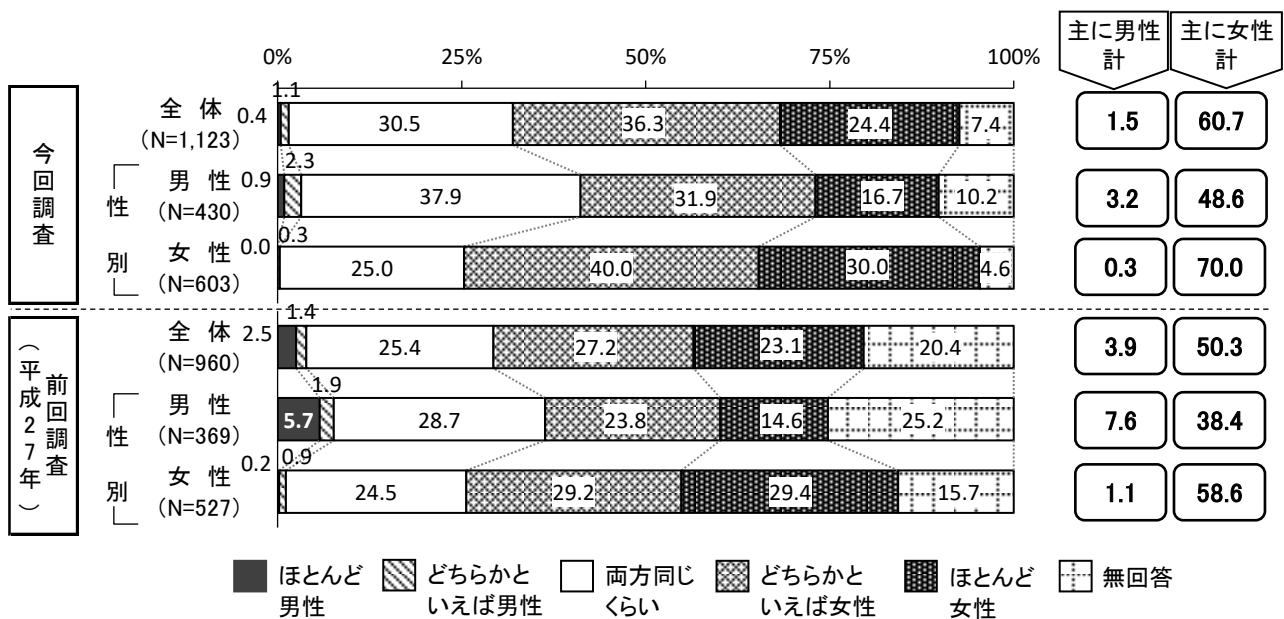
図表 1 - 7 日々の家計の管理 [全体、配偶関係別]

		標本数	男ほとんど	男とどちらか	く両方同じ	女とどちらか	女ほとんど	無回答	計主に男性	計主に女性
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全 体		1,123	4.4	4.5	14.5	23.2	51.5	2.0	8.9	74.7
配偶関係別	男性:未婚	104	14.4	5.8	16.3	28.8	28.8	5.8	20.2	57.6
	男性:配偶者がいる (共働きである)	134	3.0	6.7	17.2	25.4	46.3	1.5	9.7	71.7
	男性:配偶者がいる (共働きでない)	154	7.1	8.4	13.0	24.7	46.1	0.6	15.5	70.8
	男性:配偶者とは 死別・離別した	35	14.3	2.9	20.0	22.9	25.7	14.3	17.2	48.6
	女性:未婚	108	1.9	0.9	12.0	21.3	63.0	0.9	2.8	84.3
	女性:配偶者がいる (共働きである)	216	1.9	4.2	13.9	22.7	57.4	0.0	6.1	80.1
	女性:配偶者がいる (共働きでない)	173	3.5	3.5	12.1	23.1	57.8	0.0	7.0	80.9
	女性:配偶者とは 死別・離別した	101	0.0	2.0	9.9	19.8	64.4	4.0	2.0	84.2
無回答		98	2.0	3.1	22.4	19.4	50.0	3.1	5.1	69.4

配偶関係別でみると、男女とも既婚の共働き、共働きでないにかかわらず『主に女性』の割合に差はみられない。

エ. 育児、子どものしつけ

図表1-8 育児、子どものしつけ [全体、性別] (前回調査比較)



育児、子どものしつけについては、『主に女性』が60.7%、「両方同じくらい」は30.5%、『主に男性』は1.5%となっている。育児や子どものしつけも女性に偏っているが、「両方同じくらい」は炊事、掃除、洗濯などの家事や日々の家計の管理に比べると約2倍高く、男性も担っている様子が見える。

性別で見ると、『主に女性』(男性48.6%、女性70.0%)は女性の方が21.4ポイント高く、「両方同じくらい」(同37.9%、25.0%)は男性の方が12.9ポイント高いなど性別による認識の差が大きい。

前回調査と比べると、前回調査ではその時点で育児やしつけをする子どもがいない場合が多かったためか「無回答」が多く、今回調査では「無回答」は10ポイント以上減り、『主に女性』の割合が男女とも約10ポイント増えている。「両方同じくらい」は女性では大差はないが、男性は9.2ポイント増と前回よりも子育てを担っているとの認識が高くなっている。

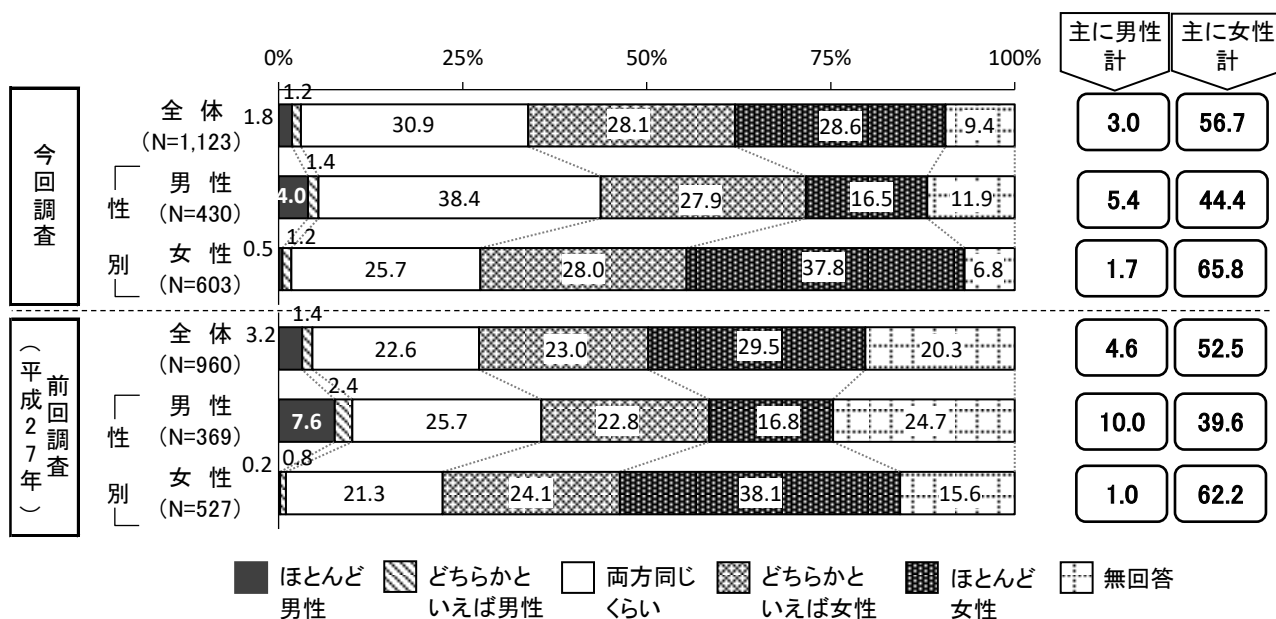
図表 1 - 9 育児、子どものしつけ [全体、年齢別]

		標本数	ほとんど男性	どちらかかとい	い両方同じくら	えどちらかとい	ほとんど女性	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		1,123 100.0	4 0.4	12 1.1	342 30.5	408 36.3	274 24.4	83 7.4	16 1.5	682 60.7
年齢別	男性:18~29歳	38	0.0	2.6	34.2	28.9	31.6	2.6	2.6	60.5
	男性:30~39歳	42	0.0	0.0	42.9	35.7	14.3	7.1	0.0	50.0
	男性:40~49歳	61	0.0	3.3	39.3	36.1	6.6	14.8	3.3	42.7
	男性:50~59歳	83	3.6	1.2	43.4	30.1	12.0	9.6	4.8	42.1
	男性:60~69歳	107	0.9	2.8	41.1	28.0	16.8	10.3	3.7	44.8
	男性:70歳以上	98	0.0	3.1	28.6	33.7	22.4	12.2	3.1	56.1
	女性:18~29歳	58	0.0	0.0	24.1	32.8	37.9	5.2	0.0	70.7
	女性:30~39歳	82	0.0	0.0	26.8	43.9	25.6	3.7	0.0	69.5
	女性:40~49歳	116	0.0	0.0	25.9	36.2	33.6	4.3	0.0	69.8
	女性:50~59歳	114	0.0	0.0	25.4	42.1	29.8	2.6	0.0	71.9
	女性:60~69歳	140	0.0	1.4	21.4	42.1	30.0	5.0	1.4	72.1
	女性:70歳以上	92	0.0	0.0	28.3	39.1	25.0	7.6	0.0	64.1
	無回答	92	0.0	0.0	30.4	34.8	22.8	12.0	0.0	57.6

年齢別で見ると、男性の70歳以上を除く各年代では「両方同じくらい」の割合が最も高く、30代から60代では4割前後と高い。他方、女性は30代以上の年代では「どちらかといえば女性」、18~29歳では「ほとんど女性」の割合が4割前後と最も高く、「両方同じくらい」は2割台にとどまる。また、男性の18~29歳でも「ほとんど女性」の割合が31.6%と男性の中では高く、子どもに手が掛かると思われる年代では、育児、しつけは女性が担う場合が多いようである。

オ. 病人・高齢者の世話（介護）

図表 1 - 10 病人・高齢者の世話（介護） [全体、性別]（前回調査比較）



病人・高齢者の世話（介護）については、『主に女性』が56.7%、「両方同じくらい」が30.9%、『主に男性』が3.0%となっている。育児や子どものしつけと同様、高齢者の世話も女性に偏っているが、「両方同じくらい」は炊事、掃除、洗濯などの家事や日々の家計の管理に比べると約2倍高く、男性も担っている様子がうかがえる。

性別でみると、『主に女性』（男性44.4%、女性65.8%）は女性の方が21.4ポイント高く、「両方同じくらい」（同38.4%、25.7%）は男性の方が12.7ポイント高いなど育児や子どものしつけと同様、性別による認識の差が大きい。

前回調査と比べると、『主に女性』の割合が男女とも約4～5ポイント増えているが、「両方同じくらい」も女性で4.4ポイント、男性で12.7ポイント増と前回よりも病人や高齢者の世話を同じ程度に担っているとの認識が特に男性で高くなっている。

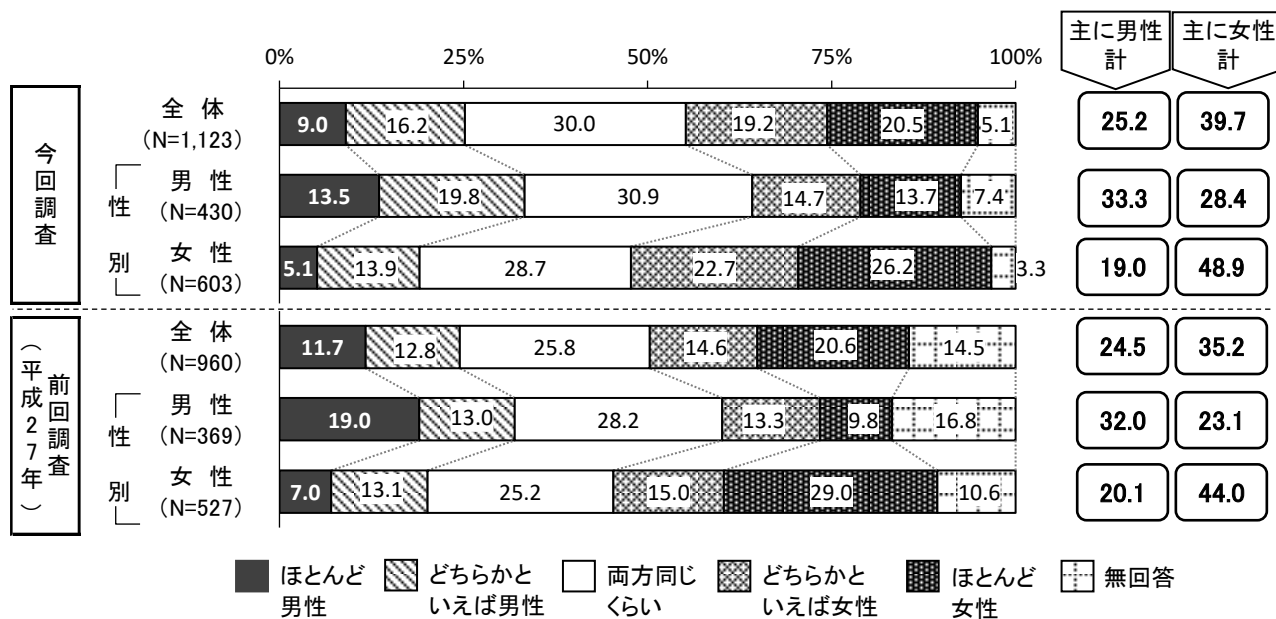
図表1-11 病人・高齢者の世話（介護）[全体、年齢別]

		(%)								
		標本数	ほとんど男性	えどちら男 性かとい	い両方 同じくら	えどちら女 性かとい	ほとんど女性	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		1,123 100.0	20 1.8	13 1.2	347 30.9	316 28.1	321 28.6	106 9.4	33 3.0	637 56.7
年齢別	男性:18～29歳	38	2.6	2.6	34.2	18.4	34.2	7.9	5.2	52.6
	男性:30～39歳	42	0.0	0.0	59.5	26.2	7.1	7.1	0.0	33.3
	男性:40～49歳	61	1.6	3.3	47.5	27.9	4.9	14.8	4.9	32.8
	男性:50～59歳	83	7.2	0.0	42.2	24.1	15.7	10.8	7.2	39.8
	男性:60～69歳	107	4.7	1.9	29.0	33.6	21.5	9.3	6.6	55.1
	男性:70歳以上	98	4.1	1.0	31.6	29.6	16.3	17.3	5.1	45.9
	女性:18～29歳	58	0.0	3.4	37.9	24.1	29.3	5.2	3.4	53.4
	女性:30～39歳	82	1.2	1.2	32.9	23.2	32.9	8.5	2.4	56.1
	女性:40～49歳	116	0.0	0.9	31.0	25.9	34.5	7.8	0.9	60.4
	女性:50～59歳	114	0.9	0.0	26.3	32.5	37.7	2.6	0.9	70.2
	女性:60～69歳	140	0.0	1.4	20.0	29.3	42.9	6.4	1.4	72.2
	女性:70歳以上	92	1.1	1.1	13.0	29.3	44.6	10.9	2.2	73.9
無回答		92	0.0	0.0	30.4	30.4	23.9	15.2	0.0	54.3

年齢別でみると、男性の30代から50代では「両方同じくらい」が4割を超えて最も高く、特に30代では59.5%と高い。女性は年齢が上がるにつれ『主に女性』の割合が高くなっており50代以上では7割を超えている。男性は60代で『主に女性』が55.1%と5割を超えて高く、親の介護が必要な年代では主に女性が担っている様子がうかがえる。

カ. 自治会などの地域活動

図表 1 - 12 自治会などの地域活動 [全体、性別] (前回調査比較)



自治会などの地域活動については、『主に女性』が 39.7%、「両方同じくらい」が 30.0%、『主に男性』が 25.2%となっている。

性別でみると、男性は『主に男性』が 33.3%と女性 (19.0%) より 14.3 ポイント高く、女性は『主に女性』が 48.9%と男性 (28.4%) より 20.5 ポイント高いなど、男女とも自分が行っているという認識が強い。

前回調査と比べると、女性の『主に女性』が 4.9 ポイント増加しており自分が行っているという認識が高くなっている。

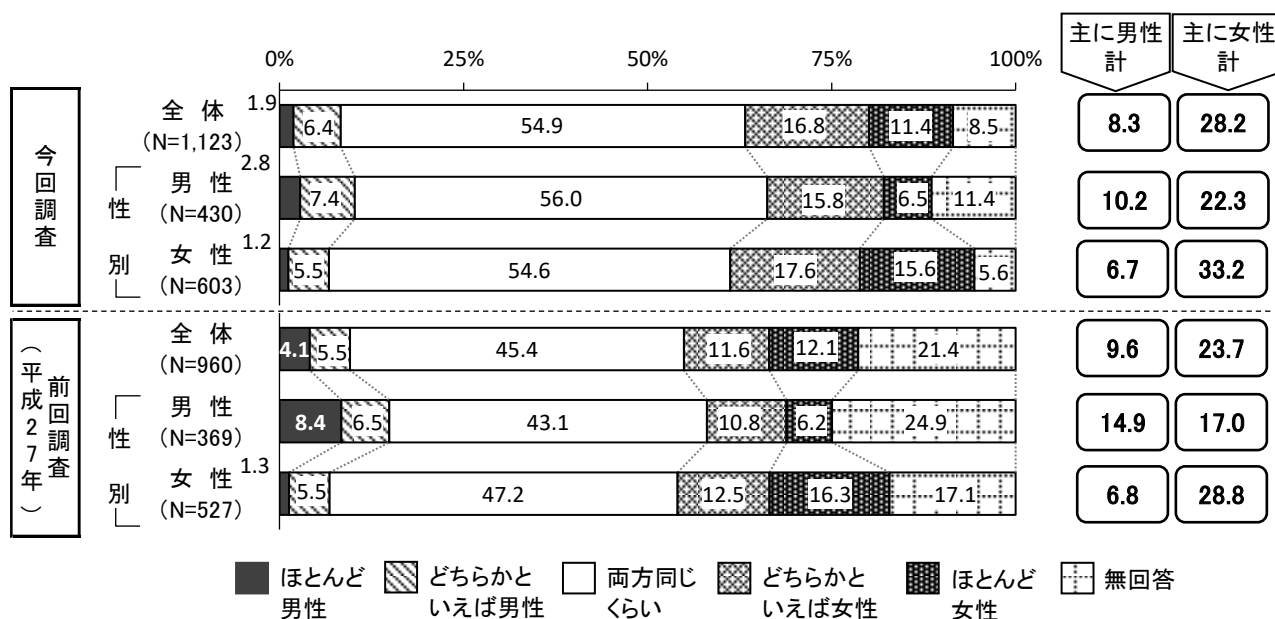
図表1-13 自治会などの地域活動 [全体、年齢別]

		(%)								
		標本数	ほとんど男性	えどちらかかとい	い両方同じくらい	えどちらかかとい	ほとんど女性	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		1,123 100.0	101 9.0	182 16.2	337 30.0	216 19.2	230 20.5	57 5.1	283 25.2	446 39.7
年齢別	男性:18~29歳	38	5.3	15.8	31.6	21.1	26.3	0.0	21.1	47.4
	男性:30~39歳	42	7.1	9.5	59.5	9.5	7.1	7.1	16.6	16.6
	男性:40~49歳	61	14.8	16.4	37.7	8.2	9.8	13.1	31.2	18.0
	男性:50~59歳	83	14.5	24.1	26.5	16.9	9.6	8.4	38.6	26.5
	男性:60~69歳	107	13.1	23.4	22.4	16.8	20.6	3.7	36.5	37.4
	男性:70歳以上	98	18.4	19.4	27.6	14.3	10.2	10.2	37.8	24.5
	女性:18~29歳	58	1.7	10.3	39.7	20.7	22.4	5.2	12.0	43.1
	女性:30~39歳	82	8.5	9.8	37.8	15.9	22.0	6.1	18.3	37.9
	女性:40~49歳	116	1.7	12.9	27.6	21.6	33.6	2.6	14.6	55.2
	女性:50~59歳	114	3.5	8.8	34.2	25.4	26.3	1.8	12.3	51.7
	女性:60~69歳	140	6.4	20.7	20.7	22.1	26.4	3.6	27.1	48.5
	女性:70歳以上	92	8.7	17.4	20.7	28.3	22.8	2.2	26.1	51.1
無回答		92	13.0	15.2	33.7	18.5	14.1	5.4	28.2	32.6

年齢別でみると、男性の30代では「両方同じくらい」が59.5%と最も高くなっている。男性の40代以上では『主に男性』が3割を超えて高いが、60代では『主に女性』(37.4%)の割合と同程度となっている。女性は40代で『主に女性』が55.2%と最も高く、60代以上でも5割前後と高くなっている。男女とも年齢が高い層では自分が行っていると認識しているが、60代の男性は女性が行っているとの認識もある。

キ. 子どもの教育方針や進学目標の決定

図表 1 - 14 子どもの教育方針や進学目標の決定 [全体、性別] (前回調査比較)



子どもの教育方針や進学目標の決定については、「両方同じくらい」が 54.9%と、9分野中最も割合が高い。『主に女性』は 28.2%、『主に男性』は 8.3%である。育児や子どものしつけも女性に偏っていたが、子どもの将来に影響を与える重大な決定については男女とも同じ程度に関わっているようである。

性別で見ると、「両方同じくらい」(男性 56.0%、女性 54.6%) は男女とも同程度であるが、『主に女性』(同 22.3%、33.2%) は女性が男性を 10.9 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも「両方同じくらい」が約 7~13 ポイント増えているが、『主に女性』も約 4~5 ポイント増えている。

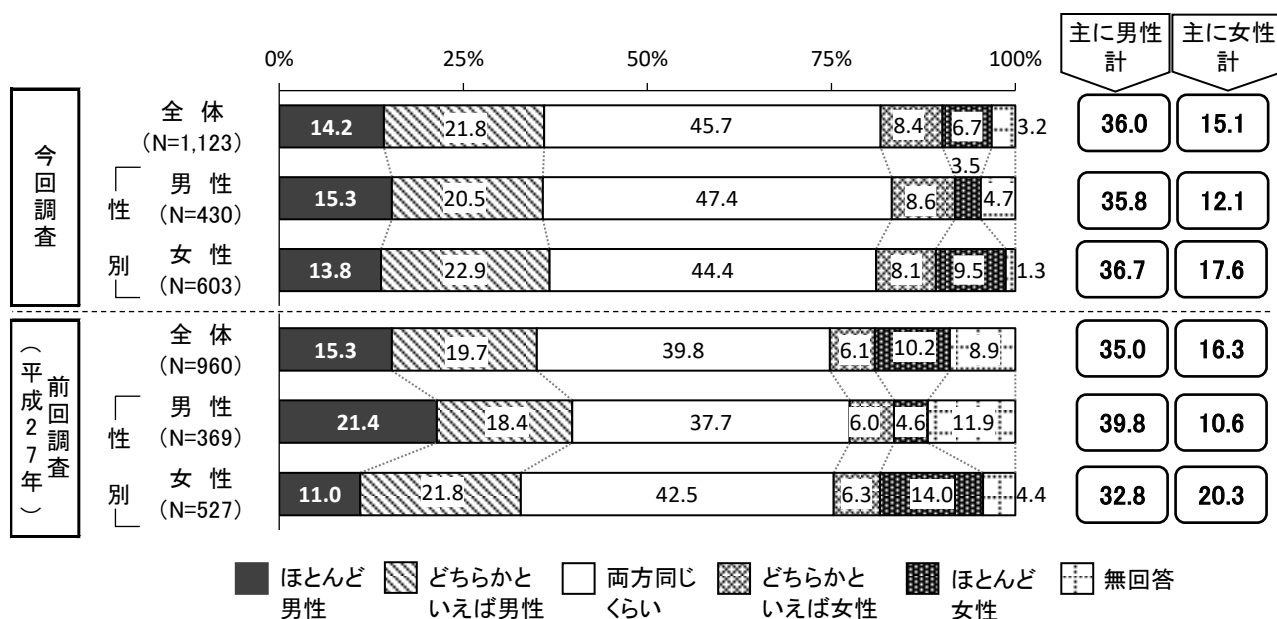
図表1 - 15 子どもの教育方針や進学目標の決定 [全体、年齢別]

		(%)								
		標本数	ほとんど男性	えどちらかかとい	い両方同じくらい	えどちらかかとい	ほとんど女性	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		1,123 100.0	21 1.9	72 6.4	617 54.9	189 16.8	128 11.4	96 8.5	93 8.3	317 28.2
年齢別	男性:18~29歳	38	0.0	7.9	50.0	15.8	23.7	2.6	7.9	39.5
	男性:30~39歳	42	0.0	4.8	61.9	26.2	2.4	4.8	4.8	28.6
	男性:40~49歳	61	1.6	6.6	63.9	9.8	1.6	16.4	8.2	11.4
	男性:50~59歳	83	3.6	7.2	55.4	15.7	8.4	9.6	10.8	24.1
	男性:60~69歳	107	4.7	5.6	60.7	14.0	3.7	11.2	10.3	17.7
	男性:70歳以上	98	3.1	11.2	46.9	16.3	6.1	16.3	14.3	22.4
	女性:18~29歳	58	0.0	0.0	58.6	13.8	20.7	6.9	0.0	34.5
	女性:30~39歳	82	0.0	6.1	57.3	14.6	17.1	4.9	6.1	31.7
	女性:40~49歳	116	0.0	2.6	48.3	20.7	23.3	5.2	2.6	44.0
	女性:50~59歳	114	0.9	2.6	58.8	18.4	14.9	4.4	3.5	33.3
	女性:60~69歳	140	2.9	7.9	52.9	20.0	11.4	5.0	10.8	31.4
	女性:70歳以上	92	2.2	12.0	54.3	14.1	8.7	8.7	14.2	22.8
	無回答	92	2.2	7.6	52.2	17.4	6.5	14.1	9.8	23.9

年齢別でみると、男女ともいずれの年代も「両方同じくらい」の割合が最も高いが、40代では「両方同じくらい」が男性で63.9%に対し、女性は48.3%と15.6ポイントも差があり、女性の『主に女性』の割合は44.0%と高く、同じ年代でも性別による差が大きい。

ク. 車や高額商品の購入決定

図表 1 - 16 車や高額商品の購入決定 [全体、性別] (前回調査比較)



車や高額商品の購入決定については、「両方同じくらい」が 45.7%で9分野中3番目に高い。次いで『主に男性』が 36.0%、『主に女性』が 15.1%である。

性別で見ると、男性は「両方同じくらい」(男性 47.4%、女性 44.4%) が女性より 3.0 ポイント、女性は『主に女性』(同 12.1%、17.6%) が男性より 5.5 ポイント高い。

前回調査と比べると、男性は「両方同じくらい」の割合が 9.7 ポイント増加し、『主に男性』が 4.0 ポイント低くなっている。女性はあまり大きな変化はみられない。

図表1-17 車や高額商品の購入決定〔全体、年齢別、配偶関係別〕

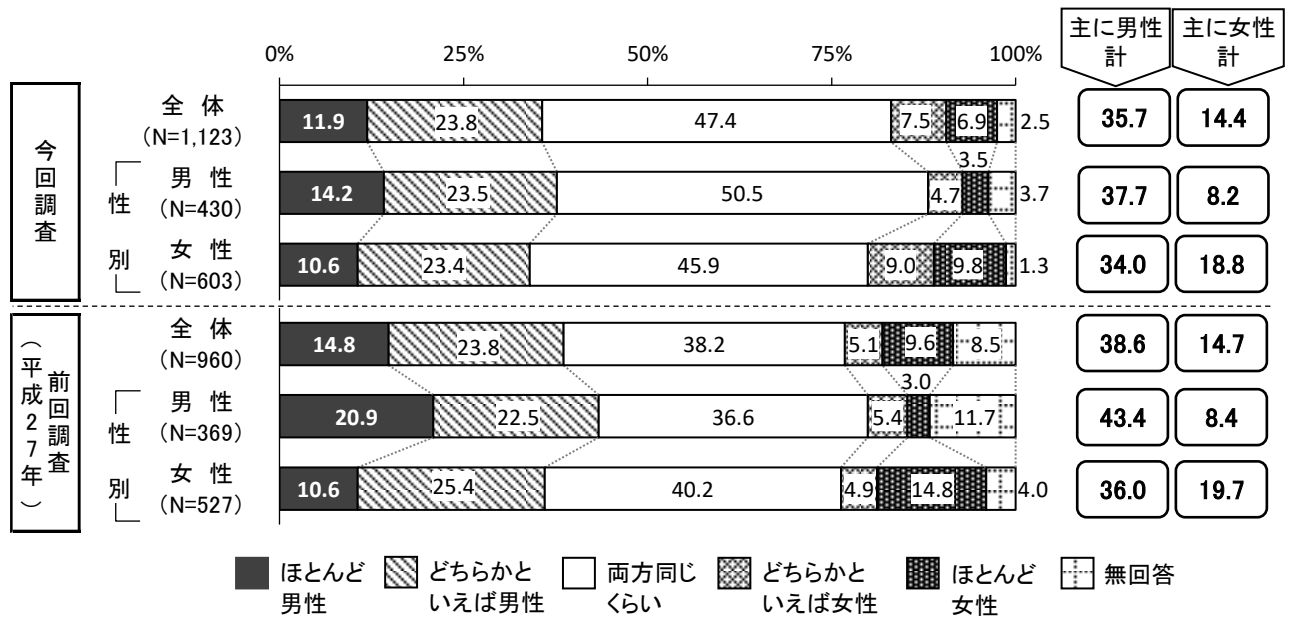
		(%)								
		標本数	ほとんど男性	えどちら男性かとい	い両方同じくらい	えどちら女性かとい	ほとんど女性	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		1,123 100.0	160 14.2	245 21.8	513 45.7	94 8.4	75 6.7	36 3.2	405 36.0	169 15.1
年齢別	男性:18~29歳	38	7.9	18.4	52.6	10.5	10.5	0.0	26.3	21.0
	男性:30~39歳	42	9.5	28.6	47.6	7.1	2.4	4.8	38.1	9.5
	男性:40~49歳	61	9.8	16.4	47.5	13.1	4.9	8.2	26.2	18.0
	男性:50~59歳	83	18.1	15.7	49.4	8.4	4.8	3.6	33.8	13.2
	男性:60~69歳	107	17.8	16.8	50.5	9.3	2.8	2.8	34.6	12.1
	男性:70歳以上	98	19.4	28.6	40.8	4.1	0.0	7.1	48.0	4.1
	女性:18~29歳	58	15.5	24.1	37.9	6.9	12.1	3.4	39.6	19.0
	女性:30~39歳	82	14.6	23.2	43.9	4.9	13.4	0.0	37.8	18.3
	女性:40~49歳	116	12.9	18.1	44.0	12.9	11.2	0.9	31.0	24.1
	女性:50~59歳	114	13.2	19.3	49.1	7.0	9.6	1.8	32.5	16.6
	女性:60~69歳	140	11.4	24.3	49.3	9.3	5.0	0.7	35.7	14.3
	女性:70歳以上	92	17.4	30.4	35.9	5.4	8.7	2.2	47.8	14.1
無回答	92	12.0	20.7	45.7	9.8	3.3	8.7	32.7	13.1	
配偶関係別	男性:未婚	104	17.3	15.4	44.2	8.7	5.8	8.7	32.7	14.5
	男性:配偶者がいる (共働きである)	134	9.7	20.9	52.2	10.4	3.7	3.0	30.6	14.1
	男性:配偶者がいる (共働きでない)	154	15.6	23.4	48.7	8.4	2.6	1.3	39.0	11.0
	男性:配偶者とは 死別・離別した	35	28.6	22.9	31.4	2.9	0.0	14.3	51.5	2.9
	女性:未婚	108	12.0	19.4	39.8	7.4	18.5	2.8	31.4	25.9
	女性:配偶者がいる (共働きである)	216	12.5	24.5	49.5	10.2	3.2	0.0	37.0	13.4
	女性:配偶者がいる (共働きでない)	173	16.2	24.3	48.6	8.1	2.3	0.6	40.5	10.4
	女性:配偶者とは 死別・離別した	101	11.9	19.8	33.7	5.0	25.7	4.0	31.7	30.7
	無回答	98	15.3	21.4	43.9	8.2	3.1	8.2	36.7	11.3

年齢別でみると、男女とも70歳以上では『主に男性』が5割弱で最も高い。また、女性の18~29歳では『主に男性』(39.6%)と「両方同じくらい」(37.9%)が同程度となっている。その他の年代では「両方同じくらい」の割合が4割台から5割強で高い。

配偶関係別でみると、女性では既婚の共働き、共働きでないにかかわらず「両方同じくらい」の割合が5割前後となっているが、男性では共働きでない方が「両方同じくらい」の割合が共働きに比べてやや低く、『主に男性』が8.4ポイント高くなっている。

ケ. 家庭の問題における最終的な決定

図表 1 - 18 家庭の問題における最終的な決定 [全体、性別] (前回調査比較)



家庭の問題における最終的な決定については、「両方同じくらい」が47.4%と9分野中2番目に高くなっている。次いで『主に男性』が35.7%、『主に女性』が14.4%である。

性別でみると、男性は「両方同じくらい」(男性50.5%、女性45.9%)が女性より4.6ポイント、女性は『主に女性』(同8.2%、18.8%)が男性より10.6ポイント高い。

前回調査と比べると、男性は「両方同じくらい」の割合が13.9ポイント増加し、『主に男性』が5.7ポイント低くなっている。女性も「両方同じくらい」が5.7ポイント増えているが、男性に比べると増え幅は小さい。

図表1-19 家庭の問題における最終的な決定 [全体、年齢別、性別役割分担意識別]

(%)

		標本数	ほとんど男性	えどちらかかとい	い両方同じくら	えどちらかかとい	ほとんど女性	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		1,123 100.0	134 11.9	267 23.8	532 47.4	84 7.5	78 6.9	28 2.5	401 35.7	162 14.4
年齢別	男性:18~29歳	38	5.3	7.9	63.2	15.8	7.9	0.0	13.2	23.7
	男性:30~39歳	42	9.5	21.4	54.8	4.8	4.8	4.8	30.9	9.6
	男性:40~49歳	61	9.8	18.0	60.7	1.6	3.3	6.6	27.8	4.9
	男性:50~59歳	83	16.9	30.1	41.0	6.0	3.6	2.4	47.0	9.6
	男性:60~69歳	107	18.7	22.4	50.5	2.8	3.7	1.9	41.1	6.5
	男性:70歳以上	98	15.3	29.6	45.9	3.1	0.0	6.1	44.9	3.1
	女性:18~29歳	58	6.9	29.3	44.8	5.2	12.1	1.7	36.2	17.3
	女性:30~39歳	82	12.2	22.0	46.3	8.5	11.0	0.0	34.2	19.5
	女性:40~49歳	116	7.8	15.5	50.9	13.8	11.2	0.9	23.3	25.0
	女性:50~59歳	114	8.8	22.8	50.0	6.1	10.5	1.8	31.6	16.6
	女性:60~69歳	140	11.4	25.7	45.0	10.7	5.7	1.4	37.1	16.4
	女性:70歳以上	92	16.3	28.3	35.9	6.5	10.9	2.2	44.6	17.4
無回答	92	9.8	27.2	42.4	10.9	5.4	4.3	37.0	16.3	
性別役割分担意識別	男性:そう思う	19	47.4	10.5	26.3	5.3	0.0	10.5	57.9	5.3
	男性:どちらかといえば そう思う	114	14.0	32.5	47.4	4.4	1.8	0.0	46.5	6.2
	男性:どちらかといえば そう思わない	96	13.5	30.2	53.1	2.1	1.0	0.0	43.7	3.1
	男性:そう思わない	180	12.2	15.6	57.8	6.1	6.7	1.7	27.8	12.8
	男性:わからない	13	7.7	30.8	23.1	7.7	0.0	30.8	38.5	7.7
	女性:そう思う	16	37.5	6.3	31.3	0.0	18.8	6.3	43.8	18.8
	女性:どちらかといえば そう思う	150	17.3	30.7	41.3	6.7	4.0	0.0	48.0	10.7
	女性:どちらかといえば そう思わない	106	6.6	20.8	50.0	11.3	9.4	1.9	27.4	20.7
	女性:そう思わない	309	7.1	22.0	48.9	9.4	11.7	1.0	29.1	21.1
	女性:わからない	18	5.6	16.7	33.3	16.7	22.2	5.6	22.3	38.9
	無回答	102	10.8	26.5	37.3	9.8	3.9	11.8	37.3	13.7

年齢別でみると、「両方同じくらい」は男性の40代以下、女性の40代と50代で5割から6割強と高い。男性の50代以上と女性の70歳以上で『主に男性』が4割台と高い

性別役割分担意識別でみると、男女とも「そう思う」や「どちらかといえばそう思う」といった容認する意見の人は『主に男性』の割合が高い傾向がみられ、特に女性に顕著にあらわれている。

II 調査結果

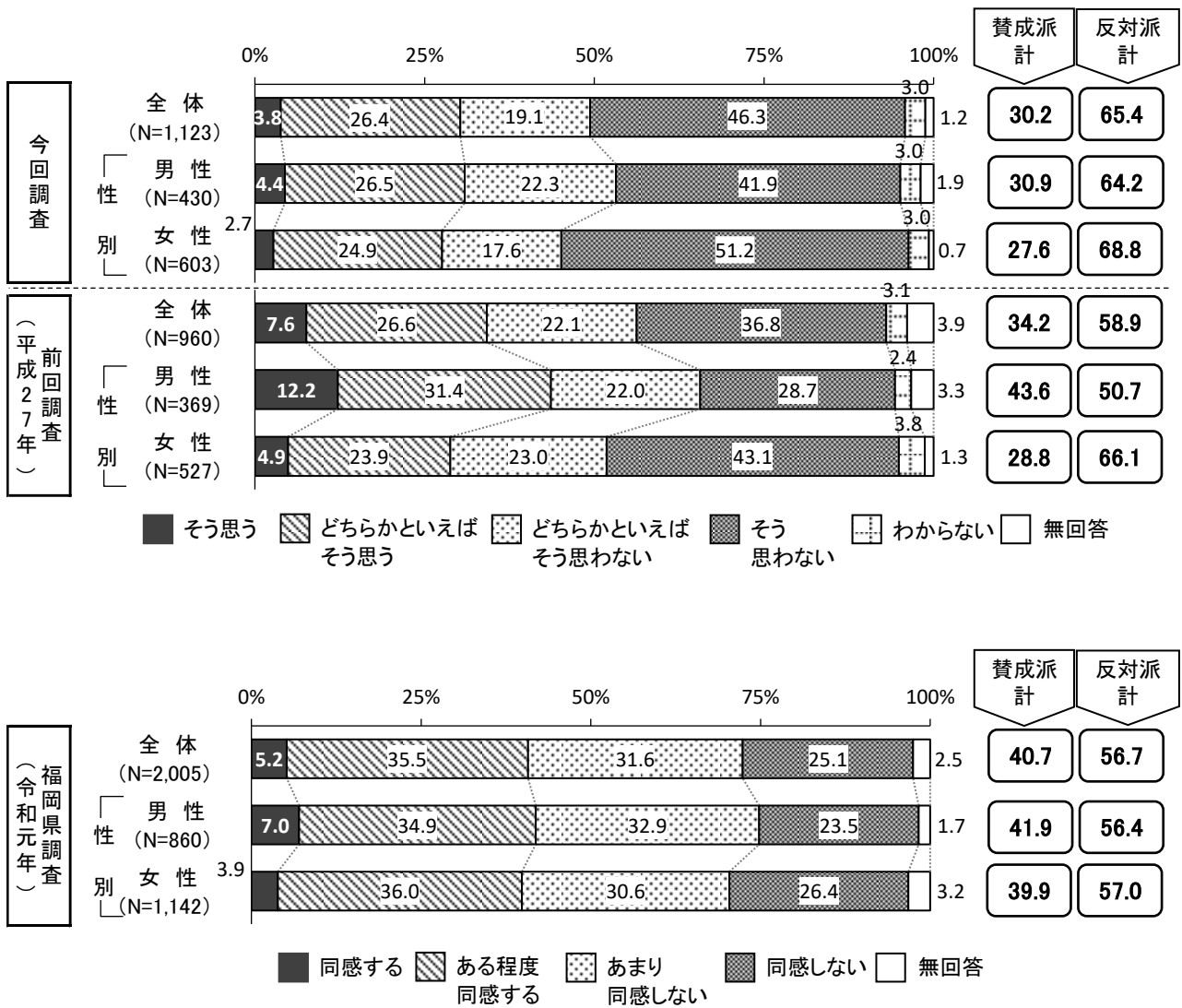
2. 性別役割分担意識

問2 あなたは、次のア～オのような考え方に対してどのようにお考えですか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は各項目に1つ)

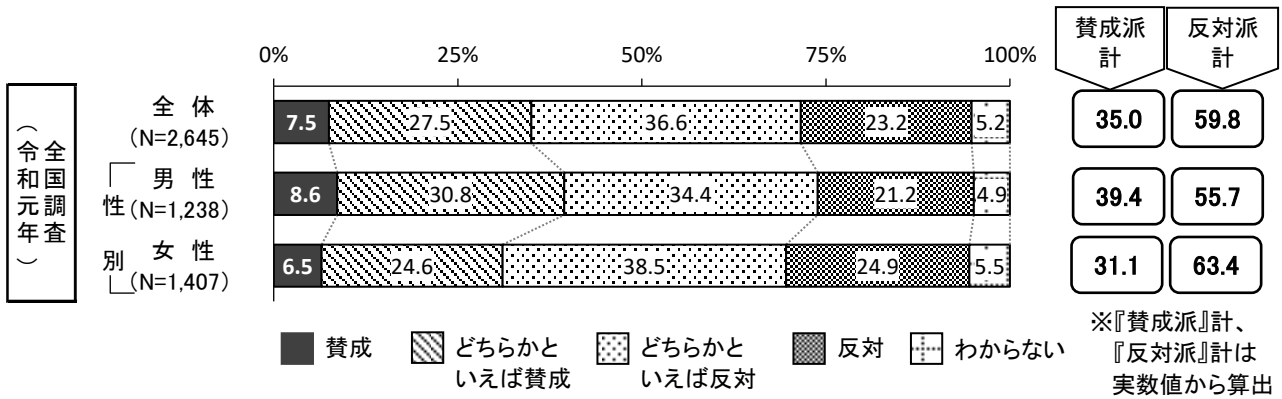
ア. 「男は仕事、女は家庭」

- 「男は仕事、女は家庭」を容認しない『反対派』は女性が7割弱、男性が6割台半ばで、前回調査よりも『反対派』は増加。特に強い反対の「そう思わない」は男女とも約8～13ポイント増加。
- 福岡県・全国調査と比べ、性別役割分担を容認しない人は男女とも多い。

図表1-20 「男は仕事、女は家庭」という考え方について [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



資料：令和元年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



資料：令和元年 内閣府男女共同参画に関する世論調査結果

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「そう思う」(3.8%)と「どちらかといえばそう思う」(26.4%)をあわせた『賛成派』は30.2%で、「そう思わない」(46.3%)と「どちらかといえばそう思わない」(19.1%)をあわせた『反対派』は65.4%と性別役割分担意識を容認しない人が35.2ポイント上回っている。

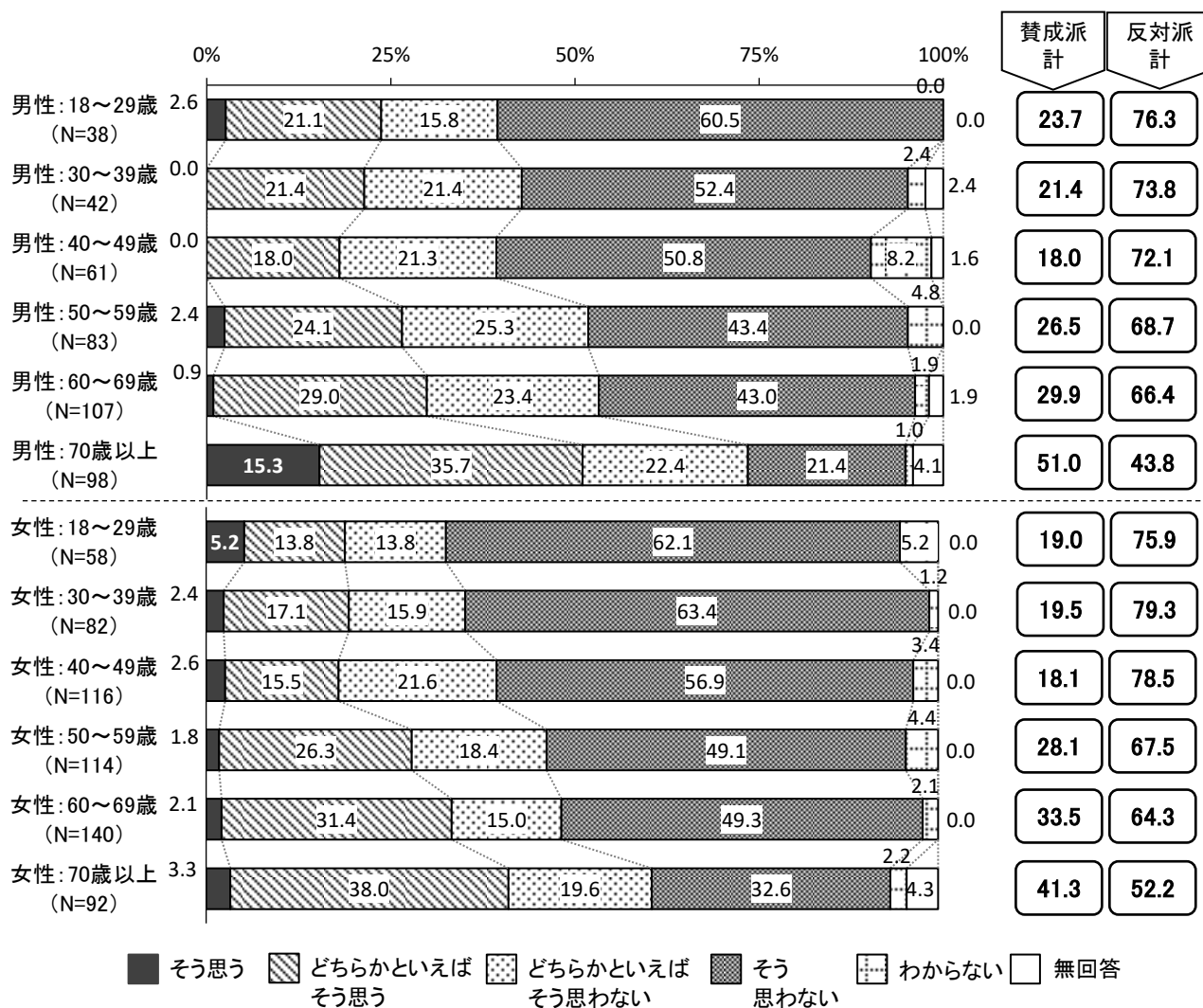
性別で見ると、女性の『反対派』は68.8%で男性(64.2%)を4.6ポイント差であるが、その内訳をみると強い反対の「そう思わない」は女性51.2%に対し、男性41.9%と9.3ポイント差と大きく、女性の方が『反対派』の中でも強い反対の人が多い。『賛成派』は男女とも3割前後ある。

前回調査と比べると、男性は『賛成派』が12.7ポイント減少し、『反対派』が13.5ポイント増えている。女性は『賛成派』『反対派』の割合にあまり大きな変化はみられないが、強い反対の「そう思わない」は8.1ポイント増えている。

令和元年12月に実施した福岡県「男女共同参画社会に向けての意識調査」(以下、福岡県調査という)と比べると、男女とも『反対派』は約8~12ポイント今回調査の方が高い。

令和元年9月に実施した内閣府の「男女共同参画に関する世論調査」(以下、全国調査という)と比べると、今回調査の方が『反対派』は女性で5.4ポイント、男性で8.5ポイント高い。国や県と比べ男女とも性別役割分担を容認しない人は本市の方が多い。

図表 1 - 21 「男は仕事、女は家庭」という考え方について [全体、年齢別]



年齢別で見ると、男女とも年齢の低い層で『反対派』の割合が高くなる傾向がみられ、男女とも18~29歳では7割台半ば、女性の30代と40代では8割近くとなっている。『賛成派』は男女とも70歳以上で約4~5割と高い。

図表1 - 22 「男は仕事、女は家庭」という考え方について [全体、年齢別、男女共同参画の関心度別]

(%)

		標本数	そう思う	そうど ちらか といえ ば	そうど ちらか といえ ば	そう 思わ ない	わ か ら な い	無 回 答	賛 成 派 計	反 対 派 計
全 体		1,123 100.0	43 3.8	297 26.4	215 19.1	520 46.3	34 3.0	14 1.2	340 30.2	735 65.4
男女共同参画の関心度別	男性:非常に関心がある	36	8.3	8.3	11.1	69.4	2.8	0.0	16.6	80.5
	男性:まあまあ関心がある	202	3.0	28.7	24.3	42.1	1.5	0.5	31.7	66.4
	男性:あまり関心がない	147	5.4	27.9	23.1	38.1	2.7	2.7	33.3	61.2
	男性:まったく関心がない	30	3.3	26.7	13.3	36.7	13.3	6.7	30.0	50.0
	女性:非常に関心がある	38	2.6	10.5	5.3	81.6	0.0	0.0	13.1	86.9
	女性:まあまあ関心がある	270	1.5	20.0	20.4	55.6	2.6	0.0	21.5	76.0
	女性:あまり関心がない	217	2.3	33.2	17.5	43.8	2.8	0.5	35.5	61.3
	女性:まったく関心がない	54	7.4	25.9	14.8	42.6	9.3	0.0	33.3	57.4
	無回答	129	8.5	33.3	16.3	34.1	3.1	4.7	41.8	50.4

男女共同参画の関心度別でみると、男女とも関心が高い人ほど『反対派』の割合が高くなっている。

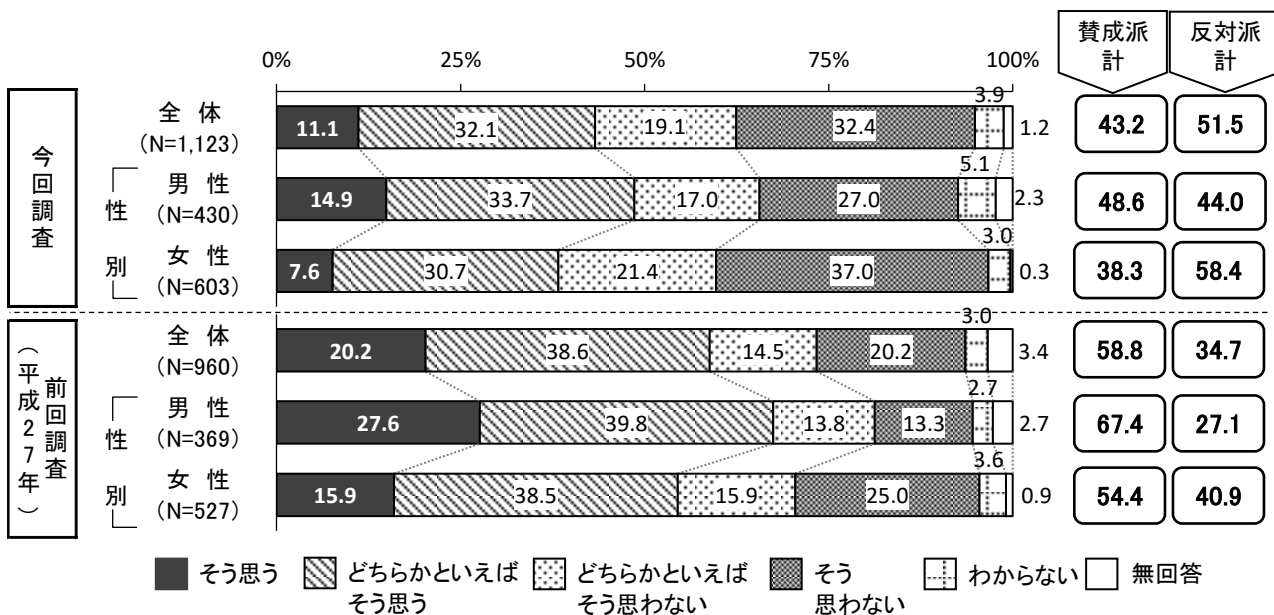
3. 子どもの育て方についての考え方

問2 あなたは、次のア～オのような考え方に対してどのようにお考えですか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は各項目に1つ)

- 「男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」育てる方がよい」という考え方に前回調査よりも否定的な人が17ポイント前後増加し、男性は4割台半ば、女性は6割弱。
- 性別を問わず、経済的自立・生活自立できるような育て方の考えを支持する人は約9割から9割台半ば。女性の方が男性よりも積極的支援する人の割合が高い。女性は生活自立を積極的に支持する割合が前回調査よりも高くなっている。
- 「子どもが3歳までは母親の手で育てる」という考え方は、前回調査よりも支持しない人が男女とも10ポイント前後増加しているが、支持する人は男性5割強、女性6割弱と女性の方に多い。

イ. 男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」育てる方がよい

図表1-23 男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」育てる方がよいという考え方について
[全体、性別] (前回調査比較)



子どもの育て方についての考え方をたずねた。

「男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」育てる方がよい」という考え方について、「そう思わない」が32.4%と「どちらかといえばそう思わない」が19.1%これらをあわせた『反対派』は51.5%と『賛成派』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)(43.2%)を8.3ポイント上回っている。

性別で見ると、男性は『賛成派』が48.6%と女性(38.3%)を10.3ポイント上回り、女性は『反対派』が58.4%と男性(44.0%)を14.4ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『賛成派』が約16~19ポイント減り、『反対派』が約17~18ポイント増えており、男の子らしく、女の子らしく育てるといふ考え方に否定的な人が増えている。

図表1-24 『男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」育てる方がよい』という考え方について
[全体、年齢別、性別役割分担意識別]

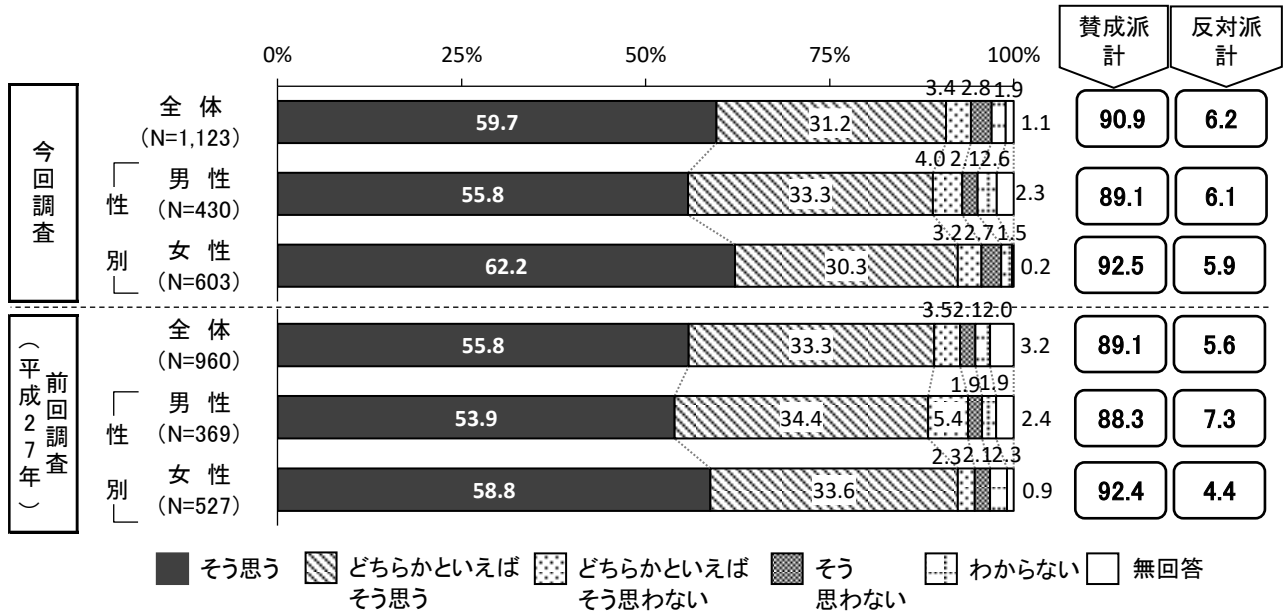
										(%)	
		標本数	そう思う	どちらかといえば	どちらかわからない	そう思わない	わからない	無回答	賛成派計	反対派計	
全体		1,123 100.0	125 11.1	361 32.1	215 19.1	364 32.4	44 3.9	14 1.2	486 43.2	579 51.5	
年齢別	男性:18～29歳	38	10.5	21.1	23.7	44.7	0.0	0.0	31.6	68.4	
	男性:30～39歳	42	14.3	23.8	28.6	23.8	7.1	2.4	38.1	52.4	
	男性:40～49歳	61	8.2	36.1	16.4	24.6	11.5	3.3	44.3	41.0	
	男性:50～59歳	83	12.0	38.6	13.3	27.7	7.2	1.2	50.6	41.0	
	男性:60～69歳	107	11.2	35.5	14.0	31.8	4.7	2.8	46.7	45.8	
	男性:70歳以上	98	27.6	35.7	16.3	16.3	1.0	3.1	63.3	32.6	
	女性:18～29歳	58	5.2	17.2	24.1	51.7	1.7	0.0	22.4	75.8	
	女性:30～39歳	82	2.4	20.7	23.2	50.0	3.7	0.0	23.1	73.2	
	女性:40～49歳	116	7.8	36.2	18.1	36.2	1.7	0.0	44.0	54.3	
	女性:50～59歳	114	2.6	32.5	21.1	40.4	3.5	0.0	35.1	61.5	
	女性:60～69歳	140	10.0	30.7	22.1	34.3	2.1	0.7	40.7	56.4	
	女性:70歳以上	92	16.3	38.0	21.7	17.4	5.4	1.1	54.3	39.1	
	無回答	92	16.3	34.8	14.1	28.3	4.3	2.2	51.1	42.4	
性別役割分担意識別	男性:そう思う	19	73.7	15.8	10.5	0.0	0.0	0.0	89.5	10.5	
	男性:どちらかといえば そう思う	114	21.9	58.8	14.9	2.6	0.9	0.9	80.7	17.5	
	男性:どちらかといえば そう思わない	96	11.5	36.5	32.3	15.6	3.1	1.0	48.0	47.9	
	男性:そう思わない	180	7.2	20.6	12.8	54.4	4.4	0.6	27.8	67.2	
	男性:わからない	13	7.7	15.4	0.0	0.0	76.9	0.0	23.1	0.0	
	女性:そう思う	16	56.3	12.5	25.0	6.3	0.0	0.0	68.8	31.3	
	女性:どちらかといえば そう思う	150	10.7	56.7	17.3	12.7	2.7	0.0	67.4	30.0	
	女性:どちらかといえば そう思わない	106	4.7	32.1	42.5	17.9	2.8	0.0	36.8	60.4	
	女性:そう思わない	309	4.5	19.4	17.5	56.3	1.9	0.3	23.9	73.8	
	女性:わからない	18	5.6	16.7	0.0	50.0	27.8	0.0	22.3	50.0	
	無回答	102	15.7	32.4	12.7	25.5	3.9	9.8	48.1	38.2	

年齢別でみると、男女とも年齢が低い層では『反対派』、年齢が高い層では『賛成派』の割合が高い傾向がみられる。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担を容認しない人では『反対派』の割合が高く、容認する人は『賛成派』の割合が高い傾向がみられる。

ウ. 男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てる方がよい

図表 1 - 25 男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てる方がよい
という考え方について [全体、性別] (前回調査比較)



「男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てる方がよい」という考え方について、「そう思う」が 59.7%で「どちらかといえばそう思う」(31.2%)を合わせた『賛成派』は 90.9%と高率である。

性別で見ると、男女とも『賛成派』は9割前後であるが、そのうち積極的な「そう思う」は男性が 55.8%に対し、女性は 62.2%と女性の方が 6.4ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな変化はみられない。

図表1-26 男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てる方がよいという考え方について [全体、年齢別、性別役割分担意識別]

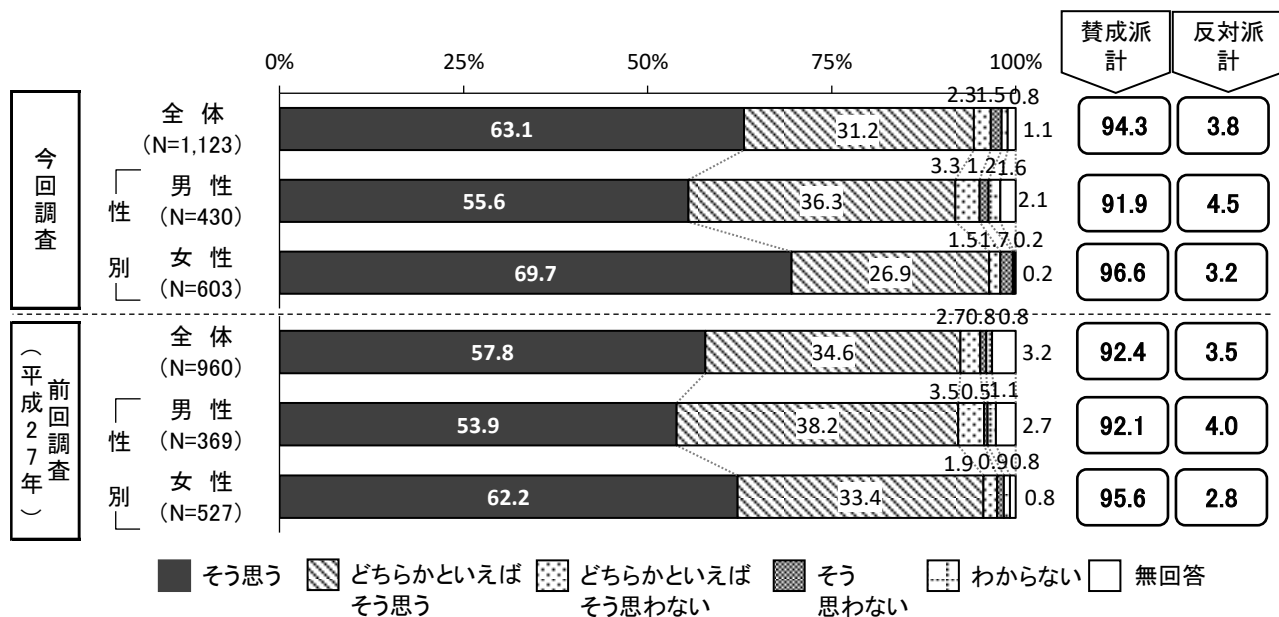
		標本数	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえ	そう思わない	わからない	無回答	賛成派計	反対派計
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体		1,123 100.0	670 59.7	350 31.2	38 3.4	32 2.8	21 1.9	12 1.1	1,020 90.9	70 6.2
年齢別	男性:18~29歳	38	57.9	31.6	2.6	2.6	5.3	0.0	89.5	5.2
	男性:30~39歳	42	50.0	38.1	7.1	0.0	2.4	2.4	88.1	7.1
	男性:40~49歳	61	54.1	32.8	4.9	0.0	4.9	3.3	86.9	4.9
	男性:50~59歳	83	56.6	32.5	3.6	4.8	1.2	1.2	89.1	8.4
	男性:60~69歳	107	56.1	37.4	0.9	1.9	0.9	2.8	93.5	2.8
	男性:70歳以上	98	57.1	28.6	6.1	2.0	3.1	3.1	85.7	8.1
	女性:18~29歳	58	53.4	36.2	5.2	1.7	3.4	0.0	89.6	6.9
	女性:30~39歳	82	65.9	24.4	7.3	1.2	1.2	0.0	90.3	8.5
	女性:40~49歳	116	63.8	29.3	0.9	2.6	3.4	0.0	93.1	3.5
	女性:50~59歳	114	59.6	31.6	4.4	3.5	0.9	0.0	91.2	7.9
	女性:60~69歳	140	61.4	32.9	2.9	2.9	0.0	0.0	94.3	5.8
	女性:70歳以上	92	66.3	28.3	0.0	3.3	1.1	1.1	94.6	3.3
無回答		92	62.0	26.1	2.2	7.6	1.1	1.1	88.1	9.8
性別役割分担意識別	男性:そう思う	19	47.4	36.8	5.3	0.0	10.5	0.0	84.2	5.3
	男性:どちらかといえ	114	44.7	49.1	3.5	0.0	1.8	0.9	93.8	3.5
	男性:どちらかといえ	96	46.9	37.5	10.4	3.1	1.0	1.0	84.4	13.5
	男性:そう思わない	180	73.3	20.0	1.1	3.3	1.7	0.6	93.3	4.4
	男性:わからない	13	23.1	53.8	0.0	0.0	23.1	0.0	76.9	0.0
	女性:そう思う	16	62.5	18.8	6.3	6.3	6.3	0.0	81.3	12.6
	女性:どちらかといえ	150	58.7	36.7	2.7	1.3	0.7	0.0	95.4	4.0
	女性:どちらかといえ	106	50.9	37.7	7.5	2.8	0.9	0.0	88.6	10.3
	女性:そう思わない	309	68.6	24.9	1.9	3.2	1.3	0.0	93.5	5.1
	女性:わからない	18	50.0	38.9	0.0	0.0	11.1	0.0	88.9	0.0
無回答		102	55.9	25.5	2.0	6.9	1.0	8.8	81.4	8.9

年齢別でみると、男性の30代と40代、女性の18~29歳で積極的な「そう思う」が5割前半と他の年代に比べて低くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担を容認しない人では積極的な「そう思う」の割合が7割前後と高いが、女性では「どちらかといえばそう思う」を含めた容認する人でも積極的な「そう思う」の割合が6割前後と高い。

エ. 男の子も女の子も炊事、掃除、洗濯などの仕方を身につけさせる方がよい

図表 1 - 27 男の子も女の子も炊事、掃除、洗濯などの仕方を身につけさせる方がよい
という考え方について [全体、性別] (前回調査比較)



「男の子も女の子も炊事、掃除、洗濯などの仕方を身につけさせる方がよい」という考え方について、「そう思う」が 63.1%と高く、『賛成派』は 94.3%で先に見た経済的自立よりも割合は高くなっている。

性別で見ると、女性の『賛成派』は 96.6%で男性 (91.9%) よりも 4.7 ポイント高く、そのうち積極的な「そう思う」は 69.7%と男性 (55.6%) を 14.1 ポイントも上回っている。

前回調査と比べると、『賛成派』『反対派』の割合に大きな変化はみられないが、女性の積極的な「そう思う」は 7.5 ポイント増と女性に積極的な賛成が増えている。

図表1-28 男の子も女の子も炊事、掃除、洗濯などの仕方を身につけさせる方がよいという考え方について [全体、年齢別、性別役割分担意識別]

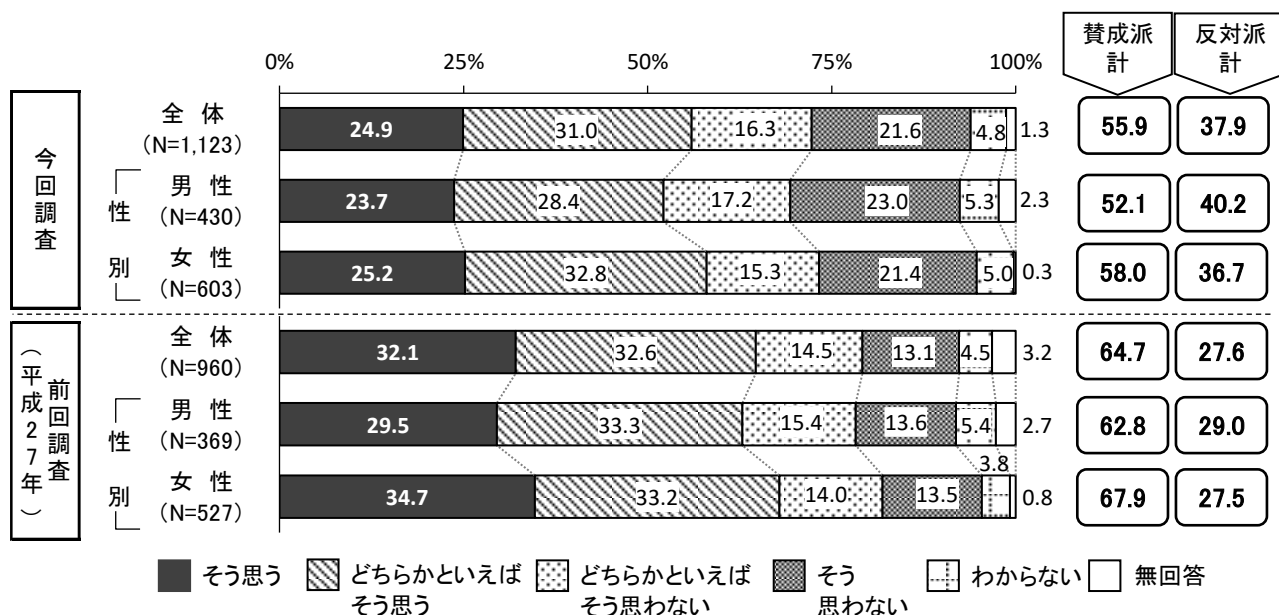
			そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答	賛 成 派 計	反 対 派 計
		標 本 数								(%)
全 体		1,123 100.0	709 63.1	350 31.2	26 2.3	17 1.5	9 0.8	12 1.1	1,059 94.3	43 3.8
年 齢 別	男性:18~29歳	38	73.7	26.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	男性:30~39歳	42	69.0	26.2	2.4	0.0	0.0	2.4	95.2	2.4
	男性:40~49歳	61	55.7	36.1	0.0	1.6	3.3	3.3	91.8	1.6
	男性:50~59歳	83	69.9	22.9	4.8	0.0	1.2	1.2	92.8	4.8
	男性:60~69歳	107	49.5	43.9	2.8	0.0	1.9	1.9	93.4	2.8
	男性:70歳以上	98	36.7	48.0	6.1	4.1	2.0	3.1	84.7	10.2
	女性:18~29歳	58	79.3	20.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	女性:30~39歳	82	74.4	20.7	4.9	0.0	0.0	0.0	95.1	4.9
	女性:40~49歳	116	76.7	22.4	0.0	0.9	0.0	0.0	99.1	0.9
	女性:50~59歳	114	67.5	28.9	0.9	2.6	0.0	0.0	96.4	3.5
	女性:60~69歳	140	62.9	33.6	1.4	2.1	0.0	0.0	96.5	3.5
	女性:70歳以上	92	63.0	29.3	2.2	3.3	1.1	1.1	92.3	5.5
無回答	92	56.5	34.8	3.3	2.2	1.1	2.2	91.3	5.5	
性 別 役 割 分 担 意 識 別	男性:そう思う	19	47.4	26.3	10.5	10.5	5.3	0.0	73.7	21.0
	男性:どちらかといえば そう思う	114	40.4	51.8	4.4	0.9	1.8	0.9	92.2	5.3
	男性:どちらかといえば そう思わない	96	44.8	45.8	6.3	1.0	1.0	1.0	90.6	7.3
	男性:そう思わない	180	74.4	23.9	0.6	0.6	0.0	0.6	98.3	1.2
	男性:わからない	13	53.8	23.1	0.0	0.0	23.1	0.0	76.9	0.0
	女性:そう思う	16	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	女性:どちらかといえば そう思う	150	55.3	39.3	4.0	1.3	0.0	0.0	94.6	5.3
	女性:どちらかといえば そう思わない	106	58.5	37.7	2.8	0.9	0.0	0.0	96.2	3.7
	女性:そう思わない	309	81.2	16.5	0.0	1.9	0.3	0.0	97.7	1.9
	女性:わからない	18	66.7	27.8	0.0	5.6	0.0	0.0	94.5	5.6
無回答	102	49.0	36.3	2.9	2.0	1.0	8.8	85.3	4.9	

年齢別でみると、女性は年齢が低い層で積極的な「そう思う」の割合が高い傾向がみられ、女性の18~29歳では79.3%と最も高い。男性も18~29歳では73.7%と男性の中では最も高く、30代と50代でも7割近くある。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担を容認しない人では積極的な「そう思う」の割合が7割台半ばから8割強と高いが、女性では標本数は少ないが容認する人でも積極的な「そう思う」の割合が75.0%と高い。

オ. 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方(ほう)がよい

図表1 - 29 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方(ほう)がよいという考え方について
[全体、性別] (前回調査比較)



「子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方(ほう)がよい」という考え方について、「どちらかといえばそう思う」が31.0%と最も高く、『賛成派』は55.9%となっている。『反対派』は37.9%である。

性別で見ると、男女とも『賛成派』の割合が『反対派』よりも高く、『賛成派』は女性(58.0%)の方が男性(52.1%)より5.9ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、男女とも『賛成派』の割合が10ポイント前後減少し、『反対派』が10ポイント前後高くなっている。

図表1-30 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方(ほう)がよいという考え方について
[全体、年齢別、性別役割分担意識別]

		標本数	そう思う	どちらかといえは	どちらかわからない	そう思わない	わからない	無回答	賛成派計	反対派計
全体		1,123 100.0	280 24.9	348 31.0	183 16.3	243 21.6	54 4.8	15 1.3	628 55.9	426 37.9
年齢別	男性:18~29歳	38	13.2	21.1	26.3	31.6	7.9	0.0	34.3	57.9
	男性:30~39歳	42	14.3	16.7	26.2	33.3	7.1	2.4	31.0	59.5
	男性:40~49歳	61	9.8	36.1	16.4	27.9	6.6	3.3	45.9	44.3
	男性:50~59歳	83	19.3	32.5	15.7	25.3	6.0	1.2	51.8	41.0
	男性:60~69歳	107	30.8	29.9	14.0	16.8	5.6	2.8	60.7	30.8
	男性:70歳以上	98	36.7	26.5	15.3	16.3	2.0	3.1	63.2	31.6
	女性:18~29歳	58	8.6	19.0	29.3	32.8	10.3	0.0	27.6	62.1
	女性:30~39歳	82	15.9	24.4	9.8	41.5	8.5	0.0	40.3	51.3
	女性:40~49歳	116	23.3	35.3	14.7	21.6	5.2	0.0	58.6	36.3
	女性:50~59歳	114	22.8	39.5	18.4	17.5	1.8	0.0	62.3	35.9
	女性:60~69歳	140	30.7	36.4	13.6	12.9	5.7	0.7	67.1	26.5
	女性:70歳以上	92	41.3	32.6	9.8	14.1	1.1	1.1	73.9	23.9
	無回答	92	28.3	30.4	19.6	17.4	1.1	3.3	58.7	37.0
性別役割分担意識別	男性:そう思う	19	63.2	21.1	5.3	5.3	5.3	0.0	84.3	10.6
	男性:どちらかといえは そう思う	114	35.1	43.0	10.5	8.8	1.8	0.9	78.1	19.3
	男性:どちらかといえは そう思わない	96	20.8	31.3	30.2	13.5	3.1	1.0	52.1	43.7
	男性:そう思わない	180	15.6	19.4	17.8	40.0	6.7	0.6	35.0	57.8
	男性:わからない	13	15.4	23.1	0.0	23.1	38.5	0.0	38.5	23.1
	女性:そう思う	16	62.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
	女性:どちらかといえは そう思う	150	40.0	41.3	10.7	6.7	1.3	0.0	81.3	17.4
	女性:どちらかといえは そう思わない	106	19.8	38.7	22.6	16.0	2.8	0.0	58.5	38.6
	女性:そう思わない	309	17.5	27.5	15.5	32.4	6.8	0.3	45.0	47.9
	女性:わからない	18	27.8	38.9	0.0	11.1	22.2	0.0	66.7	11.1
	無回答	102	27.5	29.4	16.7	14.7	1.0	10.8	56.9	31.4

年齢別でみると、男女とも年齢が高い層で『賛成派』の割合が高い傾向がみられ、特に女性の70歳以上では73.9%と最も高い。反対に年齢の低い層では『反対派』の割合が高い傾向がみられ、女性の18~29歳で62.1%と最も高くなっており、女性では年代による考え方の違いが大きい。また、女性の30代では積極的な「そう思わない」が41.5%と最も高い。

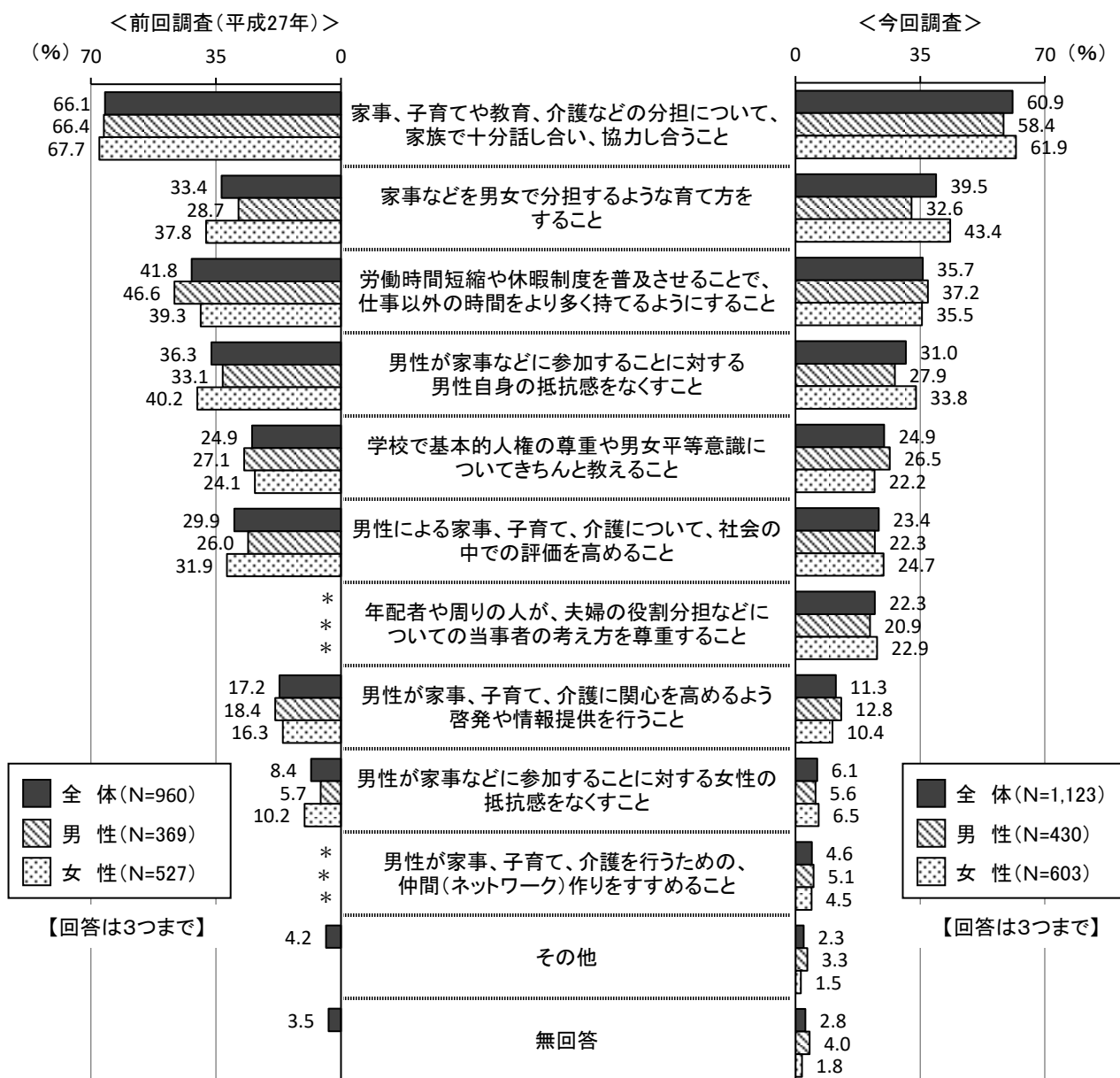
性別役割分担意識別でみると、男女とも容認する人では『賛成派』の割合が、容認しない人では『反対派』の割合が高い傾向がみられるが、女性では容認しない人でも『賛成派』は45.0%と『反対派』(47.9%)と同程度となっている。

4. 男女が共に家事、子育て、介護に参加するために必要なこと

問3 あなたは、男性が女性と共に家事、子育て、介護に積極的に参加していくためにどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。
(〇は3つ以内)

●男女が共に家事、子育て、介護に参加するために必要なことは「家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと」が約6割で第1位。

図表1 - 31 男女が共に家事、子育て、介護に参加するために必要なこと [全体、性別] (前回調査比較)



男性が女性と共に家事、子育て、介護に積極的に参加していくためにどのようなことが必要だと思うかたずねたところ、「家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと」が60.9%で最も高く、次いで「家事などを男女で分担するような育て方をすること」が39.5%、「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が35.7%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が31.0%などとなっている。

性別でみると、女性は「家事などを男女で分担するような育て方をすること」が 43.4%と男性 (32.6%) より 10.8 ポイント高く、また「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 33.8%で男性 (27.9%) より 5.9 ポイント高くなっている。その他の項目についてはあまり大きな差はみられない。

前回調査と比べると、今回2項目が新たに加わったためか、男女ともほとんどの項目で前回調査よりも割合が減少している。唯一「家事などを男女で分担するような育て方をすること」は男女とも約4～6ポイント増えている。

図表1-32 男女が共に家事、子育て、介護に参加するために必要なこと [全体、年齢別]

(%)

	標本数	男性が家事などの抵抗感をなくすことに対する男性が家事などの抵抗感をなくすこと	女性が家事などに参加することに対する女性が家事などに参加すること	家事、子育てや教育、介護などの協力し合うこと	家族で十分話し合い、協力すること	年配者や周りの人が、夫婦の役割を分担すること	男性による家事、子育て、介護について、社会の中で評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	男性が家事、子育て、介護を行うこと	男性が家事、子育て、介護を行うこと	家事などを男女で分担するような育て方をすること	学校で基本的な人権の尊重や男女平等意識についてきちんと教えること	その他	無回答
全体	1,123 100.0	348 31.0	69 6.1	684 60.9	250 22.3	263 23.4	401 35.7	127 11.3	52 4.6	444 39.5	280 24.9	26 2.3	32 2.8	
年齢別	男性:18～29歳	38	34.2	10.5	68.4	13.2	18.4	52.6	10.5	7.9	31.6	18.4	0.0	2.6
	男性:30～39歳	42	26.2	11.9	40.5	31.0	28.6	52.4	14.3	7.1	28.6	7.1	9.5	0.0
	男性:40～49歳	61	29.5	6.6	59.0	21.3	29.5	36.1	8.2	3.3	32.8	13.1	3.3	6.6
	男性:50～59歳	83	27.7	4.8	59.0	12.0	25.3	48.2	14.5	7.2	33.7	16.9	6.0	4.8
	男性:60～69歳	107	22.4	6.5	58.9	24.3	21.5	29.9	9.3	3.7	33.6	38.3	2.8	1.9
	男性:70歳以上	98	30.6	0.0	61.2	23.5	15.3	23.5	17.3	4.1	32.7	41.8	0.0	6.1
	女性:18～29歳	58	25.9	5.2	62.1	22.4	20.7	55.2	12.1	1.7	39.7	20.7	3.4	1.7
	女性:30～39歳	82	36.6	8.5	63.4	23.2	26.8	42.7	4.9	3.7	48.8	12.2	0.0	0.0
	女性:40～49歳	116	35.3	6.0	57.8	18.1	22.4	36.2	6.0	2.6	46.6	18.1	4.3	2.6
	女性:50～59歳	114	35.1	4.4	59.6	27.2	30.7	36.0	11.4	5.3	37.7	15.8	0.9	3.5
	女性:60～69歳	140	39.3	7.1	62.9	22.1	22.9	28.6	11.4	6.4	48.6	27.9	0.7	0.7
	女性:70歳以上	92	25.0	7.6	66.3	25.0	23.9	26.1	17.4	5.4	35.9	37.0	0.0	2.2
	無回答	92	27.2	6.5	66.3	23.9	19.6	30.4	10.9	3.3	46.7	34.8	3.3	4.3

年齢別でみると、「家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと」は男性の18～29歳で68.4%と最も高く、その他男性の70歳以上、女性の30代以下と60代以上でも6割台と高い。「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は男性の30代以下、女性の18～29歳で5割台と男女とも年齢が低い層で割合が高くなっている。「家事などを男女で分担するような育て方をすること」は女性の30代、40代、60代で4割台半ばから5割弱、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は女性の30代から60代で3割台半ばから4割弱と高い。「学校で基本的な人権の尊重や男女平等意識についてきちんと教えること」は男女とも70歳以上で4割前後と年齢の高い層での割合が高い。

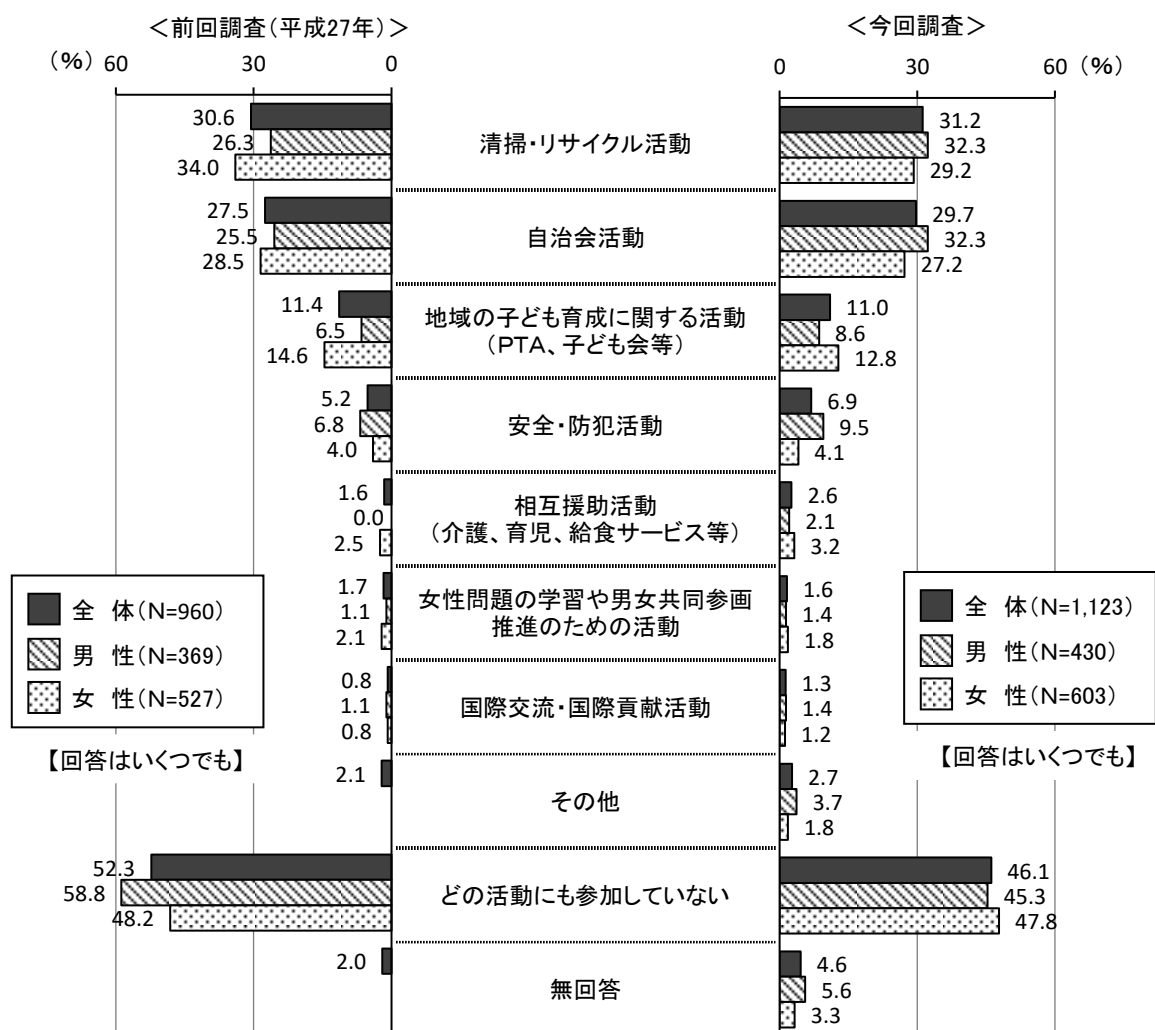
第2章 地域活動について

1. この1年間に参加したことがある地域活動

問4 あなたは、この1年間に何か地域活動に参加したことがありますか。参加したことがあるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

- この1年間の地域活動への参加状況は「どの活動にも参加していない」が4割台半ば。
- 活動内容は「清掃・リサイクル活動」「自治会活動」が3割前後で高く、男女とも70歳以上の参加が多い。

図表2-1 この1年間に参加したことがある地域活動 [全体、性別] (前回調査比較)



この1年間に参加したことがある地域活動について「どの活動にも参加していない」が46.1%と最も高い。参加している活動の中では「清掃・リサイクル活動」(31.2%)と「自治会活動」(29.7%)が3割前後で高い。

性別でみると、男性は「清掃・リサイクル活動」や「自治会活動」「安全・防犯活動」が女性よりも約3～5ポイント高く、女性は「地域の子ども育成に関する活動 (PTA、子ども会等)」が4.2ポイント高い。

前回調査と比べると、「どの活動にも参加していない」が男性で13.5ポイント減少し、「清掃・リサイクル活動」や「自治会活動」が6.0～6.8ポイント高くなっている。

図表2-2 この1年間に参加したことがある地域活動〔全体、年齢別〕

		(%)										
		標本数	地域の子ども育成に関する活動（PTA、子ども会等）	自治会活動	清掃・リサイクル活動	安全・防犯活動	相互援助活動（介護、育児、給食サービス等）	国際交流・国際貢献活動	女性問題の学習や男女共同参画推進のための活動	その他	どの活動にも参加していない	無回答
全体		1,123 100.0	123 11.0	333 29.7	350 31.2	77 6.9	29 2.6	15 1.3	18 1.6	30 2.7	518 46.1	52 4.6
年齢別	男性:18～29歳	38	7.9	5.3	21.1	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	68.4	5.3
	男性:30～39歳	42	11.9	16.7	19.0	9.5	2.4	0.0	0.0	2.4	54.8	4.8
	男性:40～49歳	61	9.8	19.7	16.4	13.1	1.6	1.6	1.6	4.9	55.7	6.6
	男性:50～59歳	83	10.8	38.6	32.5	7.2	2.4	1.2	1.2	3.6	39.8	7.2
	男性:60～69歳	107	4.7	37.4	31.8	5.6	1.9	1.9	0.9	2.8	42.1	6.5
	男性:70歳以上	98	9.2	45.9	52.0	15.3	3.1	2.0	3.1	6.1	34.7	3.1
	女性:18～29歳	58	8.6	5.2	12.1	0.0	1.7	1.7	1.7	1.7	72.4	1.7
	女性:30～39歳	82	17.1	17.1	13.4	4.9	3.7	1.2	0.0	1.2	61.0	0.0
	女性:40～49歳	116	26.7	27.6	22.4	1.7	2.6	1.7	0.0	0.0	42.2	5.2
	女性:50～59歳	114	9.6	27.2	27.2	5.3	2.6	0.0	0.9	3.5	48.2	5.3
	女性:60～69歳	140	3.6	34.3	36.4	2.9	2.9	0.0	3.6	2.9	41.4	2.9
	女性:70歳以上	92	12.0	39.1	54.3	9.8	5.4	3.3	4.3	1.1	35.9	3.3
無回答		92	9.8	33.7	39.1	13.0	1.1	2.2	1.1	3.3	39.1	8.7

年齢別でみると、「どの活動にも参加していない」は男女とも年齢が低い層で割合が高く、18～29歳では7割前後が地域の活動に参加していない。「清掃・リサイクル活動」は男女の70歳以上で5割を超え、「自治会活動」は70歳以上で約4割から4割台半ばと高いなど、年齢が高い層で割合が高くなっている。「安全・防犯活動」は男性の70歳以上で1割を超えて高いが、40代でも1割を超えている。「地域の子ども育成に関する活動（PTA、子ども会等）」は女性の40代で26.7%、30代が17.1%と子どもをもつ世代の女性で高くなっている。

2. 女性が地域の役職につくことについて

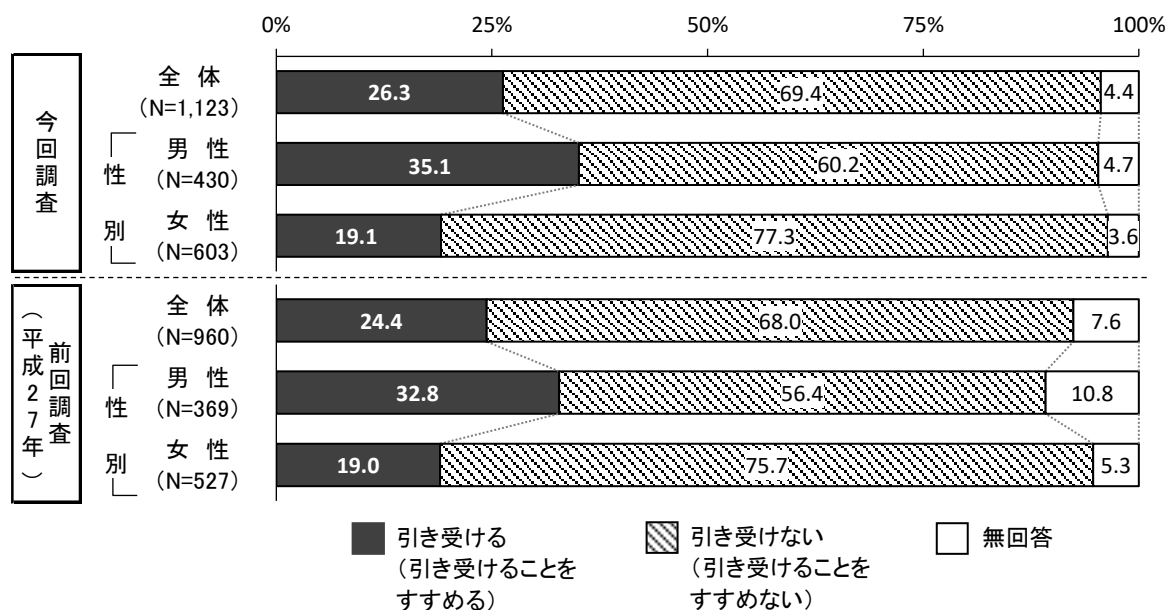
(1) 女性が地域の役職に推薦された場合の対処

問5 自治会長やPTA会長などの地域の役職についてうかがいます。

女性の方は、もし、あなた自身が推薦されたら引き受けますか。男性の方は、妻などの身近な女性が推薦されたとしたら引き受けることをすすめますか。(〇は1つ)

●地域の役職につくことについて、女性は「引き受けない」が8割弱で男性（約6割）よりも抵抗感が強い。

図表2-3 女性が地域の役職に推薦された場合の対処 [全体、性別] (前回調査比較)



女性が自治会長やPTA会長などの地域の役職に推薦された場合に引き受けるかどうかをたずねたところ、「引き受ける (引き受けることをすすめる)」は26.3%、「引き受けない (引き受けることをすすめない)」が69.4%となっている。

性別で見ると、男性は「引き受けることをすすめる」が35.1%と女性の「引き受ける」(19.1%)を16ポイント上回っている。女性は「引き受けない」が77.3%と男性(60.2%)を17.1ポイント上回り、地域の役職につくことに対する抵抗感が強い。

前回調査と比べてもあまり大きな差はみられない。

図表2 - 4 女性が地域の役職に推薦された場合の対処 [全体、年齢別、性別役割分担意識別]

			(%)		
		標本数	を(引き受けることをすすめる)	を(引き受けないことをすすめない)	無回答
全 体		1,123 100.0	295 26.3	779 69.4	49 4.4
年 齢 別	男性:18~29歳	38	39.5	52.6	7.9
	男性:30~39歳	42	28.6	71.4	0.0
	男性:40~49歳	61	23.0	75.4	1.6
	男性:50~59歳	83	36.1	57.8	6.0
	男性:60~69歳	107	39.3	57.9	2.8
	男性:70歳以上	98	37.8	54.1	8.2
	女性:18~29歳	58	22.4	75.9	1.7
	女性:30~39歳	82	15.9	82.9	1.2
	女性:40~49歳	116	17.2	79.3	3.4
	女性:50~59歳	114	14.0	79.8	6.1
	女性:60~69歳	140	22.1	75.0	2.9
	女性:70歳以上	92	23.9	70.7	5.4
	無回答	92	32.6	59.8	7.6
性 別 役 割 分 担 意 識 別	男性:そう思う	19	42.1	42.1	15.8
	男性:どちらかといえばそう思う	114	29.8	67.5	2.6
	男性:どちらかといえばそう思わない	96	40.6	54.2	5.2
	男性:そう思わない	180	37.2	58.3	4.4
	男性:わからない	13	15.4	84.6	0.0
	女性:そう思う	16	6.3	93.8	0.0
	女性:どちらかといえばそう思う	150	19.3	78.7	2.0
	女性:どちらかといえばそう思わない	106	15.1	75.5	9.4
	女性:そう思わない	309	21.4	76.1	2.6
	女性:わからない	18	16.7	83.3	0.0
	無回答	102	29.4	61.8	8.8

年齢別でみると、女性の18~29歳、60代以上で「引き受ける」が2割強と女性の中では高いが、30代から50代では「引き受ける」は1割台半ばと低く、「引き受けない」が8割前後で高い。男性の30代と40代でも「引き受けることをすすめる」が2割台と男性の他の年代に比べて低く、「引き受けることをすすめない」は7割台となっている。

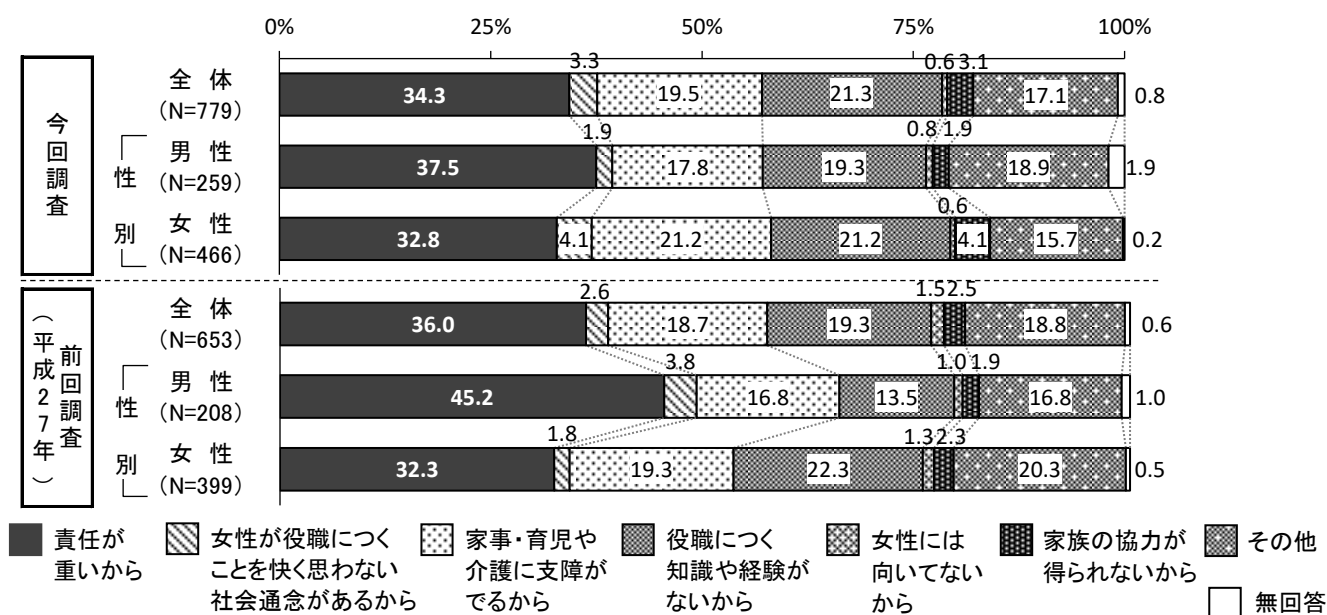
性別役割分担意識別でみると、男女ともそう思わない人で「引き受ける（引き受けることをすすめる）」の割合が高い。

(2) 地域の役職を断る理由

問5-1【問5で「2. 引き受けない(引き受けることをすすめない)」を選ばれた方に】
その理由は何ですか。最も近いものを選び、番号に○をつけてください。(○は1つ)

●女性が地域の役職につくことを断る理由は「責任が重いから」が3割台半ば、「役職につく知識や経験がないから」「家事・育児や介護に支障がでるから」が2割前後。

図表2-5 地域の役職を断る理由 [全体、性別] (前回調査比較)



女性が地域の役職につくことを「引き受けない(引き受けることをすすめない)」と回答した人にその理由をたずねた。「責任が重いから」が34.3%で最も高く、次いで「役職につく知識や経験がないから」が21.3%、「家事・育児や介護に支障がでるから」が19.5%となっている。「その他」が17.1%となっているが、その内容は「高齢だから」「病気だから」などが多かった。

性別で見ると、男性は「責任が重いから」が4.7ポイント女性よりも高く、女性は「家事・育児や介護に支障がでるから」「家族の協力が得られないから」「女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから」などの割合が男性よりもやや高くなっている。

前回調査と比べると、女性はあまり大きな変化はみられない。男性は「責任が重いから」が7.7ポイント減少し、「役職につく知識や経験がないから」が5.8ポイント増加している。

図表2-6 地域の役職を断る理由〔全体、年齢別〕

(%)

	標本数	責任が重いから	会と女性 通念が快が ある思わな からいく社	支家事 障がで 育児や 介護に	験役 職につ くから 知識や 経	から女 性には 向いて ない	ない家 族の協 力が得 られ	その他	無回答	
全体	779 100.0	267 34.3	26 3.3	152 19.5	166 21.3	5 0.6	24 3.1	133 17.1	6 0.8	
年齢別	男性:18～29歳	20	45.0	0.0	20.0	5.0	0.0	0.0	30.0	0.0
	男性:30～39歳	30	33.3	3.3	26.7	13.3	0.0	3.3	20.0	0.0
	男性:40～49歳	46	32.6	2.2	13.0	10.9	2.2	2.2	30.4	6.5
	男性:50～59歳	48	54.2	4.2	10.4	12.5	0.0	4.2	12.5	2.1
	男性:60～69歳	62	33.9	1.6	19.4	29.0	1.6	0.0	14.5	0.0
	男性:70歳以上	53	30.2	0.0	20.8	30.2	0.0	1.9	15.1	1.9
	女性:18～29歳	44	38.6	0.0	20.5	31.8	0.0	0.0	9.1	0.0
	女性:30～39歳	68	29.4	4.4	29.4	13.2	0.0	4.4	19.1	0.0
	女性:40～49歳	92	29.3	3.3	37.0	16.3	0.0	2.2	12.0	0.0
	女性:50～59歳	91	30.8	2.2	22.0	17.6	0.0	5.5	20.9	1.1
	女性:60～69歳	105	40.0	4.8	8.6	25.7	1.0	6.7	13.3	0.0
	女性:70歳以上	65	29.2	9.2	10.8	27.7	3.1	3.1	16.9	0.0
無回答	55	30.9	3.6	12.7	30.9	0.0	0.0	21.8	0.0	

年齢別でみると、「引き受けない」の割合が高かった女性の30代では「責任が重いから」と「家事・育児や介護に支障がでるから」が同率の29.4%、40代では「家事・育児や介護に支障がでるから」が37.0%と高く、家庭との両立を理由にあげる割合が高い。女性の18～29歳と60代では「責任が重いから」が4割前後、また18～29歳では「役職につく知識や経験がないから」が31.8%と高い。

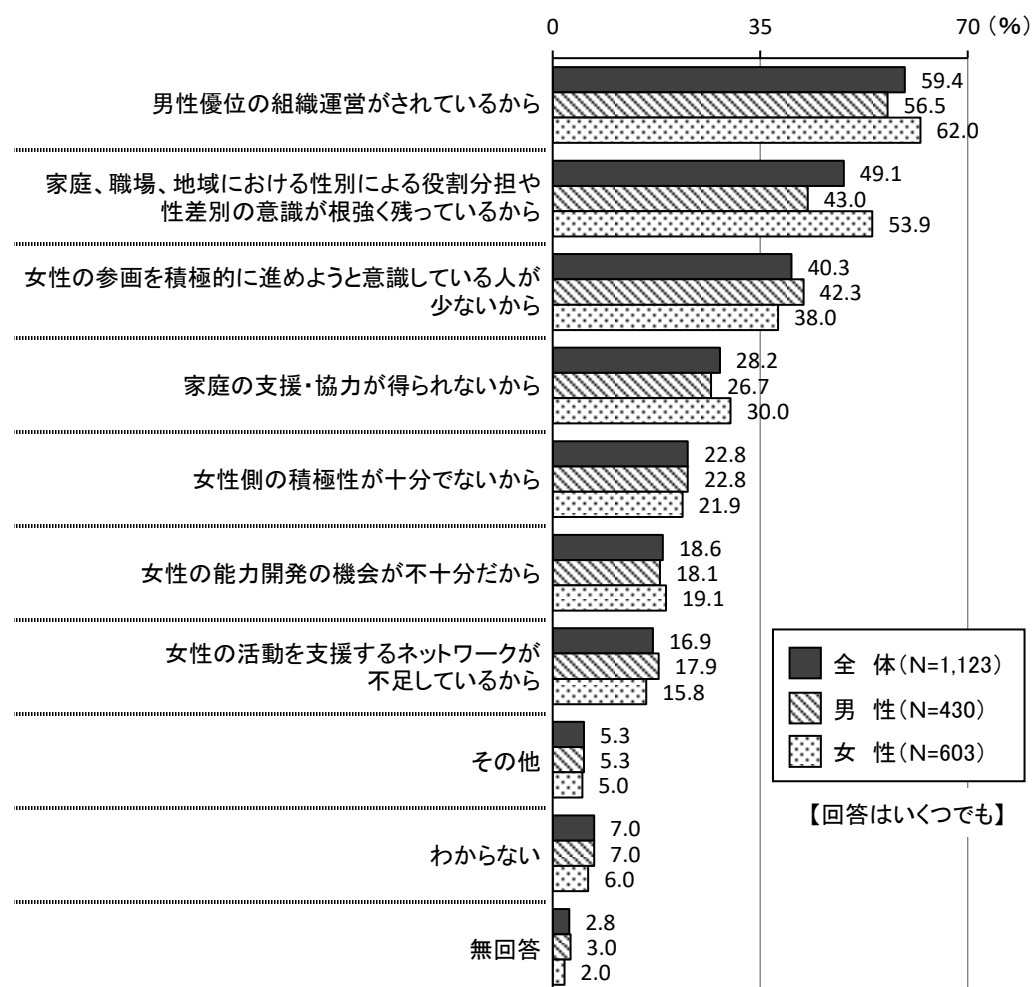
3. 政策の企画・方針決定の過程に女性の参画が少ない理由

問6 多様性に富んだ活力ある社会の実現のためには、社会における女性の参画が重要であるとして、国においても、「2020年までに、あらゆる分野で指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度」とする目標を掲げて取組を進めてきましたが達成できていません。

あなたは、政治や行政の場において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由（目標を達成できていない理由）は何だと思えますか。（〇はいくつでも）

●政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は「男性優位の組織運営がされているから」が約6割、次いで「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識が根強く残っているから」が約5割。いずれも女性の割合の方が男性よりも高い。

図表2 - 7 政策の企画・方針決定の過程に女性の参画が少ない理由 [全体、性別]



政治や行政の場において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由をたずねたところ、「男性優位の組織運営がされているから」が59.4%と最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識が根強く残っているから」が49.1%、「女性の参画を積極的に進めようとしている人が少ないから」が40.3%であげられている。

性別でみると、男性は「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ないから」（男性42.3%、女性38.0%）が4.3ポイント女性よりも高く、女性は「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識が根強く残っているから」（同43.0%、53.9%）が10.9ポイント、「男性優位の組織運営がされているから」（同56.5%、62.0%）が5.5ポイント、「家庭の支援・協力が得られないから」（同26.7%、30.0%）が3.3ポイント男性よりも高くなっている。

図表2 - 8 政策の企画・方針決定の過程に女性の参画が少ない理由 [全体、年齢別]

		(%)										
		標本数	がに家庭、 根よる、 強く役職、 残割場、 つて分、 いる担地 るや域に か性お のけ の性 意識別	る男 性 優 位 の 組 織 運 営 が さ れ て い	か家 庭 の 支 援 ・ 協 力 が 得 ら れ な い	だ女 性 の 能 力 開 発 の 機 会 が 不 十 分	ワ女 性 の 活 動 を 支 援 す る ネ ッ ト	ら女 性 側 の 積 極 性 が 十 分 で な い か	と女 性 の 参 画 を 積 極 的 に 進 め よ う	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		1,123 100.0	551 49.1	667 59.4	317 28.2	209 18.6	190 16.9	256 22.8	453 40.3	60 5.3	79 7.0	32 2.8
年 齢 別	男性:18～29歳	38	42.1	50.0	26.3	10.5	5.3	10.5	31.6	5.3	10.5	2.6
	男性:30～39歳	42	50.0	66.7	31.0	7.1	16.7	11.9	28.6	9.5	7.1	0.0
	男性:40～49歳	61	27.9	45.9	29.5	9.8	6.6	21.3	37.7	11.5	11.5	1.6
	男性:50～59歳	83	50.6	57.8	32.5	18.1	14.5	24.1	45.8	2.4	6.0	2.4
	男性:60～69歳	107	46.7	61.7	21.5	23.4	27.1	31.8	52.3	2.8	2.8	0.9
	男性:70歳以上	98	38.8	54.1	23.5	25.5	22.4	21.4	40.8	4.1	8.2	8.2
	女性:18～29歳	58	62.1	58.6	24.1	19.0	22.4	8.6	32.8	6.9	3.4	1.7
	女性:30～39歳	82	59.8	63.4	34.1	13.4	19.5	13.4	34.1	11.0	2.4	0.0
	女性:40～49歳	116	56.9	65.5	33.6	10.3	10.3	18.1	37.9	3.4	6.9	3.4
	女性:50～59歳	114	60.5	64.9	30.7	21.1	14.0	22.8	30.7	3.5	6.1	2.6
	女性:60～69歳	140	48.6	62.9	31.4	28.6	13.6	27.9	45.0	4.3	5.0	1.4
	女性:70歳以上	92	40.2	54.3	22.8	18.5	20.7	32.6	43.5	3.3	9.8	2.2
無回答	92	45.7	55.4	23.9	17.4	20.7	29.3	46.7	8.7	15.2	7.6	

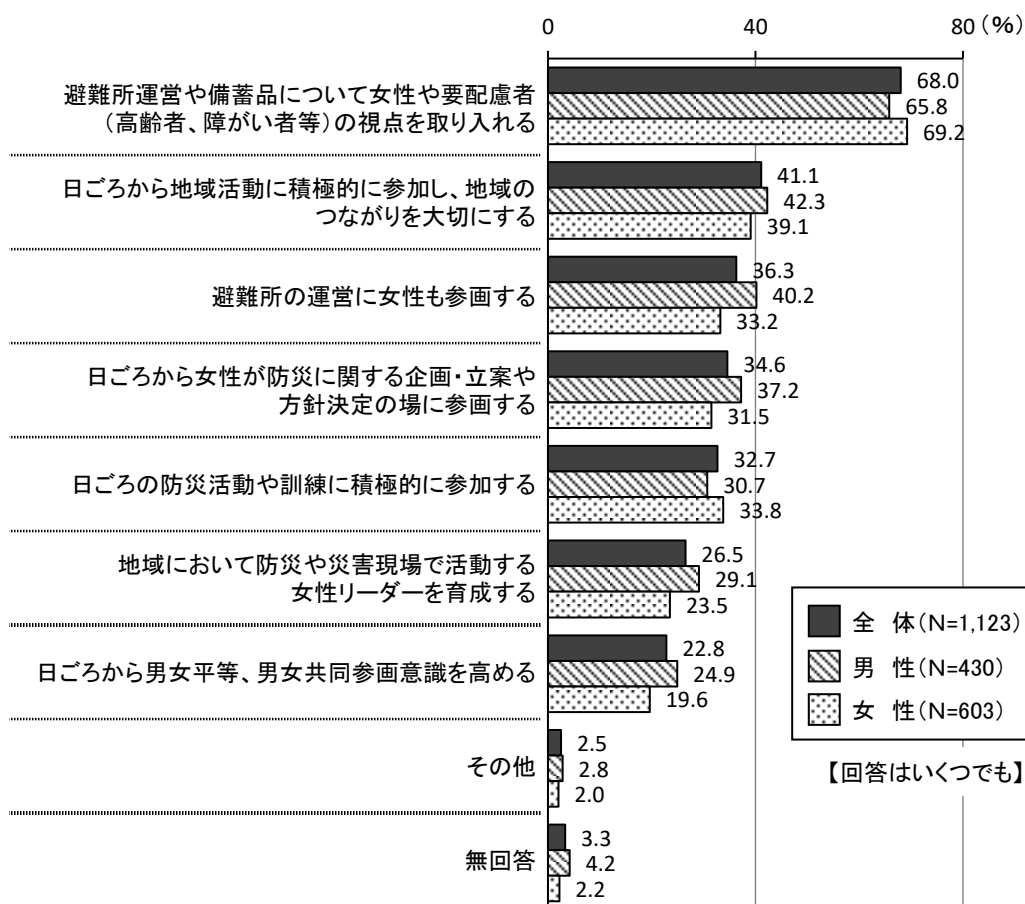
年齢別でみると、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識が根強く残っているから」は女性の30代以下と50代で6割前後と高く、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ないから」は男性の60代で52.3%、「家庭の支援・協力が得られないから」は女性の30代と40代で3割台半ばと高い。「女性側の積極性が十分でないから」は男女とも年齢が高い層で割合が高くなっている。

4. 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点

問7 近年の大規模災害における経験から、日ごろの防災や災害発生後の対応に女性の視点を取り入れることが重要だと言われています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

●災害に備えるために必要な男女共同参画の視点は、「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者等）の視点を取り入れる」が7割弱で最も高い。

図表2 - 9 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 [全体、性別]



災害に備えるために必要な男女共同参画の視点は、「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者等）の視点を取り入れる」が68.0%で最も高い。次いで「日ごろから地域活動に積極的に参加し、地域のつながりを大切にする」が41.1%、「避難所の運営に女性も参画する」が36.3%、「日ごろから女性が防災に関する企画・立案や方針決定の場に参画する」が34.6%、「日ごろの防災活動や訓練に積極的に参加する」が32.7%であげられている。

性別でみると、女性は「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者等）の視点を取り入れる」（男性65.8%、女性69.2%）や「日ごろの防災活動や訓練に積極的に参加する」（同30.7%、33.8%）などが男性よりもやや高く、「避難所の運営に女性も参画する」（同40.2%、33.2%）や「日ごろから女性が防災に関する企画・立案や方針決定の場に参画する」（37.2%、31.5%）などその他の項目は男性の割合の方が女性よりも高い。

図表2-10 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 [全体、年齢別]

		標本数	画企日 する画 ・ご 立案 や方 針決 定の 場 に 参 画 す る	に参日 する加 ・ご 地 域 の つ な が り を 大 切 に す る	参日 画ご 意 識 を 高 め る	的日 に 参 加 す る	避 難 所 の 運 営 に 女 性 も 参 画 す る	る地 域 に お い て 防 災 や 災 害 現 場 で 活 動 す る 女 性 リ ー ダ ー を 育 成 す る	性避 等難 の所 配運 慮營 者や （高 齢者 ）を 取 り 入 れ る 障 が い 者 等	そ の 他	無 回 答
全 体		1,123 100.0	388 34.6	461 41.1	256 22.8	367 32.7	408 36.3	298 26.5	764 68.0	28 2.5	37 3.3
年 齢 別	男性:18～29歳	38	28.9	39.5	36.8	34.2	23.7	28.9	57.9	2.6	0.0
	男性:30～39歳	42	31.0	35.7	9.5	23.8	45.2	26.2	69.0	7.1	4.8
	男性:40～49歳	61	31.1	29.5	18.0	23.0	36.1	24.6	62.3	1.6	6.6
	男性:50～59歳	83	47.0	39.8	26.5	26.5	38.6	33.7	66.3	1.2	7.2
	男性:60～69歳	107	35.5	44.9	26.2	33.6	47.7	36.4	70.1	2.8	2.8
	男性:70歳以上	98	39.8	54.1	27.6	37.8	39.8	21.4	64.3	3.1	3.1
	女性:18～29歳	58	34.5	29.3	27.6	37.9	37.9	20.7	75.9	1.7	0.0
	女性:30～39歳	82	35.4	30.5	11.0	31.7	28.0	19.5	74.4	3.7	0.0
	女性:40～49歳	116	34.5	33.6	19.0	25.9	21.6	20.7	68.1	2.6	2.6
	女性:50～59歳	114	29.8	30.7	19.3	23.7	36.8	25.4	70.2	1.8	0.0
	女性:60～69歳	140	29.3	47.9	22.1	44.3	36.4	27.1	68.6	0.7	2.9
	女性:70歳以上	92	28.3	56.5	19.6	40.2	40.2	25.0	62.0	2.2	6.5
無回答		92	42.4	47.8	34.8	33.7	39.1	33.7	70.7	4.3	6.5

年齢別でみると、「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者等）の視点を取り入れる」は女性の30代以下で7割台半ばと年齢が低い層で割合が高い。「日ごろから地域活動に積極的に参加し、地域のつながりを大切にする」は男女とも60代以上、「日ごろの防災活動や訓練に積極的に参加する」は女性の60代以上の年齢が高い層で割合が高い。「避難所の運営に女性も参画する」は男性の30代と60代で4割台半ば、「日ごろから女性が防災に関する企画・立案や方針決定の場に参画する」は男性の50代で47.0%と他の年代に比べて高くなっている。

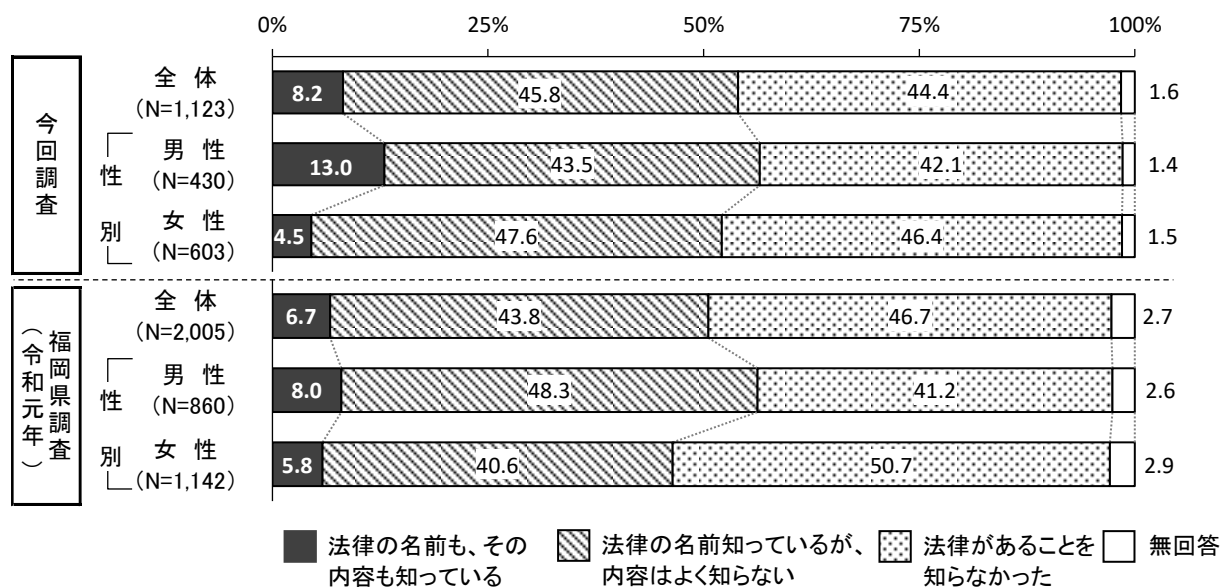
第3章 政治分野における男女共同参画について

1. 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知

問8 あなたは、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」について、知っていますか。(〇は1つ)

- 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」について、「法律の名前は知っている」と「法律があることを知らなかった」が4割台半ばで同程度。
- 「法律の名前も内容も知っている」は1割に満たない。
- 男性の方が女性よりも法律の認知は高く、年齢が高い層で「法律の名前も内容も知っている」の割合が高い。女性は18～29歳で約1割と高い。

図表3-1 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知
[全体、性別] (福岡県調査比較)



資料：令和元年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果

「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知について、「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」が45.8%、「法律があることを知らなかった」は44.4%と認知は高くはない。「法律の名前も、その内容も知っている」は8.2%と1割に満たない。

性別で見ると、「法律の名前も、その内容も知っている」は男性が13.0%で女性(4.5%)を8.5ポイント上回っている。「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」(男性43.5%、女性47.6%)は女性が4.1ポイント上回り、また「法律があることを知らなかった」(同42.1%、46.4%)も女性の方が4.3ポイント上回っており、認知は男性の方が高い。

福岡県調査と比べると、男性の「法律の名前も、その内容も知っている」は今回調査の方が5.0ポイント高く、女性は「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」が今回調査の方が7.0ポイント高くなっている。

図表3-2 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知〔全体、年齢別〕

(%)

	標本数	てそ法の いの律 る内 容の 名前 も前 も知 もつ、	な内知法 い容っ律 はての よい名 くる前 知らが は、	を法 知律 ら が な か る こ と	無 回 答	
全 体	1,123 100.0	92 8.2	514 45.8	499 44.4	18 1.6	
年 齢 別	男性:18～29歳	38	5.3	47.4	47.4	0.0
	男性:30～39歳	42	9.5	26.2	64.3	0.0
	男性:40～49歳	61	13.1	39.3	47.5	0.0
	男性:50～59歳	83	15.7	42.2	38.6	3.6
	男性:60～69歳	107	14.0	48.6	36.4	0.9
	男性:70歳以上	98	14.3	48.0	35.7	2.0
	女性:18～29歳	58	10.3	46.6	43.1	0.0
	女性:30～39歳	82	2.4	43.9	53.7	0.0
	女性:40～49歳	116	1.7	50.0	47.4	0.9
	女性:50～59歳	114	4.4	46.5	48.2	0.9
	女性:60～69歳	140	5.7	42.9	48.6	2.9
	女性:70歳以上	92	4.3	56.5	35.9	3.3
	無回答	92	9.8	44.6	42.4	3.3

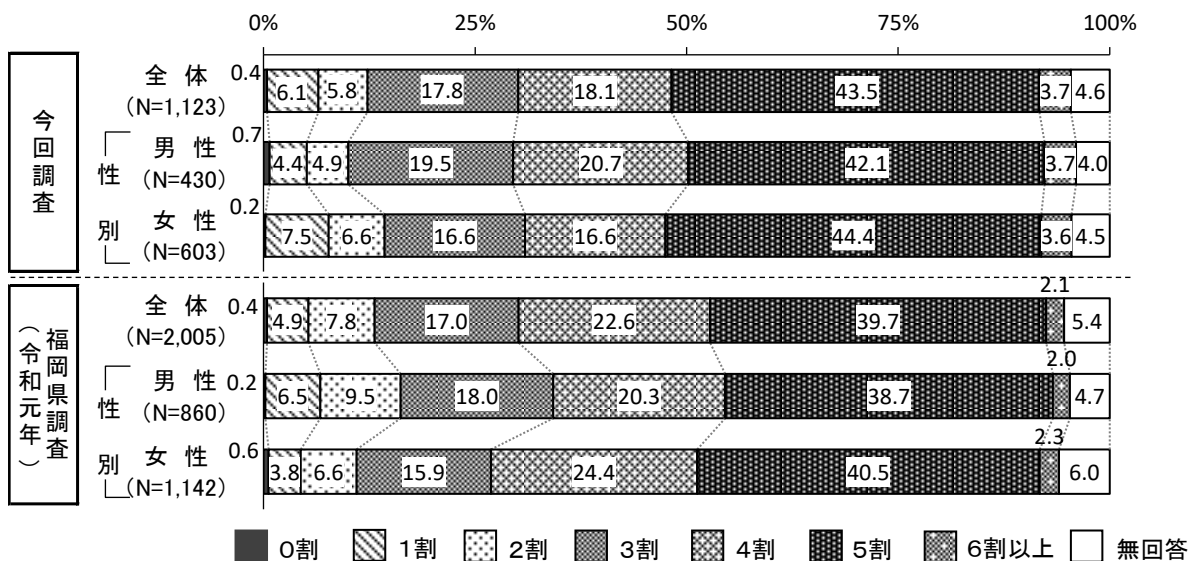
年齢別でみると「法律の名前も、その内容も知っている」は男性の50代が15.7%と最も高く、年齢が高い層で割合が高い傾向がみられる。他方、女性は18～29歳で10.3%と女性の中で最も高くなっている。「法律があることを知らなかった」は男女とも30代で5割強から6割台半ばと高い。

2. 地方議会における女性議員の理想的な割合

問9 あなたは、地方議会（市町村議会）における女性議員の割合は何割程度が理想だと考えますか。下の枠内に0から10までの整数をご記入ください。

- 地方議会における女性議員の理想的な割合は「5割」が4割強で最も高い。
- 男女とも「5割」が同程度の割合で、福岡県調査よりも約3～4ポイント高い。

図表3-3 地方議会における女性議員の理想的な割合〔全体、性別〕（福岡県調査比較）



資料：令和元年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果

地方議会における女性議員の理想的な割合をたずねた。「5割」が43.5%と最も高く、次いで「4割」が18.1%、「3割」が17.8%と男女半々が理想との回答が最も多かった。

性別で見ると、「5割」は女性の方がやや高いが4割強と男女同程度となっている。男性は「3割」「4割」の割合が女性よりもやや高く、女性は「1割」「2割」の割合が男性よりもやや高い。

福岡県調査と比べると、「5割」は今回調査の方が男女とも割合が約3～4ポイント高く、『5割以上』では約5ポイント高くなっている。

図表3-3 地方議会における女性議員の理想的な割合 [全体、年齢別、性別役割分担意識別]

			(%)							
		標本数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割以上	無回答
全体		1,123 100.0	4 0.4	69 6.1	65 5.8	200 17.8	203 18.1	488 43.5	42 3.7	52 4.6
年齢別	男性:18～29歳	38	0.0	0.0	0.0	15.8	26.3	50.0	5.3	2.6
	男性:30～39歳	42	0.0	2.4	7.1	16.7	19.0	50.0	2.4	2.4
	男性:40～49歳	61	0.0	8.2	3.3	16.4	23.0	31.1	6.6	11.5
	男性:50～59歳	83	1.2	7.2	6.0	15.7	13.3	45.8	4.8	6.0
	男性:60～69歳	107	0.9	3.7	5.6	19.6	19.6	47.7	1.9	0.9
	男性:70歳以上	98	1.0	3.1	5.1	27.6	25.5	32.7	3.1	2.0
	女性:18～29歳	58	0.0	5.2	5.2	6.9	24.1	50.0	6.9	1.7
	女性:30～39歳	82	0.0	12.2	6.1	11.0	14.6	48.8	6.1	1.2
	女性:40～49歳	116	0.0	8.6	4.3	17.2	6.9	54.3	4.3	4.3
	女性:50～59歳	114	0.9	6.1	8.8	16.7	21.1	41.2	2.6	2.6
	女性:60～69歳	140	0.0	6.4	10.7	17.1	20.7	41.4	0.0	3.6
	女性:70歳以上	92	0.0	6.5	2.2	25.0	14.1	33.7	5.4	13.0
	無回答	92	0.0	5.4	4.3	18.5	15.2	43.5	4.3	8.7
性別役割分担意識別	男性:そう思う	19	0.0	10.5	5.3	26.3	10.5	31.6	10.5	5.3
	男性:どちらかといえば そう思う	114	0.9	7.0	5.3	28.9	23.7	31.6	2.6	0.0
	男性:どちらかといえば そう思わない	96	0.0	1.0	3.1	18.8	29.2	39.6	5.2	3.1
	男性:そう思わない	180	0.6	4.4	4.4	13.9	15.6	53.3	3.3	4.4
	男性:わからない	13	0.0	0.0	15.4	15.4	7.7	30.8	0.0	30.8
	女性:そう思う	16	0.0	18.8	0.0	6.3	12.5	37.5	18.8	6.3
	女性:どちらかといえば そう思う	150	0.0	10.0	12.0	18.7	16.0	35.3	3.3	4.7
	女性:どちらかといえば そう思わない	106	0.0	3.8	9.4	17.0	17.9	44.3	0.0	7.5
	女性:そう思わない	309	0.0	7.1	3.6	15.2	16.8	51.1	3.9	2.3
	女性:わからない	18	5.6	5.6	5.6	27.8	11.1	22.2	11.1	11.1
	無回答	102	1.0	4.9	4.9	17.6	17.6	39.2	3.9	10.8

年齢別でみると、「5割」と回答した人は女性の40代で54.3%と最も高く、男女とも年齢が低い層で割合が高い傾向がみられる。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担を容認しない人の理想的な割合は「5割」が5割を超えて高い。

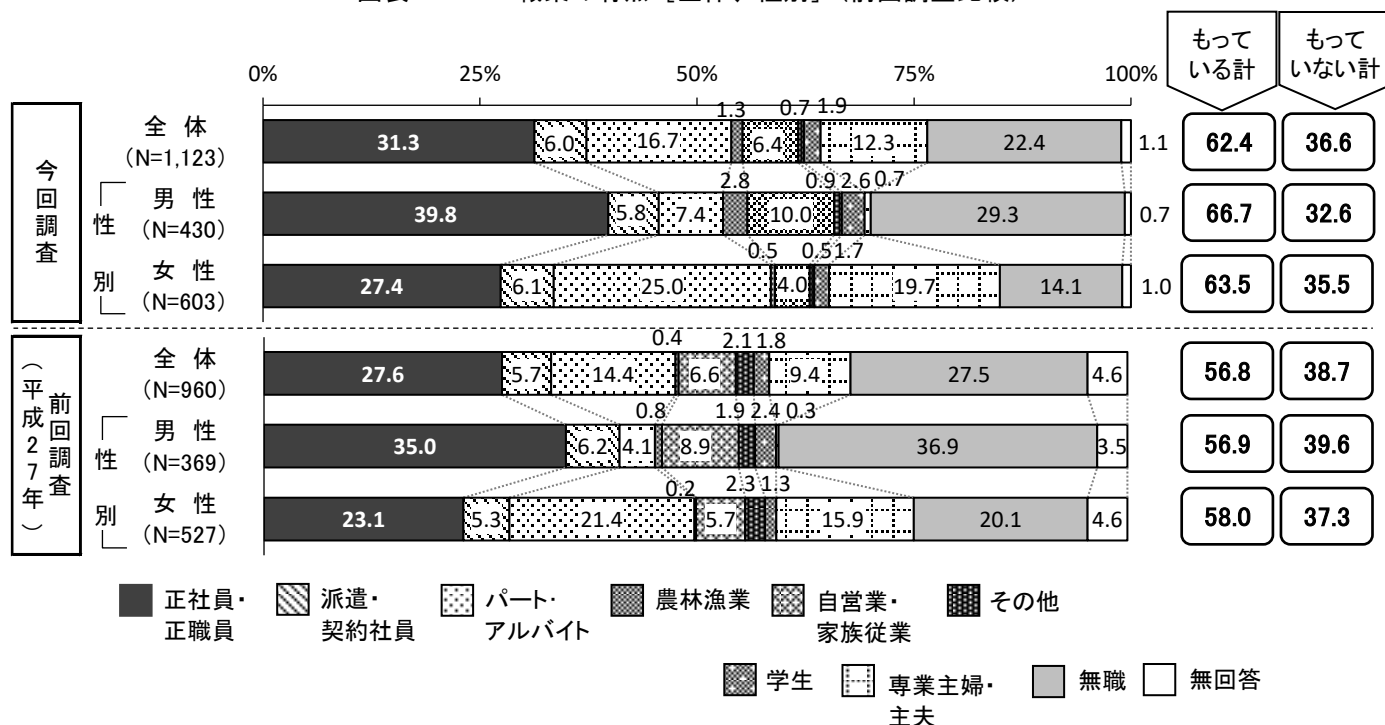
第4章 就労について

1. 職業の有無

問10 あなたは現在、職業（収入のある仕事）を持っていますか（育児休業中、介護休業中などの人も働いているものとみなします）。（〇は1つ）

- 現在、職業を持っている人は62.4%、持っていない人は36.6%。
- 男女とも職業を持っている人は前回調査よりも約6～10ポイント増加。
- 雇用者の場合、女性は正規より非正規で働いている人の方がやや多い。

図表4-1 職業の有無〔全体、性別〕（前回調査比較）



現在の職業について、「正社員・正職員」が31.3%、「パート・アルバイト」が16.7%、「自営業・家族従業」が6.4%、「派遣・契約社員」が6.0%などとなっており、職業を持っている人は62.4%である。他方、「学生」(1.9%)、「専業主婦・主夫」(12.3%)、「無職」(22.4%)をあわせた職業を持っていない人は36.6%である。

性別で見ると、職業を持っている人は男性が66.7%、女性が63.5%で男性の方がやや多い。その内訳は、雇用者の場合、男性は「正社員・正職員」が39.8%と最も多く、「パート・アルバイト」は7.4%で正規での働き方の人が多い。女性は「正社員・正職員」が27.4%、「パート・アルバイト」が25.0%、「派遣・契約社員」が6.1%と非正規で働いている人の方がやや多い。職業を持っていない人は男性32.6%、女性は35.5%となっている。

前回調査と比べると、男女とも職業を持っている人は約6～10ポイント増えており、「正社員・正職員」は約4～5ポイント、「パート・アルバイト」は約3～4ポイント増えている。

図表4-2 職業の有無 [全体、年齢別、配偶関係別]

(%)

		標本数	正社員・ 正職員	派遣・ 契約社員	パート・ アルバイト	農林漁業	家族 従業・ 自営業	その他	学生	専業主婦・ 主夫	無職	無回答
全体		1,123 100.0	351 31.3	67 6.0	188 16.7	15 1.3	72 6.4	8 0.7	21 1.9	138 12.3	251 22.4	12 1.1
年齢別	男性:18~29歳	38	63.2	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	28.9	0.0	5.3	0.0
	男性:30~39歳	42	59.5	4.8	9.5	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	11.9	0.0
	男性:40~49歳	61	65.6	4.9	3.3	1.6	9.8	1.6	0.0	0.0	13.1	0.0
	男性:50~59歳	83	67.5	7.2	4.8	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	12.0	2.4
	男性:60~69歳	107	21.5	12.1	14.0	2.8	11.2	1.9	0.0	0.9	35.5	0.0
	男性:70歳以上	98	2.0	1.0	6.1	8.2	14.3	1.0	0.0	2.0	64.3	1.0
	女性:18~29歳	58	43.1	10.3	20.7	0.0	0.0	0.0	17.2	6.9	1.7	0.0
	女性:30~39歳	82	46.3	6.1	26.8	1.2	2.4	1.2	0.0	14.6	1.2	0.0
	女性:40~49歳	116	47.4	4.3	25.9	0.0	4.3	0.0	0.0	12.9	5.2	0.0
	女性:50~59歳	114	33.3	9.6	25.4	0.0	5.3	0.0	0.0	14.9	9.6	1.8
	女性:60~69歳	140	5.7	5.7	35.7	0.7	7.1	0.7	0.0	24.3	20.0	0.0
女性:70歳以上	92	0.0	2.2	8.7	1.1	1.1	1.1	0.0	40.2	41.3	4.3	
無回答	92	18.5	5.4	5.4	0.0	5.4	1.1	0.0	17.4	43.5	3.3	
配偶関係別	男性:未婚	104	39.4	3.8	11.5	1.0	6.7	0.0	10.6	1.0	26.0	0.0
	男性:配偶者がいる (共働きである)	134	68.7	6.0	6.7	3.0	13.4	1.5	0.0	0.0	0.0	0.7
	男性:配偶者がいる (共働きでない)	154	20.8	7.1	5.2	4.5	8.4	1.3	0.0	1.3	51.3	0.0
	男性:配偶者とは 死・離別した	35	17.1	5.7	8.6	0.0	11.4	0.0	0.0	0.0	54.3	2.9
	女性:未婚	108	53.7	10.2	14.8	0.0	1.9	0.0	9.3	0.0	9.3	0.9
	女性:配偶者がいる (共働きである)	216	35.2	10.6	43.1	1.4	8.8	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5
	女性:配偶者がいる (共働きでない)	173	2.9	1.2	9.8	0.0	0.6	1.2	0.0	63.0	20.2	1.2
	女性:配偶者とは 死・離別した	101	23.8	1.0	24.8	0.0	2.0	0.0	0.0	8.9	37.6	2.0
無回答	98	17.3	5.1	5.1	0.0	6.1	1.0	0.0	17.3	43.9	4.1	

年齢別でみると、男性は50代以下、女性は40代以下で「正社員・正職員」が4割台から7割近くで高い。「パート・アルバイト」は女性の60代では35.7%と最も多く、50代以下でも約2割から2割台半ばあり、「専業主婦・主夫」よりも割合は高い。職業を持っていない人は男女とも60代以上の年齢が高い人が多い。

配偶関係別でみると、女性の未婚は「正社員・正職員」が53.7%と正規で働く人が半数以上となっている。これに対し、女性の既婚で共働きの人は「正社員・正職員」が35.2%、「パート・アルバイト」が43.1%、「派遣・契約社員」が10.6%と非正規で働く人の方が多い。

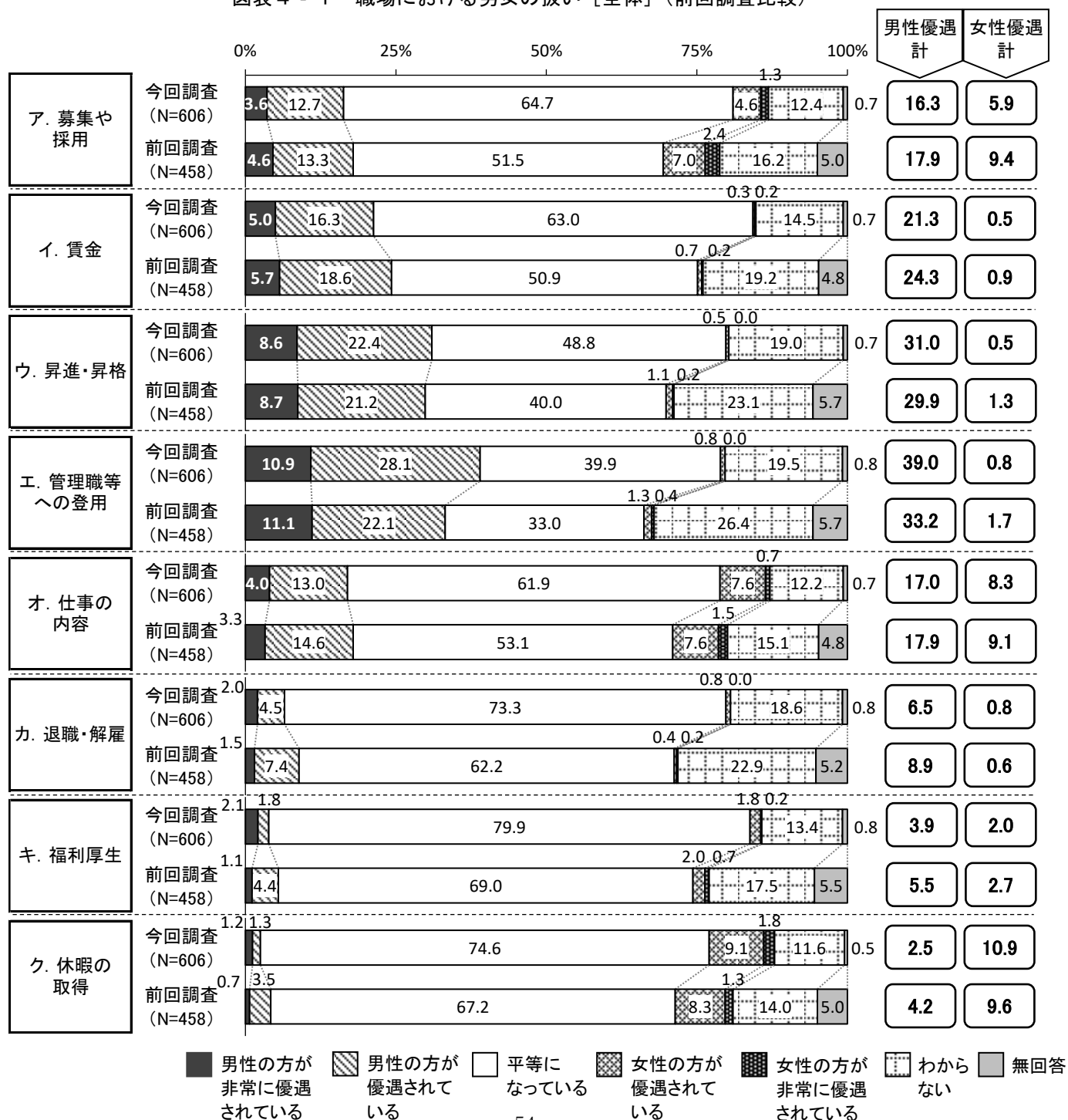
2. 職場における男女の扱いについて

問10-1【問10で「1. 正社員・正職員」「2. 派遣・契約社員」「3. パート・アルバイト」のいずれかを選ばれた方に】

あなたの今の職場では、男女の扱いについて平等になっていると思いますか。次のア～クの各項目についてそれぞれ1つずつ選んでください。(○は各項目に1つ)

●職場での男女の扱いはすべての項目で「平等になっている」の割合が最も高いが、「管理職等への登用」「昇進・昇格」「賃金」では『男性優遇』の割合も2割強から4割近くある。特に「管理職等への登用」の『男性優遇』は前回調査より男女とも約5～6ポイント増加。

図表4-1 職場における男女の扱い〔全体〕(前回調査比較)

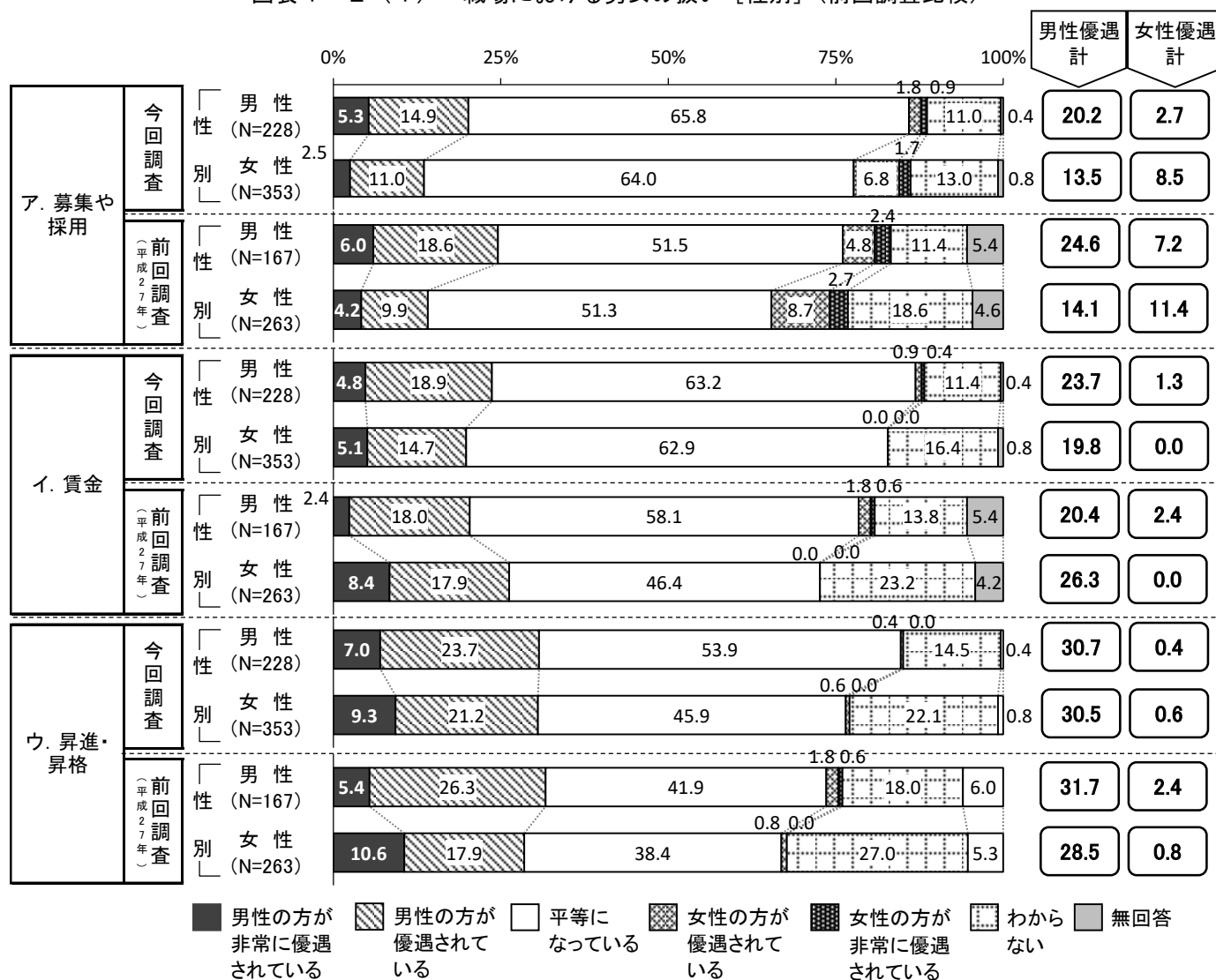


現在、「正社員・正職員」「パート・アルバイト」「派遣・契約社員」で働いている人の職場における男女の扱いについてたずねた。「男性の方が非常に優遇されている」と「男性の方が優遇されている」をあわせた『男性優遇』が最も高いのは「エ. 管理職等への登用」で39.0%、以下、「ウ. 昇進・昇格」31.0%、「イ. 賃金」21.3%などとなっている。

「平等になっている」が最も高いのは「キ. 福利厚生」が79.9%で、その他「ク. 休暇の取得」(74.6%)、「カ. 退職・解雇」(73.3%)が7割台、「ア. 募集や採用」(64.7%)、「イ. 賃金」(63.0%)、「オ. 仕事の内容」(61.9%)などが6割台となっている。

前回調査と比べると、「エ. 管理職等への登用」は『男性優遇』が5.8ポイント増加し、また「ウ. 昇進・昇格」は3割強で前回と同程度となっている。他方、これらの項目は「平等になっている」の割合も約7～9ポイント増えている。その他の項目については『男性優遇』の割合は減少し、「平等になっている」の割合が増加しており、特に「ア. 募集や採用」「イ. 賃金」「カ. 退職・解雇」などは10ポイント以上の増加となっている。

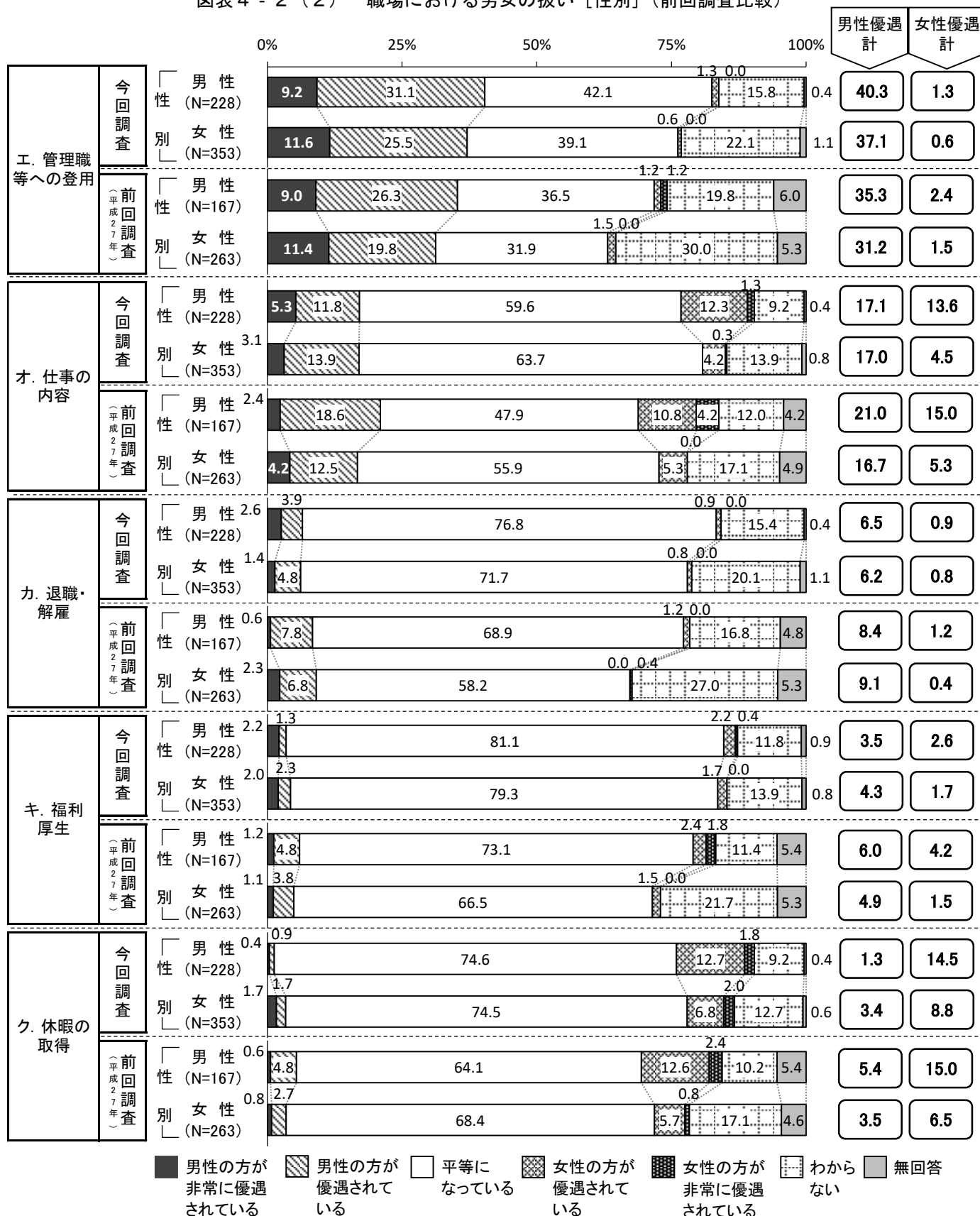
図表4-2(1) 職場における男女の扱い [性別] (前回調査比較)



性別でみると、男性は「ア. 募集や採用」「イ. 賃金」「エ. 管理職等への登用」などの『男性優遇』の割合が女性よりも約3～7ポイント高く、また「オ. 仕事の内容」「ク. 休暇の取得」の『女性優遇』の割合も男性の方が約6～9ポイント高いなど男女の扱いに差があると男性は感じている。

II 調査結果

図表4-2(2) 職場における男女の扱い〔性別〕(前回調査比較)



前回調査と比べると、すべての項目で男女とも「平等になっている」の割合が増えているが、「エ. 管理職等への登用」の『男性優遇』の割合は男女とも約5～6ポイント高くなっている。

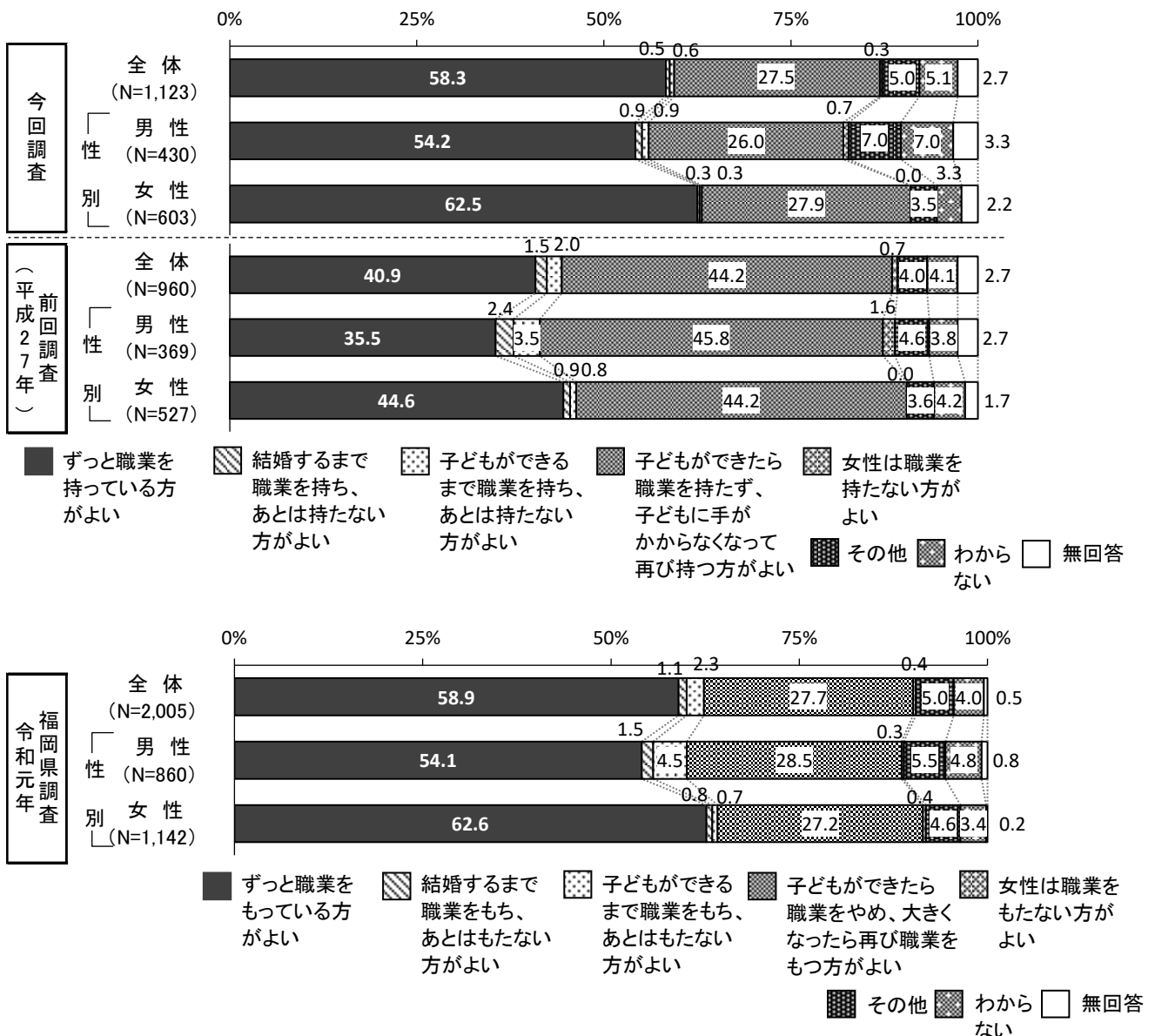
3. 女性が職業を持つことについて

(1) 女性が職業を持つことについて考え方

問11 (A)「女性が職業を持つこと」について、あなたはどうかお考えですか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。(〇は1つ)

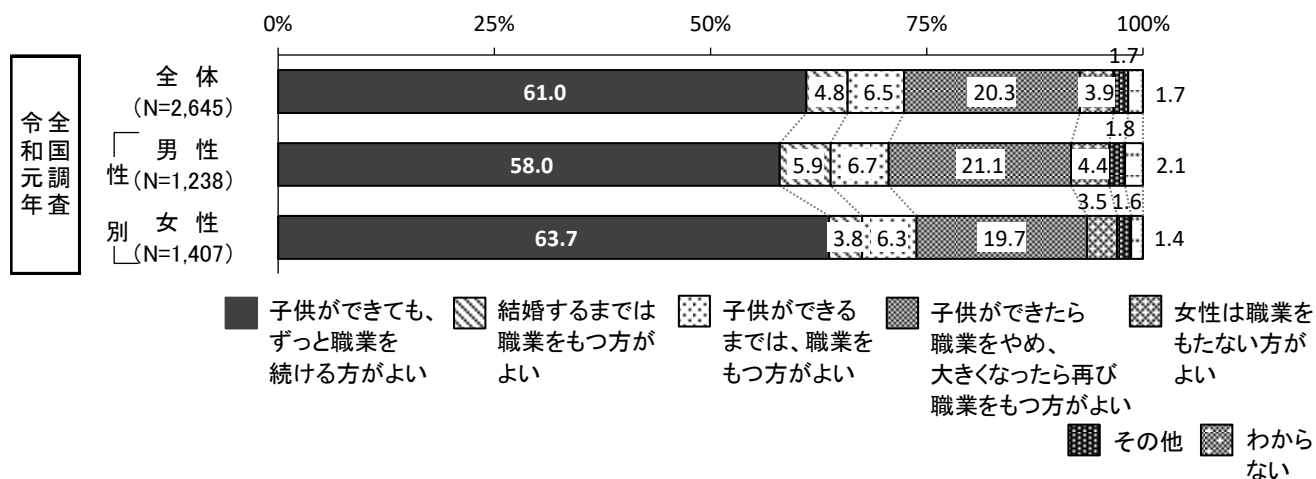
- 女性が職業を持つことについて、「就労継続」という考えが6割弱で最も多い。
- 「就労継続」の割合は女性の方が男性よりも約8ポイント高く、女性の50代と70歳以上を除く年代で6割強から7割弱と高い。

図表4-3 女性が職業を持つことについて考え方 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



資料：令和元年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果

II 調査結果



資料：令和元年 内閣府男女共同参画に関する世論調査結果

女性が職業を持つことについて考え方をたずねた。「ずっと職業を持っている方がよい」という就労継続が58.3%で最も高い。次いで「子どもができたらか職業を持たず、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」という子育て期に就労を中断する働き方が27.5%となっている。「結婚するまで職業を持ち、あとは持たない方がよい」(0.5%)、「子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない方がよい」(0.6%)、「女性は職業を持たない方がよい」(0.3%)などはいずれも専業主婦を志向する項目だが、これらの合計は1.4%と低く、女性が職業を持つことは肯定的にとらえられている。

性別で見ると、女性の就労継続は62.5%で男性(54.2%)を8.3ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも就労継続が18ポイント前後と増え、子育て期に就労を中断する働き方は約16~20ポイント減っている。

福岡県調査と比べると、男女ともあまり大きな違いはみられない。

全国調査と比べると、就労継続の割合に男女とも大差はみられないが、子育て期に就労を中断する働き方は今回調査の方が約5~8ポイント、専業主婦志向の割合は約13~15ポイント低い。

図表4-4 女性が職業を持つことについて考え方〔全体、年齢別、性別役割分担意識別〕

(%)

		標本数	ずっと職業を持っている	が、あとは持たない方	結婚するまで職業を持つ	ない方がよい	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	子どもが、あとは持たない	
全体		1,123 100.0	655 58.3	6 0.5	7 0.6	309 27.5	3 0.3	56 5.0	57 5.1	30 2.7												
年齢別	男性:18~29歳	38	39.5	0.0	2.6	28.9	0.0	21.1	5.3	2.6												
	男性:30~39歳	42	59.5	0.0	0.0	19.0	0.0	9.5	11.9	0.0												
	男性:40~49歳	61	62.3	0.0	0.0	19.7	0.0	4.9	13.1	0.0												
	男性:50~59歳	83	59.0	1.2	0.0	20.5	0.0	9.6	6.0	3.6												
	男性:60~69歳	107	53.3	0.9	1.9	30.8	0.0	5.6	3.7	3.7												
	男性:70歳以上	98	49.0	2.0	1.0	31.6	3.1	1.0	6.1	6.1												
	女性:18~29歳	58	62.1	0.0	0.0	25.9	0.0	10.3	1.7	0.0												
	女性:30~39歳	82	68.3	0.0	0.0	20.7	0.0	6.1	3.7	1.2												
	女性:40~49歳	116	67.2	0.0	0.0	25.9	0.0	2.6	1.7	2.6												
	女性:50~59歳	114	58.8	0.9	0.0	27.2	0.0	5.3	6.1	1.8												
	女性:60~69歳	140	66.4	0.0	0.0	29.3	0.0	0.7	1.4	2.1												
女性:70歳以上	92	51.1	1.1	2.2	37.0	0.0	0.0	4.3	4.3													
無回答	92	50.0	0.0	1.1	31.5	0.0	5.4	8.7	3.3													
性別役割分担意識別	男性:そう思う	19	36.8	5.3	5.3	21.1	10.5	0.0	21.1	0.0												
	男性:どちらかといえば そう思う	114	40.4	1.8	0.9	45.6	0.9	4.4	3.5	2.6												
	男性:どちらかといえば そう思わない	96	53.1	1.0	1.0	27.1	0.0	6.3	6.3	5.2												
	男性:そう思わない	180	68.3	0.0	0.6	15.6	0.0	10.0	3.3	2.2												
	男性:わからない	13	30.8	0.0	0.0	7.7	0.0	7.7	46.2	7.7												
	女性:そう思う	16	43.8	6.3	0.0	43.8	0.0	0.0	6.3	0.0												
	女性:どちらかといえば そう思う	150	44.0	0.0	0.0	46.7	0.0	4.0	4.0	1.3												
	女性:どちらかといえば そう思わない	106	66.0	0.9	0.0	26.4	0.0	0.9	3.8	1.9												
	女性:そう思わない	309	72.2	0.0	0.3	19.7	0.0	3.9	1.9	1.9												
	女性:わからない	18	55.6	0.0	5.6	5.6	0.0	11.1	16.7	5.6												
	無回答	102	47.1	0.0	1.0	30.4	0.0	4.9	10.8	5.9												

年齢別でみると、女性は30代で就労継続が68.3%と最も高く、その前後の年代でも6割台、60代でも66.4%と高い。男性は40代で62.3%、その前後の年代でも約6割と他の年代に比べて高くなっている。子育て期に就労を中断する働き方は男女とも年齢が高い層で割合が高い。

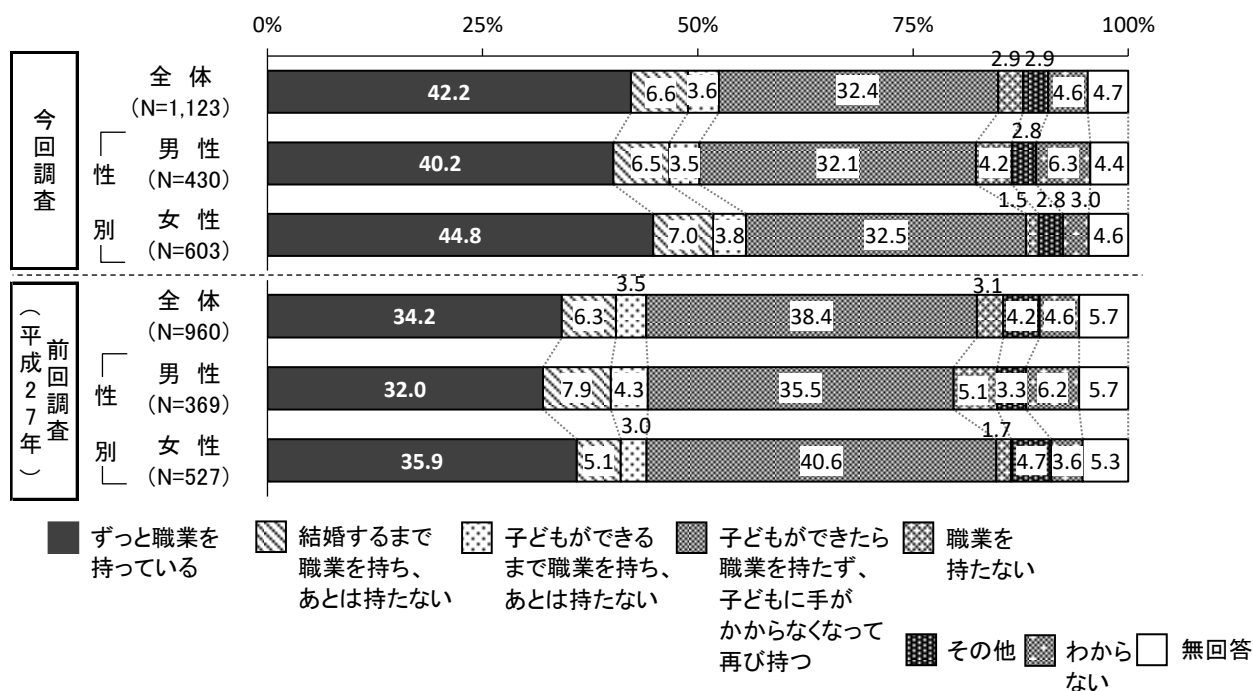
性別役割分担意識別でみると、男女とも容認しない人で就労継続の割合が高くなっており、特に女性では72.2%と高い。どちらかといえばそう思うを含めた容認する人では子育て期に就労を中断する働き方、男性では専業主婦志向の割合が高い傾向がみられる。

(2) 女性の実際の働き方

問11(B)では、あなた(もしくは、あなたの妻)はどうでしたか(どうなりそうですか)。独身の方も、結婚した場合を想定して教えてください。(〇は1つ)

- 女性の実際の働き方は「就労継続」が4割強と、考え方より男女とも1割半ばから2割弱低い。
- 前回調査より「就労継続」は男女とも1割弱増加。

図表4-5 女性の実際の働き方 [全体、性別] (前回調査比較)



実際、女性はどのような働き方をしているか、今後どうなりそうかたずねた。「ずっと職業を持っている」という就労継続が42.2%、「子どもができたらず、子どもに手がかからなくなって再び持つ」という子育て期に就労を中断する働き方が32.4%、「結婚するまで職業を持ち、あとは持たない」(6.6%)、「子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない」(3.6%)、「職業は持たない」(2.9%)などの専業主婦は13.1%となっている。

性別で見ると、就労継続は女性が44.8%で男性(40.2%)を4.6ポイント上回っている。考え方では就労継続は5割台半ばから6割強であったが、実際は約14~18ポイント低くなっており、子育て期に就労を中断する働き方は約5~6ポイント、専業主婦は男女同率の11.7ポイント実際では高くなっている。

前回調査と比べると、就労継続は男女とも約8~9ポイント増え、子育て期に就労を中断する働き方は約3~8ポイント減っている。

図表4-6 女性の実際の働き方〔全体、年齢別、性別役割分担意識別〕

(%)

		標本数	ずっと職業を持っている	結婚するまで職業を持っていない	子育てが、あとは職業を保持している	子育てが、あとは職業を保持している	子育てが、あとは職業を保持している	職業は持たない	その他	わからない	無回答
全体		1,123 100.0	474 42.2	74 6.6	40 3.6	364 32.4	33 2.9	33 2.9	52 4.6	53 4.7	
年齢別	男性:18～29歳	38	36.8	5.3	5.3	26.3	0.0	2.6	18.4	5.3	
	男性:30～39歳	42	50.0	2.4	2.4	31.0	2.4	4.8	7.1	0.0	
	男性:40～49歳	61	52.5	4.9	3.3	24.6	3.3	0.0	11.5	0.0	
	男性:50～59歳	83	43.4	2.4	3.6	33.7	3.6	4.8	3.6	4.8	
	男性:60～69歳	107	38.3	9.3	5.6	31.8	3.7	2.8	2.8	5.6	
	男性:70歳以上	98	28.6	10.2	1.0	38.8	8.2	2.0	4.1	7.1	
	女性:18～29歳	58	44.8	3.4	1.7	32.8	0.0	1.7	15.5	0.0	
	女性:30～39歳	82	54.9	3.7	4.9	30.5	1.2	2.4	0.0	2.4	
	女性:40～49歳	116	56.0	4.3	4.3	27.6	0.9	2.6	0.9	3.4	
	女性:50～59歳	114	41.2	8.8	1.8	32.5	0.9	4.4	5.3	5.3	
	女性:60～69歳	140	37.1	7.9	4.3	43.6	0.7	2.1	0.0	4.3	
	女性:70歳以上	92	37.0	12.0	5.4	23.9	5.4	3.3	2.2	10.9	
無回答	92	35.9	4.3	2.2	32.6	6.5	4.3	7.6	6.5		
性別役割分担意識別	男性:そう思う	19	15.8	15.8	0.0	21.1	21.1	0.0	15.8	10.5	
	男性:どちらかといえば そう思う	114	28.9	4.4	2.6	45.6	5.3	4.4	5.3	3.5	
	男性:どちらかといえば そう思わない	96	33.3	11.5	6.3	32.3	3.1	4.2	3.1	6.3	
	男性:そう思わない	180	55.6	4.4	3.3	25.6	2.8	1.7	3.9	2.8	
	男性:わからない	13	30.8	0.0	0.0	30.8	0.0	0.0	30.8	7.7	
	女性:そう思う	16	6.3	18.8	6.3	43.8	6.3	0.0	12.5	6.3	
	女性:どちらかといえば そう思う	150	32.0	11.3	6.7	39.3	4.0	2.0	1.3	3.3	
	女性:どちらかといえば そう思わない	106	37.7	10.4	2.8	37.7	0.9	2.8	2.8	4.7	
	女性:そう思わない	309	57.6	3.6	2.3	27.2	0.0	2.9	2.6	3.9	
	女性:わからない	18	16.7	0.0	11.1	33.3	0.0	11.1	16.7	11.1	
	無回答	102	31.4	4.9	2.0	30.4	6.9	3.9	10.8	9.8	

年齢別でみると、就労継続は男女とも40代をピークにその前後の年代で4割台から5割台半ばと高い。子育て期に就労を中断する働き方は、考え方では女性の60代以下の年代で約2～3割であったが、実際は60代で43.6%と最も高く、50代以下でも3割前後となっている。

性別役割分担意識別でみると、考え方と同じように男女とも容認しない人では就労継続、容認する人では子育て期に就労を中断する働き方や専業主婦の割合が高い傾向がみられる。

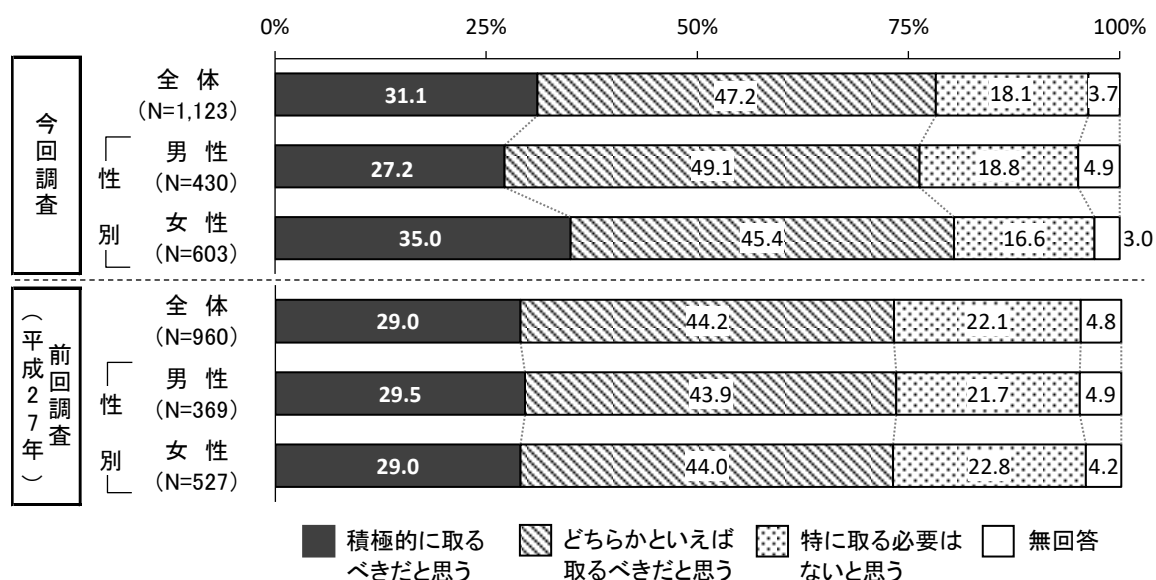
4. 男性の育児休業

(1) 男性が育児休業を取得することについて

問12 あなたは、男性が育児休業（子を養育する労働者が法律に基づいて取得できる休業）を取ることにどう思いますか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。（〇は1つ）

●男性が育児休業を取得することについて「積極的に取るべきだと思う」は女性が3割台半ばで男性より約8ポイント高く、男性の「どちらかといえば取るべきだと思う」（49.1%）や「特に取る必要はないと思う」（18.8%）は女性よりも割合がやや高く、男性自身の方がやや消極的。

図表4-7 男性が育児休業を取得することについて〔全体、性別〕（前回調査比較）



男性が育児休業を取得することについてどう思うかたずねた。「どちらかといえば取るべきだと思う」が47.2%で最も高く、次いで「積極的に取るべきだと思う」が31.1%、「特に取る必要はないと思う」は18.1%である。

性別でみると、女性は「積極的に取るべきだと思う」が35.0%で男性（27.2%）を7.8ポイント上回り、男性は「どちらかといえば取るべきだと思う」が49.1%で女性（45.4%）を3.7ポイント、「特に取る必要はないと思う」が18.8%で女性（16.6%）を2.2ポイント上回るなど男性自身の方が育児休業取得に消極的である。

前回調査と比べると、女性は「特に取る必要はないと思う」が6.2ポイント減り、「積極的に取るべきだと思う」が6.0ポイント増加しており、男性の育児休業取得に積極的となっている。他方、男性は「特に取る必要はないと思う」が2.9ポイントとわずかであるが減少し、「どちらかといえば取るべきだと思う」が5.2ポイント増加しており、前回調査よりも男性自身はやや消極的ながらも好意的にとらえるようになってきている。

図表4-8 男性が育児休業を取得することについて [全体、年齢別、就業形態別]

			(%)			
		標本数	積極的に取るべきだと思う	どちらかといえば取るべきだと思う	特に取る必要はないと思う	無回答
全体		1,123 100.0	349 31.1	530 47.2	203 18.1	41 3.7
年齢別	男性: 18～29歳	38	47.4	44.7	5.3	2.6
	男性: 30～39歳	42	50.0	35.7	14.3	0.0
	男性: 40～49歳	61	36.1	42.6	16.4	4.9
	男性: 50～59歳	83	21.7	54.2	18.1	6.0
	男性: 60～69歳	107	19.6	58.9	17.8	3.7
	男性: 70歳以上	98	16.3	45.9	29.6	8.2
	女性: 18～29歳	58	60.3	34.5	5.2	0.0
	女性: 30～39歳	82	54.9	34.1	9.8	1.2
	女性: 40～49歳	116	30.2	50.0	14.7	5.2
	女性: 50～59歳	114	30.7	50.0	16.7	2.6
	女性: 60～69歳	140	28.6	47.9	21.4	2.1
	女性: 70歳以上	92	22.8	47.8	23.9	5.4
	無回答	92	23.9	48.9	25.0	2.2
就業形態別	男性: 正社員	171	33.9	45.6	17.5	2.9
	男性: 派遣・契約社員	25	32.0	52.0	12.0	4.0
	男性: パート・アルバイト	32	18.8	59.4	18.8	3.1
	男性: 農林漁業・自営業・家族従業	55	30.9	32.7	30.9	5.5
	男性: その他	4	25.0	75.0	0.0	0.0
	女性: 正社員	165	40.0	44.2	12.1	3.6
	女性: 派遣・契約社員	37	29.7	56.8	10.8	2.7
	女性: パート・アルバイト	151	31.8	46.4	19.9	2.0
	女性: 農林漁業・自営業・家族従業	27	37.0	44.4	14.8	3.7
	女性: その他	3	33.3	66.7	0.0	0.0
	無回答	453	27.2	48.8	19.6	4.4

年齢別でみると、男女とも30代以下で「積極的に取るべきだと思う」の割合が高く、女性の18～29歳で60.3%と最も高い。反対に「特に取る必要はないと思う」は年齢が高い層で割合が高い傾向がみられる。

就業形態別でみると、女性の正社員で「積極的に取るべきだと思う」が40.0%と最も高く、男性も正社員は33.9%と他の形態に比べると高い。しかし、「どちらかといえば取るべきだと思う」は男女とも4割台半ばあり、消極的な考えの方が割合は高い。男性の農林漁業・自営業・家族従業では「特に取る必要はないと思う」が30.9%と高率である。

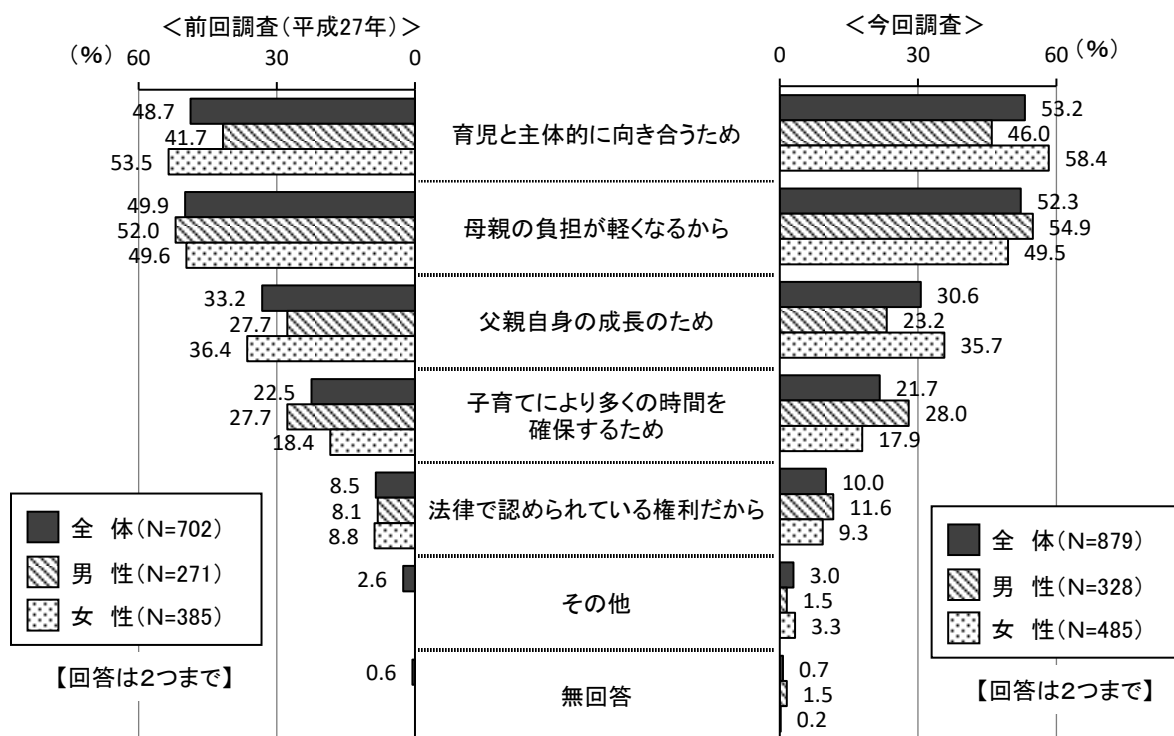
(2) 男性が育児休業を取得した方がよいと考える理由

問1 2-1【問1 2で「1. 積極的に取るべきだと思う」または「2. どちらかといえば取るべきだと思う」を選ばれた方に】

その理由は何ですか。次の中から2つ以内で選んでください。(〇は2つ以内)

●男性が育児休業を取得した方がよいと考える理由は、男性は「母親の負担が軽くなるから」(54.9%)、女性は「育児と主体的に向き合うため」(58.4%)の理由が第1位。

図表4 - 9 男性が育児休業を取得した方がよいと考える理由 [全体、性別] (前回調査比較)



男性が育児休業を取得した方がよいと考える理由は「育児と主体的に向き合うため」が53.2%、「母親の負担が軽くなるから」が52.3%とともに5割強で上位2位となっている。

性別でみると、男性は「母親の負担が軽くなるから」が54.9%で女性(49.5%)より5.4ポイント高く、第1位の理由となっている。その他「子育てにより多くの時間を確保するため」(男性28.0%、女性17.9%)の理由が女性よりも10.1ポイント高くなっている。女性は「育児と主体的に向き合うため」が58.4%で、男性(46.0%)を12.4ポイント上回り、第1位の理由となっている。その他「父親自身の成長のため」(男性23.2%、女性35.7%)の理由が男性よりも12.5ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、男女とも「育児と主体的に向き合うため」が約4~5ポイント高くなっている。その他理由についてはあまり大きな変化はみられない。

図表4-10 男性が育児休業を取得した方がよいと考える理由〔全体、年齢別〕

		(%)							
		標本数	たの子育 め時育 間を確 保す多 く	き育 児と主 体的に 向	た父 親自 身の 成長 の	な母 親の 負担 が軽 く	いる法 律で 認め られ て	そ 他	無 回 答
全 体		879 100.0	191 21.7	468 53.2	269 30.6	460 52.3	88 10.0	26 3.0	6 0.7
年 齢 別	男性:18~29歳	35	37.1	40.0	14.3	65.7	20.0	0.0	0.0
	男性:30~39歳	36	47.2	36.1	22.2	44.4	22.2	2.8	0.0
	男性:40~49歳	48	39.6	37.5	25.0	50.0	12.5	4.2	0.0
	男性:50~59歳	63	31.7	44.4	27.0	55.6	15.9	1.6	0.0
	男性:60~69歳	84	14.3	53.6	25.0	60.7	4.8	1.2	1.2
	男性:70歳以上	61	16.4	54.1	21.3	49.2	4.9	0.0	6.6
	女性:18~29歳	55	25.5	52.7	27.3	56.4	14.5	1.8	0.0
	女性:30~39歳	73	23.3	63.0	38.4	47.9	11.0	4.1	0.0
	女性:40~49歳	93	20.4	57.0	33.3	45.2	9.7	5.4	0.0
	女性:50~59歳	92	16.3	55.4	44.6	45.7	10.9	4.3	0.0
	女性:60~69歳	107	13.1	62.6	38.3	55.1	4.7	0.9	0.9
	女性:70歳以上	65	12.3	56.9	26.2	47.7	7.7	3.1	0.0
	無回答	67	19.4	50.7	29.9	61.2	7.5	7.5	0.0

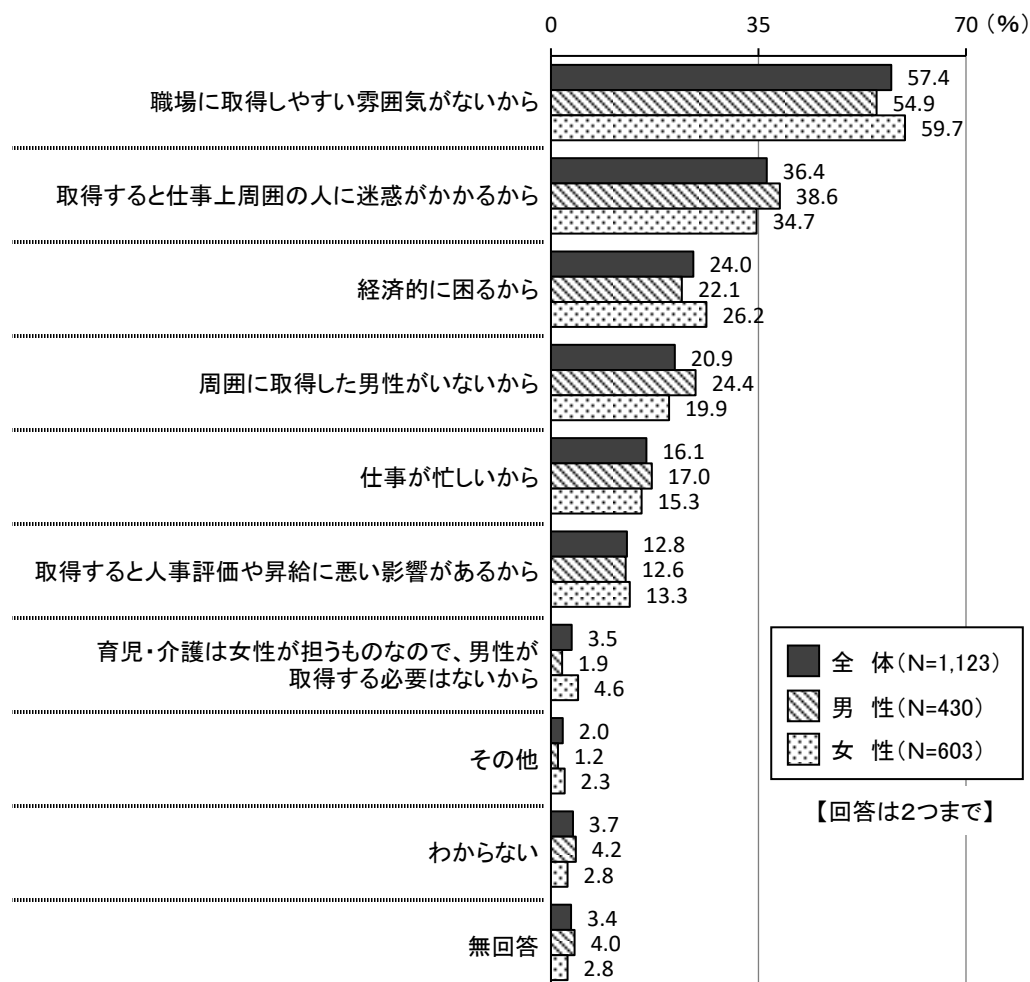
年齢別でみると、「育児と主体的に向き合うため」は女性の30代と60代で6割強、「母親の負担が軽くなるから」は男性の18~29歳と60代で約6割から6割台半ばと高い。「子育てにより多くの時間を確保するため」は男性の30代が47.2%と最も高く、その前後の年代でも4割弱と他の年代に比べて高くなっている。「法律で認められている権利だから」は男女とも年齢の低い層で比較的割合が高い。

5. 男性が育児休業を取得しない（できない）理由

問13 女性の育児休業取得率は83%であるのに対し、男性の育児休業取得率は7.48%（厚生労働省：2019年度雇用均等基本調査（全国））となっています。あなたは男性の9割以上が育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思えますか。あなたのお考えに近いものを2つ以内で選んでください。（〇は2つ以内）

●男性が育児休業を取得しない（できない）理由は「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が約6割で最も高い。

図表4-11 男性が育児休業を取得しない（できない）理由 [全体、性別]



男性の9割以上が育児休業を取得しない（できない）理由をたずねたところ、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が57.4%と最も高く、次いで「取得すると仕事上周围の人に迷惑がかかるから」が36.4%、「経済的に困るから」が24.0%、「周囲に取得した男性がいないから」が20.9%などとなっている。

性別で見ると、男性は「取得すると仕事上周围の人に迷惑がかかるから」（同38.6%、34.7%）、「周囲に取得した男性がいないから」（同24.4%、19.9%）などが約4～5ポイント女性よりも高く、女性は「職場に取得しやすい雰囲気がないから」（同54.9%、59.7%）や「経済的に困るから」（同22.1%、26.2%）などが約4～5ポイント男性よりも高い。

図表4-12 男性が育児休業を取得しない（できない）理由 [全体、年齢別、就業形態別]

		標本数	ないから	職場に取得しや すい雰囲気 がないから	仕事が忙しい から	取得すると仕事 上周囲の人に 迷惑がかかる から	取得すると人事 評価や昇給に 悪い影響があ るから	経済的に困る から	育児・介護は 男性が担う 必要はない から	その他	わからない	無回答
全体		1,123 100.0	235 20.9	645 57.4	181 16.1	409 36.4	144 12.8	269 24.0	39 3.5	23 2.0	41 3.7	38 3.4
年齢別	男性:18～29歳	38	18.4	63.2	23.7	21.1	21.1	21.1	2.6	0.0	5.3	2.6
	男性:30～39歳	42	28.6	66.7	23.8	35.7	11.9	21.4	2.4	2.4	0.0	0.0
	男性:40～49歳	61	32.8	62.3	9.8	37.7	8.2	29.5	0.0	0.0	6.6	0.0
	男性:50～59歳	83	26.5	41.0	21.7	38.6	9.6	31.3	1.2	2.4	4.8	3.6
	男性:60～69歳	107	23.4	57.9	13.1	45.8	17.8	15.9	0.9	1.9	1.9	2.8
	男性:70歳以上	98	18.4	50.0	16.3	39.8	9.2	17.3	4.1	0.0	6.1	10.2
	女性:18～29歳	58	29.3	67.2	6.9	25.9	20.7	32.8	5.2	0.0	3.4	0.0
	女性:30～39歳	82	29.3	65.9	17.1	29.3	15.9	25.6	2.4	2.4	0.0	1.2
	女性:40～49歳	116	15.5	57.8	18.1	32.8	16.4	30.2	0.9	2.6	3.4	3.4
	女性:50～59歳	114	12.3	61.4	18.4	38.6	11.4	27.2	6.1	0.9	4.4	1.8
	女性:60～69歳	140	20.7	62.1	11.4	39.3	12.1	25.0	3.6	3.6	1.4	3.6
	女性:70歳以上	92	18.5	46.7	16.3	35.9	6.5	18.5	10.9	3.3	4.3	5.4
無回答		92	13.0	54.3	18.5	37.0	10.9	17.4	3.3	4.3	6.5	4.3
就業形態別	男性:正社員	171	29.8	55.6	18.7	39.2	9.4	26.3	0.6	2.9	1.2	2.3
	男性:派遣・契約社員	25	32.0	48.0	12.0	52.0	16.0	24.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	男性:パート・アルバイト	32	18.8	65.6	18.8	43.8	18.8	18.8	3.1	0.0	0.0	3.1
	男性:農林漁業・自営業・ 家族従業	55	18.2	52.7	18.2	45.5	10.9	20.0	5.5	0.0	1.8	5.5
	男性:その他	4	0.0	50.0	25.0	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性:正社員	165	22.4	60.6	17.6	32.1	12.7	27.9	3.6	3.0	1.8	1.8
	女性:派遣・契約社員	37	18.9	70.3	13.5	24.3	16.2	37.8	0.0	5.4	0.0	2.7
	女性:パート・アルバイト	151	23.8	58.9	11.9	35.1	16.6	31.1	2.6	2.0	2.6	2.6
	女性:農林漁業・自営業・ 家族従業	27	18.5	59.3	7.4	40.7	7.4	25.9	7.4	0.0	0.0	7.4
	女性:その他	3	33.3	100.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答		453	16.3	55.6	16.6	35.3	12.6	19.0	4.9	1.8	6.8

年齢別でみると、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」は男性の40代以下の年齢が低い層で、女性は40代と70歳以上を除く年代で6割台と高い。「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」は男女とも年齢が高い層で割合が高い傾向がみられ、反対に「取得すると人事評価や昇給に悪い影響があるから」は男女とも年齢が低い層で割合が高い傾向がみられる。「経済的に困るから」は男女の40代と50代と女性の18～29歳と30代で3割前後、「周囲に取得した男性がいないから」は男性の30代と40代、女性の30代以下で3割前後と高い。

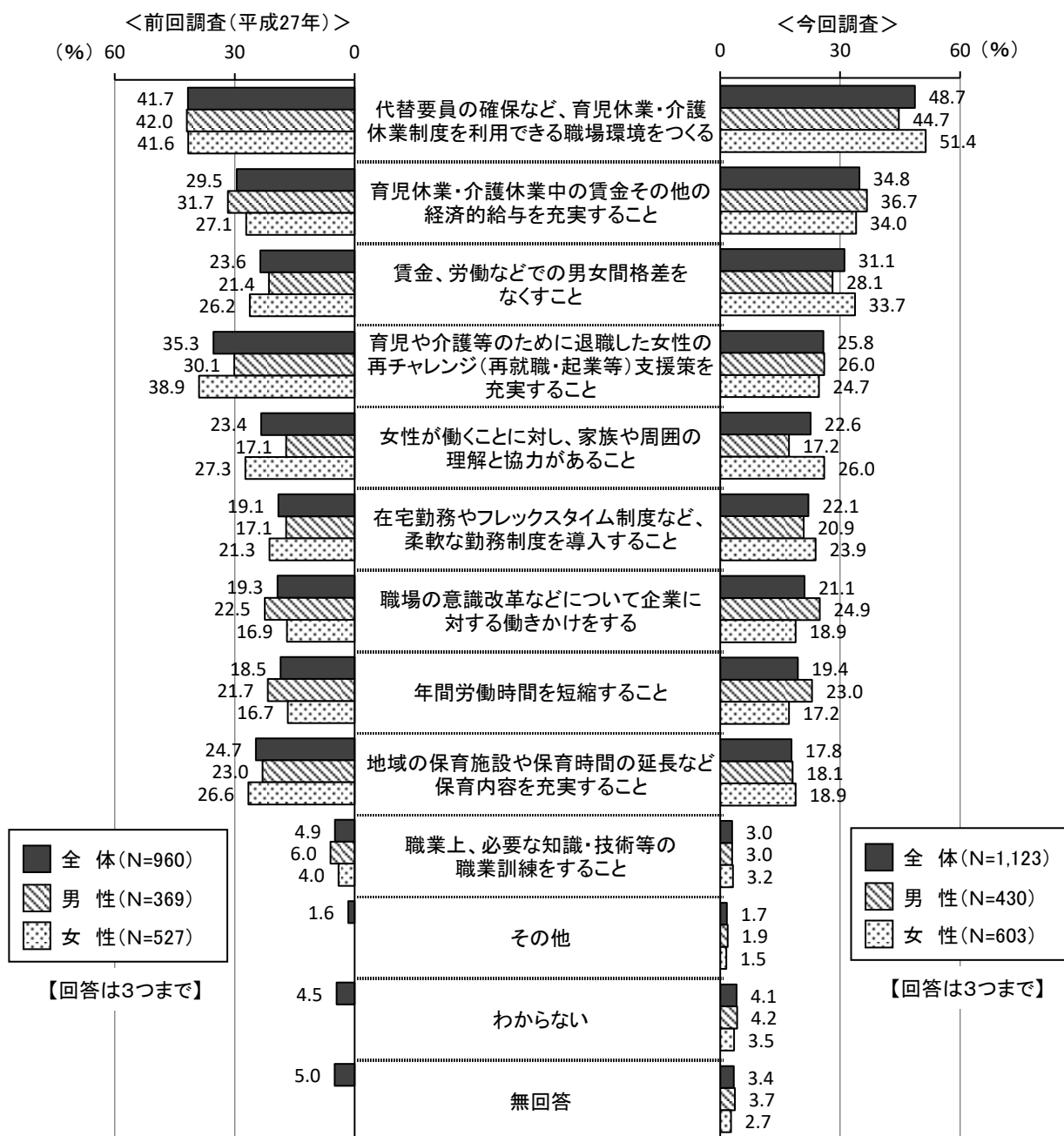
就業形態別でみると、男性の派遣・契約社員を除く就業形態で「職場に取得しやすい雰囲気がないから」の理由を第1位にあげている。また、男性の正社員、派遣・契約社員では「周囲に取得した男性がいないから」が3割前後、男性の正社員では「経済的に困るから」が26.3%と他の就業形態に比べ割合が高くなっている。

6. 男女が共にワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な条件

問14 男女が共に仕事と家庭や地域活動を両立できるワーク・ライフ・バランスを実現していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つ以内)

●男女が共にワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な条件は「代替要員の確保など育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」が約5割で第1位。

図表4-13 男女が共にワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な条件 [全体、性別]
(前回調査比較)



男女が共に仕事と家庭や地域活動を両立できるワーク・ライフ・バランスを実現していくために必要な条件は「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」が48.7%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」が34.8%、「賃金、労働などでの男女間格差をなくすこと」が31.1%となっている。

性別で見ると、男性は「職場の意識改革などについて企業に対する働きかけをする」や「年間労働時間を短縮すること」などが女性よりも約6ポイント高く、女性は「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」「賃金、労働などでの男女間格差をなくすこと」「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」などが約6～9ポイント男性よりも高い。

前回調査と比べると、男女とも「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」が約5～7ポイント、「賃金、労働などでの男女間格差をなくすこと」が約7～8ポイント増え、また女性では「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」が9.8ポイント増えている。他方、男女とも割合が減少している項目は「育児や介護等のために退職した女性の再チャレンジ（再就職・起業等）支援策を充実すること」が約4～14ポイント、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること」が約5～8ポイントで、女性の方が減少の幅が大きい。

II 調査結果

図表4-14 男女が共にワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な条件
[全体、年齢別、就業形態別]

		標本数	賃金、労働などでの男女間格差をなくすこと	年間労働時間を短縮すること	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる	等(性)の再チャレンジ(再就職・起業)	育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること	他の育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること	地域保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	職業訓練をすること	職業上、必要な知識・技術等の職	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	職場の意識改革などについて企業	その他	わからない	無回答
全体		1,123 100.0	349 31.1	218 19.4	547 48.7	290 25.8	391 34.8	200 17.8	248 22.1	34 3.0	254 22.6	237 21.1	19 1.7	46 4.1	38 3.4		
年齢別	男性:18~29歳	38	23.7	28.9	44.7	15.8	42.1	5.3	42.1	5.3	7.9	13.2	0.0	5.3	2.6		
	男性:30~39歳	42	23.8	33.3	50.0	14.3	45.2	19.0	26.2	2.4	7.1	19.0	2.4	4.8	0.0		
	男性:40~49歳	61	29.5	24.6	36.1	29.5	37.7	24.6	21.3	4.9	13.1	23.0	4.9	6.6	0.0		
	男性:50~59歳	83	27.7	26.5	48.2	28.9	39.8	15.7	15.7	1.2	15.7	24.1	3.6	3.6	3.6		
	男性:60~69歳	107	30.8	19.6	40.2	26.2	37.4	17.8	19.6	2.8	22.4	32.7	0.9	2.8	3.7		
	男性:70歳以上	98	28.6	15.3	49.0	29.6	27.6	21.4	16.3	3.1	23.5	25.5	0.0	4.1	8.2		
	女性:18~29歳	58	48.3	8.6	62.1	13.8	53.4	10.3	25.9	3.4	19.0	25.9	1.7	3.4	0.0		
	女性:30~39歳	82	32.9	22.0	54.9	24.4	29.3	20.7	31.7	2.4	19.5	20.7	3.7	1.2	1.2		
	女性:40~49歳	116	37.1	25.0	47.4	17.2	29.3	19.8	22.4	2.6	19.8	18.1	0.9	4.3	3.4		
	女性:50~59歳	114	27.2	16.7	49.1	25.4	33.3	21.1	29.8	1.8	23.7	26.3	1.8	4.4	1.8		
	女性:60~69歳	140	34.3	12.1	54.3	30.0	38.6	21.4	20.7	5.7	28.6	16.4	1.4	2.1	2.1		
	女性:70歳以上	92	28.3	17.4	45.7	32.6	26.1	15.2	15.2	2.2	43.5	8.7	0.0	4.3	6.5		
	無回答	92	27.2	17.4	50.0	32.6	30.4	8.7	15.2	2.2	25.0	17.4	2.2	8.7	6.5		
就業形態別	男性:正社員	171	29.8	25.1	43.9	26.3	43.3	18.7	25.7	2.9	12.9	23.4	2.9	0.6	2.3		
	男性:派遣・契約社員	25	28.0	40.0	44.0	32.0	32.0	8.0	20.0	4.0	24.0	24.0	0.0	0.0	4.0		
	男性:パート・アルバイト	32	28.1	31.3	50.0	18.8	28.1	15.6	18.8	6.3	21.9	31.3	0.0	3.1	3.1		
	男性:農林漁業・自営業・家族従業	55	16.4	16.4	47.3	34.5	30.9	23.6	16.4	7.3	20.0	16.4	1.8	5.5	5.5		
	男性:その他	4	25.0	25.0	50.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0		
	女性:正社員	165	40.6	24.2	53.3	17.6	30.3	20.0	28.5	1.8	13.3	23.6	2.4	2.4	1.8		
	女性:派遣・契約社員	37	37.8	5.4	54.1	27.0	45.9	5.4	18.9	2.7	21.6	18.9	2.7	8.1	2.7		
	女性:パート・アルバイト	151	29.8	13.9	54.3	27.8	39.1	19.2	23.8	5.3	26.5	15.9	1.3	2.0	2.0		
	女性:農林漁業・自営業・家族従業	27	37.0	3.7	33.3	37.0	29.6	29.6	25.9	3.7	51.9	7.4	0.0	0.0	3.7		
	女性:その他	3	0.0	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0		
	無回答	453	30.0	17.4	47.9	26.5	32.5	16.1	18.8	2.0	27.4	21.9	0.9	6.8	4.6		

年齢別でみると、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」は男女とも年齢が低い層で割合が高く、特に女性の18~29歳では53.4%と最も高い。その他、女性の18~29歳では「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」(62.1%)、「賃金、労働などでの男女間格差をなくすこと」(48.3%)などの割合が高く、男性の18~29歳では「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」(42.1%)、30代以下で「年間労働時間を短縮すること」が3割前後と高い。

就業形態別でみると、男性の正社員では「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」が43.3%と他の就業形態に比べて高くなっている。

第5章 人権に関することについて

1. ドメスティック・バイオレンスについて

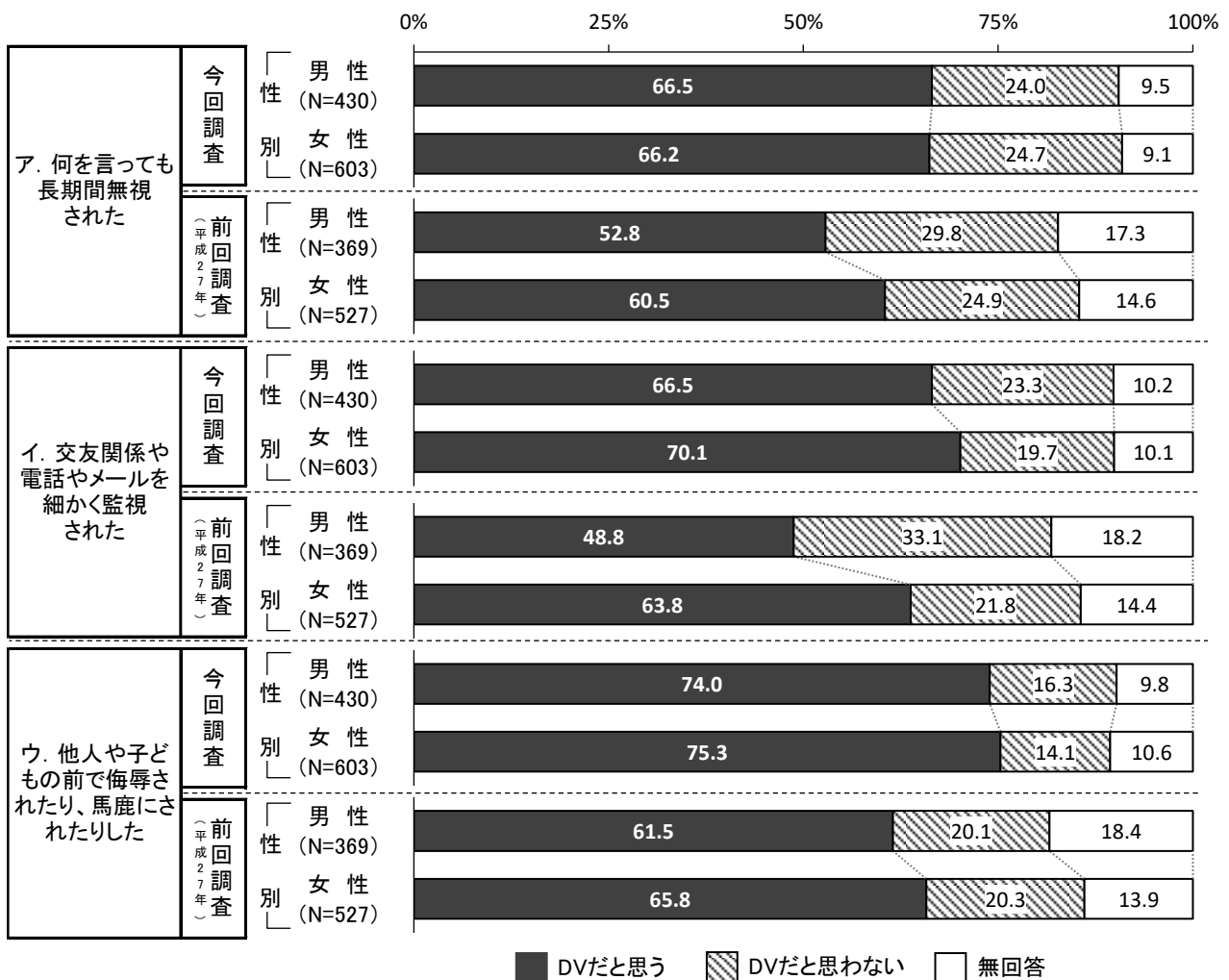
(1) ドメスティック・バイオレンスだと思うもの

問15 配偶者や恋人などパートナーからの暴力(ドメスティック・バイオレンス)が社会問題になっています。そこで、(A)と(B)2つの質問にお答えください。

(A) あなたは、ア～サのような行為がドメスティック・バイオレンス(DV)にあたると思いますか。1、2のいずれかに○をつけてください。(○は各項目に1つ)

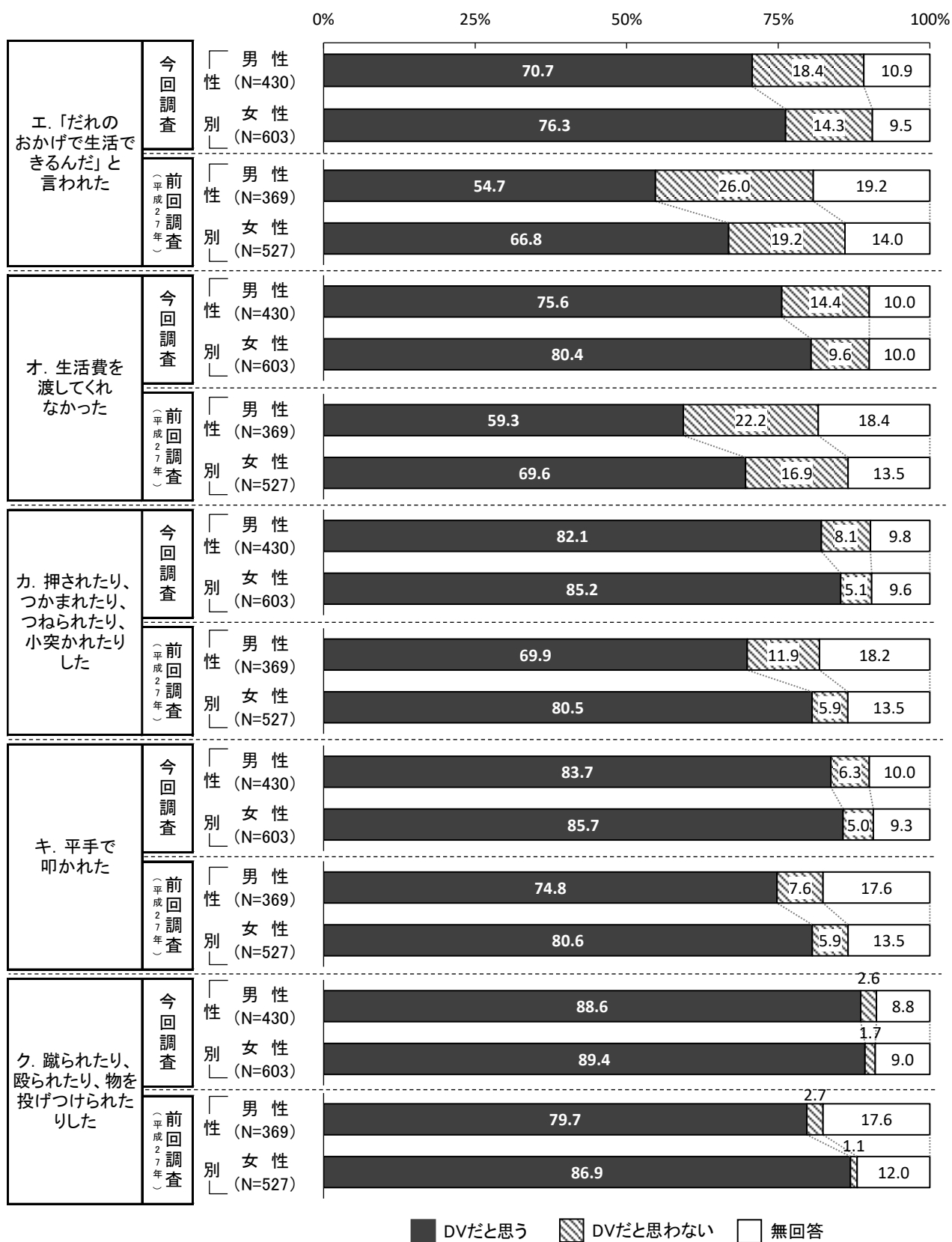
- DVであるとの認識は精神的暴力、性的暴力では身体的暴力よりも低い。
- 前回調査よりもすべての項目で男女とも前回調査よりDVであるとの認識の割合は高くなっている。特に男性で10ポイント以上高くなっている項目が多い。

図表5-1(1) ドメスティック・バイオレンスだと思うもの〔性別〕(前回調査比較)

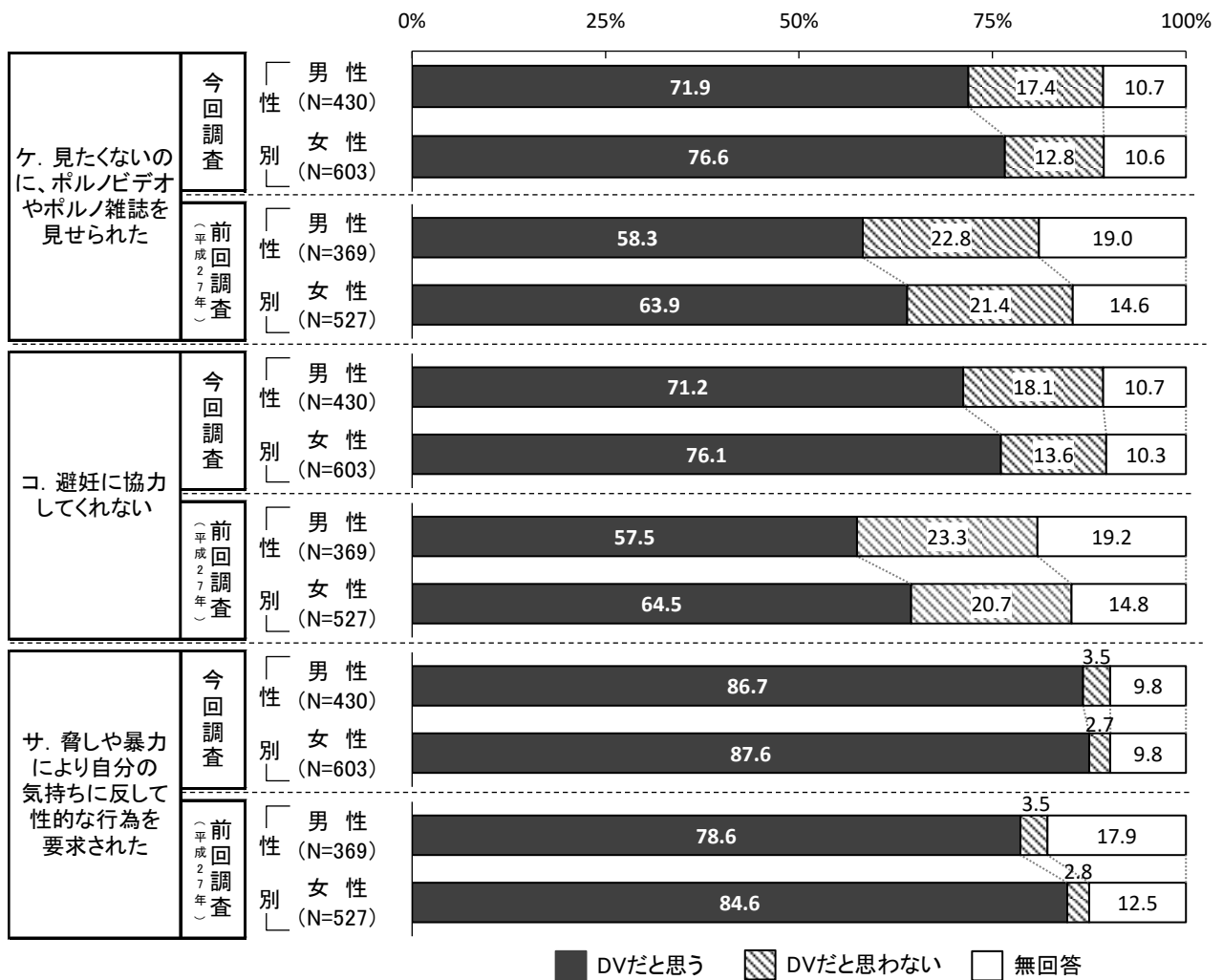


II 調査結果

図表5-1(2) ドメスティック・バイオレンスだと思うもの〔性別〕(前回調査比較)



図表5-1(3) ドメスティック・バイオレンスだと思うもの〔性別〕(前回調査比較)



ドメスティック・バイオレンス（以下、DVという）である11項目をあげ、DVだと思うかどうかをたずねた。「ア. 何を言っても長期間無視された」と「イ. 交友関係や電話やメールを細かく監視された」などの精神的暴力は「DVだと思う」が6割台半ばと低く、「DVだと思わない」が2割台半ば近くある。その他「ウ. 他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」「エ. 「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた」などの精神的暴力、「オ. 生活費を渡してくれなかった」の経済的暴力、「ケ. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた」「コ. 避妊に協力してくれない」などの性的暴力も約7割から7割台半ばとDVであるとの認識が低い。「カ. 押されたり、つかまれたり、つねられたり、小突かれたりした」「キ. 平手で叩かれた」「ク. 蹴られたり、殴られたり、物を投げつけられたりした」「サ. 脅しや暴力により自分の気持ちに反して性的な行為を要求された」などの身体的暴力は8割強から9割近くが暴力であると認識しているが、「DVとは思わない」との回答も低いながらもみられる。

性別でみると、「ア. 何を言っても長期間無視された」「ウ. 他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」「キ. 平手で叩かれた」「ク. 蹴られたり、殴られたり、物を投げつけられたりした」「サ. 脅しや暴力により自分の気持ちに反して性的な行為を要求された」などのDVであるとの認識は性別での差はあまりみられず、その他の項目については、女性の方がDVとの認識が男性よりも高い。

前回調査と比べると、すべての項目で男女とも前回調査よりDVであるとの認識が高くなっており、特に男性は10ポイント以上高くなっている項目が多い。

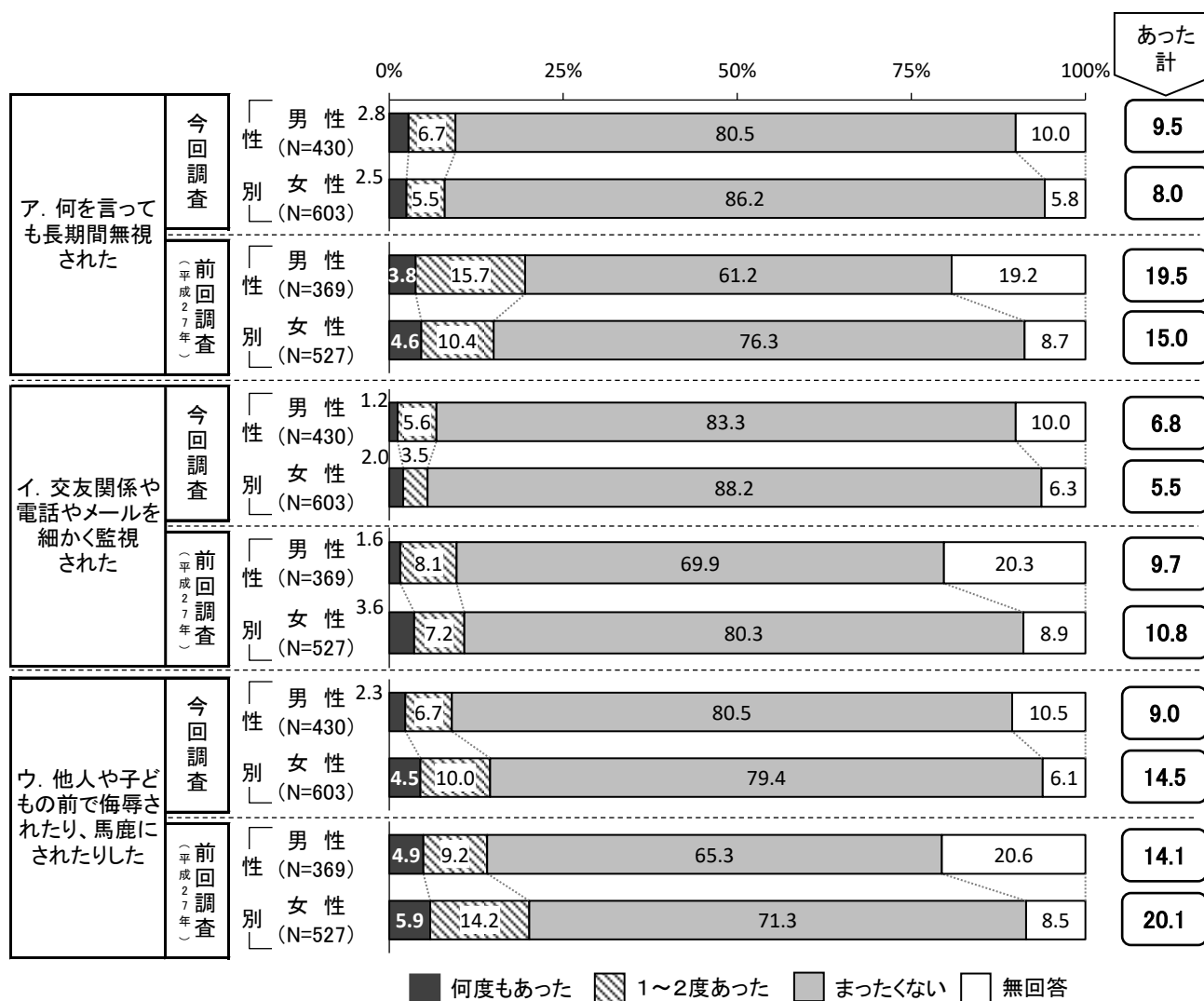
(2) ドメスティック・バイオレンスの経験

問15 配偶者や恋人などパートナーからの暴力(ドメスティック・バイオレンス)が社会問題になっています。そこで、(A)と(B)2つの質問にお答えください。

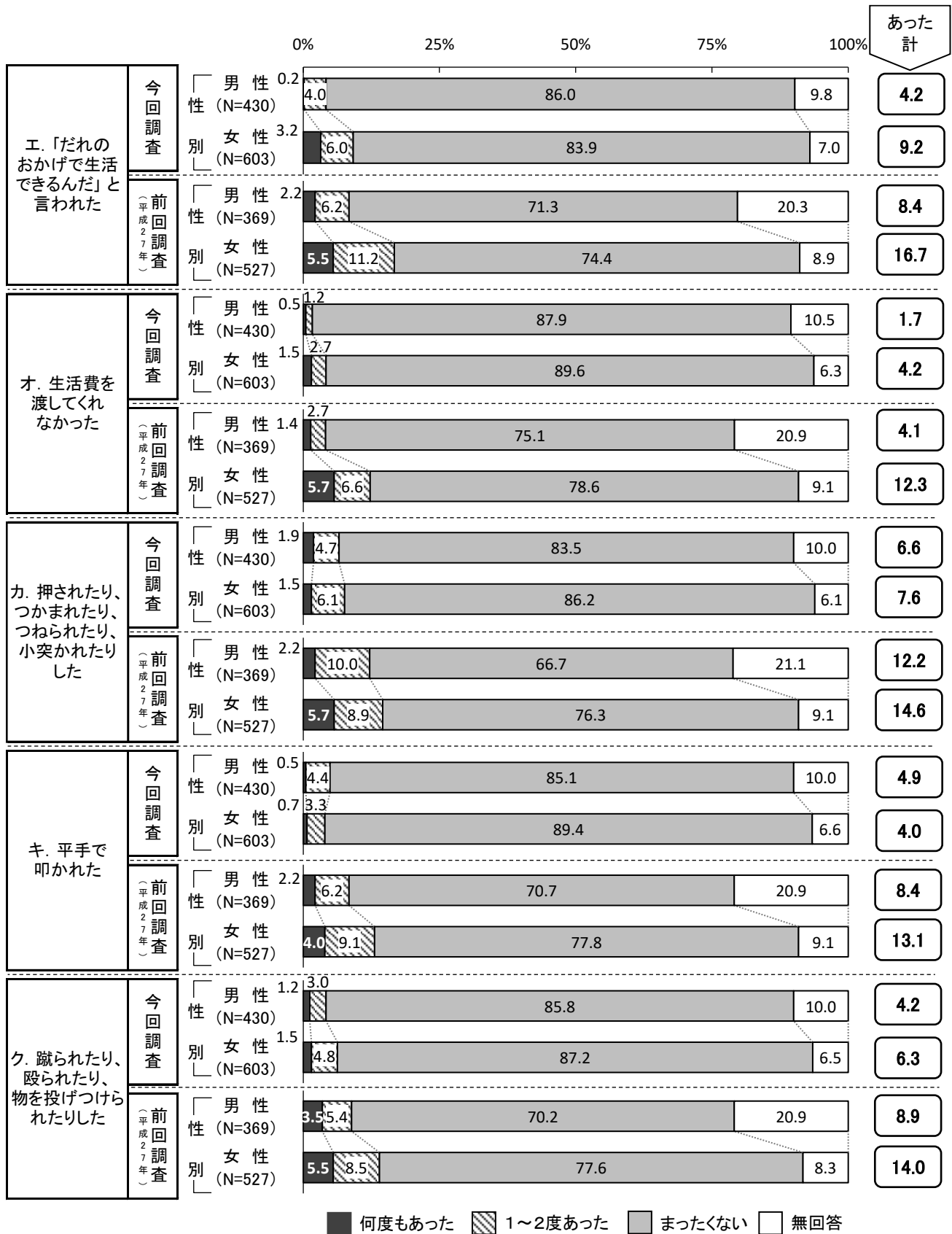
(B) 過去3年間に於いてあなたは配偶者や恋人などから、ア～サのような行為を受けたことがありますか。1～3のいずれかに○をつけてください。(○は各項目に1つ)

- DVの被害経験は男性2割強、女性2割台半ば。具体的には、「他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」「何を言っても長期間無視された」などの精神的暴力が多い。
- 前回調査に比べ、DV被害の経験者は男女とも減少。

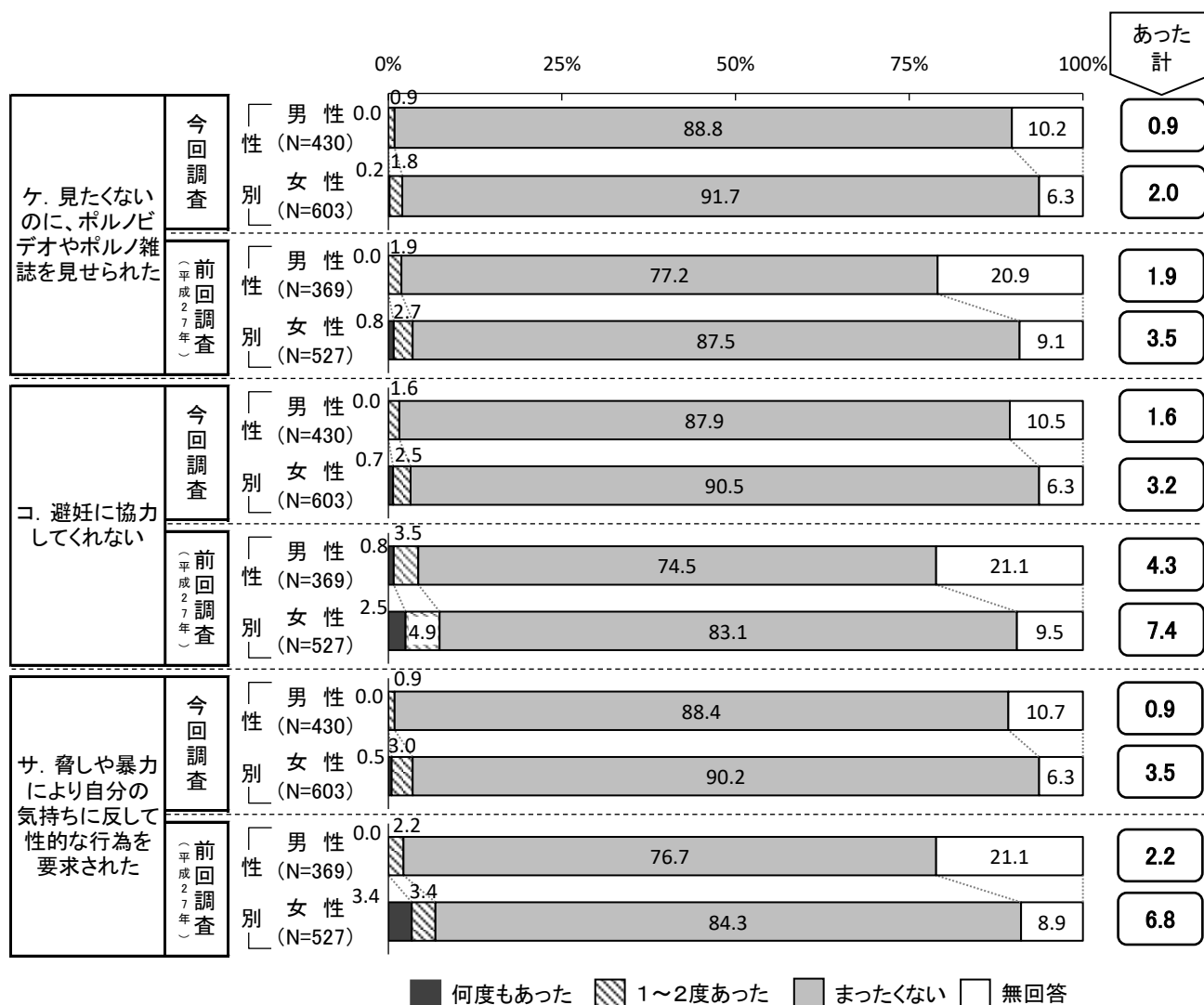
図表5-2(1) ドメスティック・バイオレンスの経験〔性別〕(前回調査比較)



図表5-2(2) ドメスティック・バイオレンスの経験〔性別〕(前回調査比較)



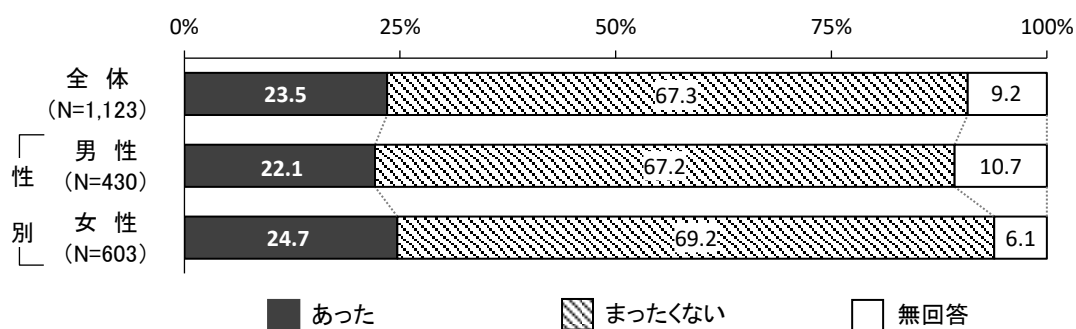
図表5-2(3) ドメスティック・バイオレンスの経験〔性別〕(前回調査比較)



DVの経験について「何度もあった」と「1~2度あった」をあわせた人はいずれの暴力でも該当者はおり、男性は「ア. 何を言っても長期間無視された」(男性9.5%、女性8.0%)、「イ. 交友関係や電話やメールを細かく監視された」(同6.8%、5.5%)、「キ. 平手で叩かれた」(同4.9%、4.0%)などが女性よりも多い。その他の項目は女性の被害が多く、特に「ウ. 他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」(同9.0%、14.5%)や「エ. 「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた」(同4.2%、9.2%)などは1割前後となっている。

前回調査と比べると、男女ともすべての項目で被害経験は少なくなっている。

図表5 - 3 ドメスティック・バイオレンスの経験（まとめ）[全体、性別]



すべての項目の暴力に一つでも「何度もあった」と「1～2度あった」と回答した人は23.5%、「まったくない」は67.3%となっている。男性のDV被害経験が「あった」は22.1%、女性は24.7%となっている。

図表5 - 4 ドメスティック・バイオレンスの経験（まとめ）[全体、年齢別、配偶関係別] (%)

		標本数	あった (%)	なま い っ た く	無 回 答
全体		1,123 100.0	264 23.5	756 67.3	103 9.2
年齢別	男性:18～29歳	38	13.2	78.9	7.9
	男性:30～39歳	42	38.1	57.1	4.8
	男性:40～49歳	61	19.7	75.4	4.9
	男性:50～59歳	83	21.7	71.1	7.2
	男性:60～69歳	107	18.7	71.0	10.3
	男性:70歳以上	98	23.5	55.1	21.4
	女性:18～29歳	58	15.5	81.0	3.4
	女性:30～39歳	82	31.7	65.9	2.4
	女性:40～49歳	116	26.7	72.4	0.9
	女性:50～59歳	114	28.1	66.7	5.3
	女性:60～69歳	140	25.0	69.3	5.7
	女性:70歳以上	92	17.4	63.0	19.6
	無回答	92	22.8	55.4	21.7
配偶関係別	男性:未婚	104	17.3	72.1	10.6
	男性:配偶者がいる(共働きである)	134	23.9	71.6	4.5
	男性:配偶者がいる(共働きでない)	154	22.7	66.2	11.0
	男性:配偶者とは死別・離別した	35	28.6	42.9	28.6
	女性:未婚	108	17.6	75.0	7.4
	女性:配偶者がいる(共働きである)	216	25.9	71.8	2.3
	女性:配偶者がいる(共働きでない)	173	25.4	67.6	6.9
	女性:配偶者とは死別・離別した	101	28.7	62.4	8.9
無回答	98	21.4	53.1	25.5	

年齢別でみると、男性の30代で「あった」が38.1%と最も高く、女性では30代で31.7%、50代で28.1%、40代と60代でも2割台半ばある。

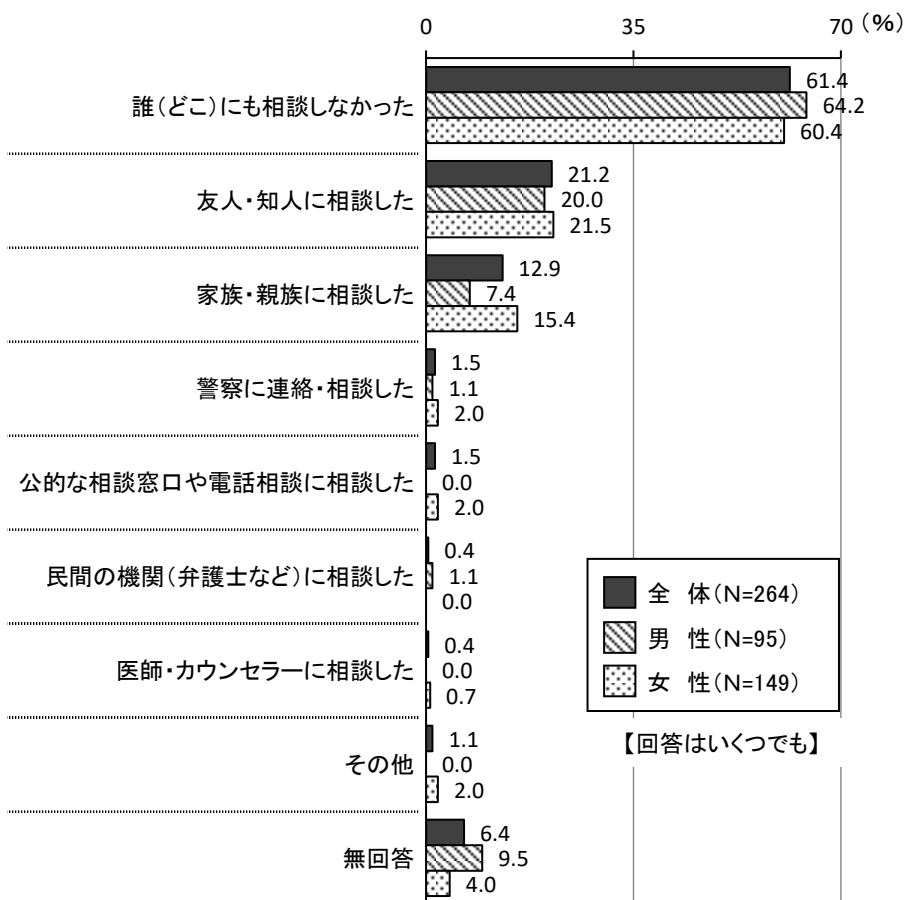
配偶関係別でみると、男女とも未婚で1割台半ばの人がDVの被害経験がある。また、男女とも配偶者と離・死別した人の被害経験が3割弱と高い。

(3) ドメスティック・バイオレンス被害の相談先

問16 【問15(B)で「1. 何度もあった」「2. 1～2度あった」を1つでも選ばれた方に】あなたがドメスティック・バイオレンス(DV)の被害にあったとき、誰(どこ)かに相談しましたか。(〇はいくつでも)

- DVの被害にあったときの相談先について「誰(どこ)にも相談しなかった」が男性6割台半ば、女性約6割。
- 主な相談先は「友人・知人に相談した」、「家族・親族に相談した」。

図表5-5 ドメスティック・バイオレンス被害の相談先 [全体、性別]



すべての項目の暴力に一つでも「何度もあった」と「1～2度あった」と回答した人に、被害にあったとき、誰(どこ)かに相談したかをたずねたところ、「誰(どこ)にも相談しなかった」が61.4%で最も高かった。相談した人の中では「友人・知人に相談した」(21.2%)、「家族・親族に相談した」(12.9%)が主な相談先となっている。警察や公的な相談機関、専門家等への相談した人はわずかであった。

性別でみると、男性は「誰(どこ)にも相談しなかった」(男性64.2%、女性60.4%)が女性よりも3.8ポイント多く、女性は「家族・親族に相談した」(同7.4%、15.4%)が男性よりも8.0ポイント多く、その他割合は低いが、「警察に連絡・相談した」「公的な相談窓口や電話相談に相談した」への相談もみられる。

図表5 - 6 ドメスティック・バイオレンス被害の相談先 [全体、年齢別]

		(%)									
		標本数	誰し(どこ)にも相談しなかつた	警察に連絡・相談した	公的な相談窓口や電話相談した	民間の機関(弁護士など)に相談した	医師・カウンセラーに相談した	家族・親族に相談した	友人・知人に相談した	その他	無回答
全体		264 100.0	162 61.4	4 1.5	4 1.5	1 0.4	1 0.4	34 12.9	56 21.2	3 1.1	17 6.4
年齢別	男性:18~29歳	5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0
	男性:30~39歳	16	81.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3	0.0	6.3
	男性:40~49歳	12	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3
	男性:50~59歳	18	61.1	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	27.8	0.0	5.6
	男性:60~69歳	20	45.0	5.0	0.0	0.0	0.0	5.0	30.0	0.0	15.0
	男性:70歳以上	23	65.2	0.0	0.0	4.3	0.0	13.0	13.0	0.0	13.0
	女性:18~29歳	9	55.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	11.1
	女性:30~39歳	26	46.2	3.8	0.0	0.0	0.0	19.2	42.3	3.8	0.0
	女性:40~49歳	31	54.8	3.2	3.2	0.0	0.0	16.1	22.6	3.2	0.0
	女性:50~59歳	32	71.9	3.1	6.3	0.0	0.0	15.6	15.6	0.0	3.1
	女性:60~69歳	35	57.1	0.0	0.0	0.0	2.9	20.0	17.1	0.0	8.6
	女性:70歳以上	16	81.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3	0.0	6.3
	無回答	21	57.1	0.0	4.8	0.0	0.0	19.0	23.8	0.0	9.5

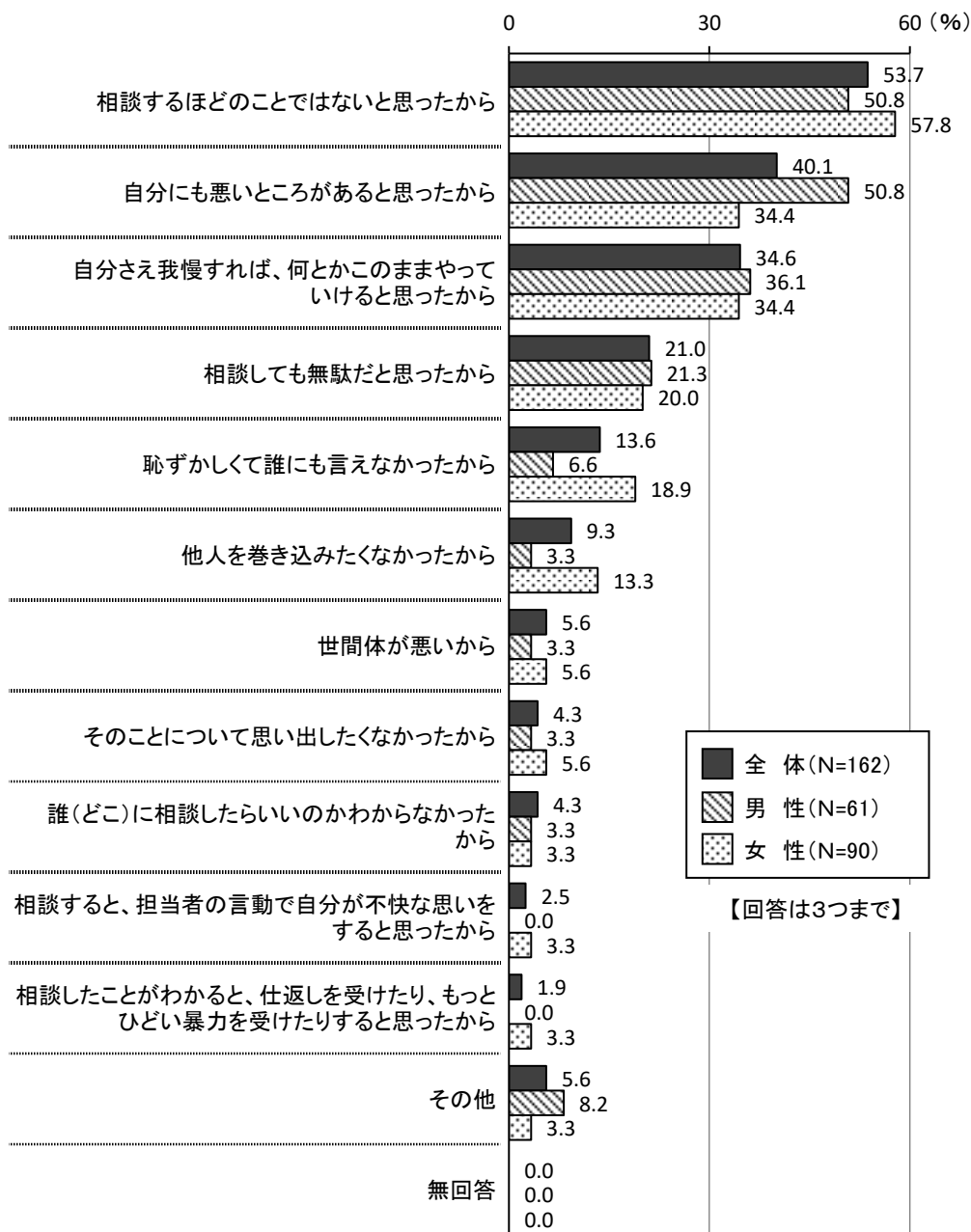
年齢別で見ると、「誰(どこ)にも相談しなかつた」は男性の30代と40代、女性の70歳以上で8割強と高い。「友人・知人に相談した」は男性の18~29歳、女性の30代で約4割から6割と多い。また、「家族・親族に相談した」も男性の18~29歳、女性の30代と60代で2割前後と多い。「警察に連絡・相談した」は男性の60代、女性の30代から50代、「公的な相談窓口や電話相談に相談した」は女性の40代と50代で見られる。

(4) ドメスティック・バイオレンス被害について相談をしなかった理由

問16-1【問16で「1. 誰（どこ）にも相談しなかった」を選ばれた方に】
その理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。（〇は3つ以内）

●DV被害について相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が上位3位。

図表5-7 ドメスティック・バイオレンス被害について相談をしなかった理由 [全体、性別]



DV被害について「誰（どこ）にも相談しなかった」と回答した人に相談しなかった理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が53.7%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が40.1%、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が34.6%、「相談しても無駄だと思ったから」が21.0%となっている。

性別で見ると、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」（男性50.8%、女性34.4%）が16.4ポイント女性よりも高く、女性は「相談するほどのことではないと思ったから」（同50.8%、57.8%）、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」（同6.6%、18.9%）、「他人を巻き込みたくなかったから」（同3.3%、13.3%）などが約7～12ポイント男性よりも高くなっている。

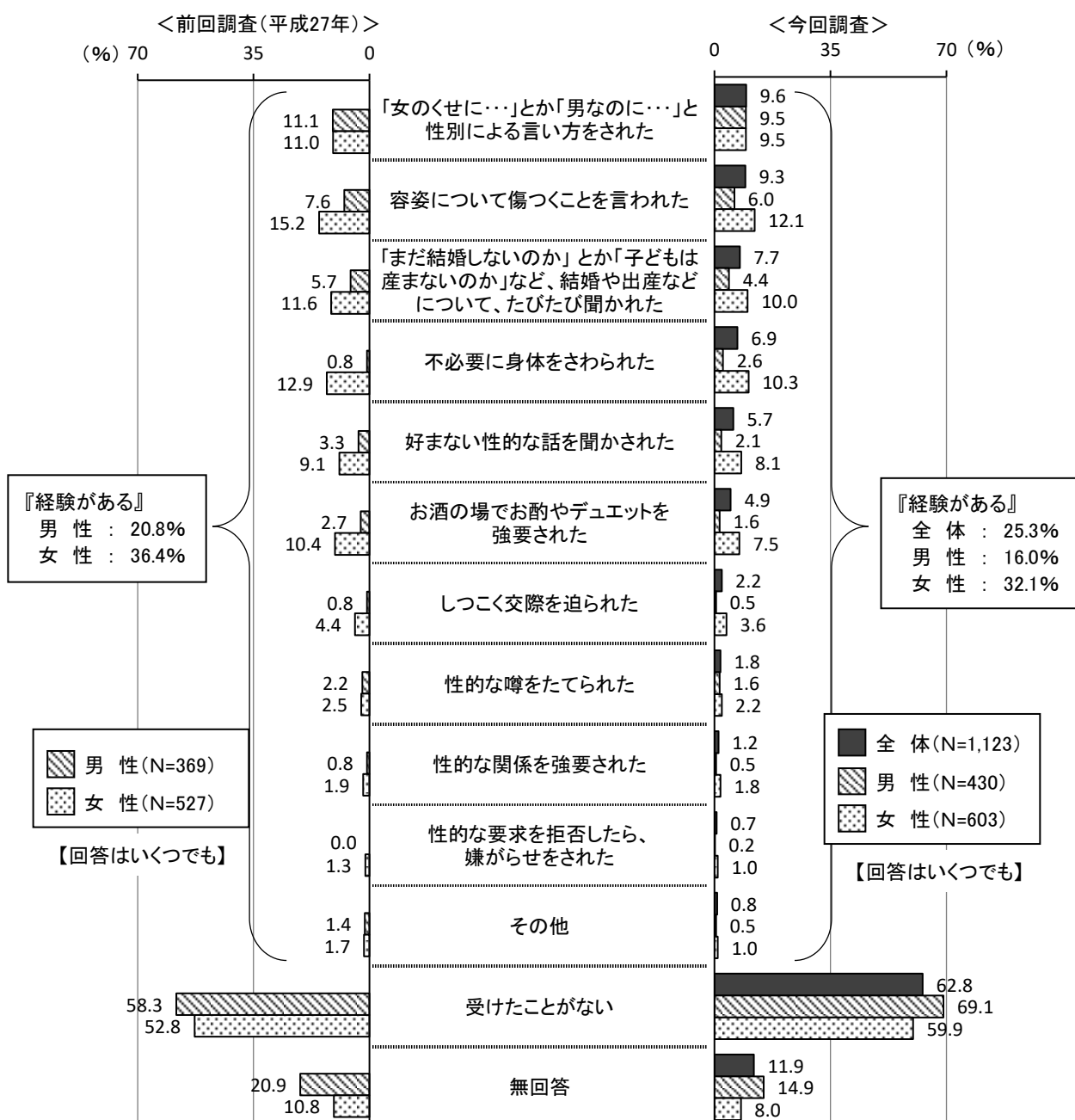
2. セクシュアル・ハラスメントについて

(1) セクシュアル・ハラスメントの経験

問17 あなたは、職場、地域、学校などで、次のようなセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたことがありますか。受けたことがあるものをすべて選んでください。（〇はいくつでも）

●セクシュアル・ハラスメントを受けた経験は男性1割台半ば、女性3割強。
 ●女性は「容姿について傷つくことを言われた」「不必要に身体にさわられた」「結婚や出産などについて、たびたび聞かれた」などの被害が1割強と多い。

図表5-8 セクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、性別] (前回調査比較)



職場、地域、学校などでのセクシュアル・ハラスメント（以下、セクハラという）の経験をたずねたところ、「受けたことがない」が62.8%でこれと無回答（11.9%）を除いた25.3%の人がセクハラを受けた経験がある。内容としては「女のくせに…」とか「男なのに…」と性別による言い方をされた」が9.6%と最も多く、次いで「容姿について傷つくことを言われた」が9.3%、「まだ結婚しないのか」とか「子どもは産まないのか」など、結婚や出産などについて、たびたび聞かれた」が7.7%などとなっている。

性別でみると、セクハラを受けた経験がある人は男性が16.0%、女性が32.1%と女性の方が多い。「女のくせに…」とか「男なのに…」と性別による言い方をされた」は男女とも9.5%と同率で、その他の被害は女性の割合の方が高い。特に「容姿について傷つくことを言われた」（男性6.0%、女性12.1%）、「不必要に身体をさわられた」（同2.6%、10.3%）、「まだ結婚しないのか」とか「子どもは産まないのか」など、結婚や出産などについて、たびたび聞かれた」（同4.4%、10.0%）、「好まない性的な話を聞かされた」（同2.1%、8.1%）、「お酒の場でお酌やデュエットを強要された」（同1.6%、7.5%）などは女性の方が約6～8ポイント男性よりも高い。

図表5-9 セクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、年齢別]

		標本数	好まない性的な話を聞かされた	容姿について傷つくことを言われた	「女のくせに…」とか「男なのに…」と性別による言い方をされた	お酒の場でお酌やデュエットを強要された	不必要に身体をさわられた	しつこく交際を迫られた	性的な噂をたてられた	性的な関係を強要された	性的な要求を拒否したら、嫌がらせをされた	その他	受けたことがない	無回答	経験がある (%)	
全体		1,123 100.0	64 5.7	104 9.3	108 9.6	55 4.9	78 6.9	25 2.2	20 1.8	86 7.7	14 1.2	8 0.7	9 0.8	705 62.8	134 11.9	25.3
年齢別	男性:18～29歳	38	5.3	15.8	21.1	2.6	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	2.6	73.7	0.0	26.3	
	男性:30～39歳	42	9.5	9.5	16.7	7.1	4.8	2.4	4.8	9.5	0.0	2.4	2.4	71.4	0.0	28.6
	男性:40～49歳	61	1.6	11.5	11.5	1.6	4.9	1.6	6.6	11.5	1.6	0.0	0.0	65.6	11.5	22.9
	男性:50～59歳	83	2.4	4.8	8.4	1.2	1.2	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	71.1	12.0	16.9
	男性:60～69歳	107	0.0	2.8	5.6	0.9	2.8	0.0	0.9	0.9	0.9	0.0	0.0	70.1	17.8	12.1
	男性:70歳以上	98	0.0	2.0	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	66.3	28.6	5.1
	女性:18～29歳	58	12.1	20.7	10.3	5.2	6.9	5.2	0.0	12.1	0.0	1.7	1.7	58.6	0.0	41.4
	女性:30～39歳	82	8.5	13.4	9.8	8.5	13.4	3.7	2.4	18.3	2.4	0.0	2.4	61.0	1.2	37.8
	女性:40～49歳	116	6.9	12.9	9.5	6.9	12.9	5.2	4.3	12.9	4.3	2.6	0.0	62.9	6.0	31.1
	女性:50～59歳	114	14.0	13.2	13.2	13.2	16.7	4.4	3.5	11.4	2.6	0.9	1.8	55.3	4.4	40.3
	女性:60～69歳	140	5.7	6.4	5.0	8.6	7.9	2.1	0.7	5.7	0.7	0.7	0.7	64.3	8.6	27.1
	女性:70歳以上	92	3.3	10.9	9.8	0.0	2.2	2.2	1.1	2.2	0.0	0.0	0.0	55.4	25.0	19.6
無回答	92	6.5	6.5	13.0	3.3	5.4	1.1	0.0	7.6	1.1	1.1	1.1	51.1	23.9	25.0	

年齢別でみると、セクハラを受けた経験がある人は女性の18～29歳と50代で4割強と多い。また30代でも37.8%と4割弱ある。内容は18～29歳は「容姿について傷つくことを言われた」（20.7%）、30代では「まだ結婚しないのか」とか「子どもは産まないのか」など、結婚や出産などについて、たびたび聞かれた」（18.3%）、50代では「不必要に身体をさわられた」（16.7%）の被害が多い。男性は年齢の低い層でセクハラ被害が多い。

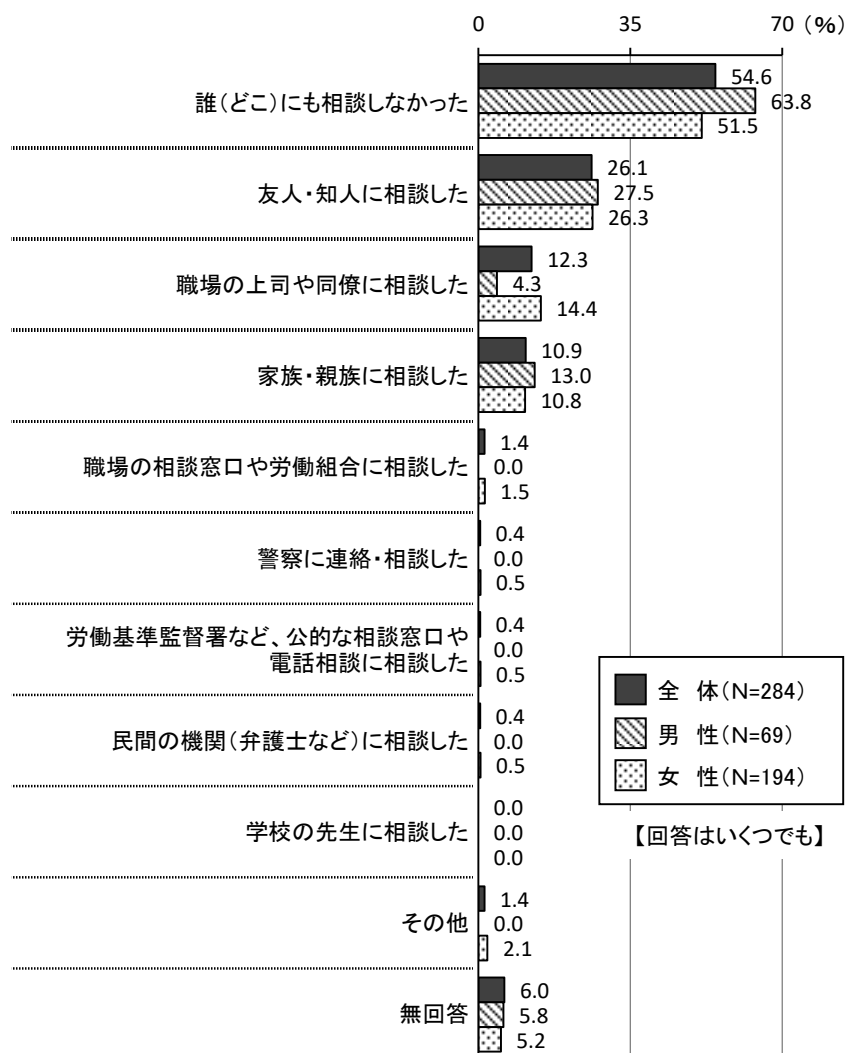
(2) セクシュアル・ハラスメント被害の相談先

問17-1【問17でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験がある方に】

あなたがセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたとき、誰（どこ）かに相談しましたか。（〇はいくつでも）

- セクハラ被害にあったときの相談先について「誰（どこ）にも相談しなかった」が男性6割台半ば、女性5割強。
- 主な相談先は「友人・知人に相談した」、「職場の上司や同僚に相談した」「家族・親族に相談した」。

図表5-10 セクシュアル・ハラスメント被害の相談先 [全体、性別]



セクハラ被害を受けた人に被害があったとき、誰（どこ）かに相談したかをたずねたところ、「誰（どこ）にも相談しなかった」が54.6%と最も多かった。相談した人の中では「友人・知人に相談した」(26.1%)、「職場の上司や同僚に相談した」(12.3%)、「家族・親族に相談した」(10.9%)が主な相談先となっている。警察や公的な相談機関、専門家等への相談した人はわずかであった。

性別で見ると、男性は「誰（どこ）にも相談しなかった」(男性63.8%、女性51.5%)が女性よりも12.3ポイント多く、女性は「職場の上司や同僚に相談した」(同4.3%、14.4%)が10.1ポイント多い。

図表5 - 11 セクシュアル・ハラスメント被害の相談先 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	誰(どこ)にも相談しなかつた	警察に連絡・相談した	公的な相談窓口や電話	労働基準監督署など、民間の機関(弁護士など)に相談した	組合の相談窓口や労働	職場の相談窓口や労働	職場の上司や同僚に相談した	学校の先生に相談した	家族・親族に相談した	友人・知人に相談した	その他	無回答
全体		284 100.0	155 54.6	1 0.4	1 0.4	1 0.4	4 1.4	35 12.3	0 0.0	31 10.9	74 26.1	4 1.4	17 6.0	
年齢別	男性:18~29歳	10	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	30.0	0.0	0.0	
	男性:30~39歳	12	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3	25.0	0.0	8.3	
	男性:40~49歳	14	64.3	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	35.7	0.0	0.0	
	男性:50~59歳	14	64.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	28.6	0.0	0.0	
	男性:60~69歳	13	53.8	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	7.7	15.4	0.0	23.1	
	男性:70歳以上	5	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	
	女性:18~29歳	24	45.8	4.2	0.0	4.2	0.0	4.2	0.0	29.2	45.8	4.2	0.0	
	女性:30~39歳	31	61.3	0.0	0.0	0.0	0.0	9.7	0.0	3.2	29.0	0.0	3.2	
	女性:40~49歳	36	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	8.3	27.8	0.0	0.0	
	女性:50~59歳	46	52.2	0.0	2.2	0.0	6.5	23.9	0.0	13.0	19.6	2.2	2.2	
	女性:60~69歳	38	57.9	0.0	0.0	0.0	0.0	13.2	0.0	2.6	15.8	5.3	7.9	
	女性:70歳以上	18	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	27.8	0.0	27.8	
無回答		23	52.2	0.0	0.0	0.0	4.3	17.4	0.0	4.3	21.7	0.0	13.0	

年齢別でみると、「誰(どこ)にも相談しなかつた」は男性の60代を除く年代で6割から8割と高い。女性は30代で61.3%と女性の中では高い。「友人・知人に相談した」は女性の18~29歳で45.8%と最も高く、また、「家族・親族に相談した」も29.2%で他の年代に比べて高くなっている。

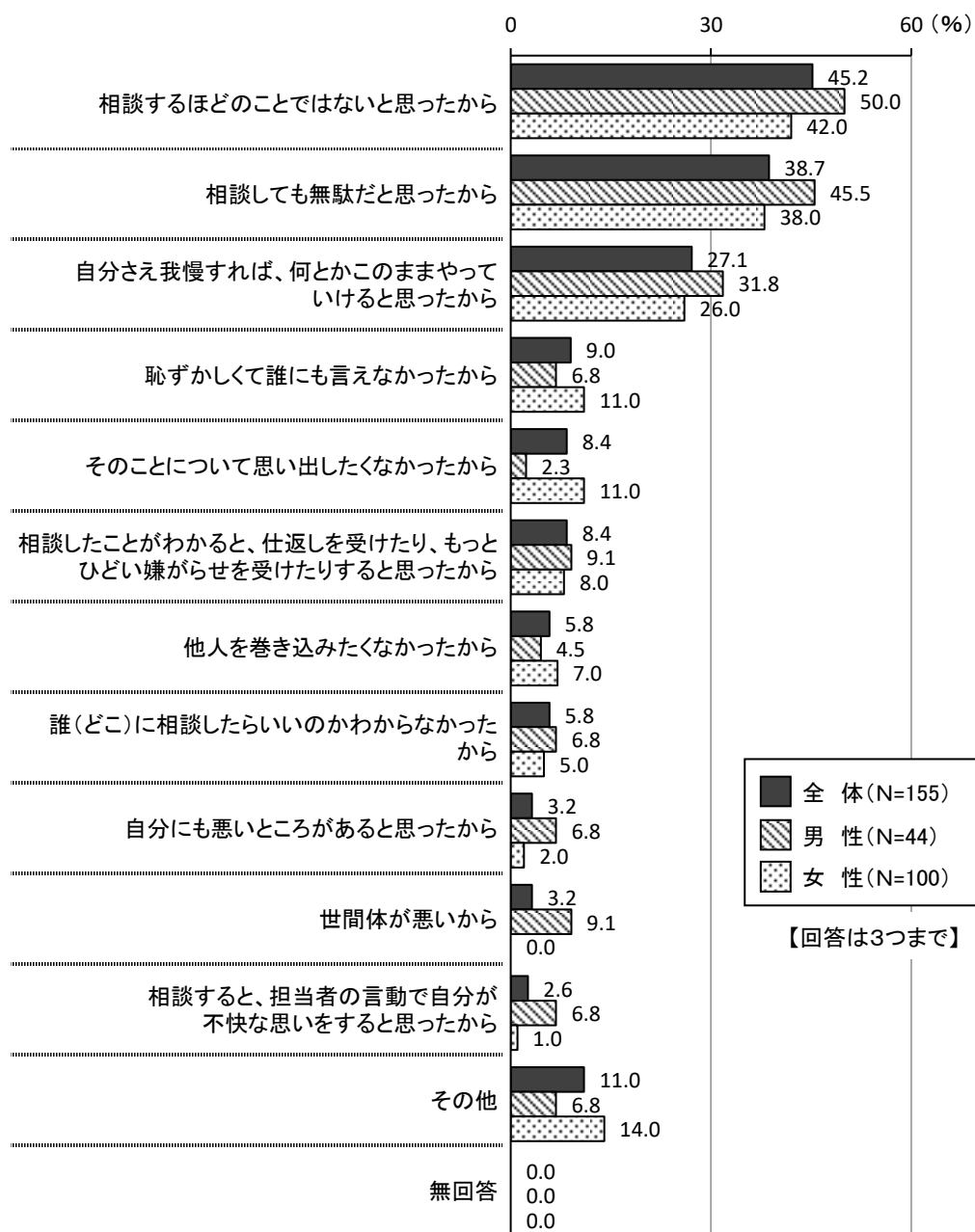
「職場の上司や同僚に相談した」は女性の40代と50代で2割台と高い。

(3) セクシュアル・ハラスメント被害について相談をしなかった理由

問17-2【問17-1で「1. 誰（どこ）にも相談しなかった」を選ばれた方に】
その理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。（〇は3つ以内）

●セクハラ被害について相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が上位3位。

図表5-12 セクシュアル・ハラスメント被害について相談をしなかった理由〔全体、性別〕



セクハラ被害について「誰（どこ）にも相談しなかった」と回答した人に相談しなかった理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が45.2%と最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が38.7%、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が27.1%となっている。

性別で見ると、男性は上位3位にあげられた項目の割合が女性よりも約6～8ポイント高い。女性は「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」（男性6.8%、女性11.0%）、「そのことについて思い出さなくなかったから」（同2.3%、11.0%）が1割強で男性よりも高くなっている。

第6章 リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて

1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツについての考え方

リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは（性と生殖に関する健康／権利）

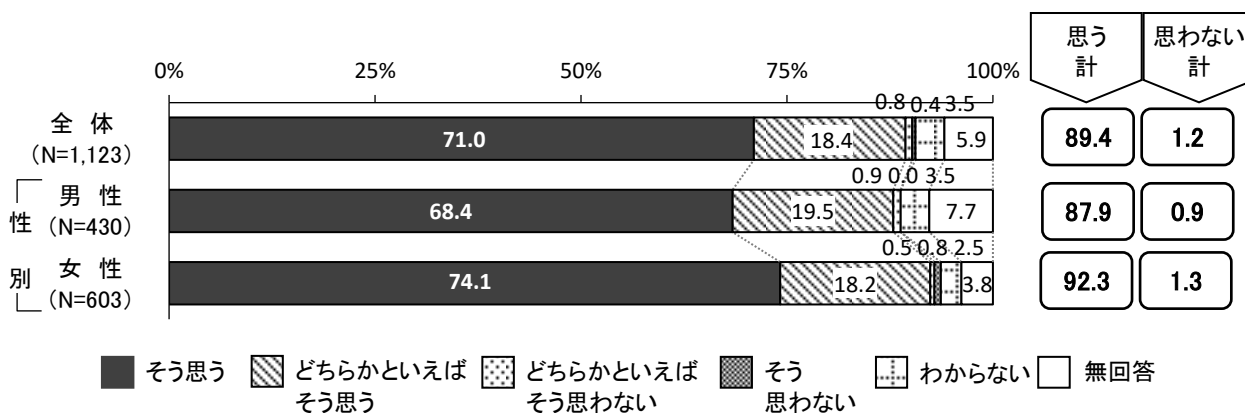
国連の国際人口開発会議（カイロ、1994年）で提唱された権利。人々が政治的・社会的に左右されず、安全で満ち足りた性生活を営むことができ、子どもを「持つ」「持たない」「何人持つか」を決める自由を持ち、子どもの数、出産時期を自由に決定し、そのための健康を享受できること、またそれに関する情報と手段を得ることができることが認められています。

問18 次のア、イのそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
（○は各項目に1つ）

- 「妊娠や性に関して夫婦等の中で十分に話し合うべき」は『思う』が約9割、「妊娠や性に関して夫婦等の中で合意できないときは女性の意思を尊重すべき」は7割強。
- 「妊娠や性に関して夫婦等の中で合意できないときは女性の意思を尊重すべき」の方が『思う』の割合は約16ポイント低く、特に「そう思う」は4割弱で倍近く低い。

ア. 妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである

図表6-1 妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである〔全体、性別〕



「ア. 妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである」という考え方について、「そう思う」が71.0%と最も高く、「どちらかといえばそう思う」が18.4%でこれらをあわせた『思う』は89.4%となっている。「そう思わない」(0.4%)と「どちらかといえばそう思う」(0.8%)をあわせた『思わない』は1.2%とわずかである。

性別でみると、女性は『思う』が92.3%であるが、そのうち強い「そう思う」が74.1%と男性(68.4%)を5.7ポイント上回っている。

図表6-2 妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである
[全体、年齢別、配偶関係別]

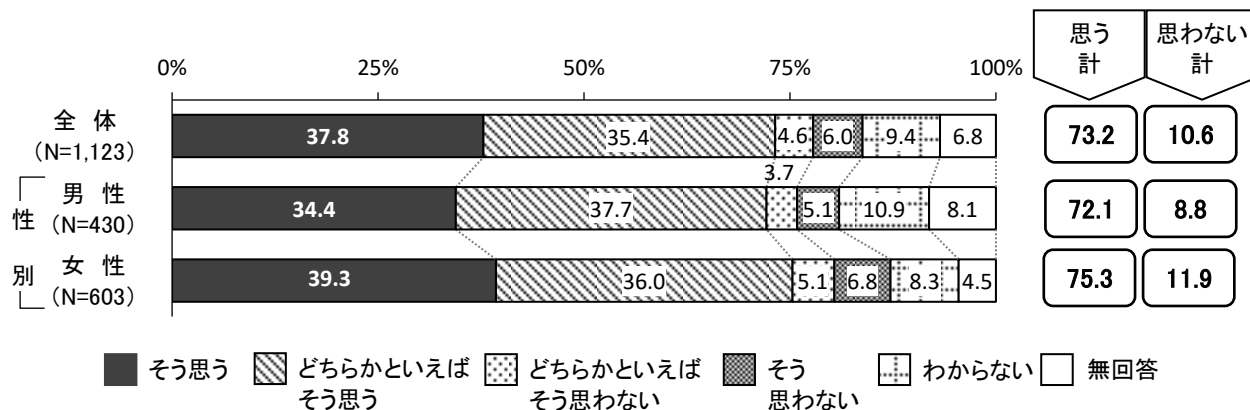
										(%)
		標本数	そう思う	そう思うかといえ	そう思わな	そう思わな	わからない	無回答	思う計	思わない計
全体		1,123 100.0	797 71.0	207 18.4	9 0.8	5 0.4	39 3.5	66 5.9	1,004 89.4	14 1.2
年齢別	男性:18~29歳	38	81.6	10.5	0.0	0.0	5.3	2.6	92.1	0.0
	男性:30~39歳	42	78.6	16.7	0.0	0.0	4.8	0.0	95.3	0.0
	男性:40~49歳	61	72.1	21.3	0.0	0.0	4.9	1.6	93.4	0.0
	男性:50~59歳	83	75.9	16.9	0.0	0.0	3.6	3.6	92.8	0.0
	男性:60~69歳	107	64.5	22.4	1.9	0.0	2.8	8.4	86.9	1.9
	男性:70歳以上	98	54.1	22.4	2.0	0.0	2.0	19.4	76.5	2.0
	女性:18~29歳	58	91.4	6.9	0.0	0.0	1.7	0.0	98.3	0.0
	女性:30~39歳	82	85.4	12.2	0.0	0.0	1.2	1.2	97.6	0.0
	女性:40~49歳	116	80.2	15.5	0.0	2.6	1.7	0.0	95.7	2.6
	女性:50~59歳	114	71.1	24.6	0.0	0.9	2.6	0.9	95.7	0.9
	女性:60~69歳	140	68.6	24.3	0.0	0.7	1.4	5.0	92.9	0.7
	女性:70歳以上	92	57.6	17.4	3.3	0.0	6.5	15.2	75.0	3.3
	無回答	92	63.0	14.1	2.2	0.0	9.8	10.9	77.1	2.2
配偶関係別	男性:未婚	104	67.3	20.2	1.0	0.0	7.7	3.8	87.5	1.0
	男性:配偶者がいる(共働きである)	134	74.6	19.4	0.7	0.0	2.2	3.0	94.0	0.7
	男性:配偶者がいる(共働きでない)	154	67.5	20.1	1.3	0.0	1.9	9.1	87.6	1.3
	男性:配偶者とは死別・離別した	35	57.1	17.1	0.0	0.0	2.9	22.9	74.2	0.0
	女性:未婚	108	77.8	13.9	0.0	1.9	4.6	1.9	91.7	1.9
	女性:配偶者がいる(共働きである)	216	80.6	16.7	0.0	0.5	0.5	1.9	97.3	0.5
	女性:配偶者がいる(共働きでない)	173	70.5	19.1	1.7	0.6	2.9	5.2	89.6	2.3
	女性:配偶者とは死別・離別した	101	64.4	25.7	0.0	1.0	2.0	6.9	90.1	1.0
無回答	98	59.2	13.3	2.0	0.0	11.2	14.3	72.5	2.0	

年齢別でみると、女性は年齢が低くなるほど『思う』の割合が高くなり、18~29歳では98.3%と高率である。男性も年齢が低い層で『思う』の割合が高いが、30代で95.3%と最も高く、18~29歳では92.1%とやや低くなり、「わからない」の割合が5.3%と他の年代に比べて高くなっている。

配偶関係別でみると、男女とも既婚の共働きで『思う』(男性94.0%、女性97.3%)の割合が他の配偶関係に比べて高い。また、男女とも未婚では「わからない」の割合が比較的高い。

イ. 妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で合意できない場合には女性の意思が尊重されるべきである

図表6-3 妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で合意できない場合には女性の意思が尊重されるべきである [全体、性別]



「妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で合意できない場合には女性の意思が尊重されるべきである」という考え方について、「そう思う」(37.8%)と「どちらかといえばそう思う」(35.4%)が3割台半ばで同程度となっており、これらをあわせた『思う』は73.2%となっている。「妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである」に比べ、『思う』の割合が16.2ポイント低く、特に強い「そう思う」の割合は33.2ポイントと倍近く低く、やや消極的な「どちらかといえばそう思う」の割合が17ポイント高くなっている。「そう思わない」(6.0%)と「どちらかといえばそう思わない」(4.6%)をあわせた『思わない』は10.6%である。

性別でみると、女性は『思う』が75.3%で、そのうち強い「そう思う」は39.3%と男性(34.4%)を4.9ポイント上回っている。

図表6-4 妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で合意できない場合には女性の意思が尊重されるべきである〔全体、年齢別、配偶関係別〕

		標本数	そう思う	そう思うかといえ	そう思わな	そう思わな	わからない	無回答	思う計	思わない計
全体		1,123 100.0	424 37.8	398 35.4	52 4.6	67 6.0	106 9.4	76 6.8	822 73.2	119 10.6
年齢別	男性:18~29歳	38	42.1	26.3	7.9	5.3	13.2	5.3	68.4	13.2
	男性:30~39歳	42	28.6	31.0	7.1	14.3	19.0	0.0	59.6	21.4
	男性:40~49歳	61	32.8	39.3	6.6	3.3	16.4	1.6	72.1	9.9
	男性:50~59歳	83	37.3	44.6	1.2	4.8	7.2	4.8	81.9	6.0
	男性:60~69歳	107	35.5	39.3	4.7	3.7	9.3	7.5	74.8	8.4
	男性:70歳以上	98	31.6	35.7	0.0	4.1	8.2	20.4	67.3	4.1
	女性:18~29歳	58	27.6	43.1	12.1	10.3	6.9	0.0	70.7	22.4
	女性:30~39歳	82	42.7	34.1	4.9	9.8	7.3	1.2	76.8	14.7
	女性:40~49歳	116	38.8	35.3	5.2	12.9	7.8	0.0	74.1	18.1
	女性:50~59歳	114	40.4	43.0	3.5	5.3	7.0	0.9	83.4	8.8
	女性:60~69歳	140	47.9	31.4	5.0	3.6	6.4	5.7	79.3	8.6
	女性:70歳以上	92	30.4	32.6	3.3	1.1	14.1	18.5	63.0	4.4
	無回答	92	42.4	21.7	5.4	4.3	10.9	15.2	64.1	9.7
配偶関係別	男性:未婚	104	29.8	37.5	6.7	5.8	15.4	4.8	67.3	12.5
	男性:配偶者がいる(共働きである)	134	35.1	41.0	3.7	6.0	10.4	3.7	76.1	9.7
	男性:配偶者がいる(共働きでない)	154	39.0	35.1	2.6	4.5	9.7	9.1	74.1	7.1
	男性:配偶者とは死別・離別した	35	28.6	40.0	0.0	2.9	5.7	22.9	68.6	2.9
	女性:未婚	108	34.3	34.3	6.5	9.3	13.9	1.9	68.6	15.8
	女性:配偶者がいる(共働きである)	216	40.7	37.0	6.9	7.9	5.1	2.3	77.7	14.8
	女性:配偶者がいる(共働きでない)	173	41.6	37.6	3.5	5.2	6.4	5.8	79.2	8.7
	女性:配偶者とは死別・離別した	101	39.6	34.7	3.0	4.0	10.9	7.9	74.3	7.0
無回答	98	39.8	19.4	5.1	5.1	11.2	19.4	59.2	10.2	

年齢別でみると、男女とも50代で『思う』が8割強と高い。『思わない』は男性の30代で21.4%、女性の18~29歳で22.4%と年齢の低い層で高い傾向がみられる。

配偶関係別でみると、男女の未婚と女性の既婚の共働きで『思わない』の割合が1割台と比較的高い。

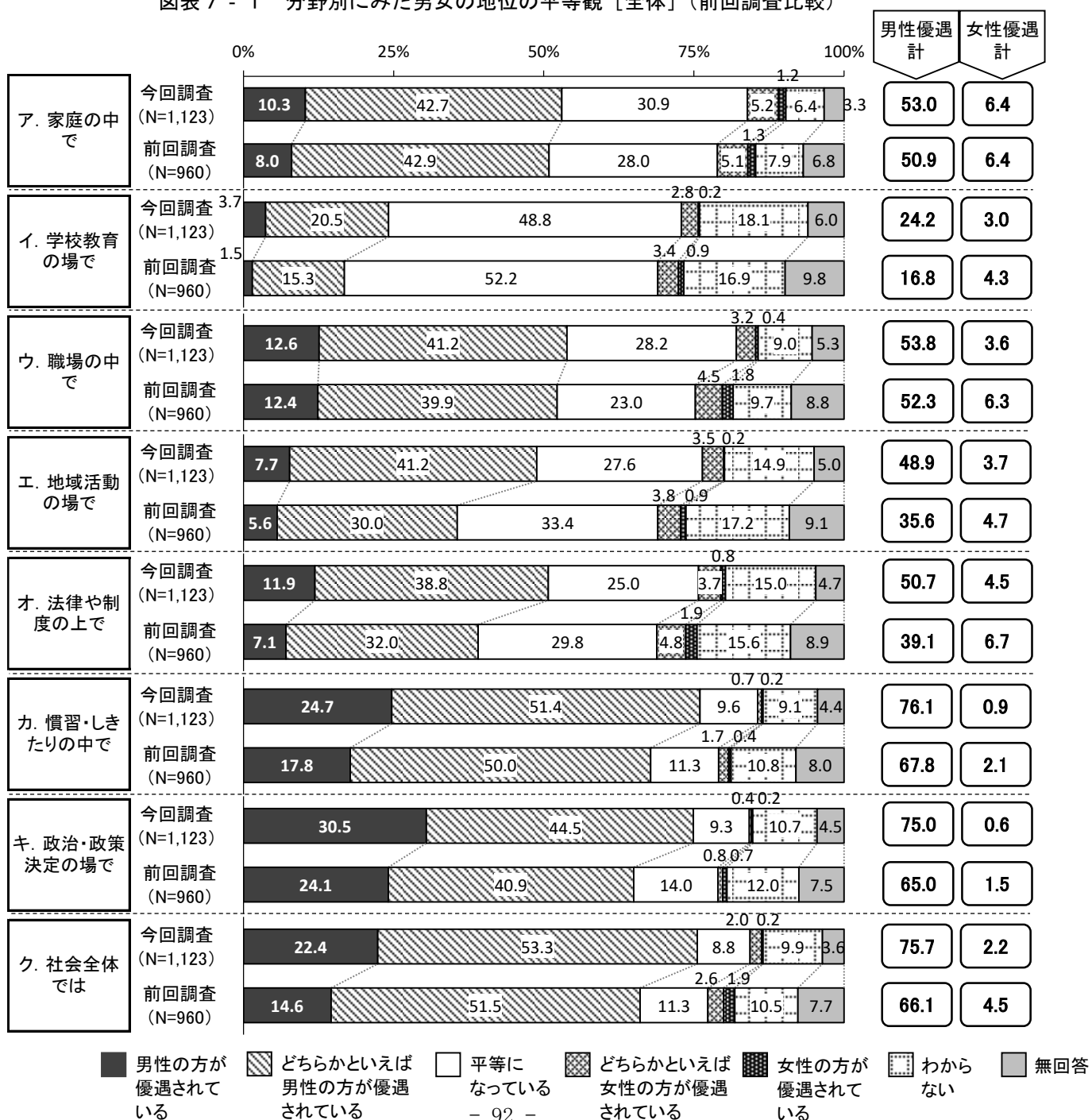
第7章 男女の平等観について

1. 分野別にみた男女の地位の平等観

問19 現在の社会において、男女の地位は平等になっていると思いますか。次のア～クの各項目についてそれぞれ1つずつ選んでください。(○は各項目に1つ)

- 「平等になっている」が高い分野は「学校教育の場」が48.8%。その他の分野は『男性優遇』の方が高く、特に「慣習・しきたり」(76.1%)「政治・政策決定の場」(75.0%)、「社会全体」(75.7%)では7割を超えている。
- 「家庭の中」「職場の中」は前回調査より「平等になっている」がやや増加。その他の分野は「平等になっている」が減少し、『男性優遇』の割合が増加。

図表7-1 分野別にみた男女の地位の平等観 [全体] (前回調査比較)

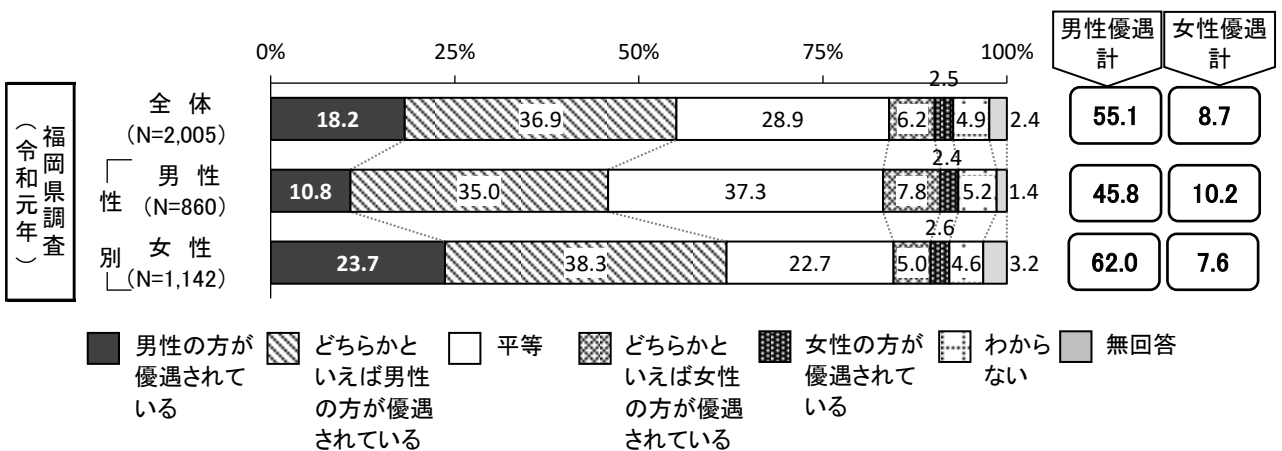
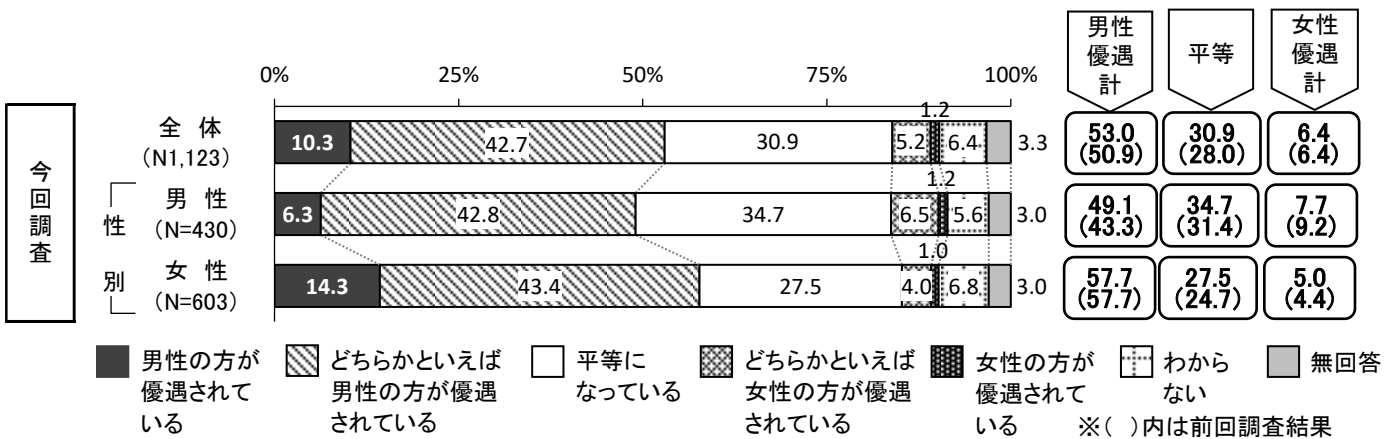


社会における8種類の分野において、男女の地位の平等感について、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等になっている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が優遇されている」の5段階でたずねた。

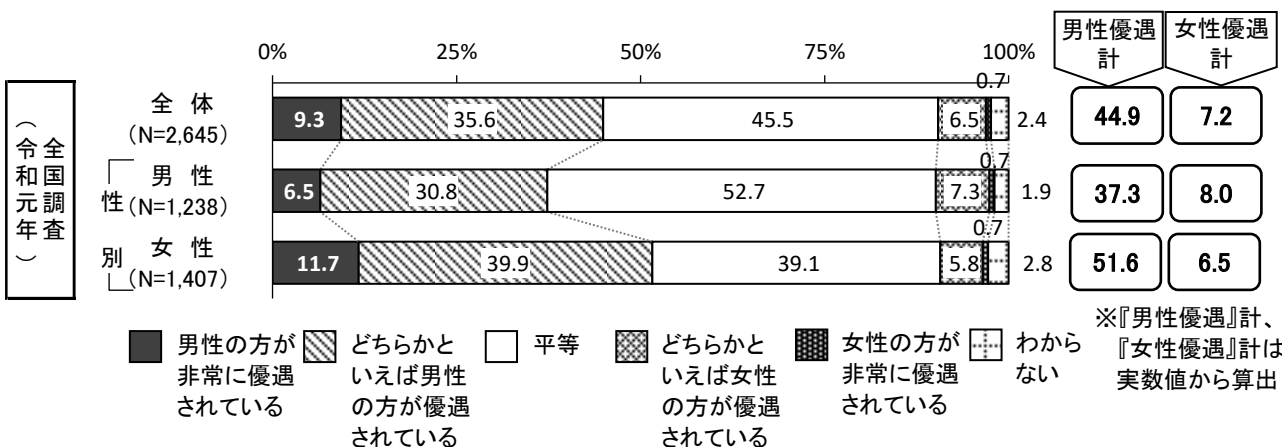
「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計を『男性優遇』、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計を『女性優遇』とする。

ア. 家庭の中で

図表7-2 家庭の中での男女の地位の平等観 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



資料：令和元年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



※『男性優遇』計、『女性優遇』計は実数値から算出

資料：令和元年 内閣府男女共同参画に関する世論調査結果

Ⅱ 調査結果

家庭の中では、『男性優遇』は53.0%、「平等になっている」は30.9%、『女性優遇』は6.4%である。『男性優遇』は5割強あるが、「平等になっている」の割合は8分野中2番目に高い結果となっている。

性別で見ると、『男性優遇』は、女性が57.7%であるのに対し男性は49.1%と女性の方が8.6ポイント高く、「平等になっている」は男性が34.7%、女性が27.5%と女性の方が男性より7.2ポイント低い。女性は男性が優遇されていると感じているのに対し、男性は女性が感じているほど自身は優遇されているとは認識していない傾向にあり、男性と女性で家庭の中での平等観について認識が異なっている。

前回調査と比べると、男性の『男性優遇』が5.8ポイント増加し、また、男女とも「平等になっている」が3ポイント前後増えている。

福岡県調査と比べると、今回調査の方が男性は『男性優遇』、女性は「平等になっている」の認識がやや高い。

全国調査と比べると、設問項目の違いがあるため正確な比較はできないが、「平等になっている」は今回調査の方が男女とも約12~18ポイント低く、『男性優遇』は男性で11.8ポイント、女性で6.1ポイント高いなど家庭生活での平等観は男女とも全国より低くなっている。

図表7-3 家庭の中での男女の地位の平等観 [全体、年齢別、配偶関係別]

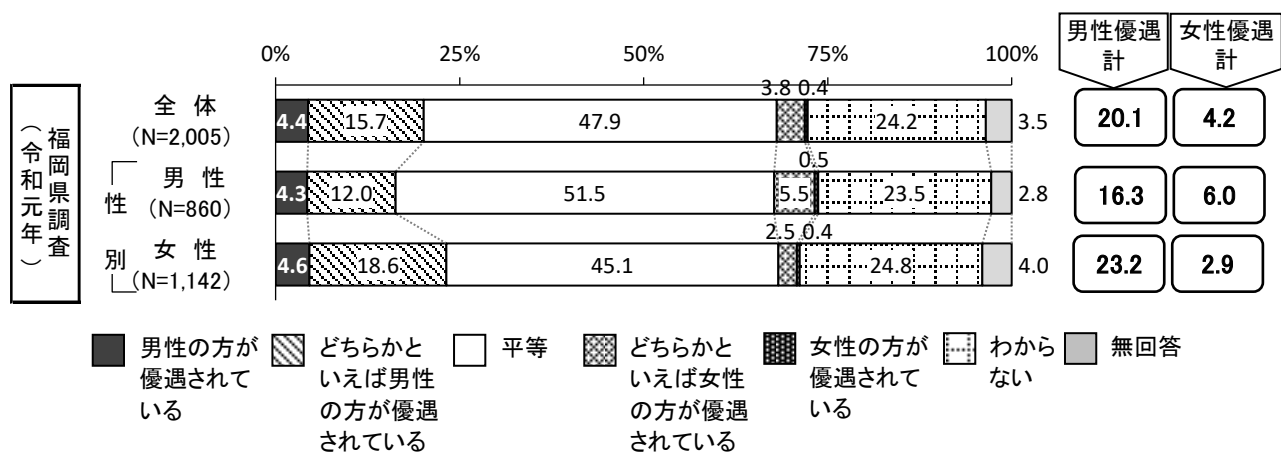
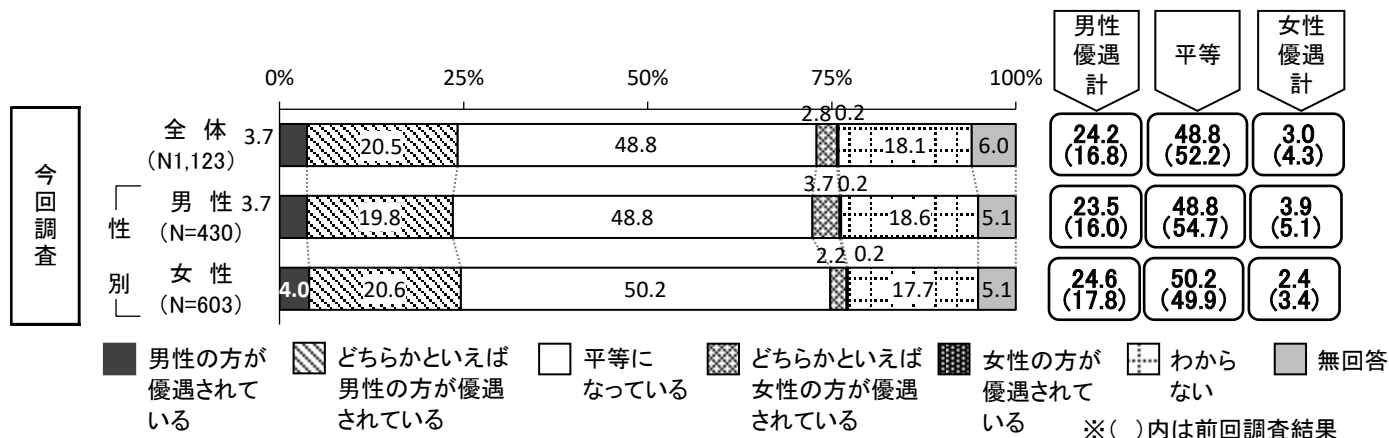
		標本数							(%)		
			男性が優遇されている	どちらか優遇されている	平等になっている	どちらか優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		1,123 100.0	116 10.3	480 42.7	347 30.9	58 5.2	13 1.2	72 6.4	37 3.3	596 53.0	71 6.4
年齢別	男性:18~29歳	38	13.2	26.3	31.6	10.5	2.6	15.8	0.0	39.5	13.1
	男性:30~39歳	42	7.1	40.5	33.3	11.9	2.4	4.8	0.0	47.6	14.3
	男性:40~49歳	61	3.3	34.4	41.0	11.5	0.0	9.8	0.0	37.7	11.5
	男性:50~59歳	83	4.8	41.0	38.6	6.0	2.4	4.8	2.4	45.8	8.4
	男性:60~69歳	107	4.7	54.2	31.8	2.8	0.0	2.8	3.7	58.9	2.8
	男性:70歳以上	98	8.2	43.9	32.7	4.1	1.0	3.1	7.1	52.1	5.1
	女性:18~29歳	58	5.2	48.3	22.4	8.6	1.7	13.8	0.0	53.5	10.3
	女性:30~39歳	82	13.4	46.3	25.6	4.9	0.0	7.3	2.4	59.7	4.9
	女性:40~49歳	116	16.4	38.8	31.9	4.3	0.9	6.0	1.7	55.2	5.2
	女性:50~59歳	114	14.0	49.1	23.7	0.9	2.6	7.9	1.8	63.1	3.5
	女性:60~69歳	140	13.6	45.0	30.0	3.6	0.0	5.7	2.1	58.6	3.6
	女性:70歳以上	92	19.6	34.8	28.3	4.3	1.1	2.2	9.8	54.4	5.4
無回答	92	3.3	38.0	34.8	6.5	2.2	8.7	6.5	41.3	8.7	
配偶関係別	男性:未婚	104	7.7	31.7	34.6	8.7	1.0	13.5	2.9	39.4	9.7
	男性:配偶者がいる (共働きである)	134	5.2	46.3	38.1	5.2	0.7	2.2	2.2	51.5	5.9
	男性:配偶者がいる (共働きでない)	154	5.8	48.7	33.1	5.8	1.3	3.2	1.9	54.5	7.1
	男性:配偶者とは 死別・離別した	35	8.6	37.1	25.7	8.6	2.9	5.7	11.4	45.7	11.5
	女性:未婚	108	11.1	38.9	27.8	5.6	1.9	13.9	0.9	50.0	7.5
	女性:配偶者がいる (共働きである)	216	14.8	47.2	27.3	2.3	0.9	5.1	2.3	62.0	3.2
	女性:配偶者がいる (共働きでない)	173	13.9	42.8	32.4	5.8	1.2	2.3	1.7	56.7	7.0
	女性:配偶者とは 死別・離別した	101	17.8	43.6	19.8	3.0	0.0	8.9	6.9	61.4	3.0
無回答	98	3.1	35.7	35.7	6.1	2.0	9.2	8.2	38.8	8.1	

年齢別でみると、女性の50代で『男性優遇』が63.1%と最も高く、また30代と60代、男性の60代でも6割弱ある。男性の40代では「平等になっている」が41.0%と最も高くなっている。

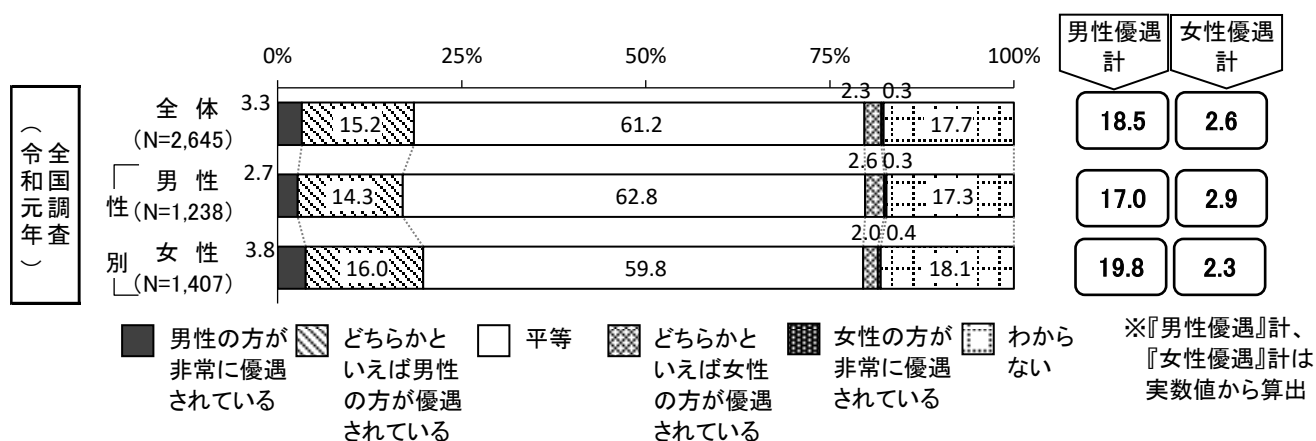
配偶関係別でみると、女性の既婚で共働きである人の『男性優遇』は62.0%と最も高く、共働きでない人(56.7%)より5.3ポイント高く、「平等になっている」(共働きである27.3%、共働きでない32.4%)は5.1ポイント低い。

イ. 学校教育の場で

図表7-4 学校教育の場での男女の地位の平等観 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



資料：令和元年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



資料：令和元年 内閣府男女共同参画に関する世論調査結果

学校教育の場では、8分野の中で「平等になっている」が48.8%と最も高い。ただし、「わからない」は18.1%と高く、学校に関わる機会の少ない人では実際の様子が把握しにくいという状況もうかがえる。

性別で見ると、「平等になっている」(男性48.8%、女性50.2%)は男女とも5割前後で同程度となっている。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が約7～8ポイント増加し、男性の「平等になっている」は5.9ポイント減少している。

福岡県調査と比べると、男性は県よりも『男性優遇』が7.2ポイント高く、女性は「平等になっている」が県よりも5.1ポイント高くなっている。

全国調査と比べると、今回調査の方が男女とも「平等になっている」は男性で14ポイント、女性で9.6ポイント低く、『男性優遇』が約5～7ポイント高い。

図表7-5 学校教育の場での男女の地位の平等観 [全体、年齢別]

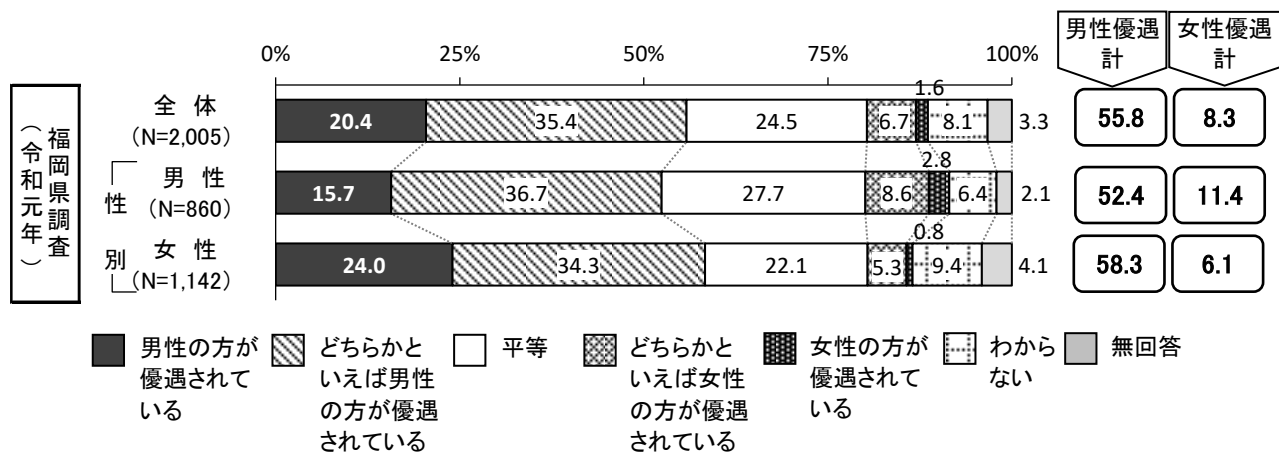
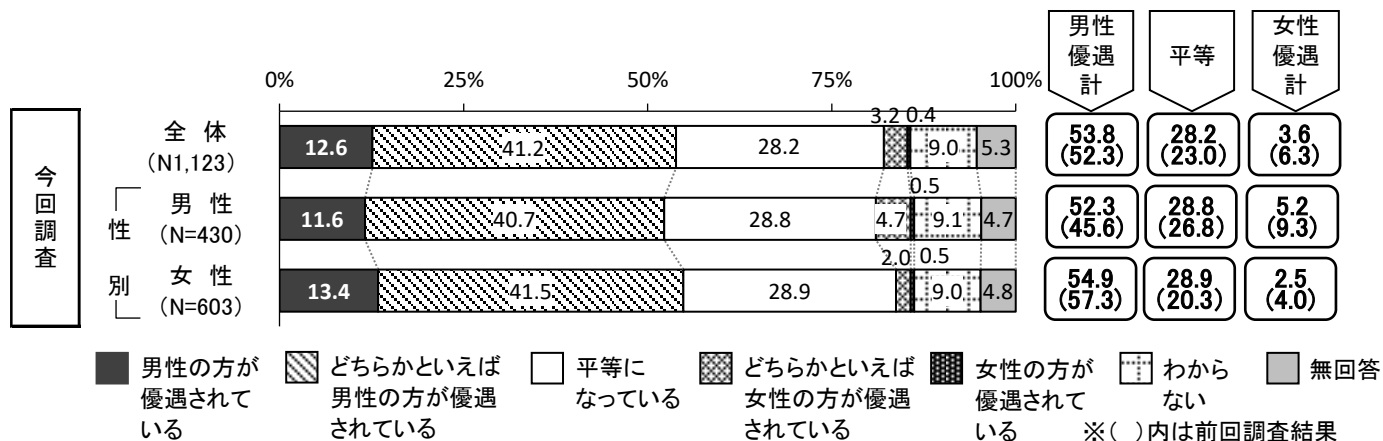
(%)

		標本数	男性が優遇されている	どちらかというに優遇されている	平等になっている	どちらかというに優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		1,123 100.0	41 3.7	230 20.5	548 48.8	32 2.8	2 0.2	203 18.1	67 6.0	271 24.2	34 3.0
年齢別	男性:18～29歳	38	7.9	21.1	50.0	7.9	0.0	13.2	0.0	29.0	7.9
	男性:30～39歳	42	4.8	19.0	57.1	4.8	0.0	14.3	0.0	23.8	4.8
	男性:40～49歳	61	4.9	13.1	50.8	6.6	0.0	24.6	0.0	18.0	6.6
	男性:50～59歳	83	3.6	19.3	56.6	2.4	1.2	15.7	1.2	22.9	3.6
	男性:60～69歳	107	2.8	18.7	50.5	1.9	0.0	19.6	6.5	21.5	1.9
	男性:70歳以上	98	2.0	24.5	35.7	3.1	0.0	20.4	14.3	26.5	3.1
	女性:18～29歳	58	5.2	24.1	55.2	8.6	0.0	6.9	0.0	29.3	8.6
	女性:30～39歳	82	3.7	19.5	57.3	0.0	1.2	17.1	1.2	23.2	1.2
	女性:40～49歳	116	1.7	21.6	58.6	3.4	0.0	12.9	1.7	23.3	3.4
	女性:50～59歳	114	3.5	26.3	44.7	0.9	0.0	21.1	3.5	29.8	0.9
	女性:60～69歳	140	4.3	20.7	45.7	1.4	0.0	21.4	6.4	25.0	1.4
	女性:70歳以上	92	6.5	10.9	43.5	1.1	0.0	21.7	16.3	17.4	1.1
	無回答	92	1.1	23.9	39.1	3.3	0.0	17.4	15.2	25.0	3.3

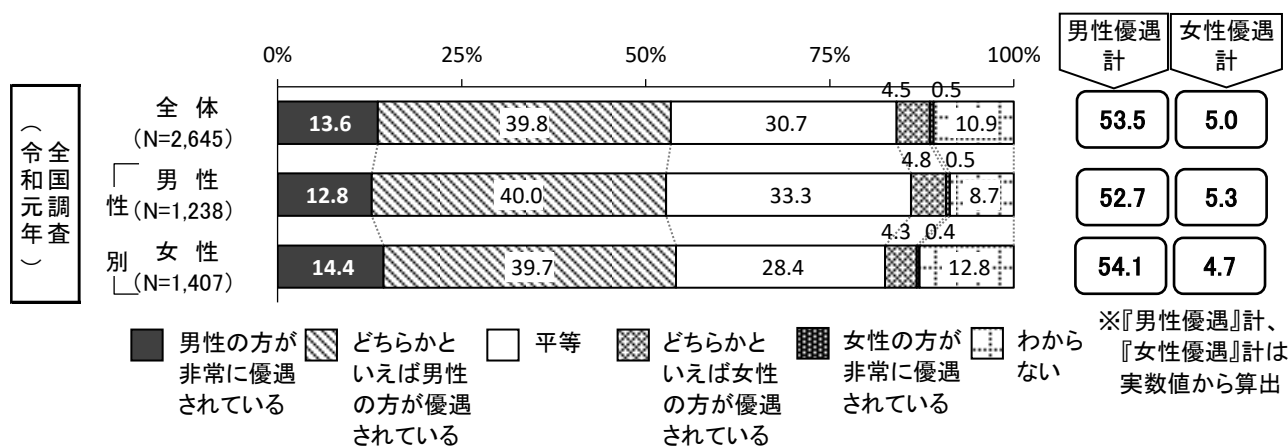
年齢別でみると、「平等になっている」は男性の70歳以上を除く年代と女性の40代以下で5割を超えており、特に女性の40代で58.6%と最も高い。しかし、男女の18～29歳と女性の50代では『男性優遇』が3割弱と他の年代に比べ比較的高くなっている。

ウ. 職場の中で

図表7-6 職場の中での男女の地位の平等観 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



資料：令和元年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



資料：令和元年 内閣府男女共同参画に関する世論調査結果

職場での『男性優遇』は53.8%と5割を超えているが、「平等になっている」は28.2%と8分野中3番目の高さとなっている。

性別で見ると、『男性優遇』(男性が52.3%、女性54.9%)と「平等になっている」(同28.8%、28.9%)の割合は男女とも同程度となっている。

前回調査と比べると、男性は『男性優遇』が6.7ポイント増、女性は「平等になっている」が8.6ポイント増えている。

福岡県調査と比べると、女性の『男性優遇』が3.4ポイント今回調査の方が低く、「平等になっている」が6.8ポイント高い。男性は『男性優遇』『平等である』の割合は今回調査とほぼ同様の結果となっている。

全国調査と比べると、男性の「平等になっている」が4.5ポイント今回調査の方が低く、その他の男性の調査結果は今回調査と同程度の割合となっている。

図表7-7 職場の中での男女の地位の平等観 [全体、年齢別、職業の有無別]

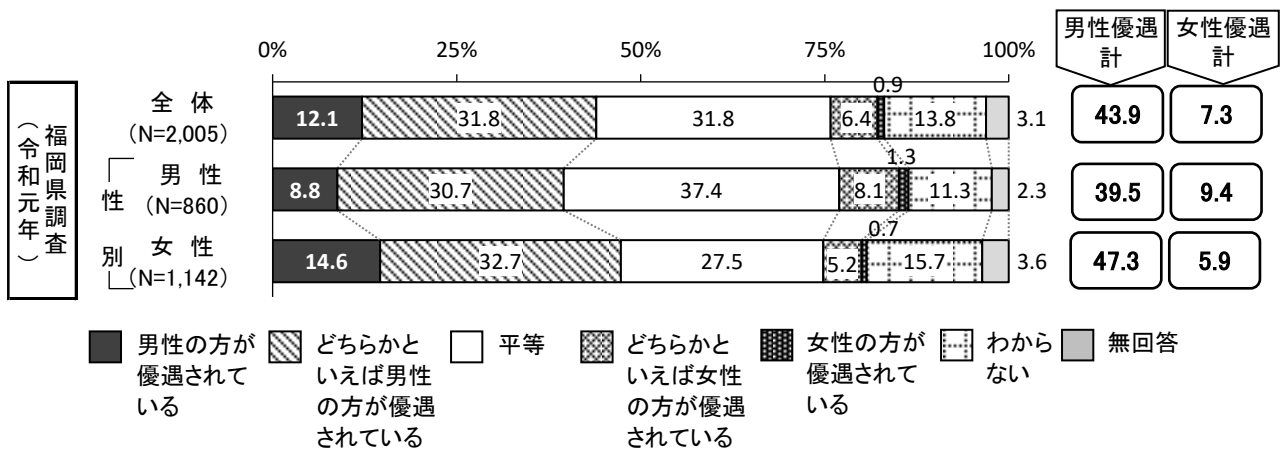
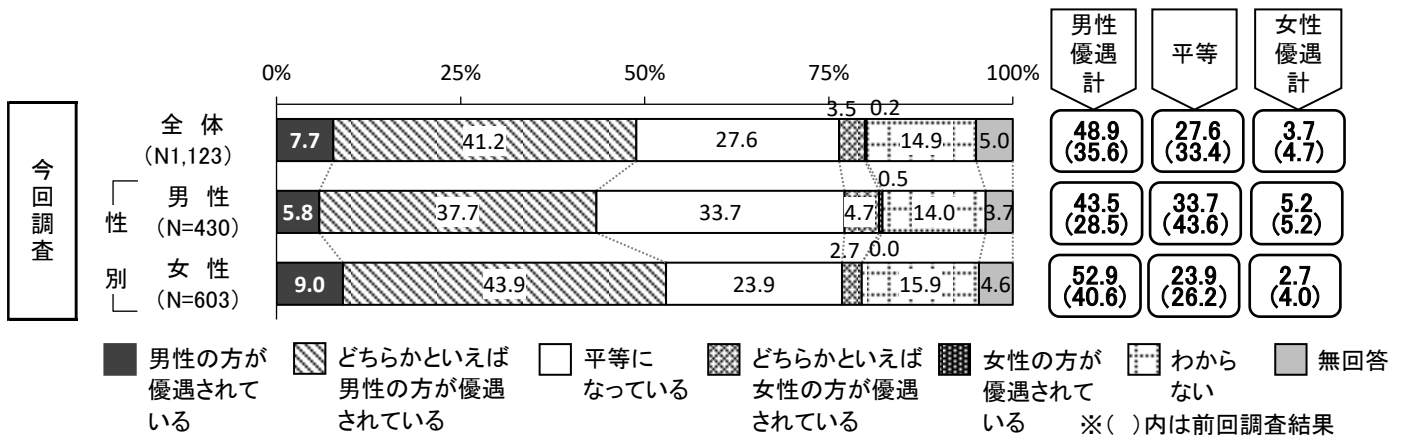
		標本数	男性が優遇さ	えどちらかい	平等になっ	えどちらかい	女性が優遇さ	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		1,123 100.0	142 12.6	463 41.2	317 28.2	36 3.2	5 0.4	101 9.0	59 5.3	605 53.8	41 3.6
年齢別	男性:18~29歳	38	13.2	44.7	23.7	2.6	0.0	13.2	2.6	57.9	2.6
	男性:30~39歳	42	14.3	52.4	21.4	4.8	0.0	7.1	0.0	66.7	4.8
	男性:40~49歳	61	9.8	32.8	36.1	8.2	1.6	11.5	0.0	42.6	9.8
	男性:50~59歳	83	10.8	36.1	39.8	4.8	1.2	7.2	0.0	46.9	6.0
	男性:60~69歳	107	12.1	43.0	29.0	3.7	0.0	6.5	5.6	55.1	3.7
	男性:70歳以上	98	10.2	40.8	20.4	4.1	0.0	11.2	13.3	51.0	4.1
	女性:18~29歳	58	15.5	46.6	29.3	0.0	0.0	8.6	0.0	62.1	0.0
	女性:30~39歳	82	12.2	46.3	29.3	1.2	0.0	9.8	1.2	58.5	1.2
	女性:40~49歳	116	14.7	37.1	36.2	4.3	1.7	4.3	1.7	51.8	6.0
	女性:50~59歳	114	11.4	42.1	33.3	1.8	0.0	7.9	3.5	53.5	1.8
	女性:60~69歳	140	10.7	45.0	25.7	2.9	0.7	7.1	7.9	55.7	3.6
	女性:70歳以上	92	18.5	33.7	18.5	0.0	0.0	17.4	12.0	52.2	0.0
無回答	92	13.0	41.3	20.7	4.3	0.0	9.8	10.9	54.3	4.3	
職業の有無別	男性:職業をもっている	287	11.5	39.4	35.9	5.6	0.7	4.9	2.1	50.9	6.3
	男性:職業をもっていない	140	11.4	44.3	14.3	2.9	0.0	17.9	9.3	55.7	2.9
	女性:職業をもっている	383	8.9	44.4	35.8	2.3	0.5	5.5	2.6	53.3	2.8
	女性:職業をもっていない	214	22.0	36.4	16.4	1.4	0.5	15.0	8.4	58.4	1.9
	無回答	99	12.1	40.4	22.2	4.0	0.0	9.1	12.1	52.5	4.0

年齢別でみると、男女とも30代以下で『男性優遇』の割合が6割前後から6割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。「平等になっている」は男性の50代で39.8%、男女の40代で3割台半ばと比較的高い。

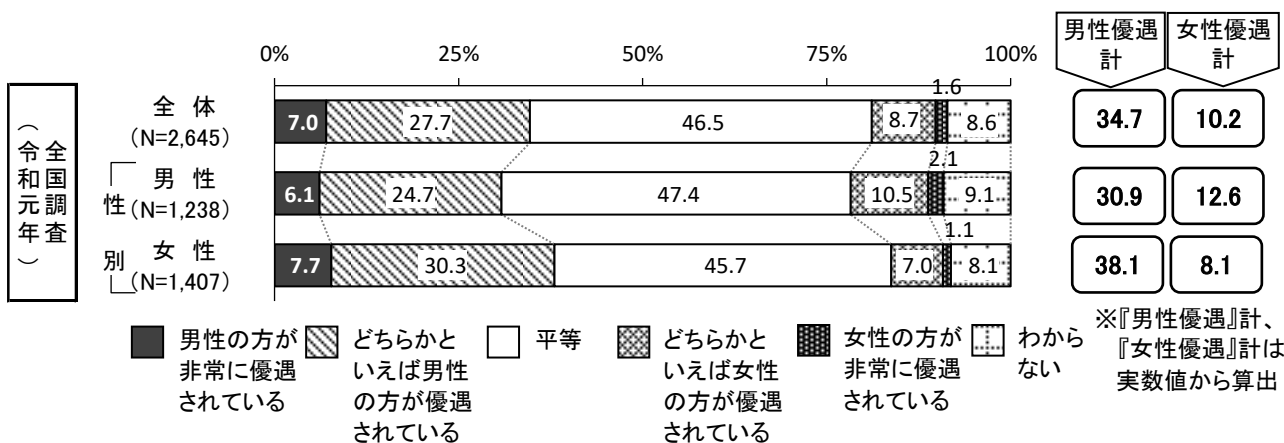
職業の有無別でみると、職業を持っている男女では、『男性優遇』が5割強と女性でやや高く、「平等になっている」は3割台半ばで同程度となっている。また、男女とも職業を持っているの方が『男性優遇』の割合が持っていない人に比べて約5ポイント低く、「平等になっている」の割合が約19~22ポイント高い。

エ. 地域活動の場で

図表7-8 地域活動の場での男女の地位の平等観 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



資料：令和元年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



※自治会やPTAなどの地域活動の場

資料：令和元年 内閣府男女共同参画に関する世論調査結果

地域活動の場では、『男性優遇』が48.9%、「平等である」は27.6%となっている。

性別で見ると、「平等になっている」は男性が33.7%、女性が23.9%と男性の方が9.8ポイント高く、『男性優遇』は男性が43.5%、女性は52.9%と女性の方が9.4ポイント高い。地域活動の場での平等観は性別によって異なっていることがわかる。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が12～15ポイント増え、「平等になっている」が男性で9.9ポイント、女性で2.3ポイント減少しており、特に男性において男性優遇との認識が高くなっている。

福岡県調査と比べると、『男性優遇』は今回調査の方が男性で4.0ポイント、女性で5.6ポイント高く、「平等になっている」が男女とも約4ポイント低くなっており、今回調査の方が男性優遇との認識が高い。

全国調査と比べると、今回調査の方が男女とも「平等になっている」は男性で13.7ポイント、女性で21.8ポイント低く、『男性優遇』は約13～15ポイント高いなど地域活動での平等観は、男女とも全国と比べるとかなり低くなっている。

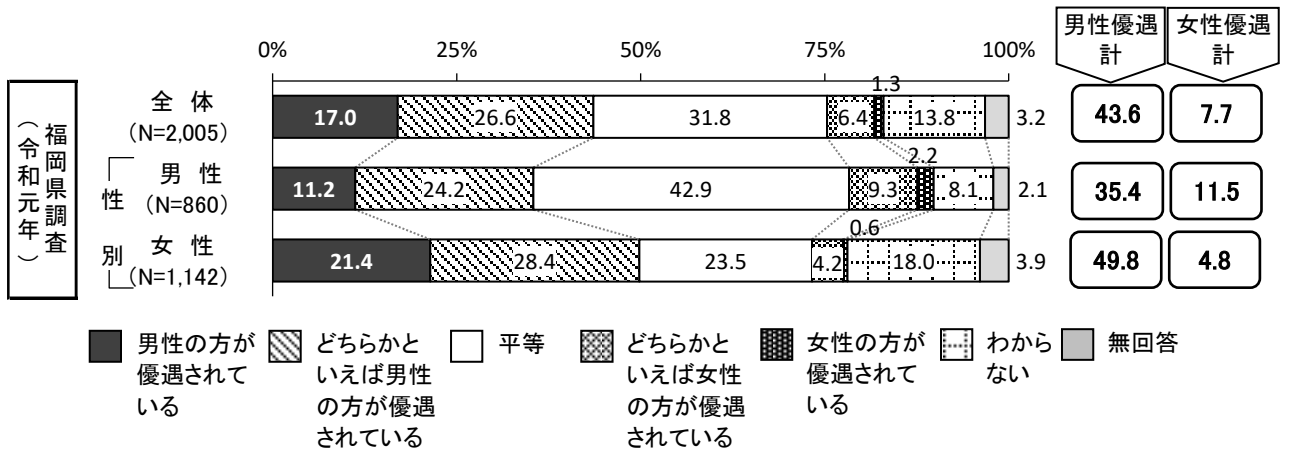
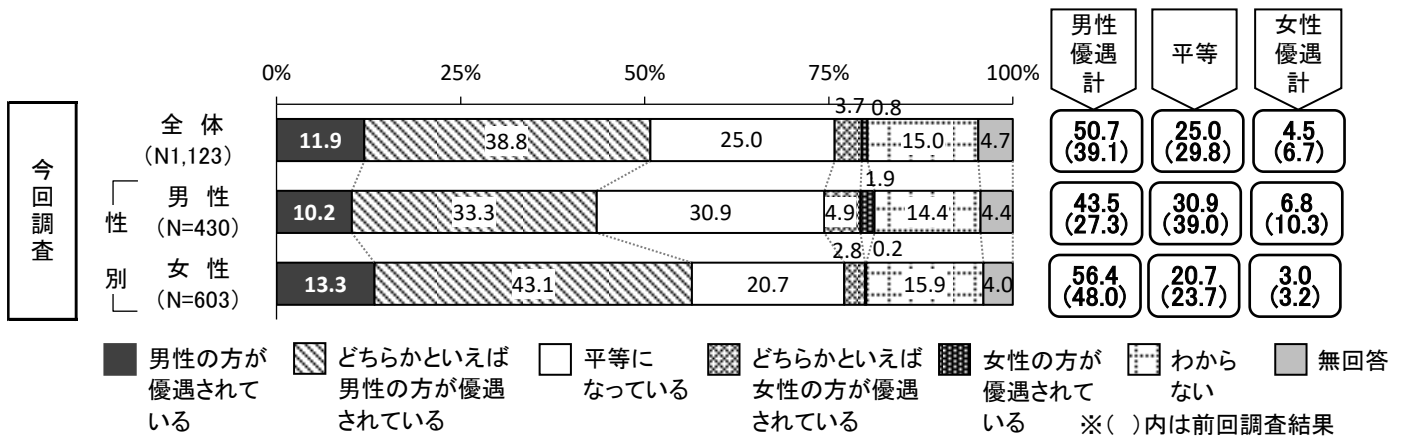
図表7-9 地域活動の場での男女の地位の平等観 [全体、年齢別]

		標本数	男性が優遇されている	どちらかという優遇	平等になっている	どちらかという優遇	女性が優遇されている	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		1,123 100.0	86 7.7	463 41.2	310 27.6	39 3.5	2 0.2	167 14.9	56 5.0	549 48.9	41 3.7
年齢別	男性:18～29歳	38	5.3	28.9	42.1	7.9	0.0	15.8	0.0	34.2	7.9
	男性:30～39歳	42	9.5	35.7	28.6	4.8	0.0	21.4	0.0	45.2	4.8
	男性:40～49歳	61	3.3	26.2	39.3	8.2	0.0	23.0	0.0	29.5	8.2
	男性:50～59歳	83	3.6	42.2	37.3	2.4	1.2	13.3	0.0	45.8	3.6
	男性:60～69歳	107	6.5	42.1	29.9	3.7	0.9	12.1	4.7	48.6	4.6
	男性:70歳以上	98	6.1	40.8	30.6	4.1	0.0	7.1	11.2	46.9	4.1
	女性:18～29歳	58	6.9	34.5	34.5	10.3	0.0	13.8	0.0	41.4	10.3
	女性:30～39歳	82	11.0	46.3	23.2	1.2	0.0	15.9	2.4	57.3	1.2
	女性:40～49歳	116	8.6	44.0	25.0	1.7	0.0	19.0	1.7	52.6	1.7
	女性:50～59歳	114	7.9	46.5	21.9	1.8	0.0	18.4	3.5	54.4	1.8
	女性:60～69歳	140	8.6	50.0	24.3	2.1	0.0	10.0	5.0	58.6	2.1
	女性:70歳以上	92	10.9	35.9	17.4	2.2	0.0	19.6	14.1	46.8	2.2
無回答	92	8.7	39.1	23.9	3.3	0.0	12.0	13.0	47.8	3.3	

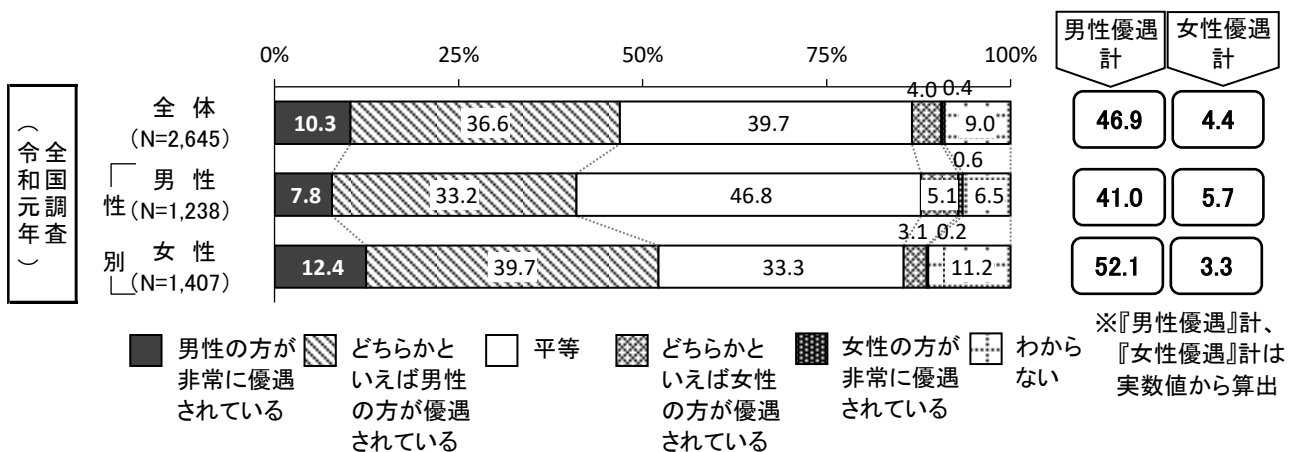
年齢別でみると、『男性優遇』は女性の30代と60代で6割弱と高く、また40代と50代でも5割を超えて高い。地域活動を行うと思われる年代の女性では男性優遇との認識が高い。男性の18～29歳では「平等になっている」が42.1%と最も高く、また40代と50代でも4割弱と他の年代に比べて高くなっている。

オ. 法律や制度の上で

図表7-10 法律や制度の上での男女の地位の平等観 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



資料：令和元年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



資料：令和元年 内閣府男女共同参画に関する世論調査結果

法律や制度の上での『男性優遇』は50.7%、「平等になっている」は25.0%である。

性別で見ると、「平等になっている」は男性が30.9%に対して、女性は20.7%と男性の方が10.2ポイント高く、『男性優遇』は女性が56.4%に対し、男性は43.5%と女性の方が12.9ポイント高いなど、男女の認識の差が大きい分野である。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が男性で16.2ポイント、女性で8.4ポイント増え、「平等になっている」が男性で8.1ポイント、女性で3.0ポイント減っており、特に男性において男性優遇との認識が高まっている。

福岡県調査と比べると、男性は「平等になっている」が今回調査の方が12ポイント低く、『男性優遇』が8.1ポイント高いなど、今回調査の男性の方が男性優遇との認識が高いようである。

全国調査と比べると、男女とも「平等になっている」は今回調査の方が約13～16ポイント低くなっている。

図表7-11 法律や制度の上での男女の地位の平等観 [全体、年齢別]

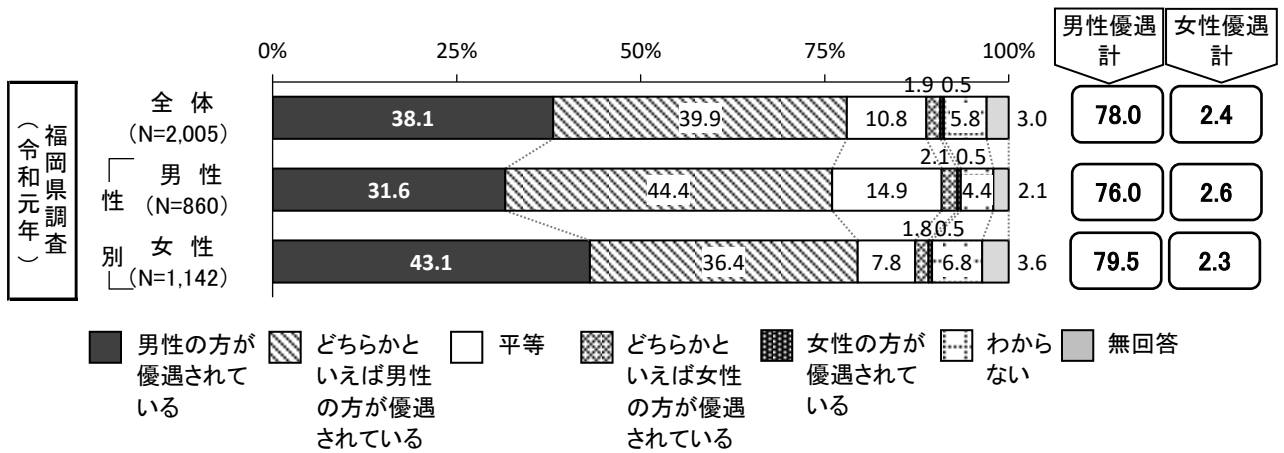
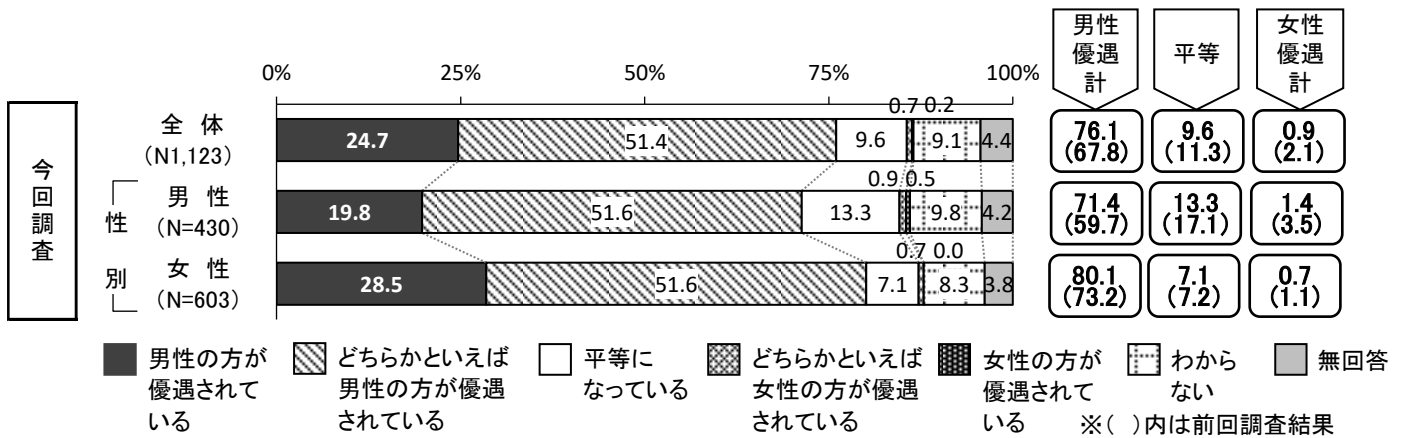
(%)

	標本数	男性が優遇さ	男性が優遇さ	平等になっ	男性が優遇さ	女性が優遇さ	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計	
全体	1,123 100.0	134 11.9	436 38.8	281 25.0	41 3.7	9 0.8	169 15.0	53 4.7	570 50.7	50 4.5	
年齢別	男性:18～29歳	38	10.5	34.2	34.2	7.9	2.6	10.5	0.0	44.7	10.5
	男性:30～39歳	42	23.8	21.4	21.4	9.5	4.8	19.0	0.0	45.2	14.3
	男性:40～49歳	61	4.9	31.1	37.7	3.3	4.9	18.0	0.0	36.0	8.2
	男性:50～59歳	83	10.8	34.9	32.5	6.0	1.2	12.0	2.4	45.7	7.2
	男性:60～69歳	107	9.3	38.3	31.8	2.8	0.0	12.1	5.6	47.6	2.8
	男性:70歳以上	98	7.1	32.7	27.6	4.1	1.0	16.3	11.2	39.8	5.1
	女性:18～29歳	58	22.4	36.2	25.9	5.2	0.0	10.3	0.0	58.6	5.2
	女性:30～39歳	82	13.4	45.1	18.3	4.9	0.0	15.9	2.4	58.5	4.9
	女性:40～49歳	116	8.6	52.6	17.2	3.4	0.0	16.4	1.7	61.2	3.4
	女性:50～59歳	114	15.8	46.5	18.4	0.9	0.0	14.9	3.5	62.3	0.9
	女性:60～69歳	140	12.9	44.3	20.0	2.9	0.7	15.7	3.6	57.2	3.6
	女性:70歳以上	92	10.9	28.3	27.2	1.1	0.0	20.7	12.0	39.2	1.1
無回答	92	12.0	35.9	26.1	3.3	0.0	12.0	10.9	47.9	3.3	

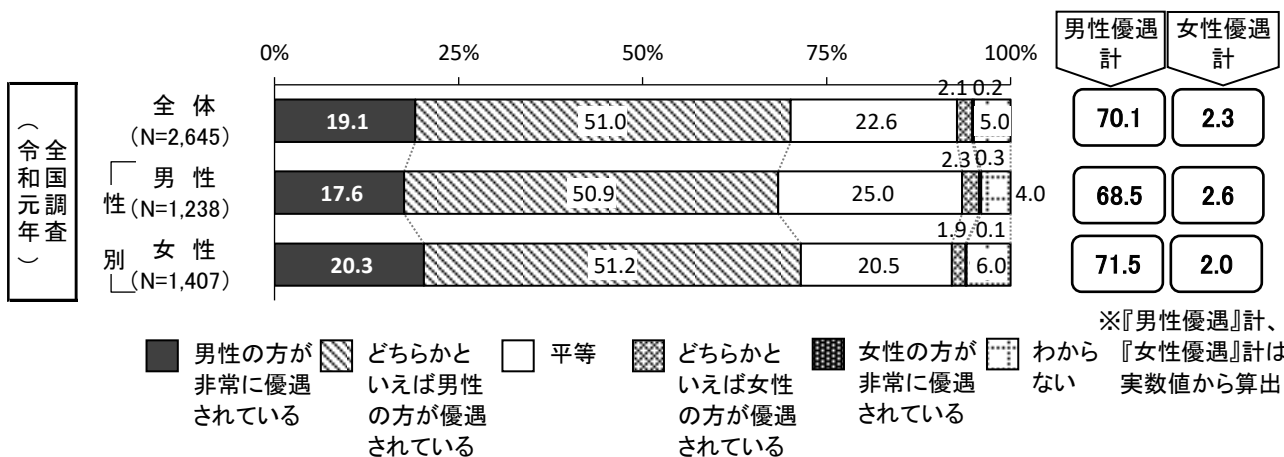
年齢別でみると、女性の30代から50代では「平等になっている」が1割台と他の年代に比べて低く、『男性優遇』が6割前後と高いことから、この年代で男性優遇との認識が高いようである。

カ. 慣習・しきたりの中で

図表7-12 慣習・しきたりの中での男女の地位の平等観 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



資料：令和元年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



資料：令和元年 内閣府男女共同参画に関する世論調査結果

慣習・しきたりの中で、「平等である」は9.6%と低く、『男性優遇』は76.1%と8分野中最も高く、男性優遇が強く認識されている分野である。

性別でみると、『男性優遇』は女性で80.1%であるのに対し、男性は71.4%と8.7ポイント低く、女性の方が慣習・しきたりの中では男性優遇との認識が高い。

前回調査と比べると、男性は『男性優遇』が今回調査の方が 11.7 ポイント増、女性は 6.9 ポイント増と男性の増え幅の方が大きい。

福岡県調査と比べると、男性の『男性優遇』は今回調査の方が 4.6 ポイント低い。

全国調査と比べると、男女とも「平等になっている」は今回調査の方が約 12～13 ポイント低くなっており、『男性優遇』は女性で 8.6 ポイント高いなど、今回調査の女性の方が男性優遇と強く認識している。

図表 7 - 13 慣習・しきたりの中での男女の地位の平等観 [全体、年齢別]

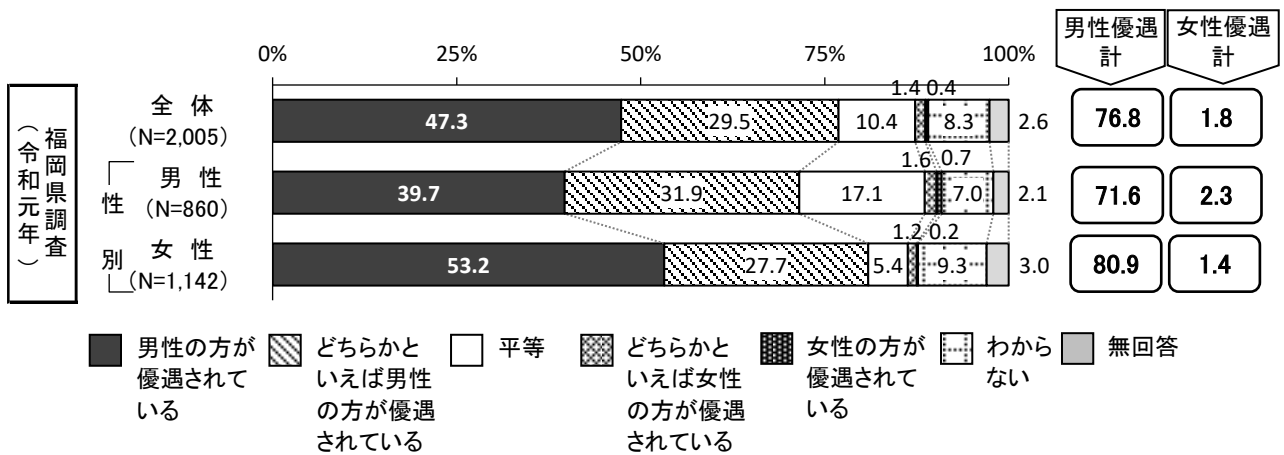
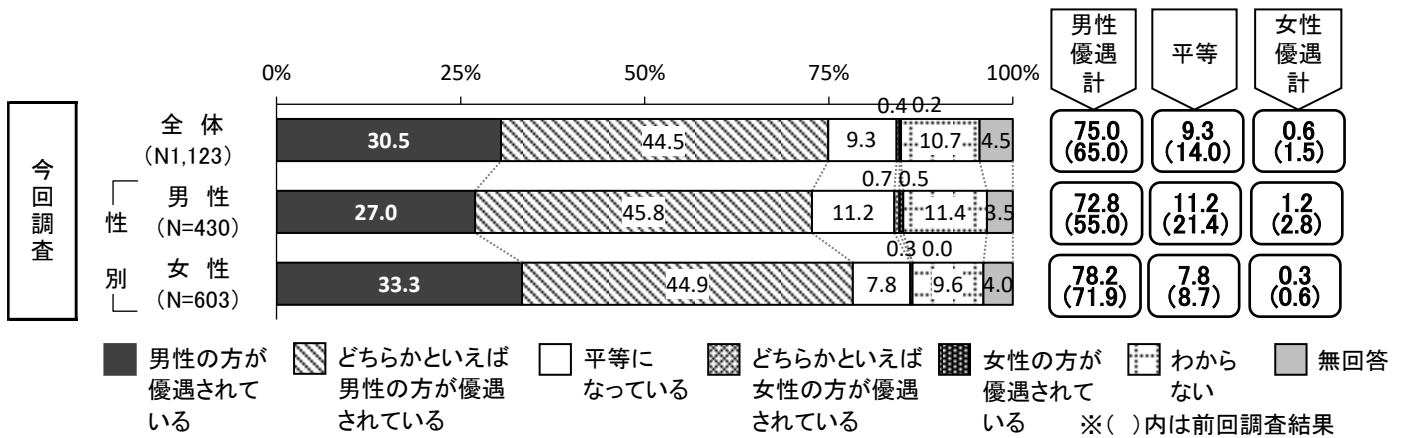
(%)

		標本数	男性が優遇さ	男性が優遇さ	平等になっ	男性が優遇さ	女性が優遇さ	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		1,123 100.0	277 24.7	577 51.4	108 9.6	8 0.7	2 0.2	102 9.1	49 4.4	854 76.1	10 0.9
年齢別	男性:18～29歳	38	28.9	39.5	18.4	2.6	0.0	10.5	0.0	68.4	2.6
	男性:30～39歳	42	21.4	57.1	4.8	0.0	0.0	16.7	0.0	78.5	0.0
	男性:40～49歳	61	18.0	49.2	14.8	1.6	0.0	16.4	0.0	67.2	1.6
	男性:50～59歳	83	22.9	56.6	12.0	1.2	1.2	6.0	0.0	79.5	2.4
	男性:60～69歳	107	20.6	53.3	11.2	0.9	0.0	8.4	5.6	73.9	0.9
	男性:70歳以上	98	12.2	50.0	17.3	0.0	1.0	7.1	12.2	62.2	1.0
	女性:18～29歳	58	25.9	58.6	8.6	1.7	0.0	5.2	0.0	84.5	1.7
	女性:30～39歳	82	34.1	47.6	8.5	0.0	0.0	8.5	1.2	81.7	0.0
	女性:40～49歳	116	27.6	56.9	6.9	0.0	0.0	6.9	1.7	84.5	0.0
	女性:50～59歳	114	36.0	49.1	2.6	0.0	0.0	7.9	4.4	85.1	0.0
	女性:60～69歳	140	22.1	60.7	6.4	1.4	0.0	7.1	2.1	82.8	1.4
	女性:70歳以上	92	27.2	33.7	12.0	1.1	0.0	13.0	13.0	60.9	1.1
	無回答	92	22.8	47.8	8.7	0.0	0.0	12.0	8.7	70.6	0.0

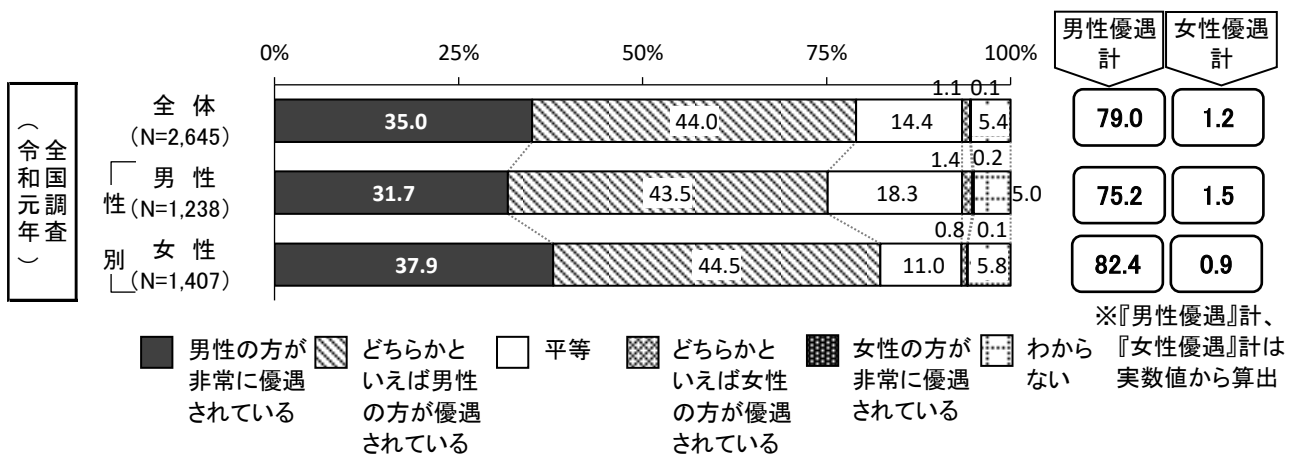
年齢別でみると、女性は 70 歳以上を除く年代で『男性優遇』が 8 割を超えており、男性優遇との認識が高い。男性は 30 代と 50 代で『男性優遇』が 8 割弱と他の年代に比べて高くなっている。

キ. 政治・政策決定の場で

図表7-14 政治・政策決定の場での男女の地位の平等観 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



資料：令和元年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



資料：令和元年 内閣府男女共同参画に関する世論調査結果

政治・政策決定の場では、「平等になっている」は9.3%と低く、『男性優遇』は75.0%と高く、慣習・しきたりと同様に男性優遇が強く認識されている分野である。

性別で見ると、『男性優遇』は男性で72.8%、女性で78.2%と女性の方が5.4ポイント高く、女性の方が政治・政策決定の場では男性優遇との認識が高い。

前回調査と比べると、男性で「平等になっている」が10.2ポイント減少し、『男性優遇』が17.8ポイント増えており、今回調査の男性の方が優遇されているとの認識が高くなっている。

福岡県調査と比べると、『男性優遇』の割合にあまり大きな変化はみられない。

全国調査と比べると、女性の『男性優遇』は今回調査の方が4.2ポイント低く、全国に比べ男性優遇との認識はやや低い。

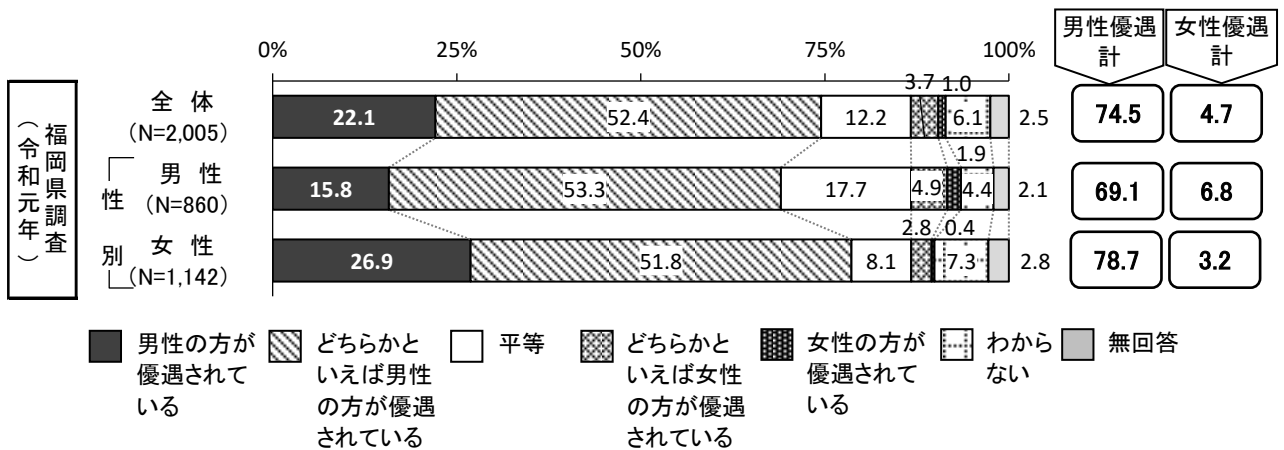
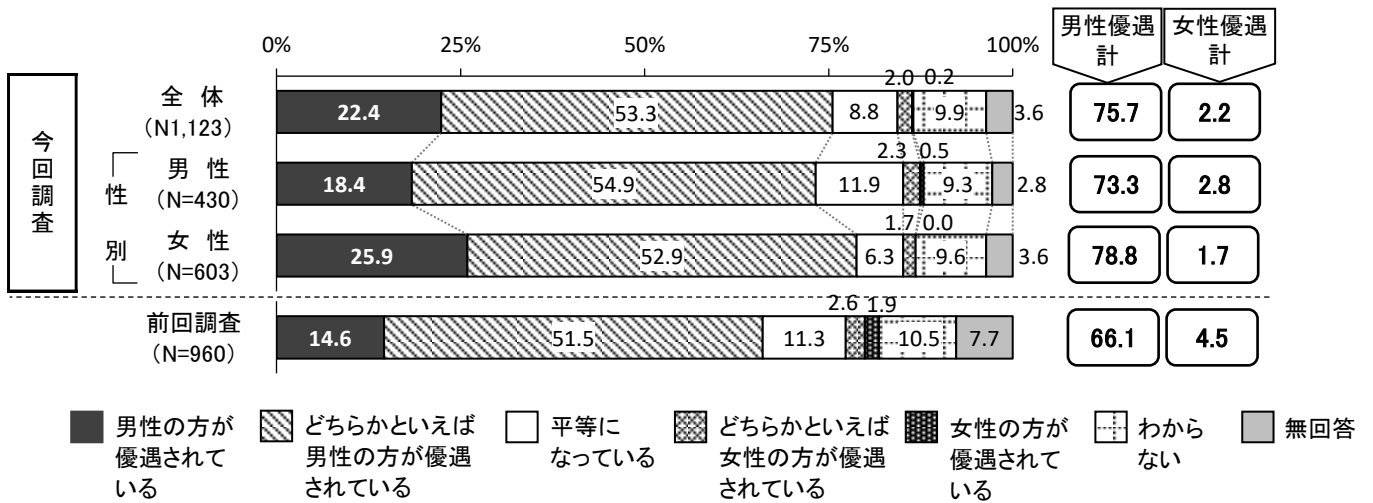
図表7-15 政治・政策決定の場での男女の地位の平等観 [全体、年齢別]

		標本数	男性が優遇される	どちらが優れている	平等になっている	どちらが優れている	女性が優遇される	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		1,123 100.0	342 30.5	500 44.5	104 9.3	5 0.4	2 0.2	120 10.7	50 4.5	842 75.0	7 0.6
年齢別	男性:18～29歳	38	36.8	39.5	13.2	0.0	2.6	7.9	0.0	76.3	2.6
	男性:30～39歳	42	38.1	35.7	11.9	0.0	0.0	14.3	0.0	73.8	0.0
	男性:40～49歳	61	21.3	39.3	14.8	0.0	1.6	23.0	0.0	60.6	1.6
	男性:50～59歳	83	34.9	42.2	13.3	2.4	0.0	7.2	0.0	77.1	2.4
	男性:60～69歳	107	20.6	56.1	12.1	0.0	0.0	6.5	4.7	76.7	0.0
	男性:70歳以上	98	21.4	49.0	5.1	1.0	0.0	13.3	10.2	70.4	1.0
	女性:18～29歳	58	36.2	51.7	3.4	0.0	0.0	8.6	0.0	87.9	0.0
	女性:30～39歳	82	45.1	42.7	6.1	0.0	0.0	4.9	1.2	87.8	0.0
	女性:40～49歳	116	34.5	48.3	6.9	0.0	0.0	8.6	1.7	82.8	0.0
	女性:50～59歳	114	37.7	40.4	7.0	0.9	0.0	10.5	3.5	78.1	0.9
	女性:60～69歳	140	25.7	52.1	10.0	0.7	0.0	8.6	2.9	77.8	0.7
	女性:70歳以上	92	26.1	33.7	9.8	0.0	0.0	16.3	14.1	59.8	0.0
	無回答	92	28.3	34.8	10.9	0.0	0.0	14.1	12.0	63.1	0.0

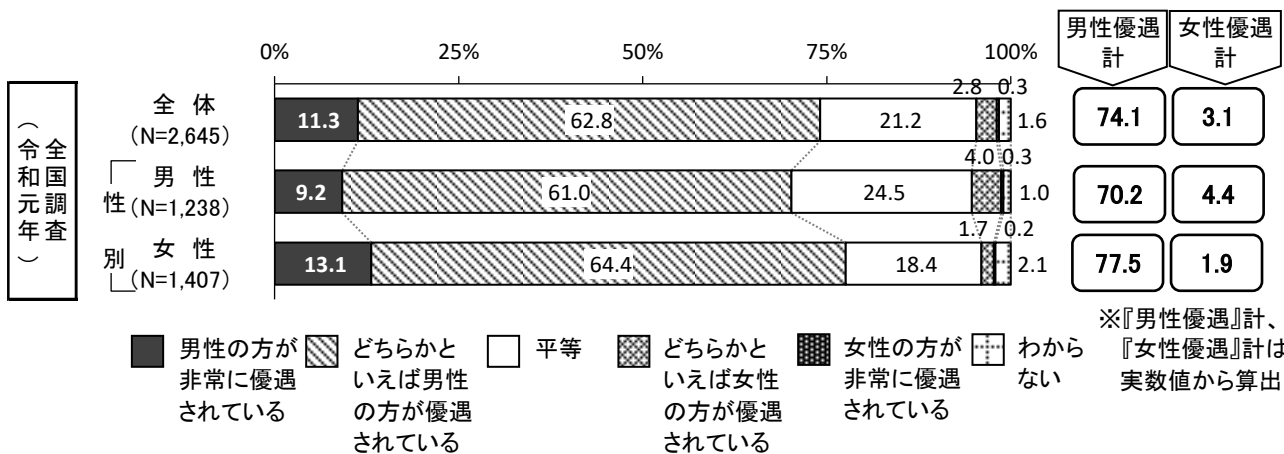
年齢別で見ると、女性では年齢が低くなるほど『男性優遇』の割合が高くなり、18～29歳では87.9%となっている。

ク. 社会全体では

図表7-16 社会全体での男女の地位の平等観 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



資料：令和元年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



※『男性優遇』計、『女性優遇』計は実数値から算出

資料：令和元年 内閣府男女共同参画に関する世論調査結果

社会全体で見ると、『男性優遇』は75.7%と約4分の3を占め、「平等になっている」は8.8%にとどまり圧倒的に男性優遇の社会ととらえられている。

性別で見ると、『男性優遇』は女性で78.8%、男性で73.3%と女性の方が5.5ポイント上回っている。

前回調査と比べると、『男性優遇』は9.6ポイント増えている。

福岡県調査と比べると、男性の『男性優遇』は今回調査の方が 4.2 ポイント高く、「平等になっている」は 5.8 ポイント低いなど、男性において今回調査の方が男性優遇との認識は高い。

全国調査と比べると、今回調査の方が男女とも「平等になっている」が約 12～13 ポイント低くなっている。

図表 7 - 17 社会全体での男女の地位の平等観 [全体、年齢別]

		標本数	男性が優遇さ	男性が優遇さ	平等になっ	男性が優遇さ	女性が優遇さ	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		1,123 100.0	251 22.4	598 53.3	99 8.8	22 2.0	2 0.2	111 9.9	40 3.6	849 75.7	24 2.2
年齢別	男性:18～29歳	38	26.3	42.1	21.1	2.6	2.6	5.3	0.0	68.4	5.2
	男性:30～39歳	42	21.4	57.1	4.8	4.8	0.0	11.9	0.0	78.5	4.8
	男性:40～49歳	61	23.0	39.3	14.8	8.2	1.6	13.1	0.0	62.3	9.8
	男性:50～59歳	83	20.5	55.4	16.9	1.2	0.0	6.0	0.0	75.9	1.2
	男性:60～69歳	107	13.1	63.6	10.3	0.0	0.0	8.4	4.7	76.7	0.0
	男性:70歳以上	98	14.3	59.2	7.1	1.0	0.0	11.2	7.1	73.5	1.0
	女性:18～29歳	58	34.5	51.7	1.7	6.9	0.0	5.2	0.0	86.2	6.9
	女性:30～39歳	82	30.5	53.7	3.7	1.2	0.0	9.8	1.2	84.2	1.2
	女性:40～49歳	116	21.6	56.9	6.9	1.7	0.0	11.2	1.7	78.5	1.7
	女性:50～59歳	114	27.2	54.4	5.3	0.0	0.0	9.6	3.5	81.6	0.0
	女性:60～69歳	140	21.4	59.3	8.6	2.1	0.0	5.7	2.9	80.7	2.1
	女性:70歳以上	92	27.2	37.0	7.6	0.0	0.0	16.3	12.0	64.2	0.0
	無回答	92	18.5	46.7	12.0	2.2	0.0	14.1	6.5	65.2	2.2

年齢別でみると、『男性優遇』は女性の 18～29 で 86.2%と最も高く、また 30 代でも 84.2%、50 代 (81.6%) と 60 代 (80.7%) でも 8 割を超えている。男性の 18～29 歳で「平等になっている」が 21.1%と他の年代に比べて高くなっている。

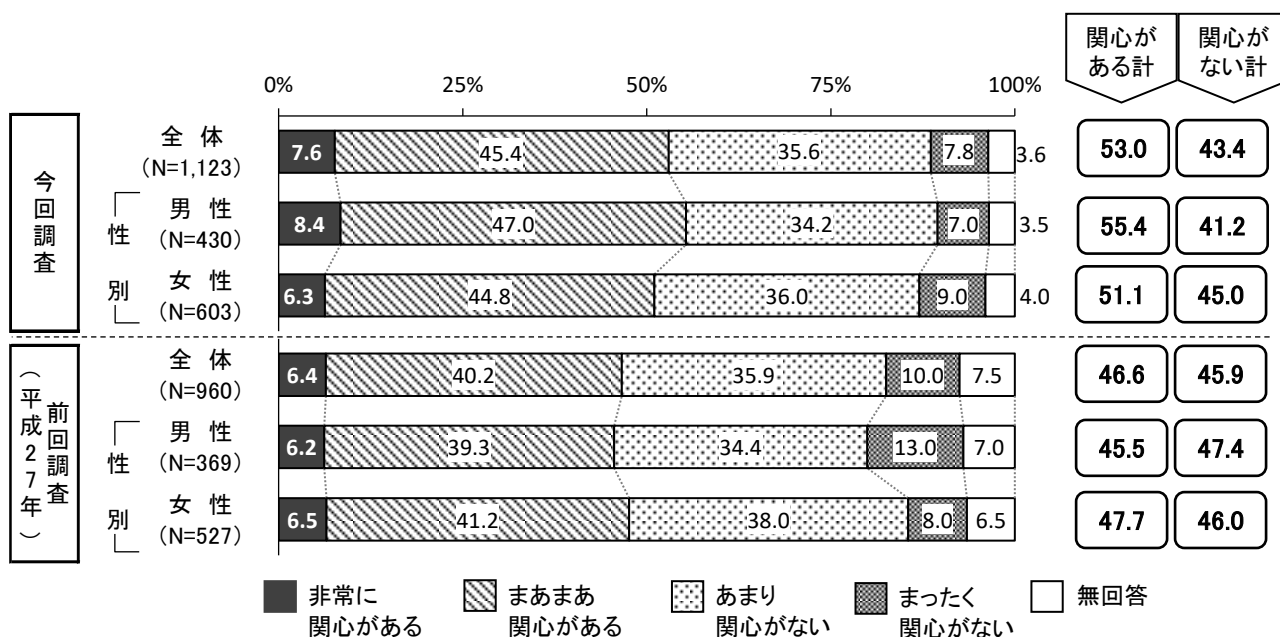
第8章 男女共同参画に関するについて

1. 男女共同参画の関心度

問20 あなたは、男女共同参画に関心がありますか。(〇は1つ)

●男女共同参画への関心は『関心がある』が5割強、『関心がない』が4割強。男性の方が女性に比べ関心度はやや高い。
 ●前回調査に比べ、『関心がある』は男女とも増加し、特に男性では約10ポイント増加。

図表8-1 男女共同参画の関心度 [全体、性別] (前回調査比較)



男女共同参画の関心の程度をたずねた。「まあまあ関心がある」が45.4%と最も高く、「非常に関心がある」は7.6%でこれらをあわせた『関心がある』は53.0%と5割を超えている。次いで「あまり関心がない」が35.6%で「まったく関心がない」(7.8%)をあわせた『関心がない』は43.4%と関心がある人の方が9.6ポイント多い。

性別で見ると、『関心がある』は男性が55.4%で女性(51.1%)を4.3ポイント上回り、『関心がない』は女性が45.0%と男性(41.2%)3.8ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『関心がある』は男性が9.9ポイント、女性は3.4ポイント増えており、男性の増え幅の方が大きい。

図表8 - 2 男女共同参画の関心度 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	関心非常にある	関心まあある	関心あまりない	関心まったくない	無回答	関心がある	関心がない
全体		1,123 100.0	85 7.6	510 45.4	400 35.6	88 7.8	40 3.6	595 53.0	488 43.4
年齢別	男性:18～29歳	38	15.8	39.5	28.9	13.2	2.6	55.3	42.1
	男性:30～39歳	42	2.4	35.7	45.2	14.3	2.4	38.1	59.5
	男性:40～49歳	61	3.3	42.6	37.7	16.4	0.0	45.9	54.1
	男性:50～59歳	83	8.4	54.2	28.9	6.0	2.4	62.6	34.9
	男性:60～69歳	107	8.4	46.7	40.2	1.9	2.8	55.1	42.1
	男性:70歳以上	98	10.2	52.0	27.6	2.0	8.2	62.2	29.6
	女性:18～29歳	58	8.6	51.7	27.6	10.3	1.7	60.3	37.9
	女性:30～39歳	82	4.9	48.8	30.5	13.4	2.4	53.7	43.9
	女性:40～49歳	116	2.6	48.3	38.8	8.6	1.7	50.9	47.4
	女性:50～59歳	114	5.3	52.6	30.7	10.5	0.9	57.9	41.2
	女性:60～69歳	140	9.3	40.0	40.0	5.0	5.7	49.3	45.0
	女性:70歳以上	92	7.6	30.4	42.4	8.7	10.9	38.0	51.1
	無回答	92	13.0	41.3	40.2	4.3	1.1	54.3	44.5

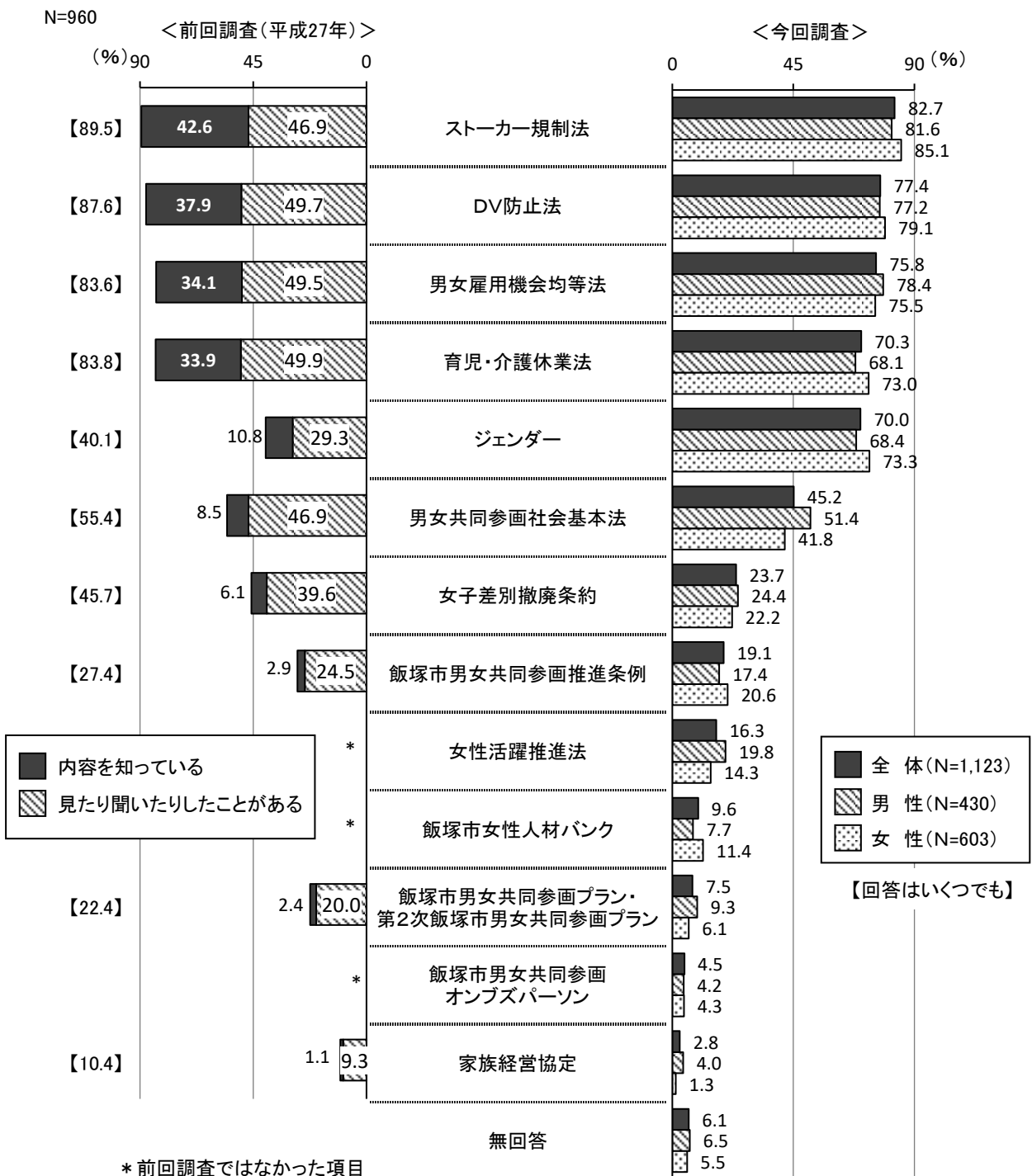
年齢別でみると、女性は年齢が低い層で『関心がある』の割合が高い傾向がみられ、18～29歳では60.3%となっている。一方、男性の『関心がある』は50代と70歳以上で6割強、18～29歳と60代で5割台半ばと年齢の高い層で割合が高い傾向がみられる。

2. 男女共同参画に関する言葉やことからの認知

問21 次の言葉やことからで、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。
(〇はいくつでも)

- 「ストーカー規制法」「DV防止法」「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」「ジェンダー」の認知は7割以上。
- 「ジェンダー」の認知は前回調査より約3割上がっている。

図表8-3 男女共同参画の関心度 [全体、性別] (前回調査比較)



男女共同参画に関する言葉やことからの認知をたずねた。「ストーカー規制法」が82.7%で最も高く、次いで「DV防止法」(77.4%)、「男女雇用機会均等法」(75.8%)、「育児・介護休業法」(70.3%)、「ジェンダー」(70.0%)などが7割以上の認知となっている。飯塚市の取り組みである「飯塚市男女共同参画推進条例」は19.1%、「飯塚市女性人材バンク」は9.6%、「飯塚市男女共同参画プラン・第2次飯塚市男女共同参画プラン」は7.5%、「飯塚市男女共同参画オンブズパーソン」は4.5%となっている。

性別でみると、男性は「男女共同参画社会基本法」(男性51.4%、女性41.8%)、「女性活躍推進法」(同19.8%、14.3%)の認知が女性よりも約6～10ポイント高い。女性は「育児・介護休業法」(同68.1%、73.0%)、「ジェンダー」(同68.4%、73.3%)の認知が男性よりも約5ポイント高い。

前回調査では、各項目について「内容を知っている」「見たり聞いたりしたことがある」「まったく知らない」の3択となっていたため、正確な比較はできないが「内容を知っている」「見たり聞いたりしたことがある」を合わせた認知をみると、ほとんどの項目で認知は低くなっている。しかし「ジェンダー」の認知は40.1%から70.0%とこの5年間で約3割認知があがっている。

図表8-4 男女共同参画の関心度〔全体、年齢別、男女共同参画の関心度別〕

		標本数	男女共同参画社会基本法	ジェンダー	女子差別撤廃条約	男女雇用機会均等法	育児・介護休業法	ストーカー規制法	DV防止法	飯塚市男女共同参画推進条例	飯塚市男女共同参画プラン・第2次飯塚市男女共同参画プラン	飯塚市女性人材バンク	飯塚市男女共同参画オンブズパーソン	女性活躍推進法	家族経営協定	無回答	(%)
全体		1,123 100.0	508 45.2	786 70.0	266 23.7	851 75.8	789 70.3	929 82.7	869 77.4	215 19.1	84 7.5	108 9.6	50 4.5	183 16.3	31 2.8	69 6.1	
年齢別	男性:18～29歳	38	60.5	73.7	31.6	60.5	44.7	52.6	65.8	2.6	5.3	0.0	0.0	21.1	2.6	10.5	
	男性:30～39歳	42	52.4	78.6	35.7	81.0	71.4	78.6	76.2	21.4	14.3	7.1	2.4	9.5	4.8	7.1	
	男性:40～49歳	61	39.3	75.4	26.2	83.6	65.6	83.6	82.0	8.2	4.9	6.6	4.9	21.3	3.3	4.9	
	男性:50～59歳	83	66.3	74.7	24.1	85.5	85.5	91.6	81.9	21.7	9.6	13.3	3.6	18.1	2.4	2.4	
	男性:60～69歳	107	50.5	65.4	22.4	80.4	70.1	83.2	84.1	16.8	12.1	8.4	3.7	19.6	5.6	6.5	
	男性:70歳以上	98	42.9	55.1	17.3	72.4	60.2	82.7	67.3	23.5	7.1	6.1	6.1	23.5	4.1	9.2	
	女性:18～29歳	58	70.7	94.8	24.1	84.5	62.1	70.7	69.0	17.2	6.9	5.2	1.7	24.1	1.7	1.7	
	女性:30～39歳	82	45.1	85.4	35.4	80.5	80.5	86.6	79.3	9.8	2.4	8.5	2.4	11.0	1.2	3.7	
	女性:40～49歳	116	44.0	79.3	20.7	75.9	79.3	90.5	83.6	25.0	5.2	11.2	5.2	17.2	0.0	4.3	
	女性:50～59歳	114	37.7	80.7	20.2	78.1	77.2	91.2	83.3	25.4	11.4	13.2	6.1	11.4	0.0	5.3	
	女性:60～69歳	140	34.3	67.9	20.7	77.9	74.3	87.1	82.9	22.1	7.1	14.3	7.1	14.3	2.1	3.6	
	女性:70歳以上	92	34.8	41.3	16.3	57.6	58.7	75.0	68.5	18.5	2.2	12.0	0.0	10.9	3.3	14.1	
無回答	92	39.1	55.4	30.4	66.3	62.0	72.8	67.4	18.5	8.7	6.5	7.6	14.1	6.5	8.7		
男女共同参画の関心度別	男性:非常に関心がある	36	75.0	77.8	44.4	86.1	77.8	83.3	83.3	27.8	16.7	19.4	8.3	27.8	5.6	0.0	
	男性:まあまあ関心がある	202	60.4	80.2	28.7	89.1	77.2	88.6	85.6	23.8	10.9	8.4	5.0	27.2	5.9	1.0	
	男性:あまり関心がない	147	41.5	59.9	18.4	70.7	60.5	78.9	72.8	10.9	7.5	5.4	2.7	10.9	1.4	6.1	
	男性:まったく関心がない	30	33.3	46.7	13.3	60.0	56.7	70.0	56.7	3.3	3.3	3.3	3.3	13.3	3.3	26.7	
	女性:非常に関心がある	38	68.4	78.9	52.6	94.7	84.2	92.1	84.2	39.5	23.7	18.4	10.5	26.3	2.6	0.0	
	女性:まあまあ関心がある	270	54.1	80.0	25.2	83.7	80.4	89.3	84.1	25.6	6.3	15.2	4.1	18.5	1.9	1.5	
	女性:あまり関心がない	217	27.6	70.0	17.1	71.4	69.1	85.7	78.8	15.7	3.2	7.8	4.1	10.1	0.5	4.1	
	女性:まったく関心がない	54	27.8	68.5	14.8	59.3	59.3	75.9	68.5	7.4	3.7	3.7	1.9	5.6	1.9	14.8	
無回答	129	31.8	45.7	21.7	53.5	52.7	62.0	58.1	14.0	7.0	6.2	5.4	10.1	4.7	22.5		

Ⅱ 調査結果

年齢別でみると、「ジェンダー」は男女とも年齢が低い層で割合が高く、特に女性の18～29歳では94.8%と高率である。その他「男女共同参画社会基本法」(70.7%)、「男女雇用機会均等法」(84.5%)、「女性活躍推進法」(24.1%)などの認知も女性の18～29歳の認知が他の年代に比べて高くなっている。「DV防止法」は男女とも40代から60代で8割台と認知が高く、「ストーカー規制法」は男性の50代と女性の40代と50代で約9割と高い。「育児・介護休業法」は男性の50代、女性の30代で8割台、「女子差別撤廃条約」は男女の30代で3割台半ば、「飯塚市男女共同参画推進条例」は女性の40代と50代で2割台半ば、「飯塚市女性人材バンク」は女性の40代以上と男性の50代で1割強の認知となっている。

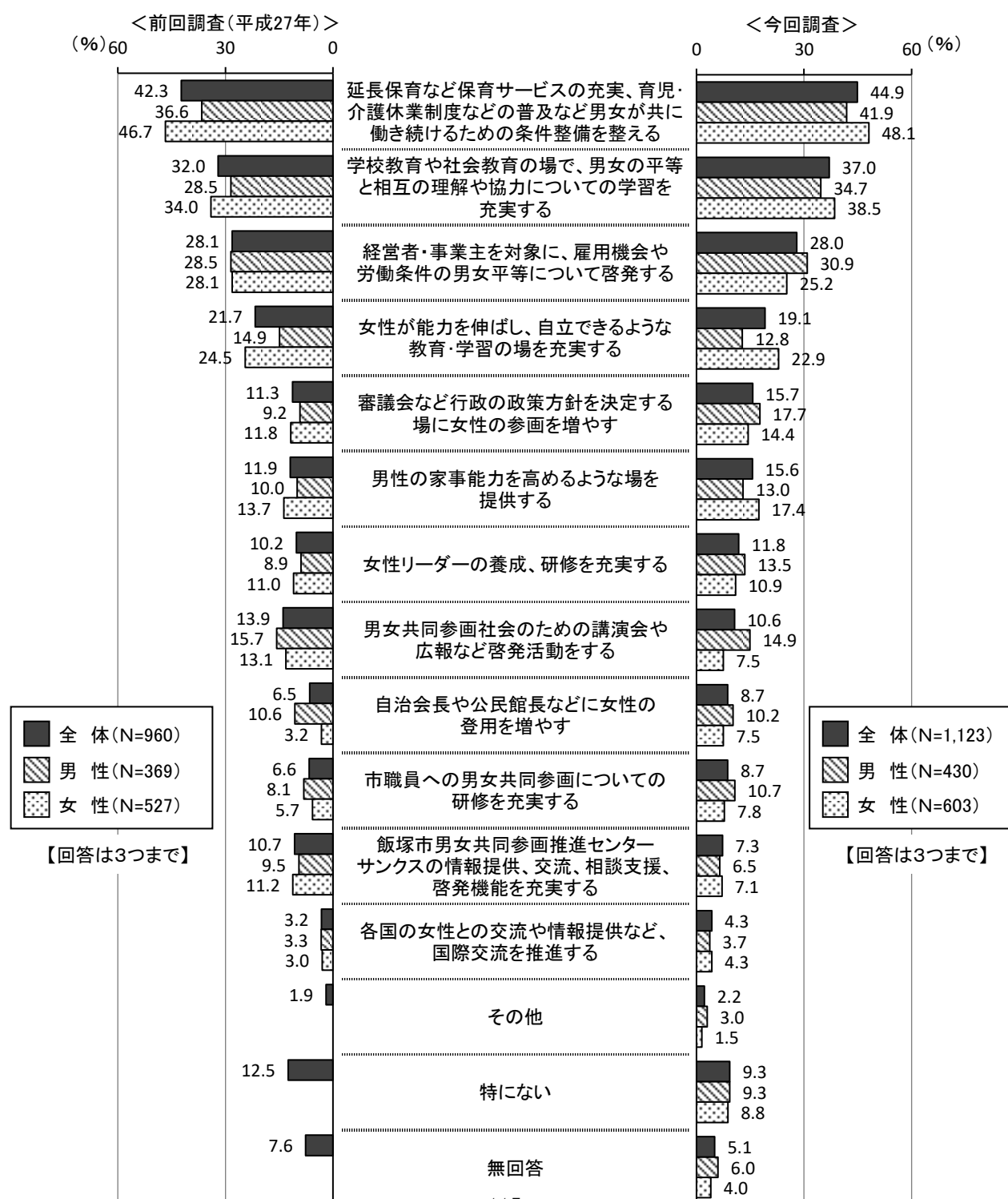
男女共同参画の関心度別でみると、すべての項目において男女とも『関心がある』人の方が認知は高い結果となっている。ただ、『関心がない』人でも「ストーカー規制法」の認知は7割から7割台半ばと高い。

3. 男女共同参画社会を実現するために望む施策

問22 男女共同参画社会を実現していくために、あなたは飯塚市に対してどのようなことを望みますか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つ以内)

●男女共同参画社会を実現するために飯塚市に望むことは、「延長保育など保育サービスの充実、育児・介護休業制度などの普及など男女が共に働き続けるための条件整備を整える」が4割台半ばで第1位。

図表8-5 男女共同参画社会を実現するために望む施策〔全体、性別〕(前回調査比較)



II 調査結果

男女共同参画社会を実現するために飯塚市に望むことは、「延長保育など保育サービスの充実、育児・介護休業制度などの普及など男女が共に働き続けるための条件整備を整える」が44.9%と最も高く、次いで「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が37.0%、「経営者・事業主を対象に、雇用機会や労働条件の男女平等について啓発する」が28.0%で上位3位にあげられている。「特になし」は9.3%である。

性別でみると、男性は「経営者・事業主を対象に、雇用機会や労働条件の男女平等について啓発する」（男性30.9%、女性25.2%）や「男女共同参画社会のための講演会や広報など啓発活動をする」（同14.9%、7.5%）などの割合が女性よりも約6～7ポイント高く、女性は「延長保育など保育サービスの充実、育児・介護休業制度などの普及など男女が共に働き続けるための条件整備を整える」（同41.9%、48.1%）や「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する」（同12.8%、22.9%）、「男性の家事能力を高めるような場を提供する」（同13.0%、17.4%）などが男性よりも約4～10ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、男性は、「延長保育など保育サービスの充実、育児・介護休業制度などの普及など男女が共に働き続けるための条件整備を整える」や「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」「審議会など行政の政策方針を決定する場に女性の参画を増やす」などで前回調査より割合が約5～9ポイント増えている。女性ではあまり大きな変化はみられない。

図表8-6 男女共同参画社会を実現するために望む施策 [全体、年齢別]

		標本数	男女共同参画社会のための講演会や広報など啓発活動をする	実と相互の理解や協力についての学習を充実する	学校教育や社会教育の場で、男女の平等	経営者・事業主を対象に、雇用機会や労働条件の男女平等について啓発する	女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する	共に働き続けるための条件整備を整える	延長保育など保育サービスの充実、育児・介護休業制度などの普及など男女が	審議会など行政の政策方針を決定する場に女性の参画を増やす	自治会長や公民館長などに女性の登用を増やす	機能の充実する	飯塚市男女共同参画推進センターの提供、交流、相談支援、啓発	女性リーダーの養成、研修を充実する	男性の家事能力を高めるような場を提供する	国際交流の推進する	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	市職員への男女共同参画についての研修を充実する	その他	特になし	無回答
全体		1123	119	415	315	214	504	176	98	82	132	175	48	98	25	105	57				
		100.0	10.6	37.0	28.0	19.1	44.9	15.7	8.7	7.3	11.8	15.6	4.3	8.7	2.2	9.3	5.1				
年齢別	男性:18～29歳	38	2.6	34.2	28.9	5.3	44.7	15.8	2.6	0.0	10.5	26.3	5.3	7.9	0.0	13.2	5.3				
	男性:30～39歳	42	4.8	33.3	23.8	16.7	50.0	21.4	7.1	4.8	11.9	21.4	0.0	7.1	7.1	7.1	7.1				
	男性:40～49歳	61	11.5	24.6	39.3	8.2	49.2	13.1	4.9	6.6	14.8	16.4	4.9	0.0	4.9	13.1	3.3				
	男性:50～59歳	83	20.5	27.7	32.5	18.1	48.2	12.0	9.6	7.2	13.3	12.0	3.6	13.3	3.6	6.0	4.8				
	男性:60～69歳	107	17.8	43.9	28.0	12.1	29.0	18.7	15.9	4.7	17.8	8.4	3.7	12.1	2.8	13.1	3.7				
	男性:70歳以上	98	18.4	37.8	31.6	13.3	40.8	23.5	11.2	11.2	10.2	8.2	4.1	15.3	1.0	5.1	11.2				
	女性:18～29歳	58	8.6	39.7	27.6	20.7	50.0	15.5	8.6	12.1	12.1	29.3	8.6	5.2	3.4	3.4	1.7				
	女性:30～39歳	82	3.7	35.4	22.0	14.6	59.8	15.9	3.7	1.2	11.0	17.1	8.5	3.7	2.4	7.3	2.4				
	女性:40～49歳	116	7.8	38.8	24.1	25.0	45.7	10.3	5.2	4.3	10.3	14.7	3.4	6.0	0.9	14.7	2.6				
	女性:50～59歳	114	6.1	40.4	28.1	21.1	49.1	14.0	6.1	7.0	11.4	11.4	2.6	9.6	2.6	6.1	6.1				
	女性:60～69歳	140	7.9	40.7	25.0	25.7	51.4	16.4	7.9	7.9	9.3	22.1	2.1	9.3	0.7	7.1	2.1				
	女性:70歳以上	92	10.9	34.8	25.0	27.2	33.7	15.2	14.1	12.0	13.0	14.1	4.3	10.9	0.0	10.9	8.7				
	無回答	92	10.9	37.0	32.6	22.8	38.0	14.1	10.9	12.0	8.7	15.2	6.5	6.5	3.3	14.1	7.6				

年齢別でみると、「延長保育など保育サービスの充実、育児・介護休業制度などの普及など男女が共に働き続けるための条件整備を整える」は女性の30代で59.8%と最も高い。「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」は男性の60代と女性の50代と60代で4割台、「経営者・事業主を対象に、雇用機会や労働条件の男女平等について啓発する」は男性の40代で39.3%、「男性の家事能力を高めるような場を提供する」は男女の18～29歳で2割台半ばから3割弱と高い。

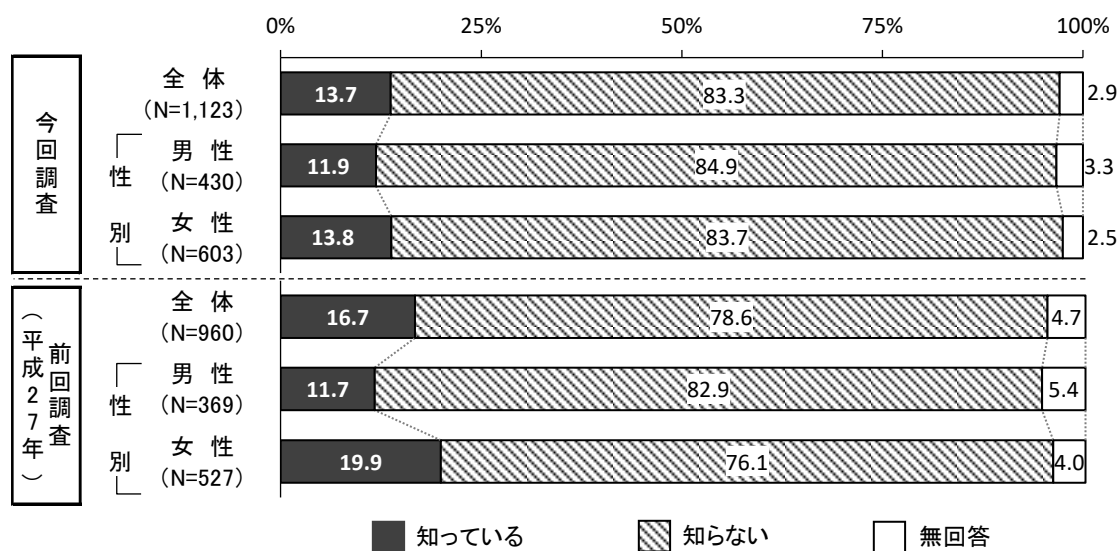
4. 男女共同参画推進センター「サクス」について

(1) 男女共同参画推進センター「サクス」の認知

問23 あなたはイツカコミュニティセンター内に設置している飯塚市男女共同参画推進センター「サクス」を知っていますか。(○は1つ)

●飯塚市男女共同参画推進センター「サクス」の認知について「知っている」は男女とも1割強。前回調査よりも女性は約6ポイント減少。

図表8-7 男女共同参画推進センター「サクス」の認知〔全体、性別〕(前回調査比較)



飯塚市男女共同参画推進センター「サクス」の認知について、「知っている」は13.7%、「知らない」は83.3%と認知度は低い結果となっている。

性別でみても認知度について大差はみられない。

前回調査と比べると、女性の「知っている」が19.9%から6.1ポイント減少している。

図表 8 - 8 男女共同参画推進センター「サックス」の認知 [全体、年齢別、男女共同参画の関心度別]

(%)

		標本数	知っている	知らない	無回答
全体		1,123 100.0	154 13.7	936 83.3	33 2.9
年齢別	男性:18~29歳	38	2.6	94.7	2.6
	男性:30~39歳	42	9.5	85.7	4.8
	男性:40~49歳	61	6.6	91.8	1.6
	男性:50~59歳	83	14.5	81.9	3.6
	男性:60~69歳	107	14.0	85.0	0.9
	男性:70歳以上	98	14.3	79.6	6.1
	女性:18~29歳	58	1.7	98.3	0.0
	女性:30~39歳	82	6.1	92.7	1.2
	女性:40~49歳	116	17.2	81.9	0.9
	女性:50~59歳	114	20.2	78.1	1.8
	女性:60~69歳	140	15.0	82.9	2.1
	女性:70歳以上	92	13.0	78.3	8.7
	無回答	92	23.9	71.7	4.3
男女共同参画の関心度別	男性:非常に興味がある	36	25.0	69.4	5.6
	男性:まあまあ興味がある	202	12.9	86.1	1.0
	男性:あまり興味がない	147	10.2	85.0	4.8
	男性:まったく興味がない	30	3.3	93.3	3.3
	女性:非常に興味がある	38	28.9	71.1	0.0
	女性:まあまあ興味がある	270	17.0	82.2	0.7
	女性:あまり興味がない	217	9.2	88.0	2.8
	女性:まったく興味がない	54	3.7	94.4	1.9
無回答	129	18.6	72.1	9.3	

年齢別でみると、男女とも年齢の高い層で「知っている」の割合が高い傾向がみられ、女性の50代で20.2%と最も高い。

男女共同参画の関心度別でみると、男女とも関心ある人ほど「知っている」の割合は高く、女性の非常に興味がある人で28.9%となっている。

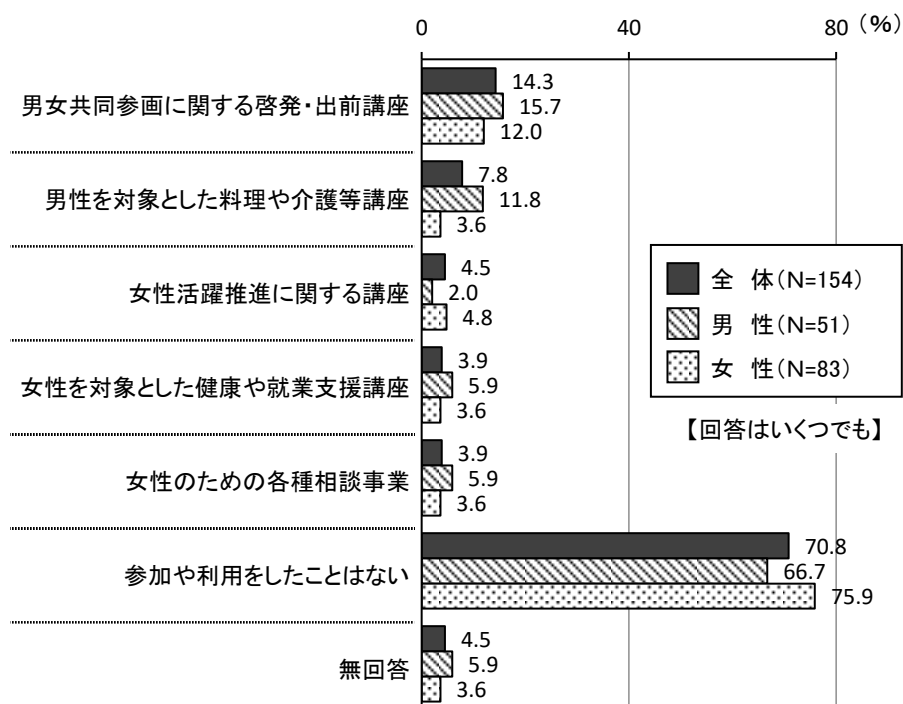
(2) 男女共同参画推進センター「サクス」で参加や利用したことがあるもの

問23-1 【問23で「1. 知っている」を選ばれた方に】

飯塚市男女共同参画推進センター「サクス」では男女共同参画を推進するため、さまざまな講座や事業を実施していますが、参加や利用をされたことがありますか。参加や利用をしたことがあるものすべてを選んでください。(〇はいくつでも)

●男女共同参画推進センター「サクス」での講座や事業に参加した人は男性で3割弱、女性で約2割と男性の方が多い。

図表8-9 男女共同参画推進センター「サクス」で参加や利用したことがあるもの [全体、性別]



男女共同参画推進センター「サクス」を知っている人に「サクス」で参加や利用した事業をたずねたところ、「参加や利用したことはない」が70.8%で最も高かった。何らかの講座や事業に参加した人は24.7%で、参加した講座は「男女共同参画に関する啓発・出前講座」が14.3%、「男性を対象とした料理や介護等講座」が7.8%となっている。

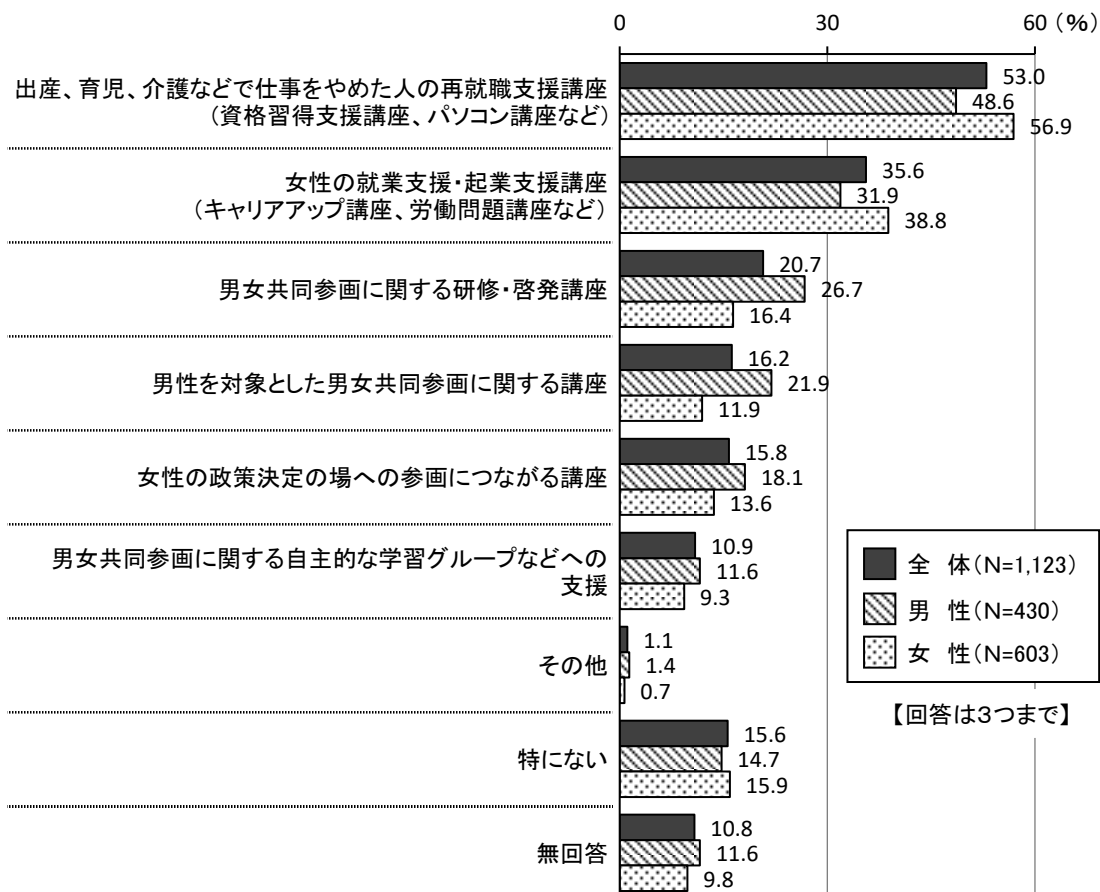
性別でみると、「参加や利用したことはない」は男性が66.7%、女性が75.9%で女性の方が多い。何らかの講座や事業に参加した人は男性で27.4%、女性で20.5%となっている。「女性活躍推進に関する講座」(男性2.0%、女性4.8%)は女性の参加がやや高いが、その他の講座や事業は男性の割合の方が高い。

(3) 男女共同参画推進センター「サンクス」で行ってほしい事業

問24 あなたは飯塚市男女共同参画推進センター「サンクス」では、どのような事業をしてほしいと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つ以内)

●男女共同参画推進センター「サンクス」で行ってほしい事業は「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座」が5割強で第1位。

図表8-10 男女共同参画推進センター「サンクス」で行ってほしい事業 [全体、性別]



男女共同参画推進センター「サンクス」で行ってほしい事業は「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座(資格習得支援講座、パソコン講座など)」が53.0%で最も高く、次いで「女性の就業支援・起業支援講座(キャリアアップ講座、労働問題講座など)」が35.6%、「男女共同参画に関する研修・啓発講座」が20.7%となっている。「特にない」は15.6%である。

性別でみると、女性は「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座(資格習得支援講座、パソコン講座など)」(男性48.6%、女性56.9%)や「女性の就業支援・起業支援講座(キャリアアップ講座、労働問題講座など)」(同31.9%、38.8%)などが男性よりも約7~8ポイント高く、男性は「男女共同参画に関する研修・啓発講座」(同26.7%、16.4%)や「男性を対象とした男女共同参画に関する講座」(同21.9%、11.9%)、「女性の政策決定の場への参画につながる講座」(同18.1%、13.6%)などが女性よりも約5~10ポイント高い。女性は仕事に関すること、男性は男女共同参画に関する講座への希望が高い。

図表8-11 男女共同参画推進センター「サンクス」で行ってほしい事業
 [全体、年齢別、配偶関係別、「サンクス」の認知度別]

		標本数	修男女 ・啓発 講座 に関する 研究	参画性 を対 象と した 男女 共同	座講女 座性の 労働キ 業問題 リ支援 ア・起 業支 援講 座	パ講事 ソ座を コ(や ン資め 講格た 習習人 得得の 支支再 援援就 講講職 座座支 支支	出産、 育児、 介護 など で 仕 事 を や め た 人 の 再 就 職 支 援 講 座	画女性 につ なが る 決 定 の 場 場 へ の 参 画	支的 援な 女共 学同 習参 グ画 ルに ー関 ブす らる る 自 主 の 支 援	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体		1,123 100.0	233 20.7	182 16.2	400 35.6	595 53.0	177 15.8	122 10.9	12 1.1	175 15.6	121 10.8	
年齢別	男性:18~29歳	38	18.4	28.9	26.3	52.6	21.1	0.0	0.0	26.3	5.3	
	男性:30~39歳	42	16.7	26.2	33.3	42.9	7.1	7.1	2.4	23.8	7.1	
	男性:40~49歳	61	18.0	24.6	39.3	50.8	14.8	4.9	0.0	14.8	9.8	
	男性:50~59歳	83	27.7	19.3	36.1	56.6	25.3	12.0	3.6	8.4	8.4	
	男性:60~69歳	107	29.9	16.8	31.8	49.5	15.0	15.0	1.9	15.9	14.0	
	男性:70歳以上	98	35.7	23.5	24.5	39.8	21.4	18.4	0.0	10.2	17.3	
	女性:18~29歳	58	12.1	10.3	48.3	63.8	15.5	10.3	1.7	13.8	8.6	
	女性:30~39歳	82	7.3	7.3	45.1	64.6	14.6	6.1	0.0	12.2	7.3	
	女性:40~49歳	116	15.5	13.8	41.4	57.8	8.6	7.8	1.7	17.2	6.0	
	女性:50~59歳	114	13.2	17.5	37.7	51.8	9.6	6.1	0.0	18.4	11.4	
	女性:60~69歳	140	25.7	10.7	35.0	56.4	17.9	10.7	0.0	17.1	8.6	
	女性:70歳以上	92	18.5	9.8	31.5	52.2	16.3	15.2	1.1	13.0	17.4	
無回答	92	20.7	17.4	32.6	47.8	18.5	17.4	2.2	18.5	13.0		
配偶関係別	男性:未婚	104	24.0	22.1	31.7	45.2	16.3	7.7	1.0	25.0	10.6	
	男性:配偶者がいる (共働きである)	134	21.6	20.1	32.8	53.7	20.1	9.0	2.2	13.4	9.0	
	男性:配偶者がいる (共働きでない)	154	34.4	24.0	33.8	51.3	16.9	16.2	1.3	7.8	10.4	
	男性:配偶者とは 死別・離別した	35	20.0	17.1	22.9	31.4	22.9	11.4	0.0	20.0	25.7	
	女性:未婚	108	15.7	14.8	48.1	60.2	10.2	9.3	0.9	13.9	9.3	
	女性:配偶者がいる (共働きである)	216	13.0	11.6	39.8	55.1	12.5	6.5	0.0	18.1	8.8	
	女性:配偶者がいる (共働きでない)	173	20.8	10.4	36.4	59.5	16.8	12.1	1.7	13.3	9.8	
	女性:配偶者とは 死別・離別した	101	17.8	12.9	32.7	54.5	14.9	9.9	0.0	17.8	10.9	
	無回答	98	20.4	17.3	29.6	44.9	17.3	18.4	2.0	17.3	16.3	
「サンクス」の 認知度別	男性:知ってる	51	39.2	23.5	41.2	49.0	35.3	11.8	3.9	11.8	0.0	
	男性:知らない	365	26.0	22.2	31.5	50.1	16.2	12.1	1.1	15.1	11.0	
	女性:知ってる	83	18.1	22.9	47.0	51.8	21.7	12.0	0.0	16.9	3.6	
	女性:知らない	505	16.6	10.5	38.2	59.0	12.7	9.1	0.8	15.8	9.1	
	無回答	119	16.0	14.3	26.9	38.7	15.1	13.4	1.7	16.8	26.9	

年齢別でみると、「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座(資格習得支援講座、パソコン講座など)」や「女性の就業支援・起業支援講座(キャリアアップ講座、労働問題講座など)」は女性の年齢が低い層で割合が高い傾向がみられる。また、「男性を対象とした男女共同参画に関する講座」は男性の年齢が低い層で、「男女共同参画に関する研修・啓発講座」は年齢が高い層で割合が高い。

II 調査結果

配偶関係別でみると、女性の未婚と既婚の共働きでない人で「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座(資格習得支援講座、パソコン講座など)」が約6割、未婚で「女性の就業支援・起業支援講座(キャリアアップ講座、労働問題講座など)」が48.1%、共働きでない人で「男女共同参画に関する研修・啓発講座」が20.8%と他の配偶関係に比べて割合が高くなっている。

男女共同参画センター「サンクス」の認知で別でみると、男女ともほとんどの項目で認知のある人の割合がない人を上回っているが、「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座(資格習得支援講座、パソコン講座など)」は女性の認知がない人が59.0%と認知のある人(51.8%)を7.2ポイント上回っている。

5. 男女共同参画推進についての意見・要望等(自由記述)

問25 飯塚市の男女共同参画推進について、ご意見、ご要望、あなたが経験したこと、感じていることなど、何でも結構ですので、ご自由にお書きください。

性別	年齢	意見・要望等
男性	20代	考え方が古い人、特に50代以上の高齢者の考え方を改善しない限りその下の世代にも同じ考えが浸透すると思う。最近の若者は、という前に自分たちの言動を見直すべき。女性が家事、育児をして当たり前と思込んでいる男性が多すぎる。特に筑豊地域には。今のうちに若者(小・中・高校生)に対し、男女共同参画社会についてより詳しく、教育、指導していく必要がある。
男性	20代	飯塚市は男女平等に真剣に取り組んでおり、国よりも率先して活動し、素晴らしいと思った。
男性	20代	せっかく飯塚市に男女共同参画に関する条例やセンターがあるのに、全く普及していないように感じる。これからの期待する。
男性	30代	アンケートに対して全体的に昨今流行の女性上位を促す内容に感じた。例えばDVは男性が加害者、女性が被害者、家事・子育てに男性と固定して参加を協力といった女性主体が大前提の文言、安直に表面に出てくる数字のみで稚拙な仕事をしていませんか。秀でた側を落として、劣る側をただ上げるだけでは無責任かつ傲慢な行いだと思う。「男女」ではなく、ぜひ「人間共同参画推進」で取り組んで頂きたい。
男性	30代	男性優位な議会、議員の姿勢を変えた方が良いかと思う。地域的にも山笠が盛り上がり、自治会でも男性の発言が結果的に採用される。そのことに男性方は自覚なし。女性の意見もどンドン言っていると云われても、言った結果聞いていない。今まで通りになっていく。
男性	30代	アンケートの取りまとめ大変でしょうが、頑張ってください。
男性	30代	男女共同参画とは無関係であるが、コロナ対策をもっと行ってほしい。特にどこでも使える1万円ぐらいの商品券を配布してほしい。
男性	40代	「男のくせに」と言う高齢者が多いように思う。
男性	40代	男女公平はあっても、平等というのは論理的におかしいと思う。
男性	40代	欧米などでは当たり前のお金の教育をやるべき。少なくともクレジットカード、キャッシュカード、ローン、税金、社会保険、株式、民間保険等大人になって一人暮らしをするときに知らないことばかりだった。中学生までに株投資の勉強をする諸外国に国際競争力で勝てるわけがないし、女性の経済的自立にもつながる。お金に興味を持たないことが美德とされる社会は、税金やひいては地域、政治に興味を持つわけがない。

男性	40代	男女の機会（チャンス）を平等にすべきだとは思いますが、女性にのみ機会を与えるのは、それはそれで平等ではないと考える。「女性向け」や「女性専用」を増やせばいいということではないので、女性のための講座や支援を充実させても意味はないと思う。
男性	40代	男女別として学歴がすべてベースとなっている。政治や職場でも同じことで、動かない人が多い。苦勞していない、感謝もない、信頼もない、責任もない、まさに負のループだけの社会になっている。人を大切にしたい。
男性	40代	女性の意見をもっと真剣に聞いてそれをどんどん取り入れること。
男性	40代	問19において、いま男女平等だと言っているが、何に対して女性が不利だという場面が増えるのか、果たしてそうであるのか、形だけでは何も変わらず、解決に至らず、良い方向には進まないと思う。特に上の立場であるものが女性を下に見ているように感じる場合が多々あり、これらの改善を早期にするのが先決だと思う。
男性	40代	小学校教育の中で、男女は社会的に平等であることを教え、社会的差別の意識をなくす。過去からの慣例から脱却するにはまだ時間を要するため、初期からの教育が必要。男性の方が収入が多い世帯がほとんどなので、休業中の保障がないと育児休業が取れない。保障制度の整備が必要。女性の社会進出のハードルを下げるため、企業への要請と進出のやり方を知るための情報を提供する。社会的に男女平等であるが、生物として性による違いは存在するので、何もかも男女が等しいわけではない。女性だからできること、男性だからできることというのは明確に存在するわけで、そこまでごちゃ混ぜにするとおかしいことになる。区分けが必要なところは区分けすべき。そもそも女性の社会進出を支援すると言っている時点で女性が弱いと公言しているので、本当に平等な社会ならそういう法律は必要でなくなる。今はその時期にきていないので、法整備と教育、制度により平等な社会を構築していくべきである。その中に少子化対策も絡める必要もあるかと思う。さらに、企業の長や政界のリーダーも男女云々でなく、ふさわしい人、出来る人がやるべきで、そこに男女を絡める必要などない。極端な話、出来る人を集めた結果が女性だけ、男性だけになったとしても成果をきちんと出してくれれば問題はない。女性登用〇〇目標などと言っている時点で差別している。その仕事に対する能力で判断することこそ本当の平等であると考えます。
男性	40代	良いことだとは思いますが、税金の無駄遣いにはならないようにしてください。
男性	40代	男女共同参画推進という言葉を使わないといけないことが、皮肉にも私に現実を突きつけているのだと思う。日本人の生活様式、男女の役割はおおよそ300年前の徳川幕府時代に原型を求めることが出来ると思う。その時代はまだすべてのことを人力でやっていたので、合理性が認められる。しかし、現代に生きる我々が300年前と同じでいいのでしょうか。お茶くみ、電話の対応、職場での女性の仕事だと決めつけている。見直して行く必要がある。
男性	40代	男女にとらわれすぎ。議員の割合も能力がある人なら結果、男性10割でも女性10割でもいい。女性の割合を増やす考えだけで能力がない人が議員になるのは違う。
男性	40代	60代以上の元気な方たちを子育ての場に登用し、子育て世代の負担を減らす。また、ボランティアではなく賃金をきちんと支払うことでやりがいがある環境を作る。子育てを仕事として出来る社会を望む。

II 調査結果

男性	50代	差別と区別を混同している人がいると思う。女性自身も一度職を辞して、復職を考える時点でいろいろと意識の変化も起こっている。本人の意思を含めて対応することが望ましいし、同じ状況で復職を望まずに再勉強した上で望んでほしいとも思う。
男性	50代	男女共同参画社会の実現を目指して、より良い2次プランの見直しとなるよう期待している。
男性	50代	問 22 4. 女性も能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する について、女性が男性より能力をのばし、女性って男性よりダメなのかと思う。男性も女性も自立出来るようなものを充実してほしい。
男性	50代	なぜ、結婚したら女性は名前を変えなくてはならないのか。なぜ、土俵に女性は上がってはいけないのか。なぜ、神域には女性は入ってはいけないのか。このように慣習やしきたりを変えないといつまでも良くならない。矛盾だらけの日本社会である。
男性	50代	世間ではやはり男性優位の意識があると思う。時間はかかると思うが、男女共同参画は推進していかなければならないと思う。
男性	50代	飯塚市では男女共同参画推進を積極的に行っているとは思えない。飯塚市に男女共同参画推進センターがあること自体を知らなかった。
男性	50代	男女共同参画の問題にかぎらず、人権問題全般の啓発は知識を伝えたりすることより、自身が他者を思いやる事が出来ているかについての自省を促すようなものが理想だと思う。大変だと思うが、どうぞ職員の皆さん頑張ってください。
男性	50代	長年、エリア内の産業構造に変化がなく、また新たな産業の芽が芽生えたとしても異業種間の交流が無ければ(薄ければ)古い慣習は相変わらず残ったまままだと思う。
男性	50代	若い人たちが地元に残れるような産業が飯塚市にもっとあれば男女ともに活躍できるチャンスが広がると思う。女性が社会で活躍でき、さらに少子化に歯止めをかけるには意識と社会の仕組みの両方で改革を進めていくことが大切だと思う。
男性	50代	飯塚市のホームページでの情報発信により、励みとなる経験を知りたいと思う。
男性	50代	女性の参画を意識的に増やしていく過程にあるので「男の子、女の子」ではなく、「女の子、男の子」とすべきだと思う。と言うくらいに、とにかく女性、男性の比率を決めないと何も変わらない。比率のルールを無くすのは平等な社会を実現してからだと思う。クォーター制を条例化して全国ニュースになると良いと思う。
男性	50代	女性にしか子どもは産めないのも、もっと女性を大切に出来る社会になれば良いと思う。結婚をためらったり、初めから想定していない若者が増えているので、国内の雇用を含めて大変換してもらいたい。
男性	50代	税金は使わないでほしい。
男性	60代	日々の活動ご苦労様です。
男性	60代	皆がしっかりわかるように。
男性	60代	男女共同参画等あらゆる活動において、政治色を一切なくさないで真の向上とはならない。参加者の偏った考えで男女共同参画が利用されてしまう恐れがある。常に何にでも平等でなくてはならない。性別、職業に右も左もない。
男性	60代	女性が働きやすい職場環境の整備が必要ではないか。例えば、結婚、出産、育児の取り扱い方が企業によって違うので、一本化が必要ではないか。

男性	60代	市政における女性の割合をもっと増やす方策はないでしょうか。例えば市議会における女性議員の割合を4割以上にするなど。
男性	60代	まだまだ男性中心の社会である。
男性	60代	日本全体のことはニュースなどでよく耳にして、ある程度知識はある。しかし、飯塚市の行政における活動全体が我々市民にはまったくと言っても過言ではないほど伝わっていない。国では法律改正などを行っているが、いざ飯塚市政の広報、活動のやり方やメッセージを出す努力がほかの県や市に比べると積極性が少し足りないと思う。市からのメッセージがもっとわかりやすく届き、効果が出るような努力がほしい（コロナ対策に対しても同様である）。
男性	60代	頭で思うことと行動することに関して、ずい分と変わってきて難しいと思う。時代がついていけない。
男性	60代	全てにおいて男女の差がないのが理想だが、現実女性にしか子どもは産めない。その部分において男は出来ない。そのため他の部分で男が優位になろうとして今のようなになったと思う。能力的には男女の差はないと思う。体力的にはどうしようもない差が男女間にはあるが、知力的には差はないので、この先男女はすべてにおいて半々でよいと思う。
男性	60代	私は男女共同参画推進について、市民意識調査票が届いて初めて知ることが出来ました。
男性	60代	詳しくわからないが、飯塚市は男女格差が大きいと思う。古い考え方をする人が多いと思う。
男性	60代	仕事や子育てに追われているのが現実でないか。男女共同参画社会を考えると、男女それぞれに生活にゆとりが無いと難しいと思う。したがって、柔軟な勤務体制（在宅勤務、フレックスタイムなど）や代替要員の確保がキーワードだと考える。
男性	60代	飯塚市は働く人に対して住民税が高すぎる。もっと生活保護の人を減らしてもらいたい。生活が楽しい飯塚市にってもらいたい。
男性	60代	体力面ではどうしても男女に差があるので、場合によっては男性優先は仕方ないと思う。
男性	60代	婚活支援、結婚と生涯学習、夫婦で起業、男性の子育ての義務化、いつでもどこでも働ける環境づくり（労働環境づくり）などなど啓発、事業の推進。
男性	60代	これまでの政策決定に女性が発案し、決議された案件がどれだけあったのか。このアンケートを発した方々が理解しているのか。また、人口の半分以上が女性であり、その現実をどうとらえるか意識の問題ではないか。
男性	60代	男女は平等であるという基本の考え方を子どもの頃から教育することが一番大切である。
男性	60代	男女共同参画推進センター「サンクス」へ行ったことがなかった。
男性	60代	そもそもこのアンケートを外国人に対して日本語で送ることに疑問である。通訳しながら回答した。女性登用などなかなか難しいと思う。女性自身が切り開くしかないと思う。
男性	70歳以上	「サンクス」について詳しく知らないので、広報などの「サンクス」についての記事を興味を持って読ませてもらう。
男性	70歳以上	「サンクス」の呼称を知らなかった。この事業の成果はあったのか。問24の事業の人材（講師など）は誰が担当しているのか。外部か内部（市役所）にそのようなリーダーがいるのか。

II 調査結果

男性	70歳以上	「男は男らしく、女は女らしく」この言葉は差別用語としてとらえられているようだが、私はそうは思わない。力仕事など男性が優位なもの、近所づきあいなどは女性が優位なものもある。あまりにも男女とも同じ扱いは好まない。
男性	70歳以上	市報のお知らせだけでなく、地域と直接会話することがあってもいいのではないか。
男性	70歳以上	高齢者が意志決定の中心から離れ、相談役などに回るなど、過去の職責の行為者が中心になることを避けること。意見が言いにくい。
男性	70歳以上	ミニ市議会、ミニ国会などの開催。
男性	70歳以上	私が住んでいる町は公民館の行事に積極的に参加するのは女性の方が圧倒的に多く、男性はあまり関心がないように思われる。田舎だからでしょうか。男女共同参画の問題でも男性の意識改革がもっと必要と思われる。
男性	70歳以上	会合などしても女性は代理という感じで出席している。
男性	70歳以上	飯塚市男女共同参画推進センター「サンクス」は素晴らしい事業だと思う。残念ながら私は今まで「サンクス」の事業を知らなかったが。
男性	70歳以上	男女共同参画推進がそもそもわからない。男女平等の中にも男性は男性の、女性は女性の役割があると思っている。その中で優れた女性は頑張してほしいと考える。
男性	無回答	何をしても無駄なことのようなのである。
女性	20代	男女平等にすることは大事なことであると思うが、社会全体として女性を優位にしようと無理している感じがする。結局は本人の意思だと思うし、啓発するよりは困っている人に少しずつ相談にのっていく感じが良いのではないか。自分自身まだよく理解できていないが。
女性	20代	表彰するときはきちんと見極めた方が良いと思う。
女性	20代	男女が平等に活躍できる職場が理想である。
女性	20代	このアンケートにおいて、男性、女性という表記について二つ性のみ用意されていること、家庭には必ず男女がいるという設定の元に質問されていること自体、ジェンダーや家庭環境への配慮が欠けていると思う。
女性	20代	セクハラをしてくる人が、それがセクハラだと思っておらず、ただ被害者がつらい思いをして、しんどくなるのはおかしいと思う。(手を触ってくる、人間違いで声かけナンパなどどちらも男性年配者)人の良心を利用する人がいることを知らせなかった。
女性	20代	市議会議員の女性の割合、飯塚市の審議委員の女性の割合を増やすべきだと思う。飯塚市長の発言には時折、男女平等に欠けたものがあり、市長として態度を改めるべきだと思う。
女性	20代	今回、アンケートの対象者に選ばれよかったと思う。問22は13. その他(各世代に対して、その世代にあった方法や内容で情報を発信していく)と記入したが、私自身、飯塚市が取り組んでいる内容や目指す姿を知らなかった。そのため、若い世代への発信を強化すれば、これからの目標の実現や今ある取り組みの向上に向けて、良い意識向上が図れるのではないかと考えた。このような機会を頂き、おかげで勉強になったし、今後はもっと取り組みや内容を知るように意識したいと思う。ありがとうございました。私のような人が増えたらうれしいと思う。

女性	20代	女性は子どもが出来ると仕事をやめてしまう人が多いと職場の上司が言っていた。それが「甘え」だと言っていた。この考え方は疑問に思う。結婚、出産を機会に人生のキャリアプランを見直したい人向けの講座や啓発(企業で働いている人、向け男性などに向けて)があればよいと思う。LGBTQのQの部分にあたるので、結婚、妊娠とかのワードはすごく敏感である。「Q」の人へのハラスメント対策があれば良いと思う。
女性	20代	保育士の処遇改善は少しずつよくなってきてはいる。しかし、仕事内容に見合った給料ではないと感じている。ただ子どもたちと遊んでいるだけではない。将来の子どもを見越し、子どもとその保護者とも深くかかわっている。負担よりも生活面での賃金改善をよろしくお願ひしたい。
女性	20代	男女平等をすすめていくなら、まずは意識改革が必要だと思う。現在の日本は女性で育児をしているイメージが強いし、育児は女性の仕事だと思っている人が多いとも感じる。女性は働きながら、家事も育児もしていて本当にすごいと思う。仕事をしているのは同じなのだから、男性が家のことをしなくいい理由はないはずである。もっと、世の中の母親が休めるように、ゆっくりできるようになってほしい。
女性	20代	今回のアンケートの間1では男女の区別しかなかったが、LGBTの方々にとっては難しい回答であるなど感じた。LGBTの理解促進のためにも少し変更した方が良いのではないかと思った。
女性	30代	男女平等といっても男性にしかできないこと、女性にしかできないことが必ず出てくるので、そのあたりの理解をしていくことが第一だと思う。すべてが平等でなく相互理解や協力をするを深めていくべきだと思う。
女性	30代	まずは年配男性の意識を変えるところから始めないと、何をしても無駄だと思う。男女、若いとかそうでないとか、そういうことで人との接し方を変えるのではなく、フラットな態度で仕事や活動をしてもらわないと女性が入っていきづらいと思う。セクハラなどはもっと厳しく取り締まっていかないと女性はずっと不利なままだと思う。
女性	30代	男が稼ぎ、女は子育てという意識の人が多いため、子育てのために男性が仕事を休みにくい雰囲気がある。
女性	30代	未就学児がいても積極的に働きたい。就職活動のあっせん。
女性	30代	女性が働くうえで子どもに対する支援を充実させることが最も重要だと思う。我が家は息子に発達障害がある。延長保育などを断られたので、私も夫も働く時間を短くしている。仕事をやめずに済んだだけでもいいのかもしれないが、飯塚市の子育て支援では十分な時間働くことが出来ない。課の枠を超えて連携し、女性を支える施策を充実していただけることを願っている。
女性	30代	世界の中でも日本の男女共同参画は遅れていると肌で感じてきたが、飯塚市がこのようなアンケートを実施し、積極的に取り組んでいることを知り大変うれしく感じた。男女、LGBTなど関係なく、個人個人で得て不得手ややってみたく、あまりやりたくないことは当然あると思うので、誰か(男女LGBT構わず)が「何かをやってみたく」と思ったときにそれをみんなで後押しする社会になってほしいと思う。
女性	30代	私の初めての出産の時、夫は仕事と出来る家事をこなしてもらった。すごく助かったことは今でも思うが、夫の若白髪が増えてきて、無理をして倒れられ、収入が減っては困ると思い、家事をしてもらうことをやめしてもらった。男女平等といっても女性は出産がある以上、無理だと思う。男性に無理して家事、育児をさせるのはどうかと思う。子育てが終わってから社会的地位につける支援があればぜひ参加したいと思う。

II 調査結果

女性	30代	女性を優位にしようとする政策は良いと思う。女性の社会参加範囲が拡大することで今まで見えなかったこと、問題等が見えてくる可能性がある。しかし、一方でセクハラなどの規制が強くなりすぎて、よけいに範囲が狭くなっている現実もある。
女性	30代	市議会議員の定年制を導入しないと若手は入ってこないし、若手が少ないとつぶされる可能性もある。高齢の議員は、自分の時代のことばかりで、子育て世代のことなど全くわからないし、わかろうともしない。一度、若手だけつって選挙をしてもいいのではないか。
女性	30代	出産のことを考えると、フィジカルの問題でどうしても女性が時間的、身体的に不利を背負うことになり、絶対に不平等が生まれる。法整備は進んでいると思うが、実情はまだまだと思われるので、どうにか男性側の企業の協力（本当の意味での）が得られたらと感じている。
女性	30代	女性に厳しい世の中とは思わない。得することもたくさんあると思うので。そもそも生き物として男女の違いがあるので、力の差、子どもを産めることなど、生まれたときからの違いがない限り、すべて平等には出来ないのではないか。重いものは持てないし、高いものは取れない、男性は子どもを産むことが出来ない。優しさを持って接しあえば良いだけ。自分にできることをするだけ。そもそも幸せにも個人差がある。
女性	40代	世の中には女性あることで苦しんでいるのだなと思った。自分は幸せなのだと思った。
女性	40代	飯塚市の大型スーパーナフコ、コメリ、ハローディー、ルミエール、ニトリ、トライアルなどの会社の方といろいろ取り組んでいくと良いと思う。
女性	40代	住宅手当を会社に申請したとき、夫（別会社）の給与明細も提出した。給与の高い方（私）に出すと言っていたが、結局は通常夫の方に出すからと拒否された。私が男であれば支給されたと思う。夫婦で同じ会社の人には出るのに不公平だと感じた。
女性	40代	東京で働き、地元である飯塚市にUターンしてきた。わかってはいたが、男女の格差は関東に比べて九州はひどい、飯塚市はひどい。例えば、東京は保育園の送り迎えは父親が半分受け持っており、それが当たり前である。自分の地元がこんな感じであることが悲しいと感じる。親戚の集まりもひどい。男はただ飲み食い。女性もそれがおかしいという強さが必要である。
女性	40代	年配の方は息子に家事、炊事をさせずに育てているので、同居では夫に家事、炊事をさせられない。仕事は同じようにしているのに。女性には休みがない。年配者の考え方を変えないといけない。
女性	40代	女性は子どもが生まれると母性が生まれる。そのため本当の意味での平等にはならないと思う。働くことに関しては男性が変わることも大事であるが、女性の意識が変わることも大事だと思う。育児をしながら男性と同じように働くということは難しいかと思う。男性（夫）が育児に積極的でもやはり家のこと（子どもこと）は気になる。平等は難しいと思うが、女性も男性のように働けるようなサポートがあればいいなと思う。
女性	40代	現在、社会を担っている世代（40代～70代）の男性にはいくら研修や講座をしても期待できない。今、子どもを育てている世代の親に「男女平等・同権」などの教育を頑張ってもらいたいと思う。女性である母親が女性差別をする男性を育ててきたような気がしている。出産時、子どもが女の子だとがっかりする年配の方が多いと思う。

女性	40代	現在ネット販売での事業主の女性であるが、経験も資金も不十分な中、派遣で仕事をしながら少しずつやっている。いろいろな支払いに追われ、借金もしている。現在、赤字であるので創業はとても簡単でないことを実感している。しかし、あきらめたくないのだからこれからも頑張って乗り越えていきたい。
女性	40代	今現在、育児中で仕事を辞めている。資格は持っているが、何年かブランクがあるため再就職のためにパソコン講座や企業説明会などがあれば参加したいと思っている。また、今後保育所の待機児童が無くなるようになってほしいと思う。
女性	40代	国全体で変わらないと無理だと思う。政治の世界で、まずは半分は女性にすることで変わっていくと思う。地域活動だけでは変わらない。
女性	40代	男女共同参画とは関係ないが、ひとり親家庭が優遇されていると思う。会社の中にもいるが、結婚はしていないがパートナーと同居で、子どもの教育費もほとんど無料で、車も高級車と私よりいい暮らしぶりである。コロナでひとり親ばかり支援、支給をしているが、年金では足りない。高齢者などにも支給してはどうか。物価も上がり、年金では足りない。子どもにお金がかかるので、私の友達も冗談で夫と別れようかといっている。中には本当に困っているひとり親もいるかもしれないが、そういうところも見直してもらいたい。
女性	40代	「男女」といっても男の人の中にもいろいろな人がいて、女の人の中にもいろいろな人がいるのだから、各々の場に適した能力を持っている人が主になり、活動することが良い環境につながると思う。どうしても女性は出産することから、子育てに関わることもあるが、出産・育児のためにその場にいられない状況にならないように、遠慮なくサポートをしてもらえるような環境を整えたいと思う。そうでないと子どもの数は増えないと思う。
女性	40代	少子高齢化、人口減少を考えたとき、男女共同参画は実現できそうなのか。例えば、女性の登用を増やすのであれば、必要な人数や物などを増やす分、他の何かを減らす考えなのでは。変えるということでしょうか。確固として必要な礎とはなんなのでしょうか。世の中の形態の変化に対応できそうなのか。男女共同参画について見たり聞いたりしたことがほとんどなく、勉強不足で申し訳ない。今回のアンケートで少しわかった。
女性	40代	公園整備、道の駅の新規開設。飯塚市男女共同参画推進センター「サンクス」を道の駅内に設置する。
女性	40代	以前、飯塚市男女共同参画推進センターの人にお茶くみをしていたら「そのようなことは女性の仕事ではない」と叱られた。頭ごなしに女性の仕事ではないと言うのではなく、職場に自動給水のようなものを置く費用援助など物理的な支えが必要。精神論が多く、ただの怖い人たちという印象で、同性でも受け入れがたい。
女性	40代	男とか女とかではなく、人として考えられる世の中になるよう、今後いろいろな対策を考えていけるようお願いします。一人ひとりが意識していけるようになればいい。
女性	40代	家族に介護が必要な人がいたら働けない。制度は万全ではない。結局お金がかかる。子育て中に働こうと思っても、その間に病気になられると預けるところがない。自分の親が近くにないと無理なこと。
女性	40代	災害の多い時代になったので、特に災害時の避難所や弱い立場の人々に行き届いた支援（女性、高齢者、子どもなど）を日ごろから準備をしておいてほしいと思う。（女性、男性の居場所を分けるなども含む）

II 調査結果

女性	40代	講座などは受ける時間がない。仕事が終わりと、子どもの習い事、病院行きなど、仕事が早く終わる私がいつも行かなくてはならない。夫は帰宅が遅く頼めない。週に1度でも5時に帰ってきてもらったら助かる。
女性	50代	何を成すにも基本は教育にあると常々考えている。現在の社会は都会も地方も他人(者)に無関心過ぎていると思う。他者との関わり大切さをもっと教えるべきではないか。学力だけでない、人としての教育の大切さが失われているのではないか。
女性	50代	男女の平等感は少しずつ社会の中でも変わってきているが、まだまだ時間がかかると思う。女性は現実、仕事、家事、育児と役割的にも多くあるので、男性と同じように働く時間がとれない。女性、男性がどちらでも役割を持ち生活していけるようになればいいと思う。飯塚市は人権に対する取り組みをととても大切に行っている行政だと思う。どこまでを人権として守るのか、どこまでをDVとするのか、正しい知識と判断ができるようみんなで周知していき、情報を得ていければ良いと思う。
女性	50代	これからは「サックス」に足を運び、何らかの研修を受けてみたいと思う。
女性	50代	何をしている課なのか、よくわからないため特にない。
女性	50代	年寄りの孤独死、私みたいに子どもの世話になりたくないという人もいるので、年金の範囲内で誰でも入れる施設があると介護は楽になる。
女性	50代	年に1回のペースでセクハラに遭い、市役所のトイレで「サックス」のカードを見ながら、これ以上エスカレートしたら相談しよう、相談しようと思いつつながら解決していくので、お守り代わりになっている。将来、女所帯になれば、危険も増えると思うので、防犯対策をしっかりしていきたい。
女性	50代	特に年配者や周りの性別による差別意識が無くならない限り無理。今の若い人たちは差別意識は低いと思う。一時代変わったら少しは変わるかもしれない。
女性	50代	もう少し誰にでも知られるように広めてほしい。
女性	60代	夫婦別姓選択制度は考えているよりも実際は大きなことだと思う。「夫婦」という観念を改める良い機会になると思う。「個として尊ばれる」第一歩になる。家制度は現実的に崩壊していると考えてもよい社会になっている。
女性	60代	まだまだ「家事は女性が」といった考え方を持った男性が多い。
女性	60代	問10-1ですべて回答は「平等になっている」を選んだが、たまたま今の職場の社長が良い方なのでそれが初めて実現された。今までいくつかの職を経験したが、他の職場はすべて社長がワンマンでえこひいきがひどく、女性は涙を呑むのがほとんどの最悪な状態だったので女性の平等を強く希望する。

女性	60代	表面的には飯塚市も男女差別をなくそうと取り組んでいるように思う。しかし、実態は先日の森元総理の発言と同じ。そしてまわりの人も「あの人はそんな人ではない。女性を大切にしていますよ」との発言もあり。まったく、問題の本質をわかってないと思う。同じ発想が飯塚市にもあると思う。例えば、男性がかなりきつい発言をしたら「あいつは見どころがある」「たくましい」という評価になる。しかし、女性が厳しい発言をすると「女だからきついことを言う」「言うだけなら誰でも出来る」という評価である。また、力のない男性を要職に任命し、出来ないとなると「いま鍛えているところ」「立場が人を作るからこれからだ」と擁護する。女性だと「だから女性はダメなんだ」となる。要職にはそれなりの力量がある者が任命されてしかるべきだろう。また「要職に任命できる女性がいない」というのなら、女性の力量を高めるための社会的な素地を作っているだろうか。今までの歴史から考えると男性側、行政が女性が活躍できる社会的素地を作ることが重要ではないかと思う。また、女性自身も現実に甘んじることなく、自らを磨く努力は必要である。それは男性も同じこと。
女性	60代	飯塚市へ来て日も浅く、とても住みやすいが、不満がある。イオンはとても小さく物足りないこと、直方市にはびっくり市があるが、飯塚市には見て楽しむところがない。飯塚市に道の駅があると良いと思う。福岡市に居た時には糸島市や宗像市の道の駅によく行っていた。シャッター通りになっているのがもったいない。バスが通らないのであれば、駐車場をもっと広げて止めやすいように工夫をしてはどうか。とても残念である。
女性	60代	このアンケートの質問に納得がいかないのが多くおかしい。男女が平等というのはよくわかるが、職場でも世間でもまだまだ男性が上司や役職者が多い。女性でも優秀、行動的な方がどんどん活躍してもらいたい。結婚して子どもができ、成長して、今度は孫が出来る。その中で病気をしたり、いろいろなことがあり、夫婦共働きをしているのが現状である。今はコロナに感染しないように過ごす毎日で、この先世の中が何事もなく平和であってほしいと願っている。常識的なマナーの守れる人が多くなってきているのではないかと思ったりすることがある。
女性	60代	男性と女性が生まれたときあるということは、それぞれの役割があると思う。社会に女性が進出することは良いことだと思うが、なんでも平等に同じようになることはない。無理に女性議員を増やす必要もないと思う。私は専門職なので職場で男女の差別はない。男性に生まれたかと思ったこともあるが、女性にしか味わえない幸福はあった。謙虚で可憐な清楚な美しさをそなえた女性が良いと思う。
女性	60代	男性優位がいいとも思わないが、他の議会でのことで、女性が赤ちゃんを連れての議会参加とか、仕事中的子どもの送迎などは特別な理由以外、良いとは思っていない。市民の代表としての仕事なので、議員という職に就く前にそれらのことはきちんと整理しておくべきだと思う。私がこの町を変える、なんて思っているならいつもでもその体制を支障なく頑張れる環境も作っての立候補も大事だと思う。女だから、子どもがいるから許されるは、市民に対して失礼だと思う。男女平等なので。

II 調査結果

女性	60代	地域性、風習を考えるとなかなか難しい壁がある。以前、古賀市で働いていた時、市（市教育委員会？）の取り組みで小・中・特別支援学校の児童生徒へ男女共同参画の「一行詩」を募集し、入賞作品をポスターや看板にして掲示していた。微笑ましい内容のものから、大人も考えさられる詩まであり、良い取り組みだと思った。（飯塚市でも取り組まれていたらすみません）男性であれ、女性であれ幸せな人生でありたいものである。
女性	60代	行政のお仕事に感謝申し上げます。
女性	60代	飯塚市民のために男女共同参画社会が実現するよう日頃からの尽力に感謝している。イベントや講座、その他に参加することで興味を持ち、行動や考えも変化してくると思う。居住する身近な施設で講座などがあれば参加したいと思う。
女性	60代	男女共同参画推進課があることすら知らなかった。
女性	70歳以上	生まれ育ちも、嫁ぎ先も男性優位に出来ているので、なかなか男女共同には踏み込めない。
女性	70歳以上	「サンクス」での事業理念はとても素晴らしい。嬉しく思う。
女性	70歳以上	国や飯塚市においても男女共同参画社会が少しでも早く実現し、これからの明るい住みよい社会を希望している。
女性	70歳以上	年配者よりも若い人たちへ意見を求められて方がいいのではないかと。私たちはもう高齢で考え考え答えつつもりであるが、有意義な答えが出たかどうか。
女性	70歳以上	地域の人と交流がないので、情報不足。仲間がいなくて毎日があまり楽しくない。
女性	70歳以上	私自身、高齢であるため古い考えがあると思う。ただこれから先はこうあるべきと考え回答させてもらった。
女性	70歳以上	女性がもっと豊かに、明るく、市全体で取り組んでほしい。
女性	70歳以上	一歩社会に出れば男女差別に囲まれているように思える。身近でも、自治会長、各役員の会長、飯塚市役所での課長クラスで女性は何人いるのか。女性は男性からいまいましく思われていることを強く意識しており、それがわかるから女性たちは発言しない。勇気を持って発言しても、発言したことを後悔するのがしばしばである。オリンピック元会長に見られるように、男性一人ひとりが「自分が差別者である」ことを意識していない。まずはそれからで、根深いものを感じる。
無回答	20代	社会全体がまだまだ男女平等とは言えない社会であるので、そちらを進めるべきだとは理解しているが、LGBT等性的少数者は置いてけぼりのような感がある。性別や年齢にとらわれない社会を目指すのであれば、それなりの配慮をしてほしい。今回のアンケートのように性別を性自認として聞かれると意図しないカミングアウトをさせられているようで嫌な気分になる。また、性別や男性と女性に分かれていない人もいるし、答えたくない人もいるということを忘れないでほしい。今回のアンケートでは、人によって答えにくい、答えられない箇所もあるので、今後よろしくをお願いします。
無回答	20代	男女とされているが、政治的にも社会的にも女性が差別され、男性が優位というところだけピックアップされているように感じる。職業によっては逆転する職業もあるというところも考えるべきではないか。例えば保育士、看護師など。

無回答	30代	法律上は男女平等になっているかもしれないが、まだまだ家のことは女性がする、政界の上層部は男性ばかりで共同が進んでいないように思う。ただ、参画したいのはすべて女性（男性）ではないことを前提に考え、やりたいと思った女性に平等にチャンスが与えられる世の中になると良いと思う。
無回答	30代	私自身、子どもの時両親とも働いており、保育所に通っていたし、小学校でも鍵っ子だったので、「母親は家にて子育てをするもの」とは思っていない。ただ、やはりほとんど母親がある程度子育てや学校行事に参加するイメージもある。共働きをしなければ実際生活も成り立たないため、働いている。思いや考え方は各家庭であると思うので「女性が男性と平等になるべき」か、どうかはまだわからない。ただし、都合が悪いところだけ「女性差別だ」というのはおかしいという気もする。今の時代はDVもセクハラも女性だけが被害を受けているわけではない気がする。
無回答	30代	私は男性で保育士をしている。女性主体の仕事場なので男女平等ということあまり考えたり、感じたりすることがなかった。女性だからしやすいこと、男性だからしやすいことなどがそれぞれあり、それを尊重しあえることが大事だと思う。突き詰めれば個人で尊重しあえる環境を作ることが出来ればみんな幸せなのではないかと思う。
無回答	30代	正直、飯塚市の取り組みは全く認知していなかった。ただ、飯塚市のLINEは登録しているので、そこで具体的な取り組みや紹介などがあれば目を通すかもしれません。
無回答	40代	8ページの質問はアンケートの内容にそぐわないと思う。市内男女共同参画推進のインフォメーションが無い。市長を女性にしていない、しないのはなぜか。アンケート調査に協力しているが、アンケート結果が市政に反映されていないように感じる。
無回答	50代	男女は平等であってほしいが、すべてにおいてではなく、女性は弱い部分を持ち、子を産むという特性がある。社会において差別はしてほしくないが、ワンオペ育児や災害時に避難場所で性被害にあったなどの問題は、女性として男性とは違うということ認識しなければいけないと思う。
無回答	50代	現在、飯塚市外で働いている。もっと市内で働ける場所があればと思う。時給などを考えることもあるが、高齢者と同居している人が安心して働ける場所があればと思う。一度、離職した人でも能力はあると思うので、働ける職場があることを広めてもらえると、女性がもっと活躍できると思う。
無回答	50代	古い考え方もかもしれないが、「男らしく、女らしく」の言葉が悪いとも思わない。差別は駄目であるが、区別はあっていいのもだと思う。男の人にしか出来ないこと、女の人にしか出来ないこと、適したことは生活していく中ではあることだと思う。このようなアンケートを行政がするのもどうかと思うし、犯罪や法律ならば白黒つけられるが、価値観はそれぞれが違って良いと思う。
無回答	50代	女性の力が大事である。男女平等へは男性の成長が必要であると思う。また、女性も積極的に平等に向けて力強くうって出てきてもらいたい。
無回答	50代	男女共同参画の言葉だけが独り歩きしている部分が多くあるように思う。男性社会で今までは社会が動いていた部分が多数あり、私としては、男性は女性が活躍できる環境づくりに重きを置き、同時進行で女性のキャリアアップ等に属する研修などを増やす、またそれに要する時間の考慮も必要と思う。

II 調査結果

無回答	50代	高齢の(男女共同参画などの基本がわかったふりをして全くわかっていない森元首相のような)リーダーは足かせになる。改善、改革を進めたければまず年齢上限を決めるべき。高齢者はオブザーバーで十分。昔からの習わし、風習、育ってきた環境が染みついた高齢の(特に男性)人は、そのような人が多い。政治でも社会生活でも顕著にあらわれるのは意識の低さ。何事も変化を求めるなら全体の意見集約よりは、まず若い人の意見が表に出るべき。全体の意見を聞いてもまとまるわけがない。
無回答	60代	飯塚市議が女性一人というのが、飯塚市の問題を的確に表していると思う。何でも男性が決めてきたとしか思えない。また、市内で女性管理職の登用を、と考えておられるとしたら、それは性別が優先するのではなく、まず人権意識を持った人であり、自分を謙虚に振り返ることができる人になってもらいたい。パワハラや人権を無視して職場の人を病気にさせるような人が、女性というだけで権力を持つことは許せない。「女だから誰でもいい」ということではないということはしっかりわかってほしい。
無回答	60代	勉強不足だと思っている。
無回答	60代	堅苦しくなく、すべての人がスムーズに自然な形で参加できるようなシステムが望ましい。あまり肩書、役職などを付けると敬遠されるので、つけない方が望ましい。
無回答	60代	「サンクス」のもっと詳しい内容をチラシなどで読めるようにしてもらい、もっと深く考察できるようにしてもらいたい。普段、忙しいばかりで男女共同参画推進について考えたこともなかったの、かなり難しいことのように感じる。男女を集めて仕事や政治をする、組織を作って男女共同参画のリーダー社会などを作るなど、他市の状況を見本にしてほしい。古い考え方は無くなりそうにない。
無回答	60代	男女共同参画推進の活動が市民に普及していないと思う。日々の生活に追われて参画する余裕がない。
無回答	60代	男女共同参画推進など、この先環境問題と同じに必要なことであるのは重々理解しているが、各々家庭での状況、経済、家族構成など違って当たり前なので、それに沿っていないからといって、否定的に批判しないでもらいたい。人格も一人ひとり違う、考え方も違う、考え方の物差しは人それぞれなので、その人の考え方を尊重することも忘れてはならないと思う。最近メディアの力も少しおかしく感じている。皆生活をしていくうえで努力をしている。おかれた立場で身の丈に合った生活を、家族が笑顔でいられる生活をするために自分たちにできることを出来る方法でやっている。社会の例にあてはまらない人であっても軽々しく、否定したり批判したりしてはいけないと思う。
無回答	60代	私の育った時代は、男性に家のことをさせてはいけないと親たちが言う世代であった。私の子どもたちの時代は、男性が家の中で家事を分担することを”美”とする時代へ変わってきた。これからの時代は男女の区別なく男性が料理やその他の家事、女性がDIYをしたり、何でもできる教育が必要だと思う。そして、差別なく、意見を出し合える世の中にならなければいけないと思う。
無回答	60代	このアンケートは女性に尋ねた方が良いのではないのでしょうか。
無回答	60代	飯塚市民の皆様がより幸せになるように願っている。
無回答	70歳以上	まだまだ女性の地位は低く、男性の力が強いので女性の意見が通らず、男性に圧倒されている社会を変えてほしい。
無回答	70歳以上	男女共同参画推進でも、女性より男性が指示を出したり、命令したりではないのですか。

無回答	70歳以上	日常生活において女性の方に家事の負担が大きいことが多くある。各自治体に巡回講話してもらいたいと思う。
無回答	70歳以上	市民意識調査の対象者はどのように選ばれたのですか。一人暮らしにはこの内容はわからないことが多い。
無回答	70歳以上	飯塚市男女共同参画推進センターが出来ていることはとても良いことだと思う。言葉だけではなく、困っている女性に心からの支援を願う。
無回答	70歳以上	男性の女性に対する意識改革が最も重要である。そのためには小学校からの教育が大事である。同時に家庭内での夫婦間でのあり方も大事(子どもが見ている)。格言に「親しき中にも礼儀あり」とあるように、夫婦間でこれを忘れないようにあるべき。最後に男女間には肉体的な違いがある。憲法上の権利はすべて平等であるべきだが、仕事の上では多少の向き不向きはある。そここのところを踏まえて、差別と区別をごちゃ混ぜにして考えないようにしてほしい。
無回答	70歳以上	市民に広く知らせる行動が不足していると思う。市報に広報しているので良い、ではだめだと思う。参加してみたいと思う方法を考えるべきだと思う。
無回答	70歳以上	少しずつの気付きや改善でよい方向に着実に進んで、住みよい社会になると良いと思う。
無回答	70歳以上	自治会活動に女性が参加できるよう積極的に取り組んでほしい。高齢女性の家庭が多くなっている。地域活動が中止の方向に向かっている現状を理解し、将来をよく考えてもらいたい。
無回答	70歳以上	現在、退職しているが、前の勤務中の時のこと。上司が50歳ぐらいの男性で独身、仕事中は女性の若い人とはよく話をしていた、仕事は夜になって毎日毎日遅くまでしており、自分の家のようにされていたことがとても嫌な思いだった。
無回答	無回答	男性が育児休業や有給を取りやすいように。時給をあげるだけでは就業支援にならない。むしろ労働問題が増えるだけで、今のままでは良い方向にならないと思う。
無回答	無回答	特定のイデオロギーや思想に振り回され、男性と女性のどちらにも押しつけにならないよう、また、かえって反感をもたれるようなことにならないように願っている。

Ⅲ 調査結果のまとめ

Ⅲ 調査結果のまとめ

調査結果からみえる特徴と今後の課題

飯塚市が、平成 28 (2016) 年に策定した「第 2 次飯塚市男女共同参画プラン」では、その後の 10 年間を計画期間としており、5 年後の中間年度及び計画期間終了時には見直しを行うものと定めている。

本調査は、後期計画の策定に向け、これまでの飯塚市の取組の成果を検証するとともに、飯塚市における今後の男女共同参画を推進するうえでの課題を把握するための基礎データを得ることを目的として実施したものである。

本調査の結果、及び平成 27 (2015) 年実施の前回調査や福岡県調査、国の調査との比較をもとに、飯塚市における男女共同参画に関する市民意識の現状と今後の課題について考察を行う。

回答者の特徴

回答者の性別は、「女性」が 53.7% で「男性」を 15.4 ポイント上回っている。年代は、男女とも「60 代」が最も多く、男性では「70 歳以上」と合わせると、『60 歳以上』が約 2 分の 1 を占める。女性では、「40 代」「50 代」がそれぞれ約 2 割あり、男性よりも年齢の分布は均等である。

配偶関係は、「配偶者がいる（共働きである）」が女性は 3 割を超え、「配偶者がいる（共働きでない）」を上回っている。男性では、これが逆転しており、年代の高い層の割合が高いためと思われる。未婚者は男性では 4 分の 1 を占め、女性は 2 割弱となっている。

1. 家庭生活や子育てについて

家庭内での男女の役割分担をみると、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」は、『主に男性』が 6 割台半ばと高い。一方で、『主に女性』は「炊事、掃除、洗濯などの家事」では約 8 割強と高く、「日々の家計の管理」も 7 割台半ば、「病人・高齢者の世話（介護）」「育児、子どものしつけ」といった他の家庭内の仕事も、女性に役割が偏っており、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担の実態がうかがえる。さらに、「炊事、掃除、洗濯などの家事」「日々の家計の管理」「育児・子どものしつけ」「病人・高齢者の世話（介護）」といった家庭内の仕事の『主に女性』の割合を性別にみると、女性の方が男性を大きく上回っている。これらの項目は男性では「両方同じくらい」の割合が女性を上回り、また、前回調査よりも高くなっている。男性は家庭内の仕事に参画しているという意識は高くなっているが、女性は依然として女性の役割と認識しており、男女で意識のずれがみられる。共働きの女性をみると、「炊事、掃除、洗濯などの家事」の『主に女性』の割合は 8 割台半ばで、仕事をしていても家事は女性の負担であることがわかる。また、「車や高額商品の購入決定」と「家庭の問題における最終的な決定」という家庭内の重要な決定では「両方同じくらい」が 4 割台半ばで、前回調査よりも高くなっており、重要な決定の場での男女平等が進みつつあるものの、70 歳以上の年齢の高い層では『主に男性』が半数近くを占めている。ただし、「子どもの教育方針や進学目標の決定」は「両方同じくらい」と『主に女性』の割合が前回調査より高くなっており、子どもの重要な決定では女性がより関わっている状況がうかがえる。

「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識について、『反対派』は女性では 7 割弱、男性も 6 割台半ばで、国や福岡県調査と比べても高く、飯塚市では、性別役割分担へは否定的な考えが多数派となっている。特に、40 代以下の年齢の低い層では男女とも 7 割を上回っている。男性

では『反対派』が前回調査より 13.5 ポイント増加しており固定的性別役割分担意識が解消傾向であることがうかがえる。

子どもの育て方については、「男の子は『男らしく』、女の子は『女らしく』育てる方がよい」という考え方についての『反対派』は、『賛成派』を上回り、前回調査よりも高くなっている。男性よりも女性の方が『反対派』の割合は高く、特に 30 代以下では 7 割台半ばと高い。「男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てる方がよい」「男の子も女の子も炊事、掃除、洗濯などの仕方を身につけさせる方がよい」はともに『賛成派』が 9 割を超えて高い。「子どもが 3 歳くらいまでは母親の手で育てる方(ほう)がよい」といういわゆる「3 歳児神話」については、『賛成派』が男女とも 5 割を超えて『反対派』を上回っている。性別役割分担意識を容認しない人では、『反対派』が高くなっており、3 歳児神話との性別役割分担意識の相関関係がみられる。

男女が共に家事、子育て、介護に積極的に参加するために必要なことについて、「家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと」が男女とも最も高かった。女性では、「家事などを男女で分担するような育て方をする事」が 4 割強で男性を 10 ポイント以上上回り、また「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」も女性の割合が男性を上回る項目であった。「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は男女ともに高いが、男性が女性をやや上回った。男性が女性と共に家庭参画するために、家庭内での意思の疎通や就労環境の整備が大切だが、女性は男性の意識の変革も求めているといえる。

以上のことから、固定的性別役割分担は意識としては解消されつつあり、子育てでは、男らしく、女らしくといった固定観念にとらわれない方向に進んでいる。特に、男性の方が意識の解消が進んでいるが、一方で、実際の家庭生活での役割分担は依然として女性に家事の負担がかかっている。そのため、女性は、さらに男性の意識改革を求める傾向がうかがえる。一方で、3 歳児神話という女性の就労継続を阻む社会通念は、女性の方がより根強く、実態でも、子どもの世話は主に妻の役割となっている。子育ては女性という意識が解消され、子どもたちへのモデルとなるように家庭内での男女共同参画を進める必要がある。そのためには、男性が子育てに参画する意義と 3 歳児神話の解消の啓発に取り組んでいかなければならない。

2. 地域活動について

地域活動への参加については、「どの活動にも参加していない」は男女とも年齢が低い層で割合が高く、男女とも参加率の高い「清掃・リサイクル活動」「自治会活動」は、年代が高い層で参加が多くなる傾向がある。ただし、「地域の子ども育成に関する活動（PTA、子ども会等）」は、女性の方が男性より高く、特に子どもをもつ世代の女性で高いことから、年代の低い層の女性は子どもとの関わりで地域活動に参加していることがわかる。

女性が地域の役職に推薦された場合（男性は、妻など身近な女性が推薦された場合）、女性では「引き受ける」は低く、前回調査からほとんど変化はなく、女性は役職につくことに対して消極的である。地域の役職を断る理由は、男女とも「責任が重いから」が最も高く、「役職につく知識や経験がないから」「家事・育児や介護に支障がでるから」が上位の理由となっており、男性では知識や経験の不足が前回調査よりも増えている。地域の役職の女性割合が高まる傾向はうかがえない。

政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由については、男女とも「男性優位の組織運営がされているから」が第 1 位で 6 割前後と高い。第 2 位は男女とも「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識が根強く残っているから」だが、女性は 5 割を超え男性を約

10ポイント上回る。また、女性では子育て期の30代と40代では「家族の支援・協力が得られないから」が比較的高い。

男女共同参画の視点から災害へ備えるために地域で必要なこととしては、最も高いのは「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者等）の視点を取り入れる」で男女とも高く、特に30代以下の子育て期の女性では、7割台半ばと高くなっている。次いで「日ごろから地域活動に積極的に参加し、地域のつながりを大切にする」で、男女とも60代以上で高くなっている。「避難所の運営に女性も参画する」「日ごろから女性が防災に関する企画・立案や方針決定の場に参画する」「地域において防災や災害現場で活動する女性リーダーを育成する」などは男性の割合が女性より高く、女性の積極的な参画を男性は望んでいる傾向がうかがえる。

以上のことより、女性の地域の役職への意欲はあまり高くなってきていないが、その背景に、家庭責任を担う女性としては地域の役職の責任まで負えないという意識がうかがえる。ただ、子どもの活動を通して、女性は地域に関わる機会がある。地域の女性の役職を増やすためには、子育て期の女性たちが仕事や家事との両立ができるよう、地域活動の時間帯を配慮したり、託児をつけるなどしたり参画しやすい環境を整備する工夫が必要である。また地域防災については、多様な視点を取り入れた地域活動における男女共同参画が、地域防災につながるといったことへの理解を深める啓発を進め、男性優位な地域の慣習を改善していくことが求められる。

3. 政治分野における男女共同参画について

2018年5月に施行された「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」について「法律の名前も、その内容も知っている」は男性では13.0%、女性は4.5%と認知は低く、「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」を合わせると、男性が5割台半ばで女性を上回り、男性の方が認知は高い。18～29歳の女性は「法律の名前も、その内容も知っている」が10.3%と同年代の男性より高く、女性の中でも他の年齢層に比べて高い。2015年に選挙権が18歳に引き下げられたのを機に、文部科学省では学校での「政治的教養を育む教育」を進めており、その影響がうかがえるものの女性に関する法律のためか、男性への影響は小さいようである。

地方議会（県議会・市町村議会）において理想的な女性議員の割合をたずねたところ、「5割」は女性の方がやや高いものの、「1割」「2割」といった低い割合でも女性が男性を上回っている。男女ともに年代が高くなるほど「5割」の割合が低くなる傾向がみられる。性別役割分担意識との関連では、男女とも容認しない人で「5割」の割合が高い。

現在の議員の女性比率は福岡県議会で10.3%、飯塚市議会で3.5%（2021年）でそれ以上の割合が理想とされていることがわかる。その一方で、法律の認知は低い。今後は、法律の内容の周知を高め、年齢の高い層を対象に女性議員の割合が高まることの意義を啓発することなどが求められる。

4. 就労について

今回調査対象者のうち、職業を持っている人は、女性では約6割、男性では6割台半ばで、30代～50代では女性の8割前後、男性の9割弱が職業を持っていて、退職前の年代では男女の就労率の差は小さい。就労形態をみると、女性は「パート・アルバイト」と「派遣・契約社員」を合わせた非正規雇用者は、「正社員・正職員」を上回り、前回調査と比べて女性の職業を持っている人は5.5ポイント増えているものの、就労形態では非正規雇用が増加し、正規雇用は減少している。反対に、男性は正規雇用が中心となっている。

雇用されている人に対して、8項目にわたり職場での男女の扱いについて平等かどうかをたずねたところ、全ての項目で「平等になっている」の割合が最も高く、また、前回調査よりも高くなっており、職場での男女平等は進んでいる傾向がうかがえる。『男性優遇』の割合が高い項目は「管理職等への登用」「昇進・昇格」「賃金」で、特に「管理職等への登用」の『男性優遇』は前回調査より男女とも高くなっていった。「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が2020年に改正され、女性管理職比率の設定が100人以下の事業所に求められるようになっており、関心が高くなっていることも背景にあると思われる。また、「募集や採用」「賃金」「管理職等への登用」では『男性優遇』が、「仕事の内容」「休暇の取得」では『女性優遇』の割合が、男性の方が女性より高くなっている。職場の男女の均等待遇への関心は男性の方が高い傾向にある。

女性が職業を持つことに対する考え方では、「ずっと職業を持っている方がよい」という就労継続が男女とも最も多く、女性は6割強で男性を約8ポイント上回っている。「子どもができれば職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」といういわゆる女性のM字型就労とよばれる子育て期に就労を中断する働き方は、男女とも2割台半ばで2番目に多い。前回調査では、子育て期に就労を中断する働き方が高かったが、今回調査では男女とも就労継続が大幅に増加し多数派となっている。性別役割分担意識を容認しない人で就労継続の割合が高くなっており、特に女性では7割を超えている。

実際に女性はどのように職業を持っているのか、あるいは、今後どうなりそうか、男性には妻の場合でたずねたところ、就労継続は女性で4割台半ばにとどまり、考え方より10ポイント以上低くなっている。年齢別でみると、女性の30代で子育て期に就労を中断する働き方は、考え方を約10ポイント上回っており、男性の30代でも同様の傾向があり、子育て期を迎える年代では就労継続を理想としても現実には難しい状況がうかがえる。とはいえ、前回調査よりも就業継続は約10ポイント増えており、就労を継続する状況も進んできている。

男性の育児休業の取得に対する考え方は、女性は「積極的に取るべきだと思う」が3割台半ばで男性を約8ポイント上回り、男性は「どちらかといえば取るべきだと思う」という消極的な賛成が約半数を占め、「特に取る必要はないと思う」も女性を上回っている。前回調査と比べると、女性は「積極的に取るべきだと思う」が増加、男性は「どちらかといえば取るべきだと思う」が増加しており、男性の育児休業へは男女とも肯定的になっているが、男性自身の方が育児休業取得に消極的である。男女とも30代以下で「積極的に取るべきだと思う」の割合が高く、年齢が高い層で「特に取る必要はないと思う」が他の年代より高く、世代による違いがみられる。男女とも「積極的に取るべきだと思う」が非正規雇用者の方が正規雇用者よりも低くなっている。

男性が育児休業を取得した方がよいと回答した人の理由については、女性の第1位は「育児と主体的に向き合うため」が6割で男性を約12ポイント上回り、特に30代と60代で高い。また、「父親自身の成長のため」も男性の割合を上回っており、女性は父親の当事者性を男性よりも重視している。男性では第1位が「母親の負担が軽くなるから」で女性をやや上回り、「子育てにより多くの

時間を確保するため」も女性を約 10 ポイント上回っている。これらの項目は子育てに関わる年齢の低い層で高く、男性は役割として子育てを担うという意識が理由となっているようだ。

実際の男性の育児休業取得率はわずかに 7.48%にとどまっている理由については、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」は男女とも第 1 位で、男性の 40 代以下の年代で高くなっている。「取得すると人事評価や昇給に悪い影響があるから」は男女とも年齢が低い層で割合が高い傾向がみられる。「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」は男女とも第 2 位で、年齢が高い層で割合が高い傾向がみられる。管理監督する立場の年代では男性の育児休業取得を迷惑とみており、そのことが子育て期の年代では、雰囲気が醸成されていない、取得がペナルティになるという恐れにつながっていることがうかがえる。「経済的に困るから」は女性の方が男性よりやや高く、特に女性の非正規雇用で高くなっており、男性の育児参画には経済的保障が必要な事がうかがえる。

ワーク・ライフ・バランスを進めるために求められる条件整備の第 1 位は「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」で、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」「賃金、労働などでの男女間格差をなくすこと」が続いている。

以上のことから、女性の就労継続への支持は男性でも高くなっており、実際に、女性で就労を継続する人は増加している。そのため、子育て期の人にとっては、これまでに増して、仕事と家事・育児との両立は大きな課題となっている。ワーク・ライフ・バランスを実現するために、育児・介護休業制度を利用できる職場環境を求める割合は増えており、男性の育児休業制度は整ってきているが、利用できる雰囲気が醸成されていないのは問題である。今年 6 月に育児・介護休業法が改正され、男性の育児休業取得の義務化が進められている。2019 年には「働き方改革関連法」の施行により労働時間の短縮等が進められ、今年 4 月には「中小企業におけるパートタイム・有期雇用労働法」が施行されて、非正規雇用と正規雇用との均等待遇が法制化されている。行政としては、市内の各事業所への情報提供、法に基づく職場環境の改善を働きかけるとともに、雇用主や男性に対しては、乳幼児を抱えて働く女性の負担感を理解し、男性の家庭参画の重要性を認識できるような啓発が求められる。特に、両立支援制度の利用についての男女の均等待遇のためにも、法律に則り男性の労働時間短縮を進めることを広く啓発することが必要である。

5. 暴力などの人権侵害について

ドメスティック・バイオレンス（DV）にあたる行為について、暴力と思うかどうかの認識をたずねた。「蹴られたり、殴られたり、物を投げつけられたりした」は約 9 割、「押されたり、つかまれたり、つねられたり、小突かれたりした」「平手で叩かれた」は 8 割強、「脅しや暴力により自分の気持ちに反して性的な行為を要求された」も 8 割台半ばで、男女の割合の差もあまりない。これらの身体的な暴力や性的な暴力など明瞭な行為は認識されやすい。しかし、「何を言っても長期間無視された」「他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」「「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた」などの精神的暴力、「交友関係や電話やメールを細かく監視された」などの社会的暴力、「生活費を渡してくれなかった」の経済的暴力、「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた」「避妊に協力してくれない」といった性的暴力では、DV との認識が低くなる。これらの DV は男性の方が女性より認識が低いという傾向があるが、前回調査と比較すると、男性の「DV だと思う」と回答する人の割合は増えており、DV について正しく認識している男性が増加している。

DV の内容ごとにこの 3 年間で被害を受けた経験をたずねたところ、いずれの DV も被害を受け

た人が存在した。子どもの面前での言葉の暴力、経済的暴力、性的暴力など、ほとんどの項目で女性の被害が男性を上回っていた。ただし、「何を言っても長期間無視された」「交友関係や電話やメールを細かく監視された」「平手で叩かれた」など男性の被害が女性を上回ったDV行為もあった。前回調査と比べると、男女ともすべての項目で被害経験は少なくなっている。

これらの暴力をいずれか1つでも受けた人は男女とも2割強で、離死別した場合に割合が高い。また、男女とも未婚者にも1割台半ばあり、交際相手からのDVがあることがわかる。DVを受けた人が相談した相手は身近な人が多く、「友人・知人に相談した」が男女とも約2割で高く、次いで「家族・親族に相談した」で、女性の方が男性よりやや高い。一方で公的機関や専門機関に相談した人は少ない。誰にも相談しなかった人は男女とも6割を超えるが、その理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が高く、女性では約6割と男性よりも高い。男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」も約5割あり、女性よりも約16ポイント高い。「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていたらよかったから」は男女とも3位に上がっている。

以上のことから、DV行為への認識が高まっていたり、DVの被害経験が減少していたりするのには、この5年間の市の取り組みの成果であろう。男性のDVへの認識が高くなったために、自身の被害経験に気づいた男性が増えたともいえる。しかし、依然としてDV被害を受ける人が存在することは問題である。誰にも相談しない人が約6割あり、自責の念からDVが潜在化している状況もうかがえる。男性の場合は、弱音を吐けないというジェンダーに基づく意識からより相談をしない人が多いと思われる。一方で、女性はDV被害を受けても経済力など家庭内での男女の力の格差を理由にがまんする場合も多い。これらのジェンダーの問題がDVを潜在化させ、解決を遅らせている。DVの起きる背景やジェンダー構造に基づく被害者心理の特徴などを広く啓発し、相談窓口や法整備に関する情報提供などをこれまで以上に推進し、被害者自身、また、相談相手となる家族や知人が適切な対応ができるように継続的な取り組みが求められる。

セクシュアル・ハラスメントについて、職場、地域活動の場、学校などでの被害体験をたずねたところ、なんらかのセクシュアル・ハラスメントを受けた人の割合は、女性では3割強、男性の被害経験も1割台半ばあった。男性では年齢の低い層での被害が多い。被害内容をみると、女性では「容姿について傷つくことを言われた」「不必要に身体にさわられた」「好まない性的な話を聞かされた」「お酒の場でお酌やデュエットを強要された」など典型的なセクハラ被害が多い。「女にくせに・・・」とか「男なのに・・・」と性別による言い方をされた」というジェンダーハラスメントは、男女とも約1割、「結婚や出産などについて、たびたび聞かれた」は女性の方が割合は高いが、男性でも30代と40代で割合が高くなっていった。セクシュアル・ハラスメント防止については、近年、法改正が重ねられており、また、2017年に始まった#Me Too運動などメディアに取り上げられる機会も増加したため、被害を認識する割合も高まっていると推測される。それにも関わらず加害行為をする人が依然として多いことは問題である。「男らしさ、女らしさ」の強要や結婚を話題にすることがハラスメントになると自覚せずに行業者になる場合もあるだろう。法令順守の面からもハラスメント防止対策や情報提供を事業所対象に進めていくとともに、地域や学校でもセクシュアル・ハラスメントが起きていることを周知し、防止に向けた意識の向上に努める必要がある。

6. リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて

リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは「性と生殖に関する健康と権利」と訳され、いつ産むか、何人子どもを持つかなど、性と生殖に関して自ら決定する権利は女性の人権として国際的に認められている。今回調査では、「妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で十分話し合うべき

である」については、『思う』は男女とも約9割だが、積極的に肯定する「そう思う」は女性が男性をやや上回る。「妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で合意できない場合には女性の意思が尊重されるべきである」については、『思う』は男女とも7割台である。妊娠や性に関してカップル間で話し合うことへは肯定的だが、女性の性的自己決定権となると、男性のみならず女性自身の支持も低い。また、男女とも年齢の低い層で女性の意思の尊重に対して否定的であり、妊娠や出産の当事者となる可能性のあるこの年代に性的自己決定権への理解が不足しているのは大きな問題である。2019年に施行された「福岡県における性暴力を根絶し、性被害から県民等を守るための条例」では、同意のない性行為は性的自己決定権を侵害する行為として性暴力と定義している。さらに、条例では、性暴力を根絶するために啓発活動や学校現場における教育活動を行うことを定めている。この県の条例も活用しながら、人権の視点でリプロダクティブ・ヘルス/ライツについての市民の理解を深めることが求められる。

7. 男女平等に関する考え方について

各分野の平等感について、『男性優遇』と考える人の割合は「慣習・しきたり」「政治・政策決定の場」「社会全体」では7割台半ばと高く、「家庭の中」「職場の中」「法律や制度の上」で5割台、「地域活動の場」が4割台と続く。『男性優遇』の割合は、「学校教育の場」「職場」では男女がほぼ同じ程度だが、これら以外の分野では女性の方が男性より高く、女性の方に不平等感は強いといえる。とはいえ、前回調査と比べるとすべての分野で男性の『男性優遇』と考えている割合が増えているため、男性と女性との認識の差は小さくなっている。特に、「政治の場」「法律や制度」では男性優遇の割合が15ポイント以上前回調査より高くなっており、男性ではこれらの分野の不平等への認識は高くなっている。また、「職場の中」は、女性では前回調査より「平等になっている」が高くなっており、職業を持っている男女とも「平等になっている」が3割台半ばと高く、職場の男女平等が進んでいることがうかがえる。ただし、「家庭の中」に対する『男性優遇』は共働きの女性では6割を超え高く、第1節でみたように女性は仕事を持っていても家庭内の家事は女性中心であるため二重の負担を負っており、そのため不平等感が高いかと推測される。コロナ禍において男女を問わず在宅ワークが拡大する中で、家庭内では妻にのみ家事や育児の負担がかかる問題は、全国的に指摘されているところである。「地域活動・社会活動」は男性の平等感が高く、女性との認識の違いが依然として大きい分野である。特に、地域活動に関わる年代の女性では『男性優遇』が半数を超えて高く、地域での男女共同参画の形成に向けては改善が求められる。「学校教育の場」は、従来「平等」の割合が高い分野だが、前回調査よりも減少している。2018年に医学部入試での女性差別が報道された影響もうかがえる。

以上のことから、多様な分野で自らの立場を優遇されていると認識している男性が増えていることがわかり、市のこれまでの啓発活動の成果がうかがえる。しかし、地域活動や慣習・しきたりなどの従来の価値観が根強い場での平等感は低くなっている。今後の意識啓発に関しては、対象者の性別や生活状況に合わせたテーマや内容の工夫が必要である。性別役割分担意識が解消されつつあるとしても、実際の家庭内の分担や地域の役職などでの慣習にもとづく不平等を解消するためには、対象者に実情に応じた体験型の学習などが有効と思われる。男性が家事や育児、介護に積極的に関わられるような実践的な学習の場の提供も必要である。

8. 男女共同参画に関することについて

男女共同参画への関心は『関心がある』が5割強、『関心がない』が4割強で、男性の方が女性に比べ関心度はやや高い。前回調査に比べ、『関心がある』は男女とも増加し、特に男性では約10ポイント増加している。今回調査では、男性の意識の向上が全体的にみられており、関心度の高まりにも表れている。

男女共同参画に関する法や制度、用語の認知度は、「ストーカー規制法」「DV防止法」「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」など法律が上位を占めている。「ジェンダー」のみ前回調査より約30ポイント高くなっている。著名人による女性差別的発言に端を発したジェンダー平等関連のメディア報道が増えた影響がうかがえる。飯塚市に関する、「飯塚市男女共同参画条例」「飯塚市女性人材バンク」などの認知は低い。また、前回調査と比べると、全体的に認知度が低下している。今後、飯塚市における男女共同参画を推進するために、これらの関連する法律や条例、用語の啓発には、継続的に取り組む必要がある。

男女共同参画社会の実現のために、市に望む施策としては「延長保育など保育サービスの充実、育児・介護休業制度などの普及など男女が共に働き続けるための条件整備を整える」が男女とも最も高く、女性では約5割、特に30代では約6割にのぼり、子育ての当事者世代を中心に両立支援策への要望は高い。「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」は男女とも2番目に上がり、意識の醸成は重視されている。女性では、「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する」「男性の家事能力を高めるような場を提供する」が男性よりも高く、固定的性別役割分担の解消を目指した学習の場は女性により求められている。

飯塚市男女共同参画センター「サンクス」の認知度については、「知っている」は男女とも1割強で、女性は前回調査よりも約6ポイント低くなっていた。女性の50代や男女共同参画に関心の高い人では認知度は高かった。「サンクス」を知っている人に対して、「サンクス」の事業への参加や利用の有無をたずねたところ、男性で3割弱あり、女性よりも多かった。利用した講座は男女とも「男女共同参画に関する啓発・出前講座」が最も多く、男性の利用が高い講座は「男性を対象とした料理や介護等講座」であった。

今後「サンクス」でどんな事業を行ってほしいかについては、「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座」「女性の就業支援・起業支援講座」といった就労に関する項目が上位となっており、女性の方が男性よりも高く、特に年齢の低い層で高い。また、「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座」は共働きでない女性や未婚の女性で高く、さらには、「サンクス」を知らなかった女性の要望が高くなっていた。就労を中断した人や今後就労を中断する可能性のある人では、再就労に関する学習機会や支援が強く求められている。また、男性では、「男女共同参画に関する研修・啓発講座」「男性を対象とした男女共同参画に関する講座」「女性の政策決定の場への参画につながる講座」などが女性より高く、男女共同参画についての知識を深める場としての役割が期待されている。「サンクス」の認知度や利用度を高めるためにも、これらの要望や期待に応える講座の企画が求められる。

◎参考資料

だんじょきょうどうさんかく かん しみんいしきちょうさ 男女共同参画に関する市民意識調査

アンケートご協力きょうりょくのお願いねが

市民の皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

飯塚市では現在、男女共同参画社会（男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会）の実現に向けて、第2次飯塚市男女共同参画プランの見直しに取り組んでいます。

そこでこのたび市民の皆様への男女共同参画に関する意識や実態をうかがい、計画見直しの基礎資料とするためにアンケートを実施することとなりました。

このアンケートは市内に在住する18歳以上の男女の方から、3,000人を無作為に選ばせていただきました。

また、調査結果は統計的に処理し、個人に関わる情報を公表することはありませんので、あなたにご迷惑をおかけすることは決してありません。

計画に皆様の声を反映させるための貴重な資料となりますので、お忙しいところ誠に恐縮ですが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和3年4月

飯塚市長 片峯 誠

ご記入に際してのお願い

- アンケートは、お送りした封筒の宛名の方、ご本人が記入してください。
- このアンケートは無記名ですので、名前を記入する必要はありません。
- ボールペンまたは鉛筆などで、はっきりと書いてください。
- 各質問のあてはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。
- 各項目で「その他」の場合は（ ）内に具体的な内容を記入してください。
- 記入が済んだ調査票は、同封の返信用封筒に入れ、4月15日（木）までにポストに投函してください。（記名や切手は必要ありません）

【お問合せ先】 飯塚市役所 男女共同参画推進課 企画担当 田代
電話 0948-22-5500（内線1425）
FAX 0948-22-5526

◎参考資料

家庭生活や子どもの育て方についておたずねします。

問1 あなたの家庭では、男女の役割分担はどのようになっていますか（なっていましたか）。
 次のア～ケの項目についてそれぞれ1つずつ選んでください。（○は各項目に1つ）

項目	ほとんど男性	どちらかといえば男性	両方同じくらい	どちらかといえば女性	ほとんど女性
ア. 家計を支える（生活費を稼ぐ）	1	2	3	4	5
イ. 炊事、掃除、洗濯などの家事	1	2	3	4	5
ウ. 日々の家計の管理	1	2	3	4	5
エ. 育児、子どものしつけ	1	2	3	4	5
オ. 病人・高齢者の世話（介護）	1	2	3	4	5
カ. 自治会などの地域活動	1	2	3	4	5
キ. 子どもの教育方針や進学目標の決定	1	2	3	4	5
ク. 車や高額商品の購入決定	1	2	3	4	5
ケ. 家庭の問題における最終的な決定	1	2	3	4	5

問2 あなたは、次のア～オのような考え方に対してどのようにお考えですか。あてはまる番号に○をつけてください。（○は各項目に1つ）

項目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
ア. 「男は仕事、女は家庭」	1	2	3	4	5
イ. 男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」育てる方がよい	1	2	3	4	5
ウ. 男の子も女の子も職業人として経済的に自立できるように育てる方がよい	1	2	3	4	5
エ. 男の子も女の子も炊事、掃除、洗濯などの仕方を身につけさせる方がよい	1	2	3	4	5
オ. 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい	1	2	3	4	5

問3 あなたは、男性が女性と共に家事、子育て、介護に積極的に参加していくためにどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つ以内)

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと
4. 年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5. 男性による家事、子育て、介護について、社会の中での評価を高めること
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持つようにすること
7. 男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
8. 男性が家事、子育て、介護を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
9. 家事などを男女で分担するような育て方をする
10. 学校で基本的な人権の尊重や男女平等意識についてきちんと教えること
11. その他（具体的に

ちいきかつどう
地域活動についておたずねします。

問4 あなたは、この1年間に何か地域活動に参加したことがありますか。参加したことがあるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

1. 地域の子どもも育成に関する活動（PTA、子ども会等）
2. 自治会活動
3. 清掃・リサイクル活動
4. 安全・防犯活動
5. 相互援助活動（介護、育児、給食サービス等）
6. 国際交流・国際貢献活動
7. 女性問題の学習や男女共同参画推進のための活動
8. その他（具体的に
9. どの活動にも参加していない

◎参考資料

問5 自治会長やPTA会長などの地域の役職についてうかがいます。
女性の方は、もし、あなた自身が推薦されたら引き受けますか。男性の方は、妻などの身近な女性が推薦されたとしたら引き受けることをすすめますか。(〇は1つ)

1. 引き受ける (引き受けることをすすめる)
2. 引き受けない (引き受けることをすすめない)

問5-1 【問5で「2. 引き受けない (引き受けることをすすめない)」を選ばれた方に】
その理由は何ですか。最も近いものを選び、番号に〇をつけてください。(〇は1つ)

1. 責任が重いから
2. 女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから
3. 家事・育児や介護に支障がでるから
4. 役職につく知識や経験がないから
5. 女性には向いてないから
6. 家族の協力が得られないから
7. その他 (具体的に)

問6 多様性に富んだ活力ある社会の実現のためには、社会における女性の参画が重要であると
して、国においても、「2020年までに、あらゆる分野で指導的地位に女性が占める割合が、少なく
とも30%程度」とする目標を掲げて取り組を進めてきましたが達成できていません。
あなたは、政治や行政の場において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由
(目標を達成できていない理由)は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

1. 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識が根強く残っているから
2. 男性優位の組織運営がされているから
3. 家庭の支援・協力が得られないから
4. 女性の能力開発の機会が不十分だから
5. 女性の活動を支援するネットワークが不足しているから
6. 女性側の積極性が十分でないから
7. 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから
8. その他 (具体的に)
9. わからない

問7 近年の大規模災害における経験から、日ごろの防災や災害発生後の対応に女性の視点を取り入れることが重要だと言われています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 日ごろから女性が防災に関する企画・立案や方針決定の場に参画する
2. 日ごろから地域活動に積極的に参加し、地域のつながりを大切にする
3. 日ごろから男女平等、男女共同参画意識を高める
4. 日ごろの防災活動や訓練に積極的に参加する
5. 避難所の運営に女性も参画する
6. 地域において防災や災害現場で活動する女性リーダーを育成する
7. 避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者(高齢者、障がい者等)の視点を取り入れる
8. その他(具体的に)

政治分野における男女共同参画についておたずねします。

問8 あなたは、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」について、知っていますか。(〇は1つ)

1. 法律の名前も、その内容も知っている
2. 法律の名前は知っているが、内容はよく知らない
3. 法律があることを知らなかった

問9 あなたは、地方議会(市町村議会)における女性議員の割合は何割程度が理想だと考えますか。下の枠内に0から10までの整数をご記入ください。

わりていど
割程度

◎参考資料

しゅうろう
就労についておたずねします。

問10 あなたは現在、職業（収入のある仕事）をもっていますか（育児休業中、介護休業中などの人も働いているものとみなします）。（○は1つ）

はい		いいえ
1. 正社員・正職員	4. 農林漁業	7. 学生
2. 派遣・契約社員	5. 自営業・家族従業	8. 専業主婦・主夫
3. パート・アルバイト	6. その他（ ）	9. 無職

問10-1 【問10で「1. 正社員・正職員」「2. 派遣・契約社員」「3. パート・アルバイト」のいずれかを選ばれた方に】

あなたの今の職場では、男女の扱いについて平等になっていると思いますか。次のア～クの各項目についてそれぞれ1つずつ選んでください。（○は各項目に1つ）

項目	男性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている	平等になっている	女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
ア. 募集や採用	1	2	3	4	5	6
イ. 賃金	1	2	3	4	5	6
ウ. 昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
エ. 管理職等への登用	1	2	3	4	5	6
オ. 仕事の内容	1	2	3	4	5	6
カ. 退職・解雇	1	2	3	4	5	6
キ. 福利厚生	1	2	3	4	5	6
ク. 休暇の取得	1	2	3	4	5	6

問 1 1 (A) 「女性が職業を持つこと」について、あなたはどうお考えですか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。(〇は1つ)

1. ずっと職業を持っている方がよい
2. 結婚するまで職業を持ち、あとは持たない方がよい
3. 子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない方がよい
4. 子どもができたら職業を持たず、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい
5. 女性は職業を持たない方がよい
6. その他 (具体的に)
7. わからない

(B) では、あなた(もしくは、あなたの妻)はどうでしたか(どうなりそうですか)。独身の方も、結婚した場合を想定して答えてください。(〇は1つ)

1. ずっと職業を持っている
2. 結婚するまで職業を持ち、あとは持たない
3. 子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない
4. 子どもができたら職業を持たず、子どもに手がかからなくなって再び持つ
5. 職業は持たない
6. その他 (具体的に)
7. わからない

問 1 2 あなたは、男性が育児休業(子を養育する労働者が法律に基づいて取得できる休業)を取ることについてどう思いますか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。(〇は1つ)

1. 積極的に取るべきだと思う
2. どちらかといえば取るべきだと思う
3. 特に取る必要はないと思う

問 1 2-1 【問 1 2 で「1. 積極的に取るべきだと思う」または「2. どちらかといえば取るべきだと思う」を選ばれた方に】

その理由は何ですか。次の中から2つ以内で選んでください。(〇は2つ以内)

1. 子育てにより多くの時間を確保するため
2. 育児と主体的に向き合うため
3. 父親自身の成長のため
4. 母親の負担が軽くなるから
5. 法律で認められている権利だから
6. その他 (具体的に)

◎参考資料

問13 女性の育児休業取得率は83%であるのに対し、男性の育児休業取得率は7.48%（厚生労働省：2019年度雇用均等基本調査（全国））となっています。あなたは男性の9割以上が育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思いますか。あなたのお考えに近いものを2つ以内で選んでください。（○は2つ以内）

1. 周囲に取得した男性がいないから
2. 職場に取得しやすい雰囲気がないから
3. 仕事が忙しいから
4. 取得すると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから
5. 取得すると人事評価や昇給に悪い影響があるから
6. 経済的に困るから
7. 育児・介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないから
8. その他（具体的に）
9. わからない

問14 男女が共に仕事と家庭や地域活動を両立できるワーク・ライフ・バランスを実現していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。（○は3つ以内）

1. 賃金、労働などでの男女間格差をなくすこと
2. 年間労働時間を短縮すること
3. 代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること
4. 育児や介護等のために退職した女性の再チャレンジ（再就職・起業等）支援策を充実すること
5. 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること
6. 地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること
7. 在宅勤務やフレックスタイム制度※など、柔軟な勤務制度を導入すること
8. 職業上、必要な知識・技術等の職業訓練をすること
9. 女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること
10. 職場の意識改革などについて企業に対する働きかけをする
11. その他（具体的に）
12. わからない

※フレックスタイム制度：一定期間についてあらかじめ定めた総労働時間の範囲内で労働者が日々の始業・終業時刻、労働時間を自ら決めることのできる制度

人権に関することについておたずねします。

問 15 配偶者や恋人などパートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス）が社会問題になっています。そこで、(A) と (B) 2つの質問にお答えください。

(A) あなたは、ア～サのような行為がドメスティック・バイオレンス(DV)にあたるとおもうますか。1、2のいずれかに○をつけてください。(○は各項目に1つ)

(B) 過去3年間においてあなたは配偶者や恋人などから、ア～サのような行為を受けたことがありますか。1～3のいずれかに○をつけてください。(○は各項目に1つ)

(A)		こ う 項 目	(B)		
D V だ と 思 う	D V だ と 思 わ な い		何 度 も あ つ た	1 〜 2 度 あ つ た	ま つ た く な い
1	2	ア. 何を言っても長期間無視された	1	2	3
1	2	イ. 交友関係や電話やメールを細かく監視された	1	2	3
1	2	ウ. 他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした	1	2	3
1	2	エ. 「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた	1	2	3
1	2	オ. 生活費を渡してくれなかった	1	2	3
1	2	カ. 押されたり、つかまされたり、つねられたり、小突かれたりした	1	2	3
1	2	キ. 平手で叩かれた	1	2	3
1	2	ク. 蹴られたり、殴られたり、物を投げつけられたりした	1	2	3
1	2	ケ. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	1	2	3
1	2	コ. 避妊に協力してくれない	1	2	3
1	2	サ. 脅しや暴力により自分の気持ちに反して性的な行為を要求された	1	2	3

問 16へ

問16 【問15 (B) で「1. 何度もあった」「2. 1～2度あった」を1つでも選ばれた方に】
 あなたがドメスティック・バイオレンス (DV) の被害にあったとき、誰(どこ)かに相談しましたか。(〇はいくつでも)

1. 誰(どこ)にも相談しなかった
2. 警察に連絡・相談した
3. 公的な相談窓口や電話相談に相談した
4. 民間の機関(弁護士など)に相談した
5. 医師・カウンセラーに相談した
6. 家族・親族に相談した
7. 友人・知人に相談した
8. その他(具体的に)

問16-1 【問16で「1. 誰(どこ)にも相談しなかった」を選ばれた方に】
 その理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つ以内)

1. 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていたから
2. 相談しても無駄だと思ったから
3. 自分にも悪いところがあると思ったから
4. 相談するほどのことではないと思ったから
5. 他人を巻き込みたくなかったから
6. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
7. 世間体が悪いから
8. そのことについて思い出したくなかったから
9. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりする
 と思ったから
10. 誰(どこ)に相談したらいいのかわからなかったから
11. 相談すると、担当者の言動で自分が不快な思いをすることを思ったから
12. その他(具体的に)

問 17 あなたは、職場、地域、学校などで、次のようなセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたことがありますか。受けたことがあるものをすべて選んでください。（〇はいくつでも）

1. 好まない性的な話を聞かされた
2. 容姿について傷つくことを言われた
3. 「女のくせに・・・」とか「男なのに・・・」と性別による言い方をされた
4. お酒の場でお酌やデュエットを強要された
5. 不必要に身体をさわられた
6. しつこく交際を迫られた
7. 性的な噂をたてられた
8. 「まだ結婚しないのか」とか「子どもは産まないのか」など、結婚や出産などについて、たびたび聞かれた
9. 性的な関係を強要された
10. 性的な要求を拒否したら、嫌がらせをされた
11. その他（具体的に
12. 受けたことがない

問 17-1 【問 17 でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験がある方に】

あなたがセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたとき、誰（どこ）かに相談しましたか。（〇はいくつでも）

1. 誰（どこ）にも相談しなかった
2. 警察に連絡・相談した
3. 労働基準監督署など、公的な相談窓口や電話相談に相談した
4. 民間の機関（弁護士など）に相談した
5. 職場の相談窓口や労働組合に相談した
6. 職場の上司や同僚に相談した
7. 学校の先生に相談した
8. 家族・親族に相談した
9. 友人・知人に相談した
10. その他（具体的に

問 17-2 へ

問17-2 【問17-1で「1. 誰（どこ）にも相談しなかった」を選ばれた方に】
その理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。（○は3つ以内）

1. 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていると**おも**ったから
2. 相談しても無駄だと思**おも**ったから
3. 自分にも悪いところがあると思**おも**ったから
4. 相談するほどのことではないと思**おも**ったから
5. 他人を巻き込みたくな**こ**なかつたから
6. 恥ずかしくて誰にも言えな**い**かつたから
7. 世間体が悪い**わ**るから
8. そのことについて思**おも**い出**だ**したくな**こ**なかつたから
9. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい嫌がらせを受けたりすると思**おも**ったから
10. 誰（どこ）に相談したらいいのかわからな**い**かつたから
11. 相談すると、担当者の言動で自分が不快な思**おも**いをすると思**おも**ったから
12. その他（具体的に

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康・権利）についておたずねします。

問18 次のア、イのそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○は各項目に1つ）

	そう おも う	ば おも う ど おも ち ら おも か と おも い え	ば おも う ど おも ち ら おも か と おも い え	そう おも わ な おも い	わ か ら な い
ア. 妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で十分話し合うべきである	1	2	3	4	5
イ. 妊娠や性に関して、夫婦・パートナー、恋人との間で合意できない場合には女性の意思が尊重されるべきである	1	2	3	4	5

リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは（性と生殖に関する健康／権利）

国連の国際人口開発会議（カイロ、1994年）で提唱された権利。人々が政治的・社会的に左右されず、安全で満ち足りた性生活を営むことができ、子どもを「持つ」「持たない」「何人持つか」を決める自由を持ち、子どもの数、出産時期を自由に決定し、そのための健康を享受できること、またそれに関する情報と手段を得ることができることが認められています。

だんじょ びょうどうかん
男女の平等観についておたずねします。

とい 問 19 げんざい の しゃかい において、だんじょ の ち い びょうどう の 地位は平等になっているとおも いますか。つぎ の ア～ク の かくこうもく の 各項目についてそれぞれ1つずつ選んでください。(○は各項目に1つ)

こ う 項 目	だんせい 男性が ゆうぐう 優遇され ている	どちらかと いえば だんせい ゆうぐう 男性が優遇 されている	びょうどう 平等に なっている	どちらかと いえば じよせい ゆうぐう 女性が優遇 されている	じよせい 女性が ゆうぐう 優遇され ている	わからない
ア. 家庭の中で	1	2	3	4	5	6
イ. 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
ウ. 職場の中で	1	2	3	4	5	6
エ. 地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
オ. 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
カ. 慣習・しきたりの中で	1	2	3	4	5	6
キ. 政治・政策決定の場で	1	2	3	4	5	6
ク. 社会全体では	1	2	3	4	5	6

◎参考資料

その他、男女共同参画に関することについておたずねします。

問20 あなたは、男女共同参画に関心がありますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 非常に <u>かんしん</u> がある | 3. あまり <u>かんしん</u> がない |
| 2. まあまあ <u>かんしん</u> がある | 4. まったく <u>かんしん</u> がない |

問21 次の言葉やことがらで、あなたがみたりきいたりしたものはありますか。(〇はいくつでも)

- 男女共同参画社会基本法
(1999年6月に施行された男女共同参画推進の根拠法)
- ジェンダー
(社会的文化的に作られた性別)
- 女子差別撤廃条約
(女性に対するあらゆる分野・形態の差別をなくすことに関する法律)
- 男女雇用機会均等法
(募集・採用、配置・昇進などでの女性差別を禁止し母性保護を規定する法)
- 育児・介護休業法
(男女労働者が育児休業・介護休業を取得することを権利として認めている法律)
- ストーカー規制法
(ストーカー行為等を行った者に行為の禁止を命じ、被害者を保護するための法律)
- DV防止法
(配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者からの暴力を防止し、被害者を保護するための法律)
- 飯塚市男女共同参画推進条例
(飯塚市の男女共同参画推進の根拠条例)
- 飯塚市男女共同参画プラン・第2次飯塚市男女共同参画プラン
(飯塚市の男女共同参画推進に係る施策を総合的に実施するための計画)
- 飯塚市女性人材バンク
(女性の視点で意見を取り入れることを目的に女性の人材を募集し、市の審議会等における委員の候補者として推薦する)
- 飯塚市男女共同参画オンブズパーソン
(男女共同参画に関する市の施策に対する苦情や性別に基づく人権侵害などを受けた人からの救済の申し出を、男女共同参画社会と人権の擁護者として公平かつ適切に処理する専門家による苦情処理機関)
- 女性活躍推進法
(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律の通称。女性が職業生活においてその希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するための法律)
- 家族経営協定
(農業経営における家族相互間の役割やルール等を家族で話し合うこと)

問 2 2 男女共同参画社会を実現していくために、あなたは飯塚市に対してどのようなことを望みますか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つ以内)

1. 男女共同参画社会のための講演会や広報など啓発活動をする
2. 学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
3. 経営者・事業主を対象に、雇用機会や労働条件の男女平等について啓発する
4. 女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する
5. 延長保育など保育サービスの充実、育児・介護休業制度などの普及など男女が共に働き続けるための条件整備を整える
6. 審議会など行政の政策方針を決定する場に女性の参画を増やす
7. 自治会長や公民館長などに女性の登用を増やす
8. 飯塚市男女共同参画推進センター サンクスの情報提供、交流、相談支援、啓発機能を充実する
9. 女性リーダーの養成、研修を充実する
10. 男性の家事能力を高めるような場を提供する
11. 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
12. 市職員への男女共同参画についての研修を充実する
13. その他(具体的に)
14. 特にない

※ 上記選択肢に関し、具体的な案をお持ちの方は次ページの問 2 5 にお書きください。

問 2 3 あなたはイヅカコミュニティセンター内に設置している飯塚市男女共同参画推進センター サンクスを知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 2 3 - 1 【問 2 3 で「1. 知っている」を選ばれた方に】

飯塚市男女共同参画推進センター サンクスでは男女共同参画を推進するため、さまざまな講座や事業を実施していますが、参加や利用をされたことがありますか。参加や利用をしたことがあるものすべてを選んでください。(〇はいくつでも)

1. 男女共同参画に関する啓発・出前講座
2. 男性を対象とした料理や介護等講座
3. 女性を対象とした健康や就業支援講座
4. 女性活躍推進に関する講座
5. 女性のための各種相談事業
6. 参加や利用をしたことはない

問 2 4 あなたは飯塚市男女共同参画推進センター サックスでは、どのような事業をしてほしいとおもいますか。次の中から3つ以内で選んでください。(○は3つ以内)

1. 男女共同参画に関する研修・啓発講座
2. 男性を対象とした男女共同参画に関する講座
3. 女性の就業支援・起業支援講座(キャリアアップ講座、労働問題講座など)
4. 出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座(資格習得支援講座、パソコン講座など)
5. 女性の政策決定の場への参画につながる講座
6. 男女共同参画に関する自主的な学習グループなどへの支援
7. その他(具体的に)
8. 特にない

＜飯塚市男女共同参画推進センター サックス＞
「サックス」では性別や年齢にとらわれず、のびのびと喜らせる豊かなまちづくりを目指してさまざまな視点から、男女共同参画社会を考える講座や事業を実施しています。

問 2 5 飯塚市の男女共同参画推進について、ご意見、ご要望、あなたが経験したこと、感じていることなど、何でも結構ですので、ご自由にお書きください。

次ページへ続く

最後に、あなたご自身についておたずねします。

問 2 6 該当する番号にそれぞれ1つだけ○をつけてください。(○は各項目に1つ)

性別 (性自認)	1. 男性	2. 女性
年 齢	1. 20歳未満 2. 20～29歳 3. 30～39歳	4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
配偶関係 (事実婚も含む)	1. 未婚 2. 配偶者がいる (共働きである) 3. 配偶者がいる (共働きでない) 4. 配偶者とは死別又は離別した	
家族構成	1. 本人だけ 2. 夫婦だけ 3. 親・子 (二世帯) 4. 親・子・孫 (三世帯) 5. その他 (具体的に)	
あなたの令和2年中 の年収 (令和2年1月1日～ 12月31日まで)	1. 収入なし 2. 130万円未満 3. 150万円未満 4. 200万円未満 5. 300万円未満 6. 400万円未満 7. 500万円未満 8. 500～700万円未満 9. 700～1,000万円未満 10. 1,000万円以上	

◇◇◇ご協力ありがとうございました◇◇◇

ご記入いただいた調査票は、返信用封筒に入れ(切手不要)ポストへ投函してください。

男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書

令和3年8月

発行 福岡県飯塚市
企画・編集 飯塚市男女共同参画推進課

〒820-8501 福岡県飯塚市新立岩5番5号
TEL (0948) 22-5500
FAX (0948) 22-5526
